

外国語学部 英米学科 (2010年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
		1年			
	家族を問う 閉講		1	2	
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	3
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	2学期	1	2	4
		1年			
	教養としての平和学 閉講		1	2	
		1年			
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	5
		2年			
	家族の再生 閉講		2	2	
		2年			
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	6
		2年			
	言語と認知 漆原 朗子 他	2学期	2	2	7
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	8	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	9	
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	10	
	1年				
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	11	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 寺田 千栄子	1学期	1	2	12
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 寺田 千栄子	2学期	1	2	13
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 柴原 健太郎	1学期	1	2	14
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	15
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 柴原 健太郎	2学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	2学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	自己管理論 日高 京子 他	1学期	1	2	19
		1年			
	キャリア・デザイン 真鍋 和博	1学期	1	2	20
	1年				
キャリア・デザイン 石川 敬之	1学期	1	2	21	
	1年				
キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	22	
	1年				
コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	23	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	24	
	2年				
大学論・学問論 閉講		1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭	2学期	1	2	25	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	社会調査	2学期	1	2	26
	稲月 正	1年			
	統計を読む・統計をつくる		1	2	
	閉講	1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール)	1学期	1	1	27
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	28
	倉崎 信子	1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス)	1学期	1	1	29
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	30
	小幡 博基	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	31
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	32
	山本 浩二	1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)	1学期	1	1	
	休講	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	33
	梨羽 茂	1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	34	
黒田 次郎	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	35	
黒田 次郎	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	36	
小幡 博基	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	37	
梨羽 茂	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	38	
美山 泰教	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	39
	徳永 政夫	1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	
	閉講	1年			
	教養演習AI	1学期	2	2	
	伊原木 大祐	2年			
	教養演習AI	1学期	2	2	40
	稲月 正	2年			
	教養演習AI	1学期	2	2	
	神原 ゆうこ	2年			
	教養演習AI	1学期	2	2	
	小林 道彦	2年			
	教養演習AI	1学期	2	2	
	徳永 政夫	2年			
	教養演習AI (防衛セミナー)	1学期	2	2	41
	戸蒔 仁司	2年			
	教養演習AI	1学期	2	2	
	日高 京子	2年			
	教養演習AI (発達障がいセミナー)	1学期	2	2	
	伊野 憲治	2年			
	教養演習AI	1学期	2	2	42
	石川 敬之	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	
	伊原木 大祐	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	43
	稲月 正	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	
	神原 ゆうこ	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AII	2学期	2	2	
	小林 道彦	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	
	徳永 政夫	2年			
	教養演習AII (防衛セミナー)	集中	2	2	44
	戸蒔 仁司	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	
	日高 京子	2年			
	教養演習AII (発達障がいセミナー)	2学期	2	2	
	伊野 憲治	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	45
	石川 敬之	2年			
	教養演習BI	1学期	3	2	
	伊原木 大祐	3年			
	教養演習BI	1学期	3	2	
	稲月 正	3年			
	教養演習BI	1学期	3	2	
	神原 ゆうこ	3年			
	教養演習BI	1学期	3	2	
	小林 道彦	3年			
教養演習BI	1学期	3	2		
徳永 政夫	3年				
教養演習BI (防衛セミナー)	1学期	3	2	46	
戸蒔 仁司	3年				
教養演習BI	1学期	3	2		
日高 京子	3年				
教養演習BI (発達障がいセミナー)	1学期	3	2		
伊野 憲治	3年				
教養演習BI	1学期	3	2	47	
石川 敬之	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII 伊原木 大祐	2学期	3	2	3年	
	教養演習BII 稲月 正	2学期	3	2	3年	
	教養演習BII 神原 ゆうこ	2学期	3	2	3年	
	教養演習BII 小林 道彦	2学期	3	2	3年	
	教養演習BII 徳永 政夫	2学期	3	2	3年	
	教養演習BII (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	集中	3	2	3年	48
	教養演習BII 日高 京子	2学期	3	2	3年	
教養演習BII (発達障がいセミナー) 伊野 憲治	2学期	3	2	3年		
教養演習BII 石川 敬之	2学期	3	2	3年	49	
プロジェクト演習I 後藤 宇生	1学期	2	2	2年	50	
プロジェクト演習II 柳井 雅人	2学期	3	2	3年	51	
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	1年	52
	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	1年	53
地球の生いたち 閉講	2学期	1	2	1年		
自然史へのいざない 日高 京子 他	2学期	1	2	1年	54	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	55
		1年			
	現代人のこころ 税田 慶昭 他	1学期	1	2	56
		1年			
	数のたのしみ 閉講		1	2	
		1年			
	私たちと宗教 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	57
		1年			
	ものがたりと人間 閉講		1	2	
		1年			
	文化と表象 真鍋 昌賢	1学期	1	2	58
		1年			
	言語とコミュニケーション 休講	2学期	1	2	
		1年			
	芸術と人間 真武 真喜子	2学期	1	2	59
		1年			
文学を読む 閉講	1学期	1	2		
	1年				
戦争と人間 閉講		1	2		
	1年				
現代正義論 重松 博之	1学期	1	2	60	
	1年				
民主主義とは何か 中井 遼	2学期	1	2	61	
	1年				
人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	62	
	1年				
ジェンダー論 カ武 由美	1学期	1	2	63	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	障がい学 伊野 憲治	1学期	1	2	64
	1年				
	共生の作法 高橋 衛 他	1学期	1	2	65
	1年				
	北九州学 日高 京子 他	2学期	1	2	66
	1年				
	市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	67
	1年				
	企業と社会 山下 剛	1学期	1	2	68
	1年				
	つながりの人間学 石川 敬之	1学期	1	2	69
	1年				
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	70
	1年				
	現代社会の諸問題 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	71
	1年				
	現代の国際情勢 下野 寿子 他	1学期	1	2	72
	1年				
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	73
1年					
国際紛争と国連 休講	2学期	1	2		
1年					
民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	74	
1年					
開発と統治 三宅 博之 他	2学期	1	2	75	
1年					
グローバル化する経済 田中 淳平 他	1学期	1	2	76	
1年					
テロリズム論 戸蒔 仁司	1学期	1	2	77	
1年					

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際社会と日本	2学期	1	2	78
	中野 博文 他	1年			
	歴史の読み方I	1学期	1	2	79
	八百 啓介	1年			
	歴史の読み方II	1学期	1	2	80
	小林 道彦	1年			
	そのとき世界は	2学期	1	2	81
	伊野 憲治 他	1年			
	戦後の日本経済	2学期	1	2	82
	土井 徹平	1年			
	都市と農村の生活文化史		1	2	
	閉講	1年			
	ものと人間の歴史	1学期	1	2	83
	中野 博文 他	1年			
	人物と時代の歴史	1学期	1	2	84
	山崎 勇治 他	1年			
教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』)	2学期	1	2	85	
読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介、稲月正	1年				
教養特講II (現代社会とエシカル消費)	2学期	1	2	86	
大平 剛	1年				
教養特講III	1学期	1	2		
休講	1年				
教養特講IV	2学期	1	2		
休講	1年				
■教職関連科目	日本史	2学期	1	2	87
	古賀 康士	1年			
	西洋史	1学期	1	2	88
	疇谷 憲洋	1年			
	東洋史	2学期	1	2	89
植松 慎悟	1年				

外国語学部 英米学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	社会学 稲月 正	1学期	1	2	90
		1年			
	人文地理学 外柙保 大介	2学期	1	2	91
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	92
		1年			
	地誌学 外柙保 大介	2学期	1	2	93
		1年			
	日本国憲法 中村 英樹	1学期	1	2	94
		1年			
	倫理学 清水 満	2学期	1	2	95
		1年			
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	96
		1年			
	データ処理 休講	1学期	1	2	
		1年			
	情報表現 浅羽 修丈	2学期	2	2	97
	2年				
プログラミング基礎 閉講		2	2		
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (英 1-A) ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	98
		英 1 - A			
	英語I (英 1-B) 木原 謙一	1学期	1	1	99
		英 1 - B			
	英語I (英 1-C) 伊藤 健一	1学期	1	1	100
		英 1 - C			
	英語I (英 1-D) クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	101
		英 1 - D			
	英語II (国 1-A、英 1-A) 永末 康介	2学期	1	1	102
		国 1-A、英 1-A			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語II (国 1-B、英 1-B) 相原 信彦	2学期	1	1	103
		国 1-B、英 1-B			
	英語II (国 1-C、英 1-C、D) 漆原 朗子	2学期	1	1	104
		国 1-C、英 1-C、D			
	英語III (英 1-A) 未定	1学期	1	1	105
		英 1 - A			
	英語III (英 1-B) ホロウェイ グレゴリー キース	1学期	1	1	106
		英 1 - B			
	英語III (英 1-C) 未定	1学期	1	1	107
		英 1 - C			
	英語III (英 1-D) ロジャー・ウィリアムソン	1学期	1	1	108
		英 1 - D			
	英語IV (国 1-A、英 1-A) ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	109
		国 1-A、英 1-A			
	英語IV (国 1-B、英 1-B) デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	110
		国 1-B、英 1-B			
	英語IV (国 1-C、英 1-C、D) デビット・アダム・ストット	2学期	1	1	111
	国 1-C、英 1-C、D				
英語V (英 2-A) 寺田 真一郎	1学期	2	1	112	
	英 2 - A				
英語V (英 2-B) 齊藤 園子	1学期	2	1	113	
	英 2 - B				
英語V (英 2-C) 松田 智	1学期	2	1	114	
	英 2 - C				
英語V (英 2-D) 酒井 秀子	1学期	2	1	115	
	英 2 - D				
英語VI (英 2-A) 船方 浩子	2学期	2	1	116	
	英 2 - A				
英語VI (英 2-B) 下條 かおり	2学期	2	1	117	
	英 2 - B				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VI (英 2 - C) 齊藤 園子	2学期	2	1	118
		英 2 - C			
	英語VI (英 2 - D) 廣田 恵美	2学期	2	1	119
		英 2 - D			
	英語VII (英 2 - A) デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	120
		英 2 - A			
	英語VII (英 2 - B) アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	121
		英 2 - B			
	英語VII (英 2 - C) ポール・ガラフ・ステイール	1学期	2	1	122
		英 2 - C			
	英語VII (英 2 - D) ダンカン・ウォトリイ	1学期	2	1	123
		英 2 - D			
	英語VIII (英 2 - A) アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	124
		英 2 - A			
英語VIII (英 2 - B) ポール・ガラフ・ステイール	2学期	2	1	125	
	英 2 - B				
英語VIII (英 2 - C) ダンカン・ウォトリイ	2学期	2	1	126	
	英 2 - C				
英語VIII (英 2 - D) ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	1	127	
	英 2 - D				
英語IX (英中国比人 3 年) 葛西 宏信	1学期	3	1	128	
	英中国比人 3 年				
英語X (英中国比人 3 年) 葛西 宏信	2学期	3	1	129	
	英中国比人 3 年				
英語XI (英中国比人 3 年) ダンカン・ウォトリイ	1学期	3	1	130	
	英中国比人 3 年				
英語XII (英中国比人 3 年) デビット・ニール・マクレラン	2学期	3	1	131	
	英中国比人 3 年				
■第二外国語	中国語I 板谷 秀子	1学期	1	1	132
		英 1 - 1・ 1 - 2			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語I 小椋 吾郎	1学期	1	1	133
		英 1 - 3・ 1 - 4			
	中国語II 板谷 秀子	2学期	1	1	134
		英 1 - 1・ 1 - 2			
	中国語II 小椋 吾郎	2学期	1	1	135
		英 1 - 3・ 1 - 4			
	中国語III 陳 青鳳	1学期	1	1	136
		英 1 - 1・ 1 - 2			
	中国語III 肖 婷婷	1学期	1	1	137
		英 1 - 3・ 1 - 4			
	中国語IV 陳 青鳳	2学期	1	1	138
		英 1 - 1・ 1 - 2			
	中国語IV 肖 婷婷	2学期	1	1	139
		英 1 - 3・ 1 - 4			
	中国語V 有働 彰子	1学期	2	1	140
		英済営人律政群 2年			
	中国語VI 有働 彰子	2学期	2	1	141
		英済営人律政群 2年			
中国語VII 肖 婷婷	1学期	2	1	142	
	英済営人律政群 2年				
中国語VIII 肖 婷婷	2学期	2	1	143	
	英済営人律政群 2年				
上級中国語I 唐 雋	1学期	3	1	144	
	英国済営比人 3年				
上級中国語II 唐 雋	2学期	3	1	145	
	英国済営比人 3年				
上級中国語III 王 晨	1学期	3	1	146	
	英国済営比人 3年				
上級中国語IV 王 晨	2学期	3	1	147	
	英国済営比人 3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語I 金 貞愛	1学期	1	1	148
		英中1年			
	朝鮮語II 金 貞愛	2学期	1	1	149
		英中1年			
	朝鮮語III 金 貞淑	1学期	1	1	150
		英中1年			
	朝鮮語IV 金 貞淑	2学期	1	1	151
		英中1年			
	朝鮮語V 金 貞愛	1学期	2	1	152
		英中2年			
	朝鮮語VI 金 貞愛	2学期	2	1	153
		英中2年			
	朝鮮語VII 金 貞淑	1学期	2	1	154
		英中2年			
	朝鮮語VIII 金 貞淑	2学期	2	1	155
		英中2年			
	上級朝鮮語I 金 貞淑	1学期	3	1	156
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語II 金 貞淑	2学期	3	1	157
		英中国済営比人3年			
上級朝鮮語III 金 貞愛	1学期	3	1	158	
	英中国済営比人3年				
上級朝鮮語IV 金 貞愛	2学期	3	1	159	
	英中国済営比人3年				
ロシア語I 芳之内 雄二	1学期	1	1	160	
	英中国済営比人律政1年				
ロシア語II 芳之内 雄二	2学期	1	1	161	
	英中国済営比人律政1年				
ロシア語III ナタリア・シエストコーワ	1学期	1	1	162	
	英中国済営比人律政1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語Ⅳ ナタリア・シェスタコーワ	2学期	1	1	163
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語Ⅴ 芳之内 雄二	1学期	2	1	164
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅵ 芳之内 雄二	2学期	2	1	165
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅶ ナタリア・シェスタコーワ	1学期	2	1	166
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅷ ナタリア・シェスタコーワ	2学期	2	1	167
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語Ⅰ 山下 哲雄	1学期	1	1	168
		英中国 1年			
	ドイツ語Ⅱ 山下 哲雄	2学期	1	1	169
		英中国 1年			
	ドイツ語Ⅲ 山下 哲雄	1学期	1	1	170
		英中国 1年			
	ドイツ語Ⅳ 山下 哲雄	2学期	1	1	171
		英中国 1年			
	ドイツ語Ⅴ 山下 哲雄	1学期	2	1	172
		英中国済営比人律政 2年			
ドイツ語Ⅵ 山下 哲雄	2学期	2	1	173	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語Ⅶ 山下 哲雄	1学期	2	1	174	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語Ⅷ 山下 哲雄	2学期	2	1	175	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語Ⅰ 山下 広一	1学期	1	1	176	
	英中国 1年				
フランス語Ⅱ 山下 広一	2学期	1	1	177	
	英中国 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語III 坂田 由紀	1学期	1	1	178
		英中国 1年			
	フランス語IV 坂田 由紀	2学期	1	1	179
		英中国 1年			
	フランス語V 坂田 由紀	1学期	2	1	180
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VI 坂田 由紀	2学期	2	1	181
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VII 小野 菜都美	1学期	2	1	182
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VIII 小野 菜都美	2学期	2	1	183
		英中国済営比人律政 2年			
	スペイン語I 青木 文夫	1学期	1	1	184
		英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3			
	スペイン語I 岡住 正秀	1学期	1	1	185
		英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6			
	スペイン語II 青木 文夫	2学期	1	1	186
		英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3			
	スペイン語II 岡住 正秀	2学期	1	1	187
		英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6			
スペイン語III 辻 博子	1学期	1	1	188	
	英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3				
スペイン語III ミヨコ・ フジヨシ	1学期	1	1	189	
	英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6				
スペイン語IV 辻 博子	2学期	1	1	190	
	英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3				
スペイン語IV ミヨコ・ フジヨシ	2学期	1	1	191	
	英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6				
スペイン語V 青木 文夫	1学期	2	1	192	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語VI 青木 文夫	2学期	2	1	193
		英中国済営比人律政 2年			
	スペイン語VII 辻 博子	1学期	2	1	194
		英中国済営比人律政 2年			
	スペイン語VIII 辻 博子	2学期	2	1	195
		英中国済営比人律政 2年			
■専門教育科目 ■選択科目 ■米地域・国際科目群	地域研究入門 (アメリカ) 休講	1学期	2	2	
		2年			
	アメリカの社会I 朝立 康太郎	1学期	2	2	196
		2年			
	アメリカの社会II 北 美幸	2学期	2	2	197
		2年			
	アメリカの政治I 中野 博文	1学期	2	2	198
		2年			
	アメリカの政治II 中野 博文	2学期	2	2	199
		2年			
	アメリカの政治III 休講	1学期	2	2	
		2年			
	アメリカの政治IV 休講	2学期	2	2	
		2年			
	国際関係論I 阿部 容子	1学期	2	2	200
		2年			
国際関係論II 大平 剛	2学期	2	2	201	
	2年				
国際関係史I 休講	1学期	2	2		
	2年				
国際関係史II 中野・金	2学期	2	2	202	
	2年				
■法経科目群	国際貿易論I 水戸 康夫	1学期	2	2	203
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■法経科目群	国際貿易論II 水戸 康夫	2学期	2	2	204
		2年			
	国際経済論I 魏 芳	1学期	2	2	205
		2年			
	国際経済論II 魏 芳	2学期	2	2	206
		2年			
	国際法I 二宮 正人	1学期	2	2	207
		2年			
	国際法II 二宮 正人	2学期	2	2	208
		2年			
国際取引法 大隈 一武	集中	2	2	209	
	2年				
国際私法 中林 啓一	集中	2	2	210	
	2年				
アメリカ経済 山崎 好裕	2学期	2	2	211	
	2年				
途上国開発論 三宅 博之	1学期	2	2	212	
	2年				
■英米文学・文化科目群	イギリス文学概論 田部井 世志子	1学期	2	2	213
		2年			
	アメリカ文学概論 前田 譲治	2学期	2	2	214
		2年			
	イギリスの現代文学 田部井 世志子	1学期	2	2	215
		2年			
	アメリカの現代文学 江頭 理江	2学期	2	2	216
	2年				
イギリスの18-19世紀文学 村里 好俊	2学期	2	2	217	
	2年				
アメリカの18-19世紀文学 江頭 理江	1学期	2	2	218	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■英米文学・文化科目群	アメリカの歴史と社会 寺田 由美	1学期	2	2	219
		2年			
	アメリカの歴史と文化 ODU教員	集中	2	2	220
		2年			
	アメリカの生活文化 寺田 由美 他	1学期	2	2	221
		2年			
	アメリカの大衆文化 前田 謙治	2学期	2	2	222
		2年			
■専門基礎教育科目 ■必修科目	基礎演習I (発音クリニック) 木原 謙一	1学期	1	2	223
		1 - 1			
	基礎演習I (発音クリニック) 木原 謙一	1学期	1	2	224
		1 - 2			
	基礎演習I (発音クリニック) 鮫島 千明	1学期	1	2	225
		1 - 3			
	基礎演習I (発音クリニック) 鮫島 千明	1学期	1	2	226
		1 - 4			
	基礎演習II ロジャー・ウィリアムソン	2学期	1	2	227
		1 - 1			
	基礎演習II ロジャー・ウィリアムソン	2学期	1	2	228
		1 - 2			
	基礎演習II ロドルフォ テルガド	2学期	1	2	229
		1 - 3			
	基礎演習II ロドルフォ テルガド	2学期	1	2	230
		1 - 4			
英会話演習 A ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	2	231	
	1年				
英会話演習 A 休講	1学期	1	2		
	1年				
英会話演習 A 休講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■専門基礎教育科目 ■必修科目	英会話演習 A	1学期	1	2	
	休講	1年			
	英作文演習 A	2学期	1	2	232
	ジェイムズ・ヒックス	1年			
	英作文演習 A	2学期	1	2	233
	ジェイムズ・ヒックス	1年			
	英作文演習 A	2学期	1	2	234
	ジェイムズ・ヒックス	1年			
	英作文演習 A	2学期	1	2	235
	ジェイムズ・ヒックス	1年			
■選択科目	英語学概論	2学期	1	2	236
	ホロウェイ グレゴリー キース	1年			
	英文法I	1学期	1	2	237
	廣田 恵美	1年			
	英文法I	1学期	1	2	
	休講	1年			
	英文法II	2学期	1	2	238
廣田 恵美	1年				
英文法II	2学期	1	2		
休講	1年				
■演習・研究科目 ■必修科目	英語リスニング演習 A	1学期	1	2	240
	平野 圭子	1年			
	英語リスニング演習 A	1学期	1	2	
	休講	1年			
	英語リスニング演習 A	1学期	1	2	
	休講	1年			
	英語リスニング演習 A	1学期	1	2	
	休講	1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■必修科目	英会話演習 B ポール・ ガラフ・ スティール	2学期	2	2	241
		2 - 1			
	英会話演習 B ポール・ ガラフ・ スティール	2学期	2	2	242
		2 - 2			
	英会話演習 B ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	2	2	243
		2 - 3			
	英会話演習 B ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	2	2	244
		2 - 4			
	日英翻訳演習 ブルック 前田	1学期	2	2	245
		2 - 1			
	日英翻訳演習 ロッシェル カップ	1学期	2	2	246
		2 - 2			
	日英翻訳演習 ブルック 前田	1学期	2	2	247
		2 - 3			
	日英翻訳演習 ロッシェル カップ	1学期	2	2	248
		2 - 4			
	日英翻訳演習 未開講	2学期	2	2	
		2 年			
	日英翻訳演習 未開講	2学期	2	2	
		2 年			
日英翻訳演習 未開講	2学期	2	2		
	2 年				
Reading and Discussion I ロドルフォ デルガド	1学期	2	2	249	
	2 - 1				
Reading and Discussion I ロドルフォ デルガド	1学期	2	2	250	
	2 - 2				
Reading and Discussion I ジェイムズ・ ヒックス	1学期	2	2	251	
	2 - 3				
Reading and Discussion I ジェイムズ・ ヒックス	1学期	2	2	252	
	2 - 4				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■必修科目	Reading and Discussion I 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	Reading and Discussion I 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	Reading and Discussion I 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	Reading and Discussion II シェーン・ドイル	2学期	2	2	253
		2 - 1			
	Reading and Discussion II シェーン・ドイル	2学期	2	2	254
		2 - 2			
	Reading and Discussion II シェーン・ドイル	2学期	2	2	255
		2 - 3			
	Reading and Discussion II シェーン・ドイル	2学期	2	2	256
		2 - 4			
	Reading and Discussion II 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	Reading and Discussion II 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	Reading and Discussion II 未開講	1学期	2	2	
		2年			
英語リスニング演習B ジェイムズ・ヒックス	1学期	2	2	257	
	2 - 1				
英語リスニング演習B ジェイムズ・ヒックス	1学期	2	2	258	
	2 - 2				
英語リスニング演習B ポール・ガラフ・スティール	1学期	2	2	259	
	2 - 3				
英語リスニング演習B クリストファー・オサリバン	1学期	2	2	260	
	2 - 4				
英語スピーキング演習 アーノルド・ウェイン	1学期	3	2	261	
	3 - 1				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■必修科目	英語スピーキング演習 アーノルド・ウェイン	1学期	3	2	262
		3 - 2			
	英語スピーキング演習 アーノルド・ウェイン	1学期	3	2	263
		3 - 3			
	英語スピーキング演習 ポール・ガラフ・ステイール	1学期	3	2	264
		3 - 4			
	英語リーディング演習I 木下 善貞	1学期	3	2	265
		3 - 1			
	英語リーディング演習I 木下 善貞	1学期	3	2	266
		3 - 2			
	英語リーディング演習I 原田 昂	1学期	3	2	267
		3 - 3			
英語リーディング演習I 原田 昂	1学期	3	2	268	
	3 - 4				
英作文演習B ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	3	2	269	
	3 - 1				
英作文演習B ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	3	2	270	
	3 - 2				
英作文演習B ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	3	2	271	
	3 - 3				
英作文演習B ポール・ガラフ・ステイール	2学期	3	2	272	
	3 - 4				
■選択科目	ビジネス英語演習 松田 智	1学期	2	2	273
		2年			
	メディア英語演習I アダム・ヘイルズ	1学期	2	2	274
		2 - 1・2 - 2			
メディア英語演習I アーノルド・ウェイン	1学期	2	2	275	
	2 - 3・2 - 4				
メディア英語演習II アーノルド・ウェイン	2学期	2	2	276	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■選択科目	英日翻訳演習 鮫島 千明	2学期	2	2	277
		2 - 1・2 - 2			
	英日翻訳演習 鮫島 千明	2学期	2	2	278
		2 - 3・2 - 4			
	英日翻訳演習 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	異文化間コミュニケーション演習 山崎 和夫	1学期	2	2	279
		2 - 1・2 - 2			
	異文化間コミュニケーション演習 十時 康	1学期	2	2	280
		2 - 3・2 - 4			
	通訳基礎演習I 伊藤 健一	1学期	2	2	281
		2 - 1			
	通訳基礎演習I ノリス 志津代	1学期	2	2	282
		2 - 2			
	通訳基礎演習I ノリス 志津代	1学期	2	2	283
		2 - 3			
	通訳基礎演習I ノリス 志津代	1学期	2	2	284
		2 - 4			
	通訳基礎演習II 伊藤 健一	2学期	2	2	285
		2 - 1			
通訳基礎演習II ノリス 志津代	2学期	2	2	286	
	2 - 2				
通訳基礎演習II ノリス 志津代	2学期	2	2	287	
	2 - 3				
通訳基礎演習II ノリス 志津代	2学期	2	2	288	
	2 - 4				
異文化フィールドワーク ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	2	289	
	2年				
英語学研究I (音声学・音韻論) ジェニファー・ラーソンホール	1学期	2	2	290	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■選択科目	英語学研究II (統語論) 山崎 和夫	2学期	2	2	291
		2年			
	英語史 ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	2	2	292
		2年			
	社会言語学研究 平野 圭子	2学期	2	2	293
		2年			
	アメリカ研究 アーノルド・ウェイン	2学期	2	2	294
		2年			
	イギリス研究 木原 謙一	1学期	2	2	295
		2年			
	英米文化研究 伊藤 健一	2学期	2	2	296
		2年			
	日英文化研究 休講	2学期	2	2	
		2年			
	上級英語I ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	297
		3年			
	上級英語I デニス・ジョーンズ	1学期	3	2	298
		3年			
	上級英語I デニス・ジョーンズ	1学期	3	2	299
		3年			
上級英語I デニス・ジョーンズ	1学期	3	2	300	
	3年				
上級英語II デニス・ジョーンズ	2学期	3	2	301	
	3年				
上級英語II デニス・ジョーンズ	2学期	3	2	302	
	3年				
上級英語II デニス・ジョーンズ	2学期	3	2	303	
	3年				
上級英語II デニス・ジョーンズ	2学期	3	2	304	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■選択科目	英語プレゼンテーション演習	1学期	3	2	
	休講	3年			
	英語プレゼンテーション演習	1学期	3	2	
	休講	3年			
	英語リーディング演習II	2学期	3	2	305
	原田 昂	3 - 1			
	英語リーディング演習II	2学期	3	2	306
	原田 昂	3 - 2			
	英語リーディング演習II	2学期	3	2	307
	木下 善貞	3 - 3			
	英語リーディング演習II	2学期	3	2	308
	木下 善貞	3 - 4			
	Advanced Reading and Discussion	2学期	3	2	309
	野島 啓一	3年			
Advanced Reading and Discussion	2学期	3	2		
休講	3年				
ビジネス英語研究	2学期	3	2	310	
松田 智	3年				
■ゼミ・卒業課題科目	異文化間コミュニケーションゼミAI	1学期	3	2	311
	ロジャー・ウィリアムソン	3年			
	異文化間コミュニケーションゼミAI	2学期	3	2	312
	フィオナ・クリーサー	3年			
	通訳ゼミAI	1学期	3	2	313
	伊藤 健一	3年			
	翻訳ゼミAI	1学期	3	2	314
	鮫島 千明	3年			
翻訳ゼミAI	1学期	3	2		
休講	3年				
ビジネス英語ゼミAI	1学期	3	2	315	
松田 智	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	メディア英語ゼミAⅠ アダム・ヘイルズ	1学期	3	2	316
		3年			
	アメリカ研究ゼミAⅠ アーノルド・ウェイン	1学期	3	2	317
		3年			
	イギリス研究ゼミAⅠ 木原 謙一	1学期	3	2	318
		3年			
	英語学ゼミAⅠ ジェニファー・ラーソンホール	1学期	3	2	319
		3年			
	英語教育ゼミAⅠ 雪丸 尚美	2学期	3	2	320
		3年			
	社会言語学ゼミAⅠ 平野 圭子	1学期	3	2	321
		3年			
	異文化間コミュニケーションゼミAⅡ ロジャー・ウィリアムソン	2学期	3	2	322
		3年			
	異文化間コミュニケーションゼミAⅡ フィオナ・クリーサー	2学期	3	2	323
		3年			
	通訳ゼミAⅡ 伊藤 健一	2学期	3	2	324
	3年				
翻訳ゼミAⅡ 鮫島 千明	2学期	3	2	325	
	3年				
翻訳ゼミAⅡ 休講	2学期	3	2		
	3年				
ビジネス英語ゼミAⅡ 松田 智	2学期	3	2	326	
	3年				
メディア英語ゼミAⅡ アダム・ヘイルズ	2学期	3	2	327	
	3年				
アメリカ研究ゼミAⅡ アーノルド・ウェイン	2学期	3	2	328	
	3年				
イギリス研究ゼミAⅡ 木原 謙一	2学期	3	2	329	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	英語学ゼミAII	1学期	3	2	330
	ジェニファー・ラーソンホール	3年			
	英語教育ゼミAII	2学期	3	2	331
	雪丸 尚美	3年			
	社会言語学ゼミAII	2学期	3	2	332
	平野 圭子	3年			
	異文化間コミュニケーションゼミBI	2学期	4	2	333
	フィオナ・クリーサー	4年			
	異文化間コミュニケーションゼミBI	1学期	4	2	334
	ロジャー・ウィリアムソン	4年			
	通訳ゼミBI	1学期	4	2	335
	伊藤 健一	4年			
	翻訳ゼミBI	1学期	4	2	336
	鮫島 千明	4年			
	翻訳ゼミBI	1学期	4	2	337
	休講	4年			
	ビジネス英語ゼミBI	1学期	4	2	337
	松田 智	4年			
	メディア英語ゼミBI	1学期	4	2	338
	アダム・ヘイルズ	4年			
アメリカ研究ゼミBI	1学期	4	2	339	
アーノルド・ウェイン	4年				
イギリス研究ゼミBI	1学期	4	2	340	
木原 謙一	4年				
英語学ゼミBI	1学期	4	2	341	
ジェニファー・ラーソンホール	4年				
英語教育ゼミBI	2学期	4	2	342	
雪丸 尚美	4年				
社会言語学ゼミBI	1学期	4	2	343	
平野 圭子	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	異文化間コミュニケーションゼミBII フィオナ・クリーサー	2学期	4	2	344
		4年			
	異文化間コミュニケーションゼミBII ロジャー・ウィリアムソン	2学期	4	2	345
		4年			
	通訳ゼミBII 伊藤 健一	2学期	4	2	346
		4年			
	翻訳ゼミBII 鮫島 千明	2学期	4	2	347
		4年			
	翻訳ゼミBII 休講	2学期	4	2	
		4年			
	ビジネス英語ゼミBII 松田 智	2学期	4	2	348
		4年			
	メディア英語ゼミBII アダム・ヘイルズ	2学期	4	2	349
		4年			
	アメリカ研究ゼミBII アーノルド・ウェイン	2学期	4	2	350
	4年				
イギリス研究ゼミBII 木原 謙一	2学期	4	2	351	
	4年				
英語学ゼミBII ジェニファー・ラーソンホール	1学期	4	2	352	
	4年				
英語教育ゼミBII 雪丸 尚美	2学期	4	2	353	
	4年				
社会言語学ゼミBII 平野 圭子	2学期	4	2	354	
	4年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 楠 凡之	1学期	1	2	355
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	1学期	1	2	356
	1年				
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	357
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	英語科教育法 A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	英語科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	道徳教育の研究	2学期	2	2	358
	田中 友佳子	2年			
	特別活動の研究	2学期	2	2	359
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	360
	下地 貴樹	2年			
	教育工学	2学期	2	2	
	休講	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	
	休講	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	
		4年			
	教育実習 3	1学期	4	2	
		4年			
教育相談	1学期	2	2	361	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	362	
楠 凡之	2年				
教職実践演習 (中・高)	2学期	4	2		
休講	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	363
	山下 智也	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	364
税田 慶昭	2年				
教育社会学	集中	2	2	365	
作田 誠一郎	2年				

外国語学部 英米学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
■教職に関する科目 ■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	366
	河嶋 静代	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	2学期	1	2	367
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	368
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	369
		1年			
国際学入門 伊野 憲治	2学期	1	2	370	
	1年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	371	
	1年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	372
		1年			
	メンタル・ヘルスII 休講	2学期	1	2	
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 山本 浩二	1学期	1	2	373
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	社会調査 稲月 正	2学期	1	2	374
		1年			
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 閉講	1学期	1	1		
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 山本 浩二	2学期	1	1	375	
	1年				
■テーマ科目	地球の生いたち 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	現代人のこころ 福田 恭介	1学期	1	2	376
	1年				
思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	377	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	文学を読む	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民主主義とは何か	2学期	1	2	378
	中井 遼	1年			
	人権論	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	障がい学	1学期	1	2	
	休講	1年			
	市民活動論	2学期	1	2	379
	西田 心平	1年			
	企業と社会	1学期	1	2	380
	山下 剛	1年			
	現代社会と倫理	1学期	1	2	
	休講	1年			
	現代の国際情勢	1学期	1	2	381
	下野 寿子 他	1年			
国際社会論	1学期	1	2		
休講	1年				
国際紛争と国連	2学期	1	2	382	
二宮 正人	1年				
開発と統治	2学期	1	2	383	
三宅 博之 他	1年				
グローバル化する経済	1学期	1	2		
休講	1年				
国際社会と日本	2学期	1	2		
休講	1年				

外国語学部 英米学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	歴史の読み方I	1学期	1	2		
	休講	1年				
	歴史の読み方II	1学期	1	2		
	休講	1年				
	そのとき世界は	2学期	1	2		
	休講	1年				
	人物と時代の歴史	1学期	1	2		
	閉講	1年				
	■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング	2学期	1	2	384
		中尾 泰士	1年			
		データ処理	1学期	1	2	385
		佐藤 貴之	1年			
情報表現		1学期	2	2	386	
浅羽 修丈		2年				
■専門教育科目 ■選択科目 ■法経科目群	国際貿易論I	1学期	2	2		
	休講	2年				
	国際貿易論II	2学期	2	2		
	休講	2年				
	国際金融論I	1学期	2	2	387	
	前田 淳	2年				
	国際金融論II	2学期	2	2	388	
	前田 淳	2年				
	国際法I	1学期	2	2		
	休講	2年				
	国際法II	2学期	2	2		
	休講	2年				
アメリカ経済	2学期	2	2			
休講	2年					
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論	1学期	1	2	389	
	楠 凡之	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育原理	1学期	1	2	390
	見玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	391
	税田 慶昭	2年			
	英語科教育法 A	1学期	2	2	392
	森 千鶴	2年			
	英語科教育法 B	2学期	2	2	393
	森 千鶴	2年			
	道徳教育の研究	2学期	2	2	394
	田中 友佳子	2年			
	特別活動の研究	2学期	2	2	395
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	396
	下地 貴樹	2年			
	教育工学	2学期	2	2	397
	大塚 一徳	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	398
	見玉 弥生 他	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	399
恒吉 紀寿 他	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	400	
恒吉 紀寿 他	4年				
教育相談	1学期	2	2	401	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	402	
楠 凡之	2年				
教職実践演習 (中・高)	2学期	4	2	403	
楠 凡之 他	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	403
	山下 智也	2年			

外国語学部 英米学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
	休講	2年			
	教育社会学	1学期	2	2	
	休講	2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	
	休講	2年			

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

- 第1部 文化の基礎としての家族
- 第2回 伝統的家族の多様性
- 第3回 近代以降の家族・親族関係の変容
- 第4回 親族という認識
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダーと伝統文化
- 第7回 文化相対主義の考え方
- 第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義
- 第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

- 第10回 儀礼と世界観
- 第11回 宗教と近代化
- 第12回 さまざまな信仰心
- 第13回 不幸への対処としての呪術
- 第14回 政教分離と世俗化
- 第15回 中間テストの解説

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。
- ・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

人間と文化【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人にxxを贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要な時にちょっとお金を払えば入手できます。この授業では、そのような小手先の異文化理解でなく、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなたの考えを知りたいと思う人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』 (朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点(人間関係)【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていたらだろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【「最終的解決」】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書(「日本史」「世界史」)レベルの文献の該当箇所に目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。メモはこまめにとるように心がけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を買う必要はありません。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 中間テストの解説

第15回 癒しの多様性 / 講義全体の総括

※出張や学生大会などで休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールは初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題40%、期末テスト60%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

文化と政治 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ Moodleで適宜課題を課します。締め切りまでに提出してください。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テスト(またはレポート)の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」や「政治のなかの文化」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 長 加奈子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師) : 2016年度実績 東京大学教授 大堀 壽夫氏
- 第10回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第11回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第12回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第13回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第14回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第15回 まとめ : 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 : 担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習 : 担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫っていききたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサビエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサビエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 近代とは何か【概説】
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 5回 生活世界の変容（1）【工場労働】
- 6回 生活世界の変容（2）【近代産業社会】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容（3）【戦争の美学】
- 9回 生活世界の変容（4）【政治の美学】
- 10回 生活世界の変容（5）【ホロコースト】
- 11回 生活世界の変容（6）【全体主義と思考能力】
- 12回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 13回 古代世界の公共空間（1）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（2）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（3）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 日本的身体の哲学
- 3回 日本的身体のイメージ
- 4回 近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
- 5回 古代ギリシャの身体観1【プラトン】
- 6回 古代ギリシャの身体観2【概観】
- 7回 キリスト的共同体の身体
- 8回 身体としての共同体1【表現主義】
- 9回 身体としての共同体2
- 10回 身体・家族・社会1【精神分析的アプローチ】
- 11回 身体・家族・社会2【脳科学的アプローチ】
- 12回 身体・家族・社会3【シュレーパー症例】
- 13回 身体の社会的統制1【政治と規律】
- 14回 身体の社会的統制2【統制される身体】
- 15回 身体の社会的統制3【処罰される身体】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 精神病理 規律と監視

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類】
- 第4回 メンタルヘルスに関する基礎知識(3)【よくある誤解】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第6回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第7回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第8回 精神と行動の異変(2)【精神疾患①】
- 第9回 精神と行動の異変(3)【精神疾患②】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、自己分析を通して、自らのを客観的に理解し、自己肯定感を高めるための方法について考えていきます。また、実際の事例を通し、メンタルヘルスが不調とはどういう事なのかを考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし。適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 自己分析①【心理テスト】
- 第3回 自己分析②【リフレーミング、ストレングス・パースペクティブ】
- 第4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 第5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 第6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 第7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 第8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 第9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 第10回 事例検討①【非行】
- 第11回 事例検討②【虐待】
- 第12回 事例検討③【ホームレス】
- 第13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 第14回 事例検討⑤【障害】
- 第15回 受援力、援助力

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。メンタルヘルスを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 ふとる・やせる、適度な運動とは(講義)【体脂肪】
- 7回 軽運動、エアロビクス・ダンス(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン・ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン・ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 レッツ・スポーツ(講義)【計画・企画】
- 14回 レッツ・スポーツ(実習)【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
 気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 ふとる・やせる、適度な運動とは(講義)【体脂肪】
- 7回 軽運動、エアロビクス・ダンス(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン・ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン・ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 レッツ・スポーツ(講義)【計画・企画】
- 14回 レッツ・スポーツ(実習)【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

自己管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自立した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらう。それらの講義を聴講して、今後の人生の指針となる考え方の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会人マナーについて
- 3回 北九州市での生活について
- 4回 犯罪防止について ~被害者や加害者にならないように~
- 5回 自転車の交通安全について
- 6回 薬物乱用防止について ~飲酒との向き合い方~
- 7回 消費者トラブルについて
- 8回 ブラックバイトについて
- 9回 大学生とお金について
- 10回 いざという時のための消防と救急について
- 11回 災害への備えについて
- 12回 ハラスメント防止とデートDVについて
- 13回 地域で生きることについて
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(ほぼ毎回実施する課題レポートを含む) ... 70%
まとめレポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、提出用のレポートを準備しておくこと。(必要な学習時間の目安は、60分。)授業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、まとめておくこと。(必要な学習時間の目安は、60分。)振り返り内容は、レポートとして提出してもらうことがある。

履修上の注意 /Remarks

入学式で配布される資料や、北九州市立大学Webサイト上の「学生生活・就職」のページを参照しておいてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。このため、以下の注意点に留意すること。
① 第1回目の授業に出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。
② 遅刻することなく、毎回授業に出席すること。授業計画や授業内容等は、外部講師の都合により、変更になる可能性がある。その場合は、その都度授業中に説明する。
③ 質問や相談等は、指定する担当教員に行うこと。多くの外部講師が担当する授業になるため、担当教員が代表して窓口となる。毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

関連する自治体職員などが、大学生活を送る上での自己管理に関して解説する。

自己管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

大学生生活をより充実させるものにするための授業です。その為に、自己理解やコミュニケーションスキルの向上が必要と考えます。また、大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

木曜3限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また、様々な資料(映像・新聞記事・映画・webなど)を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア(人生デザイン)は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 充実した大学生活(新生活)のためのリスクマネジメント
- 3回 大学の「使い方」
- 4回 「理想」の大学生活・ ・ なんてあるの？
- 5回 ゲストスピーカーによるご講演(世界の果てで子どもを救う)
- 6回 大学での勉強、どうする？
- 7回 健康的な大学生活(セルフカウンセリングについて)
- 8回 自分の可能性を広げるために
- 9回 「自分」はだれか？
- 10回 かわいい子には「旅」をさせるべき？
- 11回 ゲストスピーカーによるご講演(国際キャリアのつくりかた)
- 12回 変わりつつある世界の中でどう生きるか
- 13回 ゲストスピーカーによるご講演(他者のために生きる人生)
- 14回 ようこそ先輩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業内レポート50% 課題レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
 また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後は、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

< 目的 >

我が国は少子高齢化に対峙し、生産年齢人口をカバーすることが急務となっています。その対策のため、未就業の状態にある人々の就業支援や、外国人労働者の受け入れに加え、近年注目されているのがRPA (Robotic Process Automation) です。RPAとは、ロボットによる業務自動化の取り組みを表す言葉で、「デジタルレイバー (Digital Labor) 」や「仮想知的労働者」とも言い換えられ、人間の知能をコンピューター上で再現しようとするAIや、AIが反復によって学ぶ「機械学習」といった技術を用いて、主にバックオフィスにおけるホワイトカラー業務の自動化を指します。つまり、従来の高度成長時代に基本を置く、一般的なコミュニケーション能力や主体性、チームワークなどの力の習得だけでなく、「AIやロボットには代替されない力」の習得が大学に課せられていると言えるでしょう。

では、その「AIやロボットには代替されない力」とは何でしょうか。それは創造力です。AIやロボットは指示されたことしかできないのだから。

では、創造力を大学時代にどう身に付ければよいのでしょうか。創造力とは解決すべき課題にぶち当たった時、その課題と過去の学びとの関連性を見出す力です。具体的には、課題を一人で取り組むことはほぼないので「多様な人々と協働する力」は欠かせません。また、「幅広い視野・柔軟性」がなければ、課題を解決してくれるかもしれない新しい知識を得ることはできないし、「失敗を恐れず挑戦する力」がなければ、課題を解決する上で必要な能力を高めることもできません。そして「経験を振り返る力」がなければ、経験からの学びを記憶することはできません。さらに答えのない課題を解決する経験に取り組み、その課題と過去の学びとの関連性を見出す経験を積んで、「答えのない課題を解決する力」を高めなくてはならないのです。

大学時代は人生で最も時間を自由に使える時代です。自らが自らを成長させる機会を創り出し、試行錯誤を繰り返して、これら5つの力を身に付ける時間はたくさんあるのです。以上を念頭に、創造性を発揮する土台作りを本授業で学んでください。

< 進め方と目標 >

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト (ロールモデル) との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント (ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど) の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料をMoodleにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

以下書籍はその参考例です。

キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社

○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社

○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版

○モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社

○エドガー H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房

○平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房

○中原淳・長岡健 『ダイアローグ 対話する組織』ダイヤモンド社

○香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社

○金井寿宏 『リーダーシップ入門』日本経済新聞社

○J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社

スツツ子! 『はみだすカ』宝島社

アンジェラ・ダックワース 『やり抜く力 GRIT (グリット) -人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社

○リンダ グラットン 『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社

リンダ グラットン、アンドリュースコット 『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社

○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

○中原淳、見館好隆ほか 『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・社会で求められる力
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 幅広い視野・柔軟性を身に付けるには(先輩登壇)
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③打ち合わせ
- 7回 働くということ(社会人登壇)
- 8回 新しい仕事を創る(ジョブスタ)
- 9回 ケーススタディワーク(酒造メーカーの改革)
- 10回 自分らしい就職活動をするには(卒業生・内定者登壇)
- 11回 企業団体研究(面白い企業団体を知る)
- 12回 計画された偶発性(幸運は準備とチャンスの交差点)
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(予習・復習・メンバーからの相互評価)・・・78%
インタビューレポート・・・13%
最終レポート・・・9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> Moodleに予習・相互評価・復習を掲示しますので毎週締め切りまでに行ってください。
<インタビューレポート> 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】

※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】

※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティア活動などが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。よって、できるだけ早くそれらに挑戦してほしいのですが、そもそも「何がやりたいのか?」がわからなければ、探すことも選ぶこともできません。ゆえに、大学時代に寝食を忘れて取り組むテーマを見出してもらおう仕組みと、そのために必要な力が獲得できるように設計しました。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決

実務経験のある教員による授業

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話や動画を聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニク
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 デイベート
【デイベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常生活で活用できるように努めてください。

コミュニケーションと思考法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1. 企業団体の概要 (現在および今後の方向性について)
2. 仕事の概要 (大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい)
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ (学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス)

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します (用意できない時もあります)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です (敬称略・順不同)。

<2018年度> ファミリア、日本航空 (JAL)、メルカリ、ベンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

<2017年度> サニーサイドアップ、ジンス (JINS)、JR九州エージェンシー、全日本空輸 (ANA)、日本放送協会 (NHK)、キャメル珈琲 (カルデイ・コーヒーファーム)、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス (モスバーガー)、日本たばこ産業 (JT)、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、カの源ホールディングス (一風堂)、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウェザーニューズ、旭酒造 (獺祭)

<2015年度> ムーンスター、日本放送協会 (NHK)、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、九州旅客鉄道 (JR九州)、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空 (JAL)、ニトリ、北九州市

<2014年度> ストライプインターナショナル (earth music & ecology など)、北九州市、ジンス (JINS)、東急ハンズ、ハウステンボス、朝日新聞社、日本アクセス、東京海上日動火災保険、JTB九州、アイ・ケイ・ケイ、伊藤忠エネクス、山口フィナンシャルグループ (山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行)、再春館製薬所、全日本空輸 (ANA)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91% 最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習 (予習) を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り (復習) を提出すること。

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究、実務経験のある教員による授業

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しません。毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る① 【最高法規】 【個人の尊厳】 【基本的人権】 【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る② 【平和主義】 【権力分立】 【違憲法令審査制】 【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る① 【私的自治】 【所有権の絶対】 【過失責任】 【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る② 【公共の福祉】 【信義誠実の原則】 【権利濫用】 【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る① 【罪刑法定主義】 【犯罪の要件】 【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る② 【刑事手続】 【裁判員制度】 【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る① 【社会規範】 【法規範の特性】 【社会統制】 【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る② 【紛争解決】 【行為規範】 【裁判規範】 【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る 【裁判所】 【裁判の役割】 【法解釈の方法】 【文理解釈】 【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る 【判例集】 【判例の調べ方】 【事実の概要】 【判旨】 【参照条文】
- 12回 判例を読む① 【判例部分の抽出】 【判例研究の意義】 【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む② 【判例評価の方法】 【判例と学説】 【特別受益】 【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む 【相続】 【親子関係】 【婚姻】 【離婚】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40 % 定期試験... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、紹介する参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'19』信山社(1,000円)をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
 社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004、¥2592
 入門・社会調査法（第3版）：2ステップで基礎から学ぶ、有斐閣、2017、¥2700
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007、¥3132

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会調査の種類と倫理
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング1【質問文を作る】
- 第6回 ワーディング2【選択肢を作る】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方と方法
- 第9回 実査とデータファイルの作成
- 第10回 度数分布、代表値、分散と標準偏差
- 第11回 検定の考え方
- 第12回 平均値の差の検定
- 第13回 変数間の関連1【クロス表】
- 第14回 変数間の関連2【相関係数】
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
 （総合的に判断する。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。）
 課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、度数分布、検定、推定、クロス表、相関係数

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール(スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング(ウインドミル)
- 4回 バッティング(トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
 本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文(レポート)を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

AI(1学期)では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略(実証方法の道筋)の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法(レジユメの作り方)
- (5) 論文(レポート)の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査-技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える(方法を検討する)
- 第5回 情報を集める1-北九大図書館
- 第6回 情報を集める2-CiNii, 国立国会図書館(NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー(テキスト批評)1
- 第9回 文献レビュー(テキスト批評)2
- 第10回 文献レビュー(テキスト批評)3
- 第11回 文献レビュー(テキスト批評)4
- 第12回 文献レビュー(テキスト批評)5
- 第13回 文献レビュー(テキスト批評)6
- 第14回 文献レビュー(テキスト批評)7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジユメを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修(バス)予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
- 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によってレポート(論文)を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

AII(2学期)では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告(テキスト批評)をしてもらい、議論を行う。なお、1~2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法(アンケート調査など)、質的方法(インタビューなど)についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー(テキスト批評)1
- 第3回 文献レビュー(テキスト批評)2
- 第4回 文献レビュー(テキスト批評)3
- 第5回 文献レビュー(テキスト批評)4
- 第6回 論文検討会1
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー(テキスト批評)5
- 第10回 文献レビュー(テキスト批評)6
- 第11回 論文検討会2
- 第12回 文献レビュー(テキスト批評)7
- 第13回 文献レビュー(テキスト批評)8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート(論文)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

教養演習AIIの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI (教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI) を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間 (8月中下旬～9月上旬) に、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する (500円程度 + αのみがかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする (90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修 (3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学 (7時間30分)
 バス内での講義・ビデオ鑑賞 (2時間30分) + 現地での研修 (5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学 (5時間)
 現地での研修 (5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学 (7時間30分)
 バス内での講義・ビデオ鑑賞 (2時間30分) + 現地での研修 (5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50% + レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
 /Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修(夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う)を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

教養演習BIIの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間(8月中下旬~9月上旬)に、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみがかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
 バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
 現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
 バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

教養演習BII(防衛セミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421 Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。また、421 Lab. が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポート(報告書)を提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動(就職活動など)にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 最終レポート(報告書)作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポート(報告書)での総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意 /Remarks

- ※プロジェクト演習Iの履修対象者は、原則2年次です。
- ※プロジェクト演習IIIの履修対象者は、原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポート(報告書)を提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動(就職活動など)にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 最終レポート(報告書)作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポート(報告書)での総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意 /Remarks

- ※プロジェクト演習IIの履修対象者は原則2年次です。
- ※プロジェクト演習IVの履修対象者は原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第1講 自然学で学ぶこと
 - 第2講 今西錦司という人がいた
 - 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
 - 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
 - 第5講 自然学における日常実践
 - 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
 - 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
 - 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
 - 第9講 近世の旅と自然
 - 第10講 山村暮らしと故郷
 - 第11講 山と森の自然観
 - 第12講 竹の産業史
 - 第13講 竹の文化
 - 第14講 木の文化
 - 第15講 第9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

自然学のまなざし【昼】

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19 ~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19 ~), 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員、および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義です。北九州市は化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市であり、古くより交通の要衝として栄えてきた都市でもあります。北九州の自然と歴史の魅力、それを展示している博物館を、まず皆さんに知ってもらうことがこの講義の大きな目的です。講義では、地球の歴史、生物の歴史、人間の歴史に関する基礎的な知識を身につけながら、各学芸員や教員による調査・研究を通して、それぞれの分野の最先端の話を聞いていただきます。北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学んでもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通りです (【 】内はキーワード、()内は担当者)。

- 1回 ガイダンス (日高・柳川)
- 博物館1日目
- 2回 石の音が聞こえる (森) 【岩石】【鉱物】【大地のダイナミクス】
- 3回 生命の起源を探る (柳川) 【微生物】【極限環境】【地球外生命体】
- 4回 館内見学 (1回目)
- 5回 アンモナイトの古生物学 (御前) 【化石】【古生態学】【異常巻アンモナイト】
- 6回 昆虫の多様性と進化 (養島) 【新種発見】【完全変態】【甲虫】
- 博物館2日目
- 7回 魚類分類学と多様性 (日比野) 【ホロタイプ】【分類学の歴史】
- 8回 両生類の多様性と保全 (江頭) 【絶滅危惧】【ホットスポット】
- 9回 館内見学 (2回目)
- 10回 フィールドの地学と歴史を楽しむ (野井) 【地学と歴史のかかわり】【ジオパーク】
- 11回 人新世におけるヒトと植物の関係 (河野) 【科学史】【地球環境】【植物】【人新世】
- 博物館3日目
- 12回 哺乳類に関するトピック (未定)
- 13回 北九州の埋蔵文化財 (宮元) 【考古学】【古墳時代】
- 14回 北九州の歴史と文化 (日比野) 【近現代史】【地域の歴史意識】
- 15回 まとめ (日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 積極的な授業への参加 (課題提出を含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前に【 】内のキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回目 (ガイダンス) に欠席した場合は受講を認めない。10月2日に両キャンパスにて予備ガイダンスを予定しているので掲示物に注意すること。
- ・ 第2回～第15回の授業は10月19日 (土)、10月26日 (土)、11月16日 (土) の3回に分けて博物館で行う予定 (いずれも終日)。
- ・ 博物館までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象やエセ科学を利用した詐欺的商法もあります。そのため、市民は、生活を豊かにするため、身近な問題の科学・技術情報の理解のため、教養としての基礎的な化学知識を必要としています。化学の知識は、興味の赴くまま学んでも、根付きません。一方、系統的に学ぶことでその知識を根付かせることができますが、学習の意欲を育てるとは限りません。これらを両立させることが教育の課題です。高校の化学教育を基礎に、化学への興味の促進、身近な現象への理解力の向上がこの授業のねらいです。その学習を進めるために、身近な現象と学習事項の関連を講義の中で示します。

身近な物質や現象を通して、物質の構造（原子・分子・化学結合）、物質の状態すなわち物質三態（気・液・固、コロイド）や物性（酸塩基、酸化還元など）など、さらに一般化学物質（無機物、有機物）や生命に関わる生体物質（糖、脂質、タンパク質、核酸など）を、生活に関わる問題、環境問題、原子力・放射能問題との関連で解説します。

これらの学習で化学現象の系統性をつかみ、自然現象と物性や化学物質の関係を理解することをねらいます。

教科書 /Textbooks

新版 教養の現代化学(第2版)

著者：多賀光彦、片岡正光、早野清治、沼田ゆかり 著

出版社：三共出版

定価2592円（本体2400円＋税8%） / 2016年4月発行

ISBN 978-4-7827-0734-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）¥2200円、ISBN 978-4-621-04227-4

○「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）

○「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

「ゼロからはじめる化学」 立屋敷 哲著(丸善) ¥2200+税 ISBN978-4-621-08016-0 演習用として

くらしと化学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1, 2コマ： 1) 身近な元素と周期律と化学結合
1章 原子の成り立ちと周期律
2章 化学結合と物質の結合
- 第3, 4コマ： 2) 化学物質はどう造られるか。化学の言葉での表現
化学式、化学反応式の説明。
11章 無機物質と無機化学 補足：石灰岩(北九州市の資源)
- 第5, 6コマ： 3) 物質の存在状態は身の回りの現象とどう関わるか。
気体、液体、固体、溶液そしてコロイド
3章 物質の三態と相平衡
- 第7, 8コマ： 4) 酸や酸化などの現象と生活の関わり。健康と酸塩基、電池
5章 酸と塩基、6章 酸化と還元
- 第9, 10コマ： 5) 有機物とは何、身の回りの有機物の特性と分類
第7章 簡単な有機化合物
第10章 生活の中の有機物質
- 第11, 12コマ： 6) 生命と健康への生体物質の関わり
第8章 生体を構成する物質
第9章 生命を支える物質
- 第13コマ： 7) エネルギー源と原子力問題
第13章 原子力エネルギーとクリーンエネルギー
- 第14コマ： 8) 人間生活と地球環境問題
第14章 14 - 7節 放射能汚染
第14章 大気と環境
第15章 水と環境
- 第15コマ： 9) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容の基礎的な部分を理解しているか。その理解を授業で出たり、一般に見られる化学的現象に結びつけることができるかを見る。簡単レポート・小テスト(演習、質問など) 20%、期末試験 80%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に、教科書・プリントの該当部に目を通して、学習事項が定着するよう努める。教科書やプリントの要点をメモや強調(しるし)することで復習がやりやすいので行うことを勧める。テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。その注目点や、授業の疑問点は授業の理解を深めるので質問すると良い。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。補足資料(プリント)を必ず受け取る(翌週も配る)。ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくこと。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。事後学習としては、ノートの整理、重要事項の整理をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

章末問題は、学習したことを整理するのに役立つので取り組んでください。新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

基礎化学、生活の化学、環境の化学、化学結合。気体、液体、固体、コロイド、表面、酸、塩基、酸化、還元、電池、化学反応、糖、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸、大気汚染、地球温暖化物質、原子力、放射能

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニメシー、バイオロジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 こころの科学1【心理学、統計】
- 第7回 こころの科学2【進化、行動主義】
- 第8回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第9回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
- 第12回 脳とこころ2【心身の発達と脳】
- 第13回 脳とこころ3【薬物の影響】
- 第14回 脳とこころ4【睡眠の影響】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(複数の小テストまたはレポート)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、心理療法・文学・倫理・映画などのジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通しながらユダヤ性の拡がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
 - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
 - 合田正人『入門 ユダヤ思想』、ちくま新書、2017年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点【概説】
- 3回 ユダヤ人の歴史(1)【民族の起源】
- 4回 ユダヤ人の歴史(2)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(3)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(4)【近代から現代へ】
- 7回 補足回【紛争と現代】
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 文学の思想【カフカ】
- 11回 音楽の思想【シェーンベルク】
- 12回 心理療法の思想【フロイト】
- 13回 倫理の思想【ユダヤ】
- 14回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・前半】
- 15回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・後半】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 100%
(不定期に実施されるMoodle上での課題内容をもとに評価する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【テクノミュージック】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【CM】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦【オリンピック】
- 10回 イメージとしての〈日本〉⑧【まとめ】
- 11回 【特別講義】
- 12回 【表象分析事始め】 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 13回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 14回 映画を事例として③まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 20% 期末レポート ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：配布物を読んでおく
事後：講義内容を復習し、事例について必要であれば調べておく

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められる。それゆえに、緊張感をもった態度で受講してほしい。授業時間外では、授業で取り上げたトピックについての情報収集をまめにおこない、それを授業時間内でのコメントカード執筆に活かしてほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係性を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって広がる同時代の動きにつなげてみる。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」 美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」 著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014
- 「20世紀末・日本の美術—それぞれの作家の視点から」 編著・中村ケンゴ アートダイバー 2015

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者
2. ボルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフエ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭介 原発に抗する
12. 奈良美智 コドモの領分
13. ヤノベケンジ 失われた遊園地
14. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻込むプロジェクト
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 2回 50%
レポート(学期末) 40%
日常の取組(出欠など) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マクファーンソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波新書
- シュンペーター, J. (大野訳 2016) 『資本主義, 社会主義, 民主主義』日経BP
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波文庫
- 杉田敦 (2001) 『デモクラシーの論じ方-論争の政治』筑摩書房
- 久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子 (2016) 『比較政治学の考え方』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 基礎的概念整理【民主制】【独裁制】【共和制】【君主制】
3. 近代的分類法【防禦民主主義】【均衡民主主義】【人民民主主義】
4. 民主主義の暴走【立憲主義】【司法独立】【指揮権】
5. 実証的民主体制論【ポリアーキー】【ダール】
6. デモクラシーの指標化【PolityIV】【Freedom House】
7. 民主制の多様性とその生存・品質 1: 制度【議会制】【大統領制】
8. 民主制の多様性とその生存・品質 2: 選挙【SMD】【PR】
9. 民主制の多様性とその生存・品質 3: 運用【ウエストミンスター型】【コンセンサス型】
10. 民主制の多様性とその生存・品質 4: 社会【ソシアリゼーション】【民族問題】
11. 公正な意思決定の不可能性【社会的選択】【選挙制度】【サイクル】
12. 民主制と独裁制の間で【経済成長】【社会厚生】
13. 権威主義体制とその分類【軍事独裁】【政党独裁】【個人・君主独裁】
14. 権威主義体制と選挙・政党【選挙の独裁強化機能】
15. 民主制⇔独裁制の体制変動【民主化】【独裁化】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が変わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にしてください。また、本シラバスをご覧になった学生諸君は、本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません（それがない人を想定して授業を行います）。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

民主主義とは何か【昼】

キーワード /Keywords

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害していることがある。

本講義では「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深める。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
 - 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
 - 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
 - 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
 - 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
 - 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
 - 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
 - 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
 - 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
 - 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
 - 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
 - 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
 - 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
 - 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
 - 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。
- ※5～14については、状況により授業順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心を持ち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。

出席率が基準を満たした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振られるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ボトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

ジェンダー論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉症スペクトラム障害を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ、ディスカッションも含む【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症スペクトラム障害とは①自閉症の特性【自閉症観の変遷】
- 第6回：自閉症スペクトラム障害とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉症スペクトラム障害支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉症スペクトラム障害支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名
/Instructor

高橋 衛 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
中村 英樹 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
水野 陽一 / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
今泉 恵子 / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		○	○	○							

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。
そのため、私たちは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、そして、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えていく必要がある。
すなわち、私たちの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など、様々な関係の中で成り立っていることを、改めて認識しなければならない。
そのうえで、「他者との共存（共生）」は我々の生活には不可欠であり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）があることを知る事が重要である。
そこで、本講義では、以下の各回の個別テーマを素材にしながら、今現在、上記の意味での他者との関係がどのようになっているのか、どのようなルールが設けられているのか（法の役割）を理解したうえで、これらの共生関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 民主主義の限界と立憲主義
- 第 3 回 政教分離と叙任権闘争
- 第 4 回 変化する社会と行政
- 第 5 回 国際社会と法—国際行政の観点から
- 第 6 回 刑罰とは何か
- 第 7 回 刑事裁判とは何か
- 第 8 回 契約とは何か
- 第 9 回 担保とは何か
- 第10回 商取引における不正競争と法
- 第11回 民事訴訟とは何か
- 第12回 「働く = 労働」について考える
- 第13回 法と道徳について
- 第14回 家族とは何か
- 第15回 まとめ

※なお、講義計画・担当者等については一部変更があり得るので、詳細についてはガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポートによる（100%、ただし④に注意）。
- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。
 - ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
 - ③ レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
 - ④ 出席状況や授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスを事前に確認してテーマに関わる用語を調べておく。（次の履修上の注意の項を参照のこと）
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

共生の作法【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義全体のキーワードだけでなく、各回のテーマに「直接」に関連すると思われるキーワードをいくつか、受講者が自ら想定した上で、それらについて「事前に」新聞・雑誌・本などで情報を収集して、予習しておく、各回の理解がいっそう深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。
全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。
各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
村江 史年 / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点(自然・経済・市民)から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼう、環境関連施設(環境ミュージアム、エコタウンなど)見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 999円(税込み)
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然と環境(日高・村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 施設見学・エコタウン
- 8回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 小テスト(日高)
- 12回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 13回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 14回 環境問題と学生の取り組み(421Lab・村江)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績(40%)、小テストおよび授業中の課題(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習: 授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学(環境ミュージアムとエコタウン)は原則として必須とする。スケジュールは変更となる場合があるので、第1回ガイダンスに必ず出席すること。

- ・エコタウン(バスツアー)は12月25日(水)の予定。参加できない場合は各自で代替施設を見学すること。
- ・環境ミュージアム見学は11月23日(土)午前または午後の予定。参加できない場合は後日各自で見学すること。
- ・環境首都検定は12月15日(日)の予定。

*授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。

*環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

市民活動論【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を営むとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2268円（税込）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

つながりの人間学【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート+ 講義中の課題」(60点) + 「実践報告レポート」(40点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備も、そうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、受講者による「サービス・ラーニング」への参加を前提としています。したがって受講生は、自ら「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉と了解を得、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義は受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどを「事前レポート」(1500字程度) を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。本講義では、こうした課題などに積極的にコミットする受講生を求めています。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向かうための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)、昭和堂、1999年。
- ピーター・シンガー『あなたが救える命』(見玉聡・石川涼子訳)、勁草書房、2014年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値(4)【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値(5)【自己意識】
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【優生学】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【人口問題】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【貧困問題】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【援助義務論】
- 15回 予備回

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 /Instructor 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

多様な情報メディアが錯綜する現代における「新聞」について学び、情報を評価・識別する力（メディアリテラシー）を身につけることを目的としています。同時に、「新聞」を通して現代社会の諸側面について理解を深めることも目指します。

インターネットが普及した中で、情報や言論の発信・伝達役としての「新聞」の存在感は低下しているという指摘も聞かれます。しかし、社会に流布している情報の出所の多くは新聞です。また、ネットメディアが独自に発する情報は、断片的であったり、信頼性に欠けていたりすることも少なくありません。

新聞社は、24時間、洪水のように情報が飛び交う中、内容を整理して信頼性のある情報として発信することを基本に、①社会の出来事を客観的に伝える、②その背景や問題点を深く掘り下げる、③社会が抱える課題の解決策を提供する、④権力者などの不正追及など健全な批判や言論を通じ民主主義を守ることに取り組んできました。この講義では、そうした新聞社が培ってきた長い経験と実績を基盤に、新聞社のデスクや第一線の記者などが取材や報道体験を話すことを通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法などについて考えます。なお、本講義は西日本新聞社の提供講座です。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目から14回目までは、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務めます。ただし、事件・事故の発生や講師の都合などにより順番・内容が変わることがあります。

- 【第1回】オリエンテーション / 電子メディアへの挑戦 (編集企画委員長 / 西日本新聞メディアラボ メディア事業担当部長)
- 【第2回】災害被災者に寄りそう (社会部記者)
- 【第3回】地方の視線で政治と向き合う (都市圏総局デスク)
- 【第4回】アジアと九州を読み解く (国際部デスク)
- 【第5回】調査報道・キャンペーン報道 (西日本新聞メディアラボ デジタル報道部デスク)
- 【第6回】新聞デザインの展開 / ビジュアル発信を目指して (デザイン部デスク)
- 【第7回】地域文化をみつめて / 文化部記者の仕事 (文化部デスク)
- 【第8回】報道写真の力 / カメラマンの心得とは (写真部記者)
- 【第9回】九州経済をどう見るか (経済部デスク)
- 【第10回】分かりやすさの追求 / こども向け紙面 (こどもタイムズ編集長)
- 【第11回】スポーツ報道の世界 / 運動記者は何を伝えるか (運動部デスク)
- 【第12回】新聞の作り方・読み方 (編集センターデスク)
- 【第13回】暮らしの視点で社会見つめる (生活特報部長)
- 【第14回】北九州の現場から (北九州本社編集部)
- 【第15回】社会学者は新聞をどのように「使う」のか (稲月)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回提出が必要です)・・・100%

ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とします。

詳細は第1回目の講義で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞や雑誌などに目を通し、現代社会や地域が直面する課題やその解決の方法について考えてください。(必要な学習時間の目安は、90分以上。)

履修上の注意 /Remarks

「成績評価の方法」にも記したように、この授業では、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とします。就職活動や実習などで欠席する予定がある者はよく考えて履修してください。

現代社会の諸問題 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代人に欠かせない能力である「メディアリテラシー」（メディアの特性を理解した上で情報を選別して読み解く力）を身につけてください。

西日本新聞社の記者・デスクが、取材や報道の体験等をもとに、現代社会の諸問題、新聞の役割、新聞コンテンツの活用法等について解説する（西日本新聞社の提供講座）。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会、実務経験のある教員による授業

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野 日中台関係：ボーダーエリア
- 第3回 下野 日中台関係：国家の枠組みと社会
- 第4回 ウェイン The Role of Public Spaces in Cities
- 第5回 大平 変容するアジア情勢(1) 中国とインドの台頭
- 第6回 大平 変容するアジア情勢(2) 日本の防衛力強化
- 第7回 大平 変容するアジア情勢(3) 開発協力における熾烈な争い
- 第8回 金 日本の「戦後」の終わり
- 第9回 金 日本の対外関係の諸問題
- 第10回 金 戦後の国体、永続敗戦
- 第11回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第12回 寺田 インターネットを巡る国際情勢
- 第13回 松田 日本総合商社と海外インフラプロジェクト【世銀保証、IFC、Bローン、商社】
- 第14回 下野 台湾：歴史
- 第15回 下野 台湾：社会

※都合により変更もあり得る。変更がある場合は授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(7~14回)100% ※小テストは原則として各回実施しますが、詳細は各担当者が指示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

授業の最後に小テストを受けます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それにともなって、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきている。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、国際人口移動について概説する。その上で、日系ブラジル人社会、在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係の事例をもとに、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて実証的に考察していきたい。これらを通して、グローバル化が地域(ローカル)に及ぼす影響を、生活の場から考える視点を身につける。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房、2016年、¥3024
 - 『多民族化社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店、2010年、¥2700
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房、絶版
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会、2005年、¥4536
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 エスニシティ活性化の理論
- 第4回 グローバル化の進展と国境を越えた人口の移動
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1)【ヨーロッパの事例】
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2)【移民と階級、教育、政治】
- 第7回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(1)【移民の理論】
- 第8回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(2)【移住システムと移民コミュニティ】
- 第9回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会問題発生メカニズム】
- 第10回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(1)【在日朝鮮人とは】
- 第11回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(2)【多文化コミュニティ形成の条件】
- 第12回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会移動】
- 第13回 排外主義と排外意識 - 排外意識形成メカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
授業テーマと関連のある新聞記事や文献に(できるだけ)目を通すようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を反復するとともに、移民や排外主義に関する新聞・雑誌などの記事に目を通し、グローバル化が地域に及ぼす影響について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通してグローバル化の進展を生活の場からとらえ、分析する視角を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと多文化主義【国民国家】
- 2回 連合王国イギリス【連合王国】【スコットランド】【ウェールズ】
- 3回 連合王国の終焉?【権限委譲】【自治】【独立】
- 4回 イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
- 5回 イギリスにおける多文化主義【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
- 6回 英仏のエスニシティ問題【同化主義】【スカーフ問題】
- 7回 英仏の国民統合【共和国原理】【ライシテ】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 東南アジアの多文化社会とエスニシティ
- 10回 「本物・本質」探し:「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 11回 「独立か否か」:インドネシア・アチエの事例
- 12回 文明の「本場」と「周縁」:東南アジアの華人
- 13回 「想像の共同体」の読み方
- 14回 共存のための区切り:マレーシアの民族概念
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(協治)」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- *『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。
- *大原悦子『フードバンクという挑戦～貧困と飽食のあいだで』現代岩波文庫、2016年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめるとあたって		担当: 三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当: 伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)		担当: 伊野
第4回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当: 伊野
第5回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当: 申
第6回 米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあて	【米国】	担当: 申
第7回 エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当: 申
第8回 世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当: 原田正樹・三宅
第9回 NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは?	【ライフアゲイン】	担当: 原田・三宅
第10回 子ども食堂「もがるか」の運営と人々	【子ども食堂】	担当: 原田・三宅
第11回 フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論	【大学生】	担当: 原田・三宅
第12回 グループワーク(アクティビティ作り)を通じたガバナンス概念の把握	【グループワーク】	担当: 三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当: 三宅
第14回 教員の「開発と統治」の概念提示を考える		担当: 三宅・伊野・申
第15回 まとめ(グループ・ディスカッション)		

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。できるだけ、海外に出かけ、また、本をどんどん読んでください。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー フードバンク 貧困 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 企業の国際展開(1)【グローバル企業の類型】【グローバル統合】【ローカル適応】
- 9回 企業の国際展開(2)【イノベーション】【ブランド】
- 10回 グローバル化と人材(1)【JIT】【海外生産】【熟練】
- 11回 グローバル化と人材(2)【派遣・請負】【OJT】【Off-JT】
- 12回 国際労働移動(1)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と財政】【移民の経済的同化】【日本における外国人労働の受け入れ】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
 定義が困難な理由について
 - ①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
 - ②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
 - ③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
 テロリズムの定義
 - ①911の特殊性と国土安全保障の考え方
 - ②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
 - ③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
 テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
 テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
 テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
 ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
 国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
 反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
 補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
 無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
 劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
 オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
 「大量」殺戮テロの始まり
 化学テロと生物テロ
 化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
 地下鉄サリン事件の概要
 サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
 地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
 911の特異性
 911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
 ビンラディンのプロファイル
 アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【デタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照らしながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

歴史の読み方I【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがちな細な事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

1. この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
2. この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実一つに限られてはいません。
3. この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』(NTT出版)
- 小熊英二『単一民族神話の起源』(新曜社)
- 池内敏『日本人の朝鮮観はいかにして形成されたか』(講談社2017)
- 新渡戸稲造『武士道』(岩波文庫)
- ルース・ベネディクト『菊と刀』(社会思想社)
- 野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
- 佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
- 網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 「東アジア」という視点
- 3回 日本の近代と国民国家の歴史観
- 4回 中国・韓国から見たアジアの近代
- 5回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 6回 新渡戸稲造の『武士道』
- 7回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 8回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 9回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 10回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 11回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 12回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 13回 「国語」とは何か
- 14回 網野善彦と日本史の多様性
- 15回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
- 事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

歴史の読み方I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱 - 西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平の登場 -
- 第8回 政治との関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立・協調 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 「憲法改革」の頓挫
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の該当箇所を目を通しておくこと。授業終了後には講義ノートを参照しながら教科書を再読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、映像等を交えながら、世界と日本の状況を対比させ考えていく。その過程を通じて現代世界の特徴について学んでいく。対象となるのは、第2次世界大戦前から現代。日本の状況に関しては、小林先生に担当していただき、内容を充実させる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション(伊野担当)。【オリエンテーション】
- 第2回：第2次世界大戦以前の世界(伊野担当)。【世界大戦前の世界】
- 第3回：第2次世界大戦以前の日本(小林担当)。【世界大戦以前の日本】
- 第4回：第2次世界大戦と世界(伊野担当)。【第2次世界大戦】【世界】
- 第5回：第2次世界大戦と日本(小林担当)。【第2次世界大戦】【日本】
- 第6回：1950～60年代の世界(伊野担当)。【1950～60年代】【世界】
- 第7回：1950～60年代の日本(小林担当)。【1950～60年代】【日本】
- 第8回：1970年代の世界(伊野担当)。【1970年代】【世界】
- 第9回：1970年代の日本(小林担当)。【1970年代】【日本】
- 第10回：1980～90年代の世界(伊野担当)。【1980～90年代】【世界】
- 第11回：1980～90年代の日本(小林担当)。【1980～90年代】【日本】
- 第12回：現代の世界(伊野担当)。【現代】【世界】
- 第13回：現代の日本(小林担当)。【現代】【日本】
- 第14回：現代の世界再考(伊野担当)。【現代世界】【再考】
- 第15回：まとめ。【まとめ】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の都度、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

皆さんは、「Japanas No 1」と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。

しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。

したがって、「Japanas No 1」と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。

このことをふまえ本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「団塊の世代」
- 第5回 2. 戦後文化と家族モデル
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程
 - 1. 戦後の人口問題と経済成長の蓋然性
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 IV. 戦後家族モデルの成立
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第10回 2. 「上昇志向」の時代と日本人の生活意識
- 第11回 3. 日本人の理想とモデル - 「ミッチーブーム」と「象徴天皇」
- 第12回 4. 日本人の理想とモデル - ブラウン管を通じて見たアメリカ
- 第13回 V. 「ロストジェネレーション」
 - 1. 「幸せモデル」の確立
- 第14回 2. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第15回 2. モデルの喪失と新たな文化形成

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。

今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。

なお、本年度は外部講師を数回、招くので、それによって各回の内容が変わる場合がある。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提 1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提 2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーティズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 現代社会 - 「光の巨大」
- 第12回 環境問題の外部化・不可視化と社会的費用 - 「闇の巨大」
- 第13回 原子力政策と地域社会
- 第14回 情報化と外部問題 - 方法としての情報化
- 第15回 どのような社会を選択するのか - 情報化 / 消費化社会の転回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

履修上の注意 /Remarks

授業前にあらかじめ指定された資料で学習を行い、授業後は復習をすること。

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
 なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
 二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。
 まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
 さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファーソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドール・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。
 次に山崎は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の2人について人物と時代を語る。その際、2人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。
 21世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第1主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。
 イギリスでは1昨年からのEU離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なEU離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればEU存続にも影響を与えかねない。
 こうした背景も視野に入れながら、第2次世界大戦後に果たした世界のアメリカから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にEU (ヨーロッパ連合) の形成過程において3度もEEC (とEC) に申請してやっと認められたイギリスがなぜEUから出て行くか決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)
 口述講義。その際資料を配布する。(山崎)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
 ○藤沢周平『漆の実のみる国』(文春文庫)
 ○中村彰彦『保科正之』(中公新書)
 『歴代アメリカ大統領』(ブティック社)
 毎日の新聞(朝日、毎日、読売などの新聞でも良い)を購読のこと。(山崎)

人物と時代の歴史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

(新村)

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】

第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】

第6回 アメリカ大統領I (初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領) 【独立戦争・建国・南北戦争時代】

第7回 アメリカ大統領II (第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・オバマ大統領) 第45代トランプ大統領 【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

第8回 21世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について

第9回 イギリスとEUの関係について

第10回 キャメロン首相と国民投票

第11回 なせEU離脱派の投票率が残留派より多かったのか

第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何か

第13回 トランプ候補が勝利した理由

第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか-グローバル経済はどんな影響を受けるのか

第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート (70%) と平常の学習状況 (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介、稲月 正

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業では、社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を活用し、将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す(伝える)力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。グループワークも実施し、物事を深く考えて企画する力も身につけられるようアシストします。様々な学部の学生が集まり、共に学ぶことができる講座です。

「時事問題や正しい日本語の使い方に関するクイズ」「新聞への投稿」「流行語大賞や10大ニュースを予測してみよう」など、新聞を活用した演習やクイズを実施します。文章添削も行う予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。新聞を授業時に配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞も活用します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 新聞の基本的な読み方とまわしよみ新聞の作り方、グループ分け (※気になる記事を選んで作る「まわし読み新聞」は毎回作成します。)
- 第2回 新聞のちから①まわしよみ新聞を基にテーマを選択
- 第3回 新聞のちから②テーマと疑問点を詰める
- 第4回 新聞のちから③文章の書き方 (基礎編)
- 第5回 新聞のちから④文章の書き方 (応用編)
- 第6回 新聞のちから⑤模擬取材体験
- 第7回 新聞のちから⑥取材結果をまとめる
- 第8回 新聞のちから⑦発表と講評
- 第9回 社会人基礎力養成①深く考える力を高める新聞の読み方
- 第10回 社会人基礎力養成②課題解決へ思考を深める
- 第11回 社会人基礎力養成③課題解決へ思考を深める
- 第12回 社会人基礎力養成④課題解決へ思考を深める
- 第13回 社会人基礎力養成⑤就活突破と新聞活用術
- 第14回 まとめ①「わたしたちの新聞」作成
- 第15回 まとめ②「わたしたちの新聞」発表と講評

成績評価の方法 /Assessment Method

課題やグループワークへの取り組みの度合いで総合的に判断します (100%) 。詳しくは1回目の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞を毎回活用します。
 就職活動に役立つような簡単な演習などを課題として出題する予定です。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。
 新聞報道の現場経験者が、その経験を活かしながら「読む力」「書く力」「話す力」「考える力」を向上させる授業を担当する。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力、実務経験のある教員による授業

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないが、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「ペットボトルと水道水」「100円ショップ」を具体的事例として取り上げ、倫理的消費について学生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、環境に負荷をかけない生活を考えるとともに、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考える契機としたい。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。

○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。
末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」とは何か?
- 第2回 【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半の鑑賞
- 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の鑑賞、論点整理
- 第4回 ファッション、綿花栽培に関するディスカッション
- 第5回 【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第6回 『Food Inc.』(DVD)前半の鑑賞
- 第7回 『Food Inc.』(DVD)後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第8回 【プラスチック】ペットボトル、マイクロプラスチック、論点整理、ディスカッション
- 第9回 【鉱物資源】『スマホの真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第10回 【100円ショップ】『徹底解剖! 100円ショップ』の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第11回 【フェアトレード】『もっと! フェアトレード』(DVD)の鑑賞
- 第12回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第13回 グループ・ワーク
- 第14回 受講生によるプレゼンテーション1
- 第15回 受講生によるプレゼンテーション2、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回のレポート(20%)、グループによるプレゼンテーション(80%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、実生活を通して学んだことの確認を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。また、第14回と第15回では、エシカル消費を促進するためのアイデアについて、個人ないしはグループでのプレゼンテーションを予定しています。それを念頭に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記するだけのことで、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。

この授業では、日本史に関する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回でレジユメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？ —過去・史料・歴史家—
- 第2回：さまざまな「歴史」のとらえ方 —循環・進歩・システム—
- 第3回：ヒトはどこから来たのか？ —人類の拡散と日本列島—
- 第4回 狩猟採集経済と農耕経済 —気候変動と縄文・弥生人—
- 第5回：前方後円墳とヤマト王権 —初期国家の成立—
- 第6回：古代国家と天皇 —東アジアの律令国家—
- 第7回：日本の中世国家 —分権化する国家と社会—
- 第8回：越境するヒトとモノ —銭貨・倭寇・鉄砲—
- 第9回：世界史のなかの「近世」 —東アジアにおける伝統社会の形成—
- 第10回：歴史人口学の世界
- 第11回：結婚と離婚 —歴史のなかの男と女—
- 第12回：貨幣からみる近世社会
- 第13回：日本の「近代」 —世界史における明治日本—
- 第14回：「日本人」と戦争
- 第15回：まとめ —「歴史」を学ぶということ—

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (50%、小レポートなどを含む)、期末試験 (50%) によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 秦(1) -戦国時代から中国統一へ-
 - 3回 秦(2) -始皇帝の統一政策-
 - 4回 前漢前期(1) -項羽と劉邦-
 - 5回 前漢前期(2) -高祖と冒頓単于-
 - 6回 前漢前期(3) -呂后-
 - 7回 前漢中期(1) -武帝-
 - 8回 前漢中期(2) -昭帝-
 - 9回 前漢中期(3) -宣帝-
 - 10回 前漢後期(1) -元帝-
 - 11回 前漢後期(2) -成帝-
 - 12回 前漢後期(3) -哀帝-
 - 13回 新の王莽 -王莽は「篡奪者」か-
 - 14回 後漢の光武帝と「漢委奴国王」
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)

予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生の名に恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。定期試験の際にはノートや配付資料の持ち込みは認めないので、意欲のある学生の受講を期待する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

社会学 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。そのために、以下の2点について講義する。

- (1) 社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。
- (2) 現代の社会問題を社会的に考えていく。とりあげる問題としては「大衆社会とファシズム」「社会的排除と貧困」などを予定している。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会的な考え方とは
- 第3回 社会的な要因による説明とは
- 第4回 個人と社会をつなぐ1 - デュルケム1 【自殺論 - 集合意識と行為】
- 第5回 個人と社会をつなぐ2 - デュルケム2 【自己本位的自殺】
- 第6回 個人と社会をつなぐ3 - デュルケム3 【アノミー的自殺】
- 第7回 個人と社会をつなぐ4 - ウェーバー1 【理解社会学】
- 第8回 個人と社会をつなぐ5 - ウェーバー2 【プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神】
- 第9回 機能主義とシンボリック相互作用論
- 第10回 現代の社会的解読1 - ファシズム1 【社会的性格とファシズム】
- 第11回 現代の社会的解読2 - ファシズム2 【デモクラシーと大衆社会】
- 第12回 現代の社会的解読3 - 社会的排除と貧困1 【社会的排除と生活困窮の現状】
- 第13回 現代の社会的解読4 - 社会的排除と貧困2 【生活困窮化のメカニズム】
- 第14回 現代の社会的解読5 - 社会的排除と貧困3 【社会的な支援のあり方】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を5つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「産業立地と集積」について講義を行う。人文地理学の領域に含まれる社会地理学、文化地理学、人口地理学、経済地理学、都市地理学などから主要なトピックを取り上げる。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人文地理学の基礎(1) 地理学の体系
- 第2回 人文地理学の基礎(2) 地理学の歴史、地域概念と重力モデル、環境決定論と環境可能論
- 第3回 人文地理学の基礎(3) 様々な距離、時間地理学、空間認識
- 第4回 社会・文化と地域(1) 言語と地域
- 第5回 社会・文化と地域(2) 町並み保存
- 第6回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第7回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第8回 都市構造と都市システム(1) 世界都市、オフィスの立地、大都市の構造と動態(東京)
- 第9回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造、大都市の構造と動態(大阪)
- 第10回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外、規制緩和と郊外商業地の拡大
- 第11回 都市構造と都市システム(4) 都市システム、広域中心都市、大都市の構造と動態(福岡)
- 第12回 産業立地と集積(1) チェーンストアの配送と立地
- 第13回 産業立地と集積(2) 産業集積、企業城下町
- 第14回 産業立地と集積(3) コンテンツ産業の集積
- 第15回 産業立地と集積(4) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門 改訂」(大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後は、配付された資料等をよく読んで、ノートとともに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外护保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年
平岡昭利編 『地図で読み解く日本の地域変貌』 海青社 2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1): ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2): ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) スペイン・フランス地誌
- 第7回 欧米地誌(6) イタリア・北欧地誌
- 第8回 欧米地誌(7) ベネルクス・スイス地誌
- 第9回 欧米地誌(8) アメリカ合衆国地誌
- 第10回 日本地誌(1) 近世城下町の変容: 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(2) 干拓地域の変容: 山口県防府市、県庁所在地の変容: 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(3) 軍事都市の変容: 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(4) 鉱業地域の変容: 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(5) 港湾都市の変容: 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(6) 工業都市の変容: 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
適宜、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 駒村圭吾編『プレステップ憲法 第2版』(弘文堂、2018年)
- 斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法』(弘文堂、2018年)
- 芦部信喜『憲法 第6版』(岩波書店、2015年)
- 長谷部恭男『憲法 第7版』(新世社、2018年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①-平和主義と「正しい」戦争
- 第4回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第5回 表現の自由とその限界①-表現の自由の保障根拠
- 第6回 表現の自由とその限界②-規制の根拠と手段の妥当性
- 第7回 自己決定権とは何か①-憲法上の根拠と内容
- 第8回 自己決定権とは何か②-生命の自己決定?
- 第9回 自己決定権とは何か③-安楽死・尊厳死法制化の是非
- 第10回 議院内閣制①-国会と内閣の関係
- 第11回 議院内閣制②-国会の制度と運営
- 第12回 議院内閣制③-国会と選挙制度
- 第13回 憲法と死刑制度①-日本国憲法と死刑制度
- 第14回 憲法と死刑制度②-立法政策上の諸課題
- 第15回 全体まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記参考書をはじめ、授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 立憲主義 基本的人権 統治機構

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が把握できるようにする。

教科書 /Textbooks

各回でレジメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨンおよび古代ギリシャの倫理(1) ソクラテス
- 第2回 古代ギリシャの倫理(2) プラトンの倫理思想【イデアと国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(3) アリストテレスの倫理思想【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想【普遍化と信仰義認】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスとフランチェスコの倫理思想【愛と高貴な貧しさ】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想【召命と信仰義認】
- 第7回 近代の倫理思想(1) デカルトの倫理思想【旅とコギト】
- 第9回 近代の倫理思想(2) ホッブズの倫理思想【リヴァイアタンと市民】
- 第8回 近代の倫理思想(3) スピノザの倫理思想【コナトゥスと倫理】
- 第10回 近代の倫理思想(4) カントの倫理思想【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(5) フィヒテの倫理思想【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(6) ヘーゲルの倫理思想【承認とコルポラツィオン】
- 第13回 近代の倫理思想(7) マルクスの倫理思想【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想(1) フランクフルト学とハーバマスの倫理思想【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 現代の倫理思想(2) フーコーの倫理思想【統治性と権力】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクシヨン・ペーパーを含む)40パーセント
期末テスト 60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で紹介した原典・参考文献のうち興味をもったものを選び、自分で読むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

適宜リアクシヨン・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問をして下さい。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）の基礎は、国連が定めた「SDGs」（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に随時提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。その他、ICTに関するニュースなどの世の中の動きを注視して情報収集することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

エンドユーザコンピューティング 【昼】

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

情報表現 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

英語I (英 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英 1 - A
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (英 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (英 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (英 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (国 1-A、英 1-A) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-A、英 1-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

特になし。
学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントを用いる。
(Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分の好きな仕事
- 3回 やり抜く力
- 4回 成功の秘訣
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい方(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境
- 9回 TOEIC演習(2)【文法問題】
- 10回 Internet of things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【長文問題】
- 12回 読解力
- 13回 仕事を創る
- 14回 英語とのつきあい方(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況 (小テストを含む)...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

英語II (国 1-B、英 1-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-B、英 1-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

Surprising Japan! 2 (松柏社) 1850円 (税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方の説明と諸注意
- 第2回 高級牛肉
- 第3回 ランドセル
- 第4回 七味
- 第5回 Tマーク
- 第6回 ハラン
- 第7回 5時のチャイム
- 第8回 指差呼称
- 第9回 海苔
- 第10回 マスク
- 第11回 賞味期限
- 第12回 血液型占い
- 第13回 蚊取り線香
- 第14回 おみそ汁のモヤモヤ
- 第15回 テトラポッド

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
定期試験 70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC TOEFLを受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

違った視点で日本の「文化」を見つめなおすとともに、英語の特徴について再認識してください。

キーワード /Keywords

Enjoy

英語II (国 1-C、英 1-C、D) 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-C、英 1-C、D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。

また、授業の一部にTOEIC（R）L&Rテストの演習などを取り込む場合があります。

The purpose of this course is to enhance students' communicative ability and skills.
The class is conducted both in English and Japanese.

Students are required to look up a dictionary before the class for any words or phrases in the textbook that they do not know or have forgotten.
They are also expected to work on exercises in the textbook before the class.

Active participation in the class is expected.

この授業の目的は、総合的な教科書および補助教材を用いて受講生のコミュニケーション能力とスキルを向上させることです。
この授業は英語および日本語で行われます。

受講生は教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味は授業前に必ず調べておいて下さい。また、教科書の練習問題も授業前に必ず取り組んでおいて下さい。

授業への積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

Gordenker, A. et al. 2017. Surprising Japan! 2 / 『ニッポンの不思議2』. Tokyo: Shohakusha. ¥1,998

Supplementary materials (to be distributed in the class)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced in the class. 授業中に適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Unit 1
2. Units 1 and 2
3. Units 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Unit 13
15. Unit 14

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in the class 授業への参加度 20%

Final examination 期末試験 80%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

英語II (国 1-C、英 1-C、D) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Before the class:

1. Look up a dictionary for any words or phrases in the textbook and supplementary material that you do not know or have forgotten.
教科書・補助教材で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味を調べておく。
2. Work on exercises in the textbook.
教科書・補助教材の練習問題に取り組んでおく。

After the class:

1. Review the reading material and grasp the content, vocabulary and grammar.
教科書・補助教材を復習し、内容、語彙、文法を把握する。
2. Review the exercises, focusing on the questions that you did not get right.
練習問題を復習し、特に間違えた問題を再確認する。

履修上の注意 /Remarks

No chatting allowed. 私語をしない。

No activities unrelated to the class allowed. 授業に関係ないことをしない。

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (英 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (英 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英 1 - B
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (英 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (英 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor: ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

Communicative English III aims to improve students' reading and writing ability in English for academic purposes. Students are expected to actively participate in all class activities and are responsible for a short research paper as well as for taking a midterm and final exam. During the course we will ask students to learn academic vocabulary in order to prepare for academic work in English during their course of study at this university.

教科書 /Textbooks

Pathways: Reading, Writing and Critical Thinking 3A: Split 3A Second Edition with Online Workbook Access Code (Cengage Learning) ISBN 978-1-337-62492-3 Becky, Mari Vargo, Laurie Blass et, al

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

We will give students access to a Quizlet account and provide study cards from which they should study 50 vocabulary words per week, which will include 45 words from Gardner and Davies' Academic Vocabulary List (AVL) with their English/Japanese translations, and 5 phrasal verbs (such as 'give up' or 'go away').

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction Class: Course outline and introductions.
- 2.Textbook Lessons 1A. "Social Relationships"
- 3.Textbook Lessons 1B. "Social Relationships"
- 4.Textbook Lessons 2A. "Science and Investigation"
- 5.Textbook Lessons 2B. "Science and Investigation"
- 6.Textbook Lessons 3A. "City Solutions"
- 7.Textbook Lessons 3B. "City Solutions"
8. Midterm Exam
- 9.Textbook Lessons 4A. "Danger Zones"
- 10.Textbook Lessons 4B. "Danger Zones"
- 11.Textbook Lessons 5A. "The Travel Business"
- 12.Textbook Lessons 5B. "The Travel Business"
- 13.Presentations about Paper Topics Group A
- 14.Presentations about Paper Topics Group B
- 15.Presentations about Paper Topics Group C

成績評価の方法 /Assessment Method

TOEIC Score (40%) + ※Class Activity (60%)
 ※As to the evaluation of class activity, refer to the following description.
 Paper/Presentation : (40%) Exams : (40%) Homework Activities : (10%) Quizzes : (10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for each lesson in advance by reading the assigned text beforehand. Students should work on weekly writing assignments for submission. Students should access the Quizlet application to review vocabulary weekly.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (国 1-A、英 1-A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-A、英 1-A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3rd Ed 2B by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602785

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 7 There are too many stores! (A)
- Week 3 Unit 7 There are too many stores! (B)
- Week 4 Unit 8 I like people who are smart. (A)
- Week 5 Unit 8 I like people who are smart. (B)
- Week 6 Unit 9 What were you doing? (A)
- Week 7 Unit 9 What were you doing? (B)
- Week 8 Review of Units 7-9
- Week 9 Unit 10 It must be an earthquake! (A)
- Week 10 Unit 10 It must be an earthquake! (B)
- Week 11 Unit 11 I used to sing. (A)
- Week 12 Unit 11 I used to sing. (B)
- Week 13 Unit 12 If you live downtown (A)
- Week 14 Unit 12 If you live downtown (B)
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- 15% Journal
- 20% Powerpoint Presentation
- 30% Final mini-test
- 15% Project work
- 20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a lined notebook size A4 or B5 for your weekly journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (国 1-B、英 1-B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-B、英 1-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments

教科書 /Textbooks

Pathways 2B - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Orientation
- 第2回 : Health & Nutrition 1
- 第3回 : Health & Nutrition 2
- 第4回 : Presentation 1
- 第5回 : Earth Science 1
- 第6回 : Earth Science 2
- 第7回 : Presentation 2
- 第8回 : Anthropology 1
- 第9回 : Anthropology 2
- 第10回 : Presentation 3
- 第11回 : Life Science 1
- 第12回 : Life Science 2
- 第13回 : Presentation 4
- 第14回 : Innovation 1
- 第15回 : Innovation 2

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation and homework assignments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意 /Remarks

Check the Moodle site for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Content-based language learning

英語Ⅳ (国 1-C、英 1-C、D) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1-C、英 1-C、D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Student Presentations - Summer Holidays
- 2 China, Beyond the Lost Horizon
- 3 Egypt, Damming the Nile
- 4 Africa, The Curse of Gold
- 5 USA, Trump's New America
- 6 Libya, The Gaddafi Years
- 7 Kenya, School of Olympic Dreams
- 8 Philippines, Living with Slums
- 9 Indonesia, Rainforest Warriors
- 1 0 Asia, The Spratly Islands
- 1 1 Japan, Sayonara Baby
- 1 2 New Zealand, Adrenalin Nation
- 1 3 Australia's Hidden Valley
- 1 4 European Union, Joining the Club
- 1 5 Student Presentations - Travel Plans

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み = 50% プレゼンテーション = 30% 学期末試験 = 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review all content after the class.

履修上の注意 /Remarks

Discussing hot topics.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck this year. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Politics; international relations; social studies; development; environment; presentation skills

政治; 国際関係; 社会科; 開発; 環境; プレゼンテーション能力

英語V (英 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

米国のプレゼンテーション素材 (TED TALKS) を利用し、興味を持って英語のリーディングとリスニングの能力を伸ばすことを目標とします。テキスト及びTED TALKSビデオ素材をもとに、事前、事後の学習が可能です。意欲のある学生は、関連するビデオや記事等に触れることで、さらに英語及びトピックの理解を深めることが期待できます。

教科書 /Textbooks

"21st Century Reading - Creative Thinking and Reading with TED TALKS" Level 1
National Geographic Learning / CENGAGE Learning
ISBN 978-1-305-26459-5 (¥2,840+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 Life Changes
- 第 3 回 Team Power
- 第 4 回 Ocean Wonders
- 第 5 回 What We Wear
- 第 6 回 Moments and Memories
- 第 7 回 Building Solutions
- 第 8 回 Roads to Fame
- 第 9 回 Face Off
- 第10回 Community Voices
- 第11回 Robots and Us
- 第12回 TBD
- 第13回 TBD
- 第14回 TBD
- 第15回 まとめ

(授業の進度により、修正する場合があります)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度 50%、課題の提出 25%、授業での発表 25%により評価します。
また、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：該当するリーディング素材及びビデオ素材に目を通しておくと、理解が深まります。
- 事後学習：該当するビデオ (TED TALKS) をフルに視聴したり、自ら関連するビデオや資料に接することにより、さらに理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に英語能力を伸ばしましょう。

キーワード /Keywords

Reading, Listening, Presentation, Discussion, English

英語V (英 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進む社会における英語によるコミュニケーション力を総合的に高めることを目指す。合わせて、日本の文化や技術を多面的に捉えるとともに、効果的に英語で発信する方法を考える機会とする。NHKの番組『Cool Japan』を題材にした教材を使用する。

教科書 /Textbooks

『発掘！かっこいいニッポン』津田晶子他著、成美堂、2019年。[2,500円+税]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 1: Long-Established Businesses
- 第3回 Unit 2: Uniforms
- 第4回 Unit 3: Volunteer Work
- 第5回 Unit 4: High-Tech Living (Automobiles)
- 第6回 Unit 5: Japanese Tableware
- 第7回 Unit 6: Homemakers of Japan
- 第8回 Unit 7: Seafood
- 第9回 Unit 8: Voice Actors
- 第10回 Unit 9: Japanized Foreign Dishes
- 第11回 Unit 10: Bags
- 第12回 Unit 11: Senior Citizens (Medical Checkups)
- 第13回 Unit 12: Money
- 第14回 Unit 13: Monkeys
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト、課題提出等) 50%、 期末試験 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられている。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から英語による新聞や雑誌に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

コミュニケーション力、批判的思考力、英語の多様性

英語V (英 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

講義内容は「異文化マネジメント」です。
国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に関連英文資料を輪読することで、必要な異文化マネジメントに関する基礎知識を提供し、ビジネスに関連する単語を習得してもらおう。
英語を学ぶ理由は個人々異なると思うが、この講義では「企業と英語」というテーマから実用的な英語について考えてもらう。その為にグローバルビジネスの是非についても論じる。あくまで英語はビジネス遂行の為にツールであることに注目する。講義では適宜テーマに沿って英文テキストやケース（英文の事例研究）を輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しませんが、複数のテキストより引用します。詳しくは開講時に指示します。
ケース配布資料
1. 多様な従業員から構成されるグローバル企業におけるマネジメント
2. 欧米型企業が中国へ初めて進出する際のマネジメント
3. 日本企業がアメリカ企業を併合した場合のマネジメント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.
ゴチャール. "地球市場時代の企業戦略" 日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	グローバル化の本質	日本企業、海外企業動向
第2回	-上記テーマについてケース討論	国際ビジネス外観
第3回	企業と英語	国際語としての英語
第4回	-上記テーマについての英文輪読	グローバルビジネス
第5回	異文化理解(1)	コミュニケーションの目的
第6回	異文化理解(2)	コミュニケーションのスタイルと信頼性の評価と強化
第7回	異文化理解(3)	聞き手の選択と動機付け
第8回	異文化理解(4)	メッセージ戦略の立案
第9回	異文化理解(5)	言語障壁の克服、適切な非言語行動
第10回	中間試験	内容理解確認テスト
第11回	カントリープレゼン	異国で働く場合の留意点
第12回	国際買収、合併ケース輪読	課題討論
第13回	一上記についてのプレゼン	
第14回	中国でのビジネスケース輪読	課題討論
第15回	一上記についてのプレゼン	

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度(20%)、中間試験(40%)、プレゼンテーション(40%)

「基盤教育センターの科目であり、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義内容は全て学習支援システムmoodleに配置しますので予習、復習にご活用ください。特に講義内容の要旨を事前に掲載しますのでクラスに参加する前に一読するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義中に適宜質問や意見等を求めます。事例研究やディスカッションも頻繁に行います。

学生には、「ビジネス英語/国際経営論基礎」「ビジネス英語研究/国際経営論応用」を併せて履修するを強く勧めます。これら3科目を総合して履修することで国際ビジネスに関わる概念や用語に精通することになることが期待できます。

授業時間には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味がただしいかをゼミ全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。

「基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。」

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身企業出身者 (大手総合商社) ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。

キーワード /Keywords

boundary spanner, high power distance, uncertainty avoidance, high/low context culture, individualism/collectivism, internal/external control, foreign direct investment (FDI), State capitalism,

英語V (英 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 英 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

『Solve the Mystery 3 and Improve Your English Skills 3; : ミステリーを読んで英語のスキルアップ 3』吉村俊子、時岡ゆかり他編著 英宝社 2200円 + 税 ISBN: 978-4-269-02151-8

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 4』国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3』国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 2』国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1』国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方、TOEIC Listening 習熟度確認
- 2回 Unit 1 The Case of the Hitchhiker (予習60分、復習60分)
- 3回 Unit 2 The Case of the Looklut (予習60分、復習60分)
- 4回 Unit 3 The Case of the Spilledd Brandy (予習60分、復習60分)
- 5回 Unit 4 The Cadse of the Locked Wine Cellar (予習60分、復習60分)
- 6回 Unit 5 The Case of the Silk Mantle (予習60分、復習60分)
- 7回 Unit 6 The Case of the Home Bakery (予習60分、復習60分)
- 8回 復習 TOEIC 習熟度確認 (予習60分、復習60分)
- 9回 Unit 7 The Case of the Cave Paintings (予習60分、復習60分)
- 10回 Unit 8 The Case of Lakeside Murder (予習60分、復習60分)
- 11回 Unit 9 The Case of the Hero Dog (予習60分、復習60分)
- 12回 Unit 10 The Case of the Million-to-One Shot (予習60分、復習60分)
- 13回 Unit 11 The Case of the Missing Button (予習60分、復習60分)
- 14回 Unit 12 The Case of the Gold Brick (予習60分、復習60分)
- 15回 復習 (復習60分)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、習熟テスト 20%、小テスト 20%、単語テスト 10%、授業への参加度 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習... (予習) 課題は必ず事前に学習して授業に臨んでください。
- 事後学習... (復習) 授業で指定された箇所を必ず学習してください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (英 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

“Challenges of Global Enterprises” (著者) 塩見佳代子他共著 金星堂 12,268
ISBN978-4-7647-4082-2
単語等はプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 1 Zara's Recipe for Success: More Data, Fewer Bosses、小テスト : Day 1
- 3回 2 Airbnb's Challenge and New Direction、小テスト : Day 2
- 4回 3 Augmented Reality Ecosystem in Facebook、小テスト : Day 3
- 5回 4 Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One、小テスト : Day 4
- 6回 5 At Toyota, the Automation Is Humane-Powered、小テスト : Day 5
- 7回 6 How Starbucks Became a Successful Worldwide Brand、小テスト : Day 6
- 8回 TOEIC練習問題、小テスト : Day 7
- 9回 TOEIC練習問題、小テスト : Day 8
- 10回 7 McDonald's Modern Marketing Methods、小テスト : Day 9
- 11回 8 How TED Evolves and Where It Wants to Go Next、小テスト : Day 10
- 12回 9 Why Amazon Is the World's Most Innovative Company、まとめ小テスト : Day1~10
- 13回 10 Sony Comes Back from the Brink
- 14回 11 IKEA's New Business Move for Millennials
- 15回 12 How Google Has Changed the World、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。期末試験 : 80%、日常の授業への取り組み (小テスト、宿題) : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回授業のreadingは必ず読んでおくこと。また、配布したプリントを覚えてくること。(学習時間の目安は、60分)

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (英 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

Educational Testing Service、公式TOEIC Listening & Reading 問題集 4、国際ビジネスコミュニケーション協会、3,024円、ISBN: 9784906033546

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急銀のフレーズ、朝日新聞出版、961円、ISBN:9784023316843
小石裕子、TOEIC TEST 英単語出るところだけ！、株式会社アルク、1,944円、ISBN: 9784757428430
TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急金のフレーズ、朝日新聞出版、961円、ISBN: 9784023315686

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction
Week 2: Part 1, Part 2 (1)
Week 3: Part 2 (2)
Week 4: Part 5 (1)
Week 5: Part 5 (2)
Week 6: Part 6
Week 7: Part 7 (1)
Week 8: Part 7 (2)
Week 9: Part 3 (1)
Week 10: Part 3 (2)
Week 11: Part 4 (1)
Week 12: Part 4 (2)
Week 13: Part 4 (3)
Week 14: Listening Section Review
Week 15: Reading Section Review

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (50%) 及び期末試験 (50%) に基づいて行う。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、授業前に必ず解答し、学習してくる。この予習を行うことを前提として授業を進めることを了解した上で、授業に臨むこと。教科書の音声は無料でダウンロードすることができますので、必ず予習・復習に活用してください。予習・復習の際、教科書に出てきた知らない単語・フレーズは、日本語の意味を辞書で調べて、単語・フレーズ・日本語の意味を語彙ノートに書き溜めていくこと。各授業の最初に語彙ノートを見せてもらいます。空き時間に語彙ノートを使って学習ができます。語彙テストに際しては、計画的に学習すること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

必ず辞書を授業に持参すること。発音を確認するため電子辞書が望ましい。携帯電話を辞書として使用することはできません。

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書 (病院の領収書など) を見せてください。遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。30分以上遅刻した場合は、欠席とみなします。公共交通機関が遅れて遅刻した場合は、必ず遅延証明書を貰ってきて見せてください。

英語VI (英 2 - B) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (英 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

ビジネスコミュニケーションに焦点をあてて、英語によるコミュニケーション力を総合的に伸長することを目指す。ビジネスで実際に遭遇することが多い場面を選んで編纂された教材を使用する。

教科書 /Textbooks

Go Global: English for Global Business
Garry Pearson, Graham Skerritt, Hiroshi Yoshizuka 著, 成美堂, 2019年. [2,400円+税]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション, Unit 1: Introducing Yourself
- 第2回 Unit 2: Introducing Companies
- 第3回 Unit 3: Explaining Your Role
- 第4回 Unit 4: Introducing Products
- 第5回 Unit 5: Checking Information
- 第6回 Unit 6: Giving Your Opinion
- 第7回 Unit 7: Making Requests
- 第8回 Unit 8: Asking Permission
- 第9回 Unit 9: Making Invitations
- 第10回 Unit 10: Making Appointments
- 第11回 Unit 11: Cancelling and Rescheduling
- 第12回 Unit 12: Describing Locations
- 第13回 Unit 13: Looking after a Visitor
- 第14回 Unit 14: Making a Phone Call
- 第15回 Unit 15: Taking Messages

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、課題提出等) 50%、 期末試験 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられている。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から英語による新聞や雑誌に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

ビジネスコミュニケーション

英語VI (英 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業ではTOEICに基づくテキストを使用しますが、単に問題を解くだけに留まらず、その中から日常会話やビジネス会話などでよく使われる語句や言い回しを拾い出して用法を覚えたり、文法項目の再確認を行うなどして、自分自身の英語力の全般的upにつながっていくような内容を提供したいと思います。また、TOEICを受験する際に身に付けておくべき知識なども紹介していきます。なお、原則として、1つのunitを1.5回の授業ペースで進めていく予定です。

教科書 /Textbooks

朝日出版社 「STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST : Level 3」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業および成績評価等に関する説明、Unit 1 Eating Out
- 第2回 Unit 1の続き 時制の考え方、Unit 2 Travel
- 第3回 Unit 2の続き 動詞の選択
- 第4回 Unit 4 Meeting
- 第5回 Unit 4の続き 分詞の使い方、Unit 5 Personnel
- 第6回 Unit 5の続き 不定詞と動名詞の使い分け
- 第7回 Unit 7 Advertisement
- 第8回 Unit 7の続き 仮定法の用法、Unit 9 Office Work
- 第9回 Unit 9の続き 長いpassageの読み解き方
- 第10回 Unit 10 Business
- 第11回 Unit 10の続き 数量詞の扱い、Unit 11 Traffic
- 第12回 Unit 11の続き 接続詞の使い分け
- 第13回 Unit 12 Finance and Banking
- 第14回 Unit 12の続き 前置詞の用法、Unit 13 Media
- 第15回 Unit 13の続き メディア用語、今学期のまとめ

なお、受講者の学力等に応じて、予定内容を適宜変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%、日常の授業への取り組み(小テスト等含む) 20%
最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の学習予定箇所の語句等を必ず確認しておいてください。また、板書にて説明した内容をきちんと復習し、自分が間違った問題を再び解き直すなどして、自身の英語力upにつながるよう、努力してください。

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書(紙または電子)を持参すること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められません。また、基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分自身の「my goal score」を設定し、スケジュールを考えて自己学習を進めて行ってください。

キーワード /Keywords

英語VII (英 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments

教科書 /Textbooks

Pathways 3A - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Orientation
- 第2回 : Science of Shopping 1
- 第3回 : Science of Shopping 2
- 第4回 : Presentation 1
- 第5回 : Mother Nature 1
- 第6回 : Mother Nature 2
- 第7回 : Presentation 2
- 第8回 : Migration 1
- 第9回 : Migration 2
- 第10回 : Presentation 3
- 第11回 : Earth Science 1
- 第12回 : Earth Science 2
- 第13回 : Presentation 4
- 第14回 : Cooperative Business 1
- 第15回 : Cooperative Business 2

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation and homework assignments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意 /Remarks

Check the Moodle site for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Content-based language learning

英語VII (英 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase and Christien Lee / Pathways 3A Second Edition
National Geographic Learning / ISBN: 978-1-337-56259-1 / 2,970 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will also be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Course Introduction: Meeting People
- Week 2: Unit 2: Mother Nature – Cycle of Life
- Week 3: Speaking Skills: Cloning an animal from an adult cell
- Week 4: Listening and Video Activities – Turtles Under Threat
- Week 5: Group Discussion
- Week 6: Presentation Preparation
- Week 7: Presentation
- Week 8: Unit 3: On the Move – Human Migration
- Week 9: Speaking Skills: A Lecture About Migration
- Week 10: Listening and Video Activities – What Ellis Island Means Today
- Week 11: Group Discussion
- Week 12: Presentation Preparation
- Week 13: Presentation
- Week 14: Unit 5: Making a Living, Making a Difference
- Week 15: Speaking Skills: Summarizing

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking and Quizzes: 60 percent / Final Examination 40 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (英 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 英 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course uses high interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. the underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3rd edition 3A Wilson and Healy; OUP

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

-Please use a dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, schedule, course requirements for the students, guidance for attendance, being late, absent, and end-of-term exam. Students will do a short self-introduction in pairs.

Week 2: Unit 1: Hobbies. 'I've been running'. Homework set.

Week 3: Check homework. Speaking task p9. Personal profiles p84,96. At the back of the book p1-5

Week 4: Unit 2: Entertainment programs. 'I wonder what it's about'. Homework set.

Week 5: Check homework. Speaking task p15. What's on Channel 2? P85, 97. At the back of the book p6-10.

Week 6: Unit 3: Art Styles. 'It was painted by Banksy'. Homework set.

Week 7: Check homework. Speaking task p21. Amazing art facts, p86, 98. At the back of the book, p11-15.

Week 8: Review of units 1-3. (p16-19) Extra speaking tasks given. At the back of the book, p16-19.

Week 9: Unit 4: Personality adjectives. 'Who's your best friend?' Homework set.

Week 10: Check homework. Speaking task p29. She's the one...p87, 99. At the back of the book, p20-24.

Week 11: Unit 5: Technology. 'Got to have it!' Homework set.

Week 12: Check homework. Speaking task p35. Product comparison p88,100. At the back of the book, p25-29.

Week 13: Unit 6: Adjectives and adverbs. 'He'd never been abroad'. Homework set.

Week 14: Check homework. Speaking task p41. Before they were 20, p89, 101. At the back of the book, p30-34.

Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

50% exam and 20% peer journal and participation 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to write a weekly peer journal about what they have done over the last week and in the class exchange it with their partner.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (英 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英 2 - D
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Summit 1A J. Saslow & A. Ascher. Pearson. ISBN 9780134498874

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and Unit 1 Outlook and Behavior (A)
- Week 2 Unit 1 Outlook and Behavior (B)
- Week 3 Unit 1 Outlook and Behavior (C)
- Week 4 Unit 2 Music and Other Arts (A)
- Week 5 Unit 2 Music and Other Arts (B)
- Week 6 Unit 2 Music and Other Arts (C)
- Week 7 Unit 3 Money, Finance, and You (A)
- Week 8 Unit 3 Money, Finance, and You (B)
- Week 9 Unit 3 Money, Finance, and You (C)
- Week 10 Unit 4 Clothing and Appearance (A)
- Week 11 Unit 4 Clothing and Appearance (B)
- Week 12 Unit 4 Clothing and Appearance (C)
- Week 13 Unit 5 Communities (A)
- Week 14 Unit 5 Communities (B)
- Week 15 Review of Text materials 2

成績評価の方法 /Assessment Method

- 15% Journal
- 15% Project work
- 20% Powerpoint Presentation
- 20% Class participation
- 30% Final mini-test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a lined notebook for your weekly journal. It should be A4 or B5 size

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語VIII (英 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase and Christien Lee / Pathways 3B Second Edition
National Geographic Learning / ISBN: 978-1-337-56260-7 / 2,970 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will also be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction: Meeting People
Week 2: Unit 7: Inspired to Protect
Week 3: Speaking Skills: Considering Other Views
Week 4: Listening and Video Activities
Week 5: Group Discussion
Week 6: Presentation Preparation
Week 7: Presentation
Week 8: Unit 9: Uncovering the Past
Week 9: Speaking Skills: Evaluating and Reflecting
Week 10: Listening and Video Activities
Week 11: Group Discussion
Week 12: Presentation Preparation
Week 13: Presentation
Week 14: Unit 10: Emotions and Personality
Week 15: Speaking Skills: Summarizing

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking and Quizzes: 60 percent / Final Examination 40 percent.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (英 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

Students have the opportunity to develop the four skills of listening, writing, reading and communicating all in one class. Each class is highly focused and goal orientated. Students will be able to focus on the final activity, by presenting and practising the language required. Then inviting the student to perform in an activity at the end of the class. The students will also have the opportunity to express themselves through a peer journal with a partner out of class.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3rd edition 3B Wilson and Reily; OUP

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good English and Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, schedule, course requirements for the students, guidance for attendance, being late, absent, and end-of-term exam. Students will do a short self-introduction in pairs.

Week 2: Unit 7: Physical appearance. 'Time for a new look!' Homework set.

Week 3: Check homework. Speaking task p49. Before and after p90,102. At the back of the book, p39-43.

Week 4: Unit 8. Problems and concerns. 'My life would be great!' Homework set.

Week 5: Check homework. Speaking task p55. What would he do? P91,103. At the back of the book, p44-48.

Week 6: Unit 9. Behavior and emotion adjectives. 'What would you have done?' Homework set.

Week 7: Check homework. Speaking task p61. My biggest regret, p92, 104. At the back of the book, p49-53.

Week 8: Review of units 7-9. (p62-63). At the back of the book, p54-57.

Week 9: Unit 10. Mysterious phenomena. 'Anything's possible'. Homework set.

Week 10: Check homework. Speaking task p69. Mysterious places p93, 105. At the back of the book, p58-62.

Week 11: Unit 11. Discoveries and inventions. 'What would have happened?' Homework set.

Week 12: Check homework. Speaking task p75. Who invented it? P94, 106. At the back of the book, 63-67.

Week 13: Unit 12. The news. 'He said he was a movie star!' Homework set.

Week 14: Check homework. Speaking task p81. What did she say? P95, 107. At the back of the book, 68-72.

Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

50% exam 20% peer journal and 30% participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英 2 - C
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Summit 1B Saslow & A. Ascher. Pearson. ISBN 9780134498898

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction and Unit 6 Animals (A)
Week 2 Unit 6 Animals (B)
Week 3 Unit 6 Animals (C)
Week 4 Unit 7 Advertising and Consumers (A)
Week 5 Unit 7 Advertising and Consumers (B)
Week 6 Unit 7 Advertising and Consumers (C)
Week 7 Unit 8 Family Trends (A)
Week 8 Unit 8 Family Trends (B)
Week 9 Unit 8 Family Trends (C)
Week 10 Unit 9 Facts, Theories, and Hoaxes (A)
Week 11 Unit 9 Facts, Theories, and Hoaxes (B)
Week 12 Unit 9 Facts, Theories, and Hoaxes (C)
Week 13 Unit 10 Your Free Time (A)
Week 14 Unit 10 Your Free Time (B)
Week 15 Review of Text materials 2

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a lined notebook size A4 or B5 for your weekly journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語VIII (英 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Pathways 3B: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase & Lee, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56260-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Introductions
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 6回 Environmental Problem Presentation Preparation
- 7回 Environmental Problem Presentations
- 8回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 9回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 10回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 11回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 12回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 13回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 14回 Personality and Emotions Research Preparation
- 15回 Personality and Emotions Research Presentations and Test Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 25%, Homework 10%, Presentations 20%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (英中国比人 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

英語の読解力の向上だけではなく、教科書で扱われているトピックに対する理解を深めることを目標とする。毎回、教科書の中からUnitを二つ選び、それぞれの担当者に、内容をレポートしてもらいながら授業を進めていく。他の受講者は、十分に予習をし、積極的にディスカッションに参加することが求められる。また、授業で扱ったテーマに関して、受講生にプレゼンテーションをしてもらう。

教科書 /Textbooks

最新科学の知見 Science Updates 成美堂 978-4-7919-4783-6 2052円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教科書のUnit 二つ分
- 3回 教科書のUnit 二つ分
- 4回 教科書のUnit 二つ分
- 5回 教科書のUnit 二つ分
- 6回 教科書のUnit 二つ分
- 7回 教科書のUnit 二つ分
- 8回 教科書のUnit 二つ分
- 9回 教科書のUnit 二つ分
- 10回 教科書のUnit 二つ分
- 11回 教科書のUnit 二つ分
- 12回 教科書のUnit 二つ分
- 13回 教科書のUnit 二つ分
- 14回 プレゼンテーション
- 15回 プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...15% 教科書の課題...30% レポート...40% プレゼンテーション...15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (英中国比人 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

言語に関するエッセイを読みながら、英語の読解力の向上だけでなく、言語そのものに対する理解を深めることを目標とする。毎回、一人ないし、二人の担当者が教科書の内容をレポートしながら授業を進めていく。他の受講者は、十分に予習をし、積極的にディスカッションに参加することが求められる。また、授業で扱ったテーマに関して、受講生にプレゼンテーションをしてもらう予定である。

教科書 /Textbooks

クリスタルのことばの世界 成美堂 978-4-7919-3096-8

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 プレゼンテーション
- 15回 プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...15% 教科書の課題...30% レポート...40% プレゼンテーション...15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (英中国比人 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国比人 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

World Class 2A N. Douglas & J.R. Morgan ISBN 9781285419893

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 1 Language and Life (A)
- Week 3 Unit 1 Language and Life (B)
- Week 4 Unit 2 Money Talks (A)
- Week 5 Unit 2 Money Talks (B)
- Week 6 Unit 3 Bright Lights, Big Cities (A)
- Week 7 Unit 3 Bright Lights, Big Cities (B)
- Week 8 Review of Units 1-3
- Week 9 Unit 4 You've got Personality (A)
- Week 10 Unit 4 You've got Personality (B)
- Week 11 Unit 5 Mystery Solved (A)
- Week 12 Unit 5 Mystery Solved (B)
- Week 13 Unit 6 New Horizons (A)
- Week 14 Unit 6 New Horizons (B)
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- 15% Journal
- 20% Powerpoint Presentation
- 30% Final mini-test
- 15% Project work
- 20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a lined notebook size A4 or B5 for your weekly journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語XII (英中国比人 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

Active learning式の英語プレゼンクラスです。英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力とピアレビュー能力、更に作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Love-Introductions
- 第3回 Love-Building Skills (Group work)
- 第4回 Love-Essay Composition (Group work)
- 第5回 Presentations and Peer Assessment
- 第6回 Upgraded Presentations and Peer Assessment
- 第7回 Justice-Introduction
- 第8回 Justice-Building Skills (Group work)
- 第9回 Justice-Essay Composition (Group work)
- 第10回 Presentations and Peer Assessment
- 第11回 Upgraded Presentations and Peer Assessment
- 第12回 About "Active Learning"-Introduction
- 第13回 About "Active Learning" (Group work)
- 第14回 Presentations and Peer Assessment
- 第15回 Discussion and test preparations

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Active Learning式で学ぶプレゼン作りとプレゼン発表の授業ため、授業外 (教室外) でのGroup work又は一人での下準備がほぼ毎回必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。Group workを行いながら、お互いにアイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

English Presentations, Active Learning, Group Work, Peer Assessment, Solo Assessment

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 1・ 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 3・ 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 1・ 1 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくださいか【要】【“把”構文】など
- 8回第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 3・ 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくださいか【要】【“把”構文】など
- 8回第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 1・ 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 必ず出席すること。
- 必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
- 電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 肖 婷婷 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 3・ 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 必ず出席すること。
- 必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
- 電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 1・ 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 肖 婷婷 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 3・ 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 肖 婷婷 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 肖 婷婷 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひとつと終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 授業説明、基礎復習
 - 第2回 第1課文法、聴解練習
 - 第3回 第1課読む、会話、作文練習
 - 第4回 第2課文法、聴解練習
 - 第5回 第2課読む、会話、作文練習
 - 第6回 第3課文法、聴解練習
 - 第7回 第3課読む、会話、作文練習
 - 第8回 場面の体験1
 - 第9回 第4課文法、聴解練習
 - 第10回 第4課読む、会話、作文練習
 - 第11回 第5課文法、聴解練習
 - 第12回 第5課読む、会話、作文練習
 - 第13回 第6課文法、聴解練習
 - 第14回 第6課読む、会話、作文練習
 - 第15回 場面の体験2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表30% 定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。
就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、 翻訳力 作文力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。

教科書 /Textbooks

前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
- 第1回 第7課文法、聴解練習
 - 第2回 第7課読む、会話、作文練習
 - 第3回 第8課文法、聴解練習
 - 第4回 第8課読む、会話、作文練習
 - 第5回 場面の体験1
 - 第6回 第9課文法、聴解練習
 - 第7回 第9課読む、会話、作文練習
 - 第8回 第10課文法、聴解練習
 - 第9回 第10課読む、会話、作文練習
 - 第10回 場面の体験2
 - 第11回 第11課文法、聴解練習
 - 第12回 第11課読む、会話、作文練習
 - 第13回 第12課文法、聴解練習
 - 第14回 第12課読む、会話、作文練習
 - 第15回 場面の体験3

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表30% 定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、考え力、ビジネス文章

上級中国語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。

グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話を向上させる。

教科書 /Textbooks

プリント配布 (『中国語口語速成 基礎編』第二版 馬箭飛 主編 李徳君、成文 編著 北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『精彩漢語 遊走中国』(日本語版)中国・高等教育出版社
『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 第1課 「认识一下」新出単語 本文会話1 2
- 2回目 第2課 「吃点儿什么」新出単語 本文会話1 2
- 3回目 第1課、第2課会話練習
- 4回目 第3課「在校园里」新出単語 注釈 本文会話1
- 5回目 第3課「在校园里」注釈 本文会話2
- 6回目 第4課「住的麻烦」新出単語 注釈 本文会話1
- 7回目 第4課「住的麻烦」注釈 本文会話2
- 8回目 中間復習
- 9回目 第5課「做客」新出単語 注釈 本文会話1
- 10回目 第5課「做客」注釈 本文会話2
- 11回目 第6課「旅行计划」新出単語 注釈 本文会話1
- 12回目 第6課「旅行计划」注釈 本文会話2
- 13回目 第7課「生活服务」新出単語 注釈 本文会話1
- 14回目 第7課「生活服务」注釈 本文会話2
- 15回目 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価
平常点60% (授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 コミュニケーション 会話 リスニング

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。

グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話力を向上させる。

教科書 /Textbooks

プリント配布 (『中国語口語速成 基礎編』第二版 馬箭飛 主編 李徳君、成文 編著北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『精彩漢語 遊走中国』(日本語版)中国・高等教育出版社
『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 一回目 第11課「购物」新出単語 注釈 本文会話1
- 二回目 第11課「购物」注釈 本文会話2
- 三回目 第12課「谈论朋友」新出単語 注釈 本文会話1
- 四回目 第12課「谈论朋友」注釈 本文会話2
- 五回目 第14課「体育健身」新出単語 注釈 本文会話1
- 六回目 第14課「体育健身」注釈 本文会話2
- 七回目 中間復習
- 八回目 第15課「各有所爱」新出単語 注釈 本文会話1
- 九回目 第15課「各有所爱」注釈 本文会話2
- 十回目 第16課「理想的职业」新出単語 注釈 本文会話1
- 十一回目 第16課「理想的职业」注釈 本文会話2
- 十二回目 第17課「业余爱好」新出単語 注釈 本文会話1
- 十三回目 第17課「业余爱好」注釈 本文会話2
- 十四回目 第18課「中国家庭」新出単語 注釈 本文会話1
- 十五回目 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点60% (授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 コミュニケーション 会話 リスニング

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第11課 指定詞の丁寧形【～です】
- 13回 第12課 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 第11課と第12課の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法・意味を確実に理解し、暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅲと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

初級段階に必要な文法や基本句型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 第13課 どこで習っていますか？【かしまった丁寧形①】
- 4回 第14課 暑くありませんか？【かしまった丁寧形の否定表現】
- 5回 フリートーキング
- 6回 数詞のまとめ
- 7回 第15課 誕生日はいつですか？【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 8回 第16課 どこに住んでいますか？【指定詞以外の打ち解けた丁寧形】
- 9回 復習とフリートーキング
- 10回 第17課 先生いらっしゃいますか？【特殊な尊敬語】
- 11回 第18課 何をお探ですか？【打ち解けた丁寧形の尊敬表現】
- 12回 第19課 何をしましたか？【過去形】
- 13回 復習とフリートーキング
- 14回 何を召し上がりますか？【好みを言ってみよう】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法・意味を確実に理解し、暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅳと並行して受講するほうが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『最新チャレンジ! 韓国語』、白水社 (2017年3月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50%(小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのが復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

初級文法に基づいた会話表現を中心に、聞き取り・発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。習った表現を活用して、自分自身の身の回りのことなど、基礎レベルでの会話をなめらかに表現できるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『最新チャレンジ! 韓国語』、白水社 (2017年3月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 3回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 4回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 5回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 6回 何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
- 7回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 8回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 9回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 10回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 11回 週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
- 12回 週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
- 13回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 14回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習: 学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのが復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

韓国語の基礎的な文法・語彙・表現力などをさらに深め、初級文法の完成を目指す。テキストの他、応用作文の練習を多く行い、簡単な手紙、日記などの文章が書けるようになること、また同程度の読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判) 2,400円 (税抜き)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語I・II』の復習
- 第3回目 第1課 フランスから来ました【文法、単語】
- 第4回目 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 第5回目 第2課 家族は何名様ですか【文法、単語】
- 第6回目 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 第7回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【文法、単語】
- 第8回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
- 第11回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 第12回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
- 第13回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などは調べること。
また、授業終了後は復習や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。
朝鮮語Ⅶと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判) 2,400円 (税抜き)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V』の復習
- 第3回目 第6課 どのように行けばいいですか【文法、単語】
- 第4回目 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 第5回目 第7課 写真を添付しますよ【文法、単語】
- 第6回目 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
- 第7回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
- 第8回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
- 第11回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 第12回目 第10課 何にも聞いていませんが【文法、単語】
- 第13回目 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、次回までに復習や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。

朝鮮語VIIと並行して受講するほうが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事などを報告してもらい、自然な日常会話に慣れるよう心がける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語 改訂版』、白水社 (2017年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 7回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 8回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 14回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習: 学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事を報告してもらい、自然な会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるように訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語 改訂版』、白水社 (2017年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 ファンの集いへ行ってみてください。【感想を言う】
- 3回 ファンの集いへ行ってみてください。【感想を言う】
- 4回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 5回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 6回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 7回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 8回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 9回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 10回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 11回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 12回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 13回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 14回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので、必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻、私語、無断欠席などで注意さらた場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V/VI』の復習
- 第3回目 学校生活【スキットを読んでみよう】
- 第4回目 学校生活【文法、練習問題】
- 第5回目 アルバイト【スキットを読んでみよう】
- 第6回目 アルバイト【文法、練習問題】
- 第7回目 私の一日【スキットを読んでみよう】
- 第8回目 私の一日【文法、練習問題】
- 第9回目 プレゼント【スキットを読んでみよう】
- 第10回目 プレゼント【文法、練習問題】
- 第11回目 風邪【スキットを読んでみよう】
- 第12回目 風邪【文法、練習問題】
- 第13回目 休日【スキットを読んでみよう】
- 第14回目 休日約束【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 前期の復習
- 第3回目 夏休み【スキットを読んでもみよう】
- 第4回目 夏休み【文法、練習問題】
- 第5回目 趣味【スキットを読んでもみよう】
- 第6回目 趣味【文法、練習問題】
- 第7回目 大学祭【スキットを読んでもみよう】
- 第8回目 大学祭【文法、練習問題】
- 第9回目 仕事【スキットを読んでもみよう】
- 第10回目 仕事【文法、練習問題】
- 第11回目 日記【スキットを読んでもみよう】
- 第12回目 日記【文法、練習問題】
- 第13回目 外国語の勉強【スキットを読んでもみよう】
- 第14回目 外国語の勉強【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 予習復習状況...20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意 /Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、スタート時期に欠席するのは好ましくない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 予習復習状況 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習 60分、復習 60分です。)

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

英中国済営比人律
政 1年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		○	○	○							

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習 60分、復習 60分です。)

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、書き言葉に特徴的な複文（関係代名詞、関係副詞、分詞構文）の「文法・語法」学習、動詞の体の用法・派生、運動の動詞など、より複雑な文法の学習を行う。到達目標は、文章語の読解力を養うこと。

教科書 /Textbooks

学習用プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○ブリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 定動詞・不定動詞(1)、完了体・不完了体
- 2回 関係代名詞(1)、形容詞・副詞の比較級と最上級
- 3回 個数詞と名詞句の結合、年齢表現、値段表現
- 4回 時間表現、不定使用法、不規則変化動詞
- 5回 不定人称文、仮定法(1)、複文(1)
- 6回 移動動詞の派生、曜日表現
- 7回 関係副詞、関係代名詞(2)、勧誘法表現、年月日表現
- 8回 相互代名詞、述語生格、仮定法(2)、普遍人称文
- 9回 無人称動詞、定動詞・不定動詞(2)、再帰所有代名詞、「春の祝日について」
- 10回 副動詞、形動詞現在
- 11回 完了動詞・不完了動詞の派生、祝辞表現
- 12回 時刻表現、概数、姓の格変化
- 13回 複文(2)、存在状態を表す動詞と動作動詞(「横たわっている」と「横になる・横たわせる」)
- 14回 形動詞過去、間接命令法
- 15回 定代名詞、特殊変化動詞、「呼格について」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・課題・学習状況 ... 40%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には、テキストの読み、練習問題の課題を課すので準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ロシア語の参考書、学習教材は図書館に相当点数(数十冊以上)あるので利用してください。

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

ロシア文化領域のテキストの読解、および会話テキストを読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。到達目標は、書き言葉の文章読解力を向上させること、およびノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題	ロシアのことわざ「自己抑制について」
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題	ロシアの白樺
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題	ロシア人メンタリティ特徴
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題	新居祝い
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題	民族言語教育について
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題	異民族間婚姻
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題	ペテルブルグへの旅
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題	パブロフ「若者への書簡」
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題	若いジャーナリストとの出会い
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題	「花束」
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題	「イワン・ペトロ-ビッチとの対話」
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題	チーホフ短編「別荘で」
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題	春の洪水
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題	ロシア人の名前
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題	シベリアの蒸し風呂

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 50%、授業での発表 50%
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前に準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

英中国済営比人律
政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		○	○	○							

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5課の復習
- 2回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 3回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 4回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 5回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 6回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 7回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 8回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 9回 ビデオ学習② 会話練習
- 10回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 11回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 12回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 13回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 14回 ビデオ学習④ 会話練習、作文【Я И СПОРТ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 平常の学習状況(小テスト含む)...10% 宿題...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

英中国済営比人律
政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		○	○	○							

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】	2回 第9課② 【買い物】、【値段】
3回 第9課③ 会話練習	
4回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】	
5回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】	
6回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】	
7回 第10課①【モスクワの町】	
8回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】	
9回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】	
10回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】	
11回 読み物①	12回 読み物②
13回 読み物③	
14回 練習	
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 平常の学習状況(小テスト含む)...10% 宿題...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】(5級対応)
- 2回 自己紹介。【動詞の現在人称変化】
- 3回 ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
- 4回 その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
- 5回 その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
- 6回 フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】(4級対応)
- 7回 その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
- 8回 ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
- 9回 私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
- 10回 その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
- 11回 私達は今日、ケンとその学食に行きます。【3・4格支配の前置詞】
- 12回 彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
- 13回 私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
- 14回 私は明日、ドイツ語を学ぼうつもりです。【助動詞】
- 15回 彼は週末に何をしようか。【未来形】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】(3級対応)
- 2回 私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
- 3回 君達は何をしましたか。【完了形】
- 4回 私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
- 5回 アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
- 6回 私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
- 7回 ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
- 8回 彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
- 9回 フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
- 10回 もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょうに。【接続法第2式】
- 11回 私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
- 12回 その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
- 13回 あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
- 14回 それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
- 15回 彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 バン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律 政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫びて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊! 1』 (藤田裕二著 朝日出版社 ¥2400+税)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。
以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 etre の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊! 1』 (藤田裕二著 朝日出版社 ¥2400+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。
以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞、数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属のCDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

初歩的な文法を学び、簡単な日常会話の練習とそれに関する文章を読むことによって知識を定着させます。

教科書 /Textbooks

『パリ・ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』藤田裕二著 (朝日出版社 2016年 2500円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 発音の仕方
- 2回目 綴り字の読み方 (1課終了)
- 3回目 主語人称代名詞
- 4回目 国籍を表す形容詞 (2課終了)
- 5回目 名詞と不定冠詞
- 6回目 名詞と形容詞 (3課終了)
- 7回目 第1群規則動詞の活用
- 8回目 定冠詞 疑問文 (4課終了)
- 9回目 指示形容詞
- 10回目 動詞<avoir>の活用 否定文 (5課終了)
- 11回目 動詞<aller>の活用
- 12回目 疑問代名詞 不規則動詞 (6課終了)
- 13回目 所有形容詞と疑問形容詞
- 14回目 人称代名詞強勢形 (7課終了)
- 15回目 il y a の表現

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：オラル・ペーパーの小テスト：40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてあらかじめテキスト準拠のホームページでディアローグと文化の映像を見て何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習として、専用ノートに文法項目ごとに整理をし、単語帳や例文リストを日本語・フランス語で作成し「発音する・書く」を繰り返して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典(電子でも紙でもよい)必携のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、基本文法を会話表現を通して学び、簡単な文章を読むことによってそれらを確認します。

教科書 /Textbooks

『パリ・ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』藤田裕二著（朝日出版 2016年 2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 定冠詞の縮約
- 2回目 補語人称代名詞（8課終了）
- 3回目 代名動詞
- 4回目 中性代名詞 y（9課終了）
- 5回目 非人称構文
- 6回目 命令形 感嘆文（10課終了）
- 7回目 部分冠詞
- 8回目 中性代名詞 en（11課終了）
- 9回目 比較級
- 10回目 単純未来形（12課終了）
- 11回目 複合過去 1
- 12回目 複合過去 2
- 13回目 半過去（13課終了）
- 14回目 条件法現在
- 15回目 接続法現在（14課終了）

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：オラル・ペーパーの小テスト40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキスト準拠のホームページでディアローグと文化の映像を見て何を学ぶかを確認すること。事後学習としては、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳や例文のリストを作成し「発音する・書く」を繰り返して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞書（紙でも電子でもよい）必携

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

初級で学んだ文法で特にむつかしかった時制や代名詞などの事項を会話文、アクティビテ、練習問題を通して復習し、知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

『クワッサン2 もっと知りたいフランス語』松村博史 著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『フラ語入門 わかりやすいにもホドがある』 清岡智比古著 白水社
『ケータイ万能 フランス語文法』 久松健一著 駿河台出版社
『中級をめざす人のフランス語文法』 杉山利恵子著 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 アルファベ 数字 綴り字と発音のルール
- 2回目 動詞の現在形と複合過去の復習
- 3回目 頻度に関する表現 (1課終了)
- 4回目 直接・間接目的語と強勢形の代名詞
- 5回目 コミュニケーションに関する表現 (2課終了)
- 6回目 代名動詞の使い方
- 7回目 一日の行動に関する表現 (3課終了)
- 8回目 中性代名詞と指示代名詞
- 9回目 程度に関する表現 (4課終了)
- 10回目 単純未来
- 11回目 「~と言う」「~と思う」などの表現 (5課終了)
- 12回目 Lecture 1 (6課終了)
- 13回目 現在分詞とジェロンディフ
- 14回目 過去分詞と受動態
- 15回目 所有代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト：40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてはテキストに目を通してあらかじめ学ぶ文法項目を確認しておくこと。また会話文の発音練習をしておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語帳と日本語・フランス語による例文リストを作成し、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き既習の文法を復習しながら、複文を構成する叙法等を学んで、表現力のレベルアップを目標とします。

教科書 /Textbooks

『クロワッサン2 もっと知りたいフランス語』 松村博史著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中級フランス語 叙法の謎を解く』 渡邊淳也著 2018年 白水社
『中級をめざす人のフランス語文法』 杉山利恵子著 2012年 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1学期の復習
- 2回目 半過去
- 3回目 活動に関する表現 (7課終了)
- 4回目 時・理由・条件を表す接続詞
- 5回目 大学生生活に関する表現 (8課終了)
- 6回目 条件法
- 7回目 レストランに関する表現 (9課終了)
- 8回目 関係代名詞
- 9回目 観光地に関する表現 (10課終了)
- 10回目 接続法
- 11回目 いろいろな相づち (11課終了)
- 12回目 lecture 2 (12課終了)
- 13回目 話法と時制の一致
- 14回目 単純過去
- 15回目 覚えておきたいフランス語の基本動詞80について

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト40%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備としては、テキストに目を通してあらかじめ何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語、例文を日本語・フランス語でリストアップして、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1 : 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1 : 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1 : 自己紹介 (復習)
- 4) unité 2 : 質問する (前半)
- 5) unité 2 : 質問する (後半)
- 6) unité 2 : 質問する (復習)、小テスト
- 7) unité 3 : 買い物をする (前半)
- 8) unité 3 : 買い物をする (後半)
- 9) unité 3 : 買い物をする (復習)
- 10) unité 4 : いつ (前半)
- 11) unité 4 : いつ (後半)
- 12) unité 4 : いつ (復習)、小テスト
- 13) unité 5 : どこ (前半)
- 14) unité 5 : どこ (後半)
- 15) 前期の復習、小テスト

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%

小テスト (3回)・・・ 60%

期末テスト・・・ 20%

授業中の「取り組み」は20%ですが、出席が評定の前提となっています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6 : 誰 (前半)
 - 2) unité 6 : 誰 (後半)
 - 3) unité 6 : 誰 (復習)、リスニング
 - 4) unité 7 : 何 (前半)
 - 5) unité 7 : 何 (後半)
 - 6) unité 7 : 何 (復習)、小テスト
 - 7) unité 8 : どのように (前半)
 - 8) unité 8 : どのように (後半)
 - 9) unité 8 : どのように (復習)、読解
 - 10) unité 9 : 過去について (前半)
 - 11) unité 9 : 過去について (後半)
 - 12) unité 9 : 過去について (復習)、小テスト
 - 13) unité 10 : 仮定、条件 (前半)
 - 14) unité 10 : 仮定、条件 (後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20 %
小テスト (2回)・・・ 40 %
プレゼンテーション・・・ 20 %
レポート・・・ 20 %
授業中の「取り組み」は20 %ですが、出席が評定の前提となっています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（含む1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいる hispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずで、具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』（朝日出版社）を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
 パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）
 電子辞書も奨めます。これについては、シラバス作成の段階で4月からの新製品のカタログが届いていないため、最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション、スペイン語世界を眺める
- 第2回 発音
- 第3回 音節の分け方、アクセントなど
- 第4回 発音まとめ
- 第5回 名詞の性数、冠詞、形容詞
- 第6回 直説法現在形（規則活用の活用と用法）
- 第7回 直説法現在形といくつかの文を作る重要な文法
- 第8回 上記の続き
- 第9回 上記の続き
- 第10回 動詞serとestar
- 第11回 上記の続き
- 第12回 上記の続き
- 第13回 hayの表現
- 第14回 総復習
- 第15回 上記の続き

スペイン語【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超えている場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普段の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を半期に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど）は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習して、次回の授業の臨みましょう。（復習重視で、30分程度は必要になります）。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう（30分程度）。

履修上の注意 /Remarks

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

最初の数回は基礎になる重要な事項が多いので、休まずに理解して下さい。

北九大ポータル(moodle)からプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！

メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 4・1 - 5・1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは5つの母音字(ア・エ・イ・オ・ウ)と子音字の組み合わせなので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

教科書 /Textbooks

『初級スペイン語文法』改訂版(朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』(ピアソンエデュケーション)
『スペイン語とつきあう本』(寿里、東洋書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
- 2回 5つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
- 3回 名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
- 4回 人称代名詞、一般動詞の活用(3つのタイプ):直説法現在
- 5回 一般動詞の活用(1)と基本文例、肯定文、否定文
- 6回 一般動詞の活用(2)と基本文例、否定文、疑問文
- 7回 一般動詞の活用(3)と基本文例、目的語と前置詞
- 8回 一般動詞の復習、形容詞
- 9回 ser動詞とestar動詞(1)
- 10回 ser動詞とestar動詞(2)およびhayについて
- 11回 疑問詞を用いた疑問文(1)
- 12回 疑問詞を用いた疑問文(2)
- 13回 不規則動詞の活用、指示詞について
- 14回 短文を読む(プリント)
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

外国語の学習には辞書が必須です。毎回の授業前には単語の意味を調べておきましょう。また、テキストの各課には「練習問題」がありますが、回答を正しく表記できるか問題文(スペイン語)を含めて、自分で書いてください。強制ではありませんが、毎回提出すれば、教員が「赤」を入れて返却します。

履修上の注意 /Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習・復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。授業中に質問の時間を設けています。わからないことがあれば、いつでも質問しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

キーワード /Keywords

スペイン語II【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作るようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思かもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』（改訂新版、朝日出版社）前期のテキストの続きをします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）
辞書についてはスペイン語Iで述べたのを参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 直説法現在形（不規則活用）1【語根母音変化】
- 第3回 感嘆文と序数詞
- 第4回 直説法現在形（不規則活用）2【一人称単数が不規則なもの】
- 第5回 所有詞と接続詞
- 第6回 直説法現在形（不規則活用）3【完全な不規則】
- 第7回 ここまでのまとめ
- 第8回 目的格人称代名詞
- 第9回 前置詞と前置詞格人称代名詞
- 第10回 gustar型動詞
- 第11回 ここまでのまとめ
- 第12回 再帰動詞
- 第13回 無人称表現
- 第14回 総復習
- 第15回 総復習（2）

成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。定期試験に今述べた平常点を最大20点まで加算します。もちろん60点を超過している場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用が複雑になります。活用をしっかりと復習、暗記して次回の授業の臨みましょう。（復習重視で、30分程度は必要になります）。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう（30分程度）。

履修上の注意 /Remarks

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語（スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など）に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

北九大ポータル(moodle)からプリントなどの補助教材を送りますので、各自ダウンロードして、プリントアウトして下さい。詳しくは授業開始時に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 4・1 - 5・1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制です。一般動詞（規則動詞）に加え、重要な不規則動詞の活用とその基本的な文例を学び、命令法まで学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインの歴史や文化、およびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版）
短文のプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅰの復習
- 2回 直説法現在一不規則動詞活用（1）
- 3回 指示代名詞と基本文例
- 4回 指示形容詞と基本文例
- 5回 不規則動詞の活用（2）
- 6回 所有形容詞と文例、人称代名詞目的格
- 7回 不規則動詞の活用（3）直接目的格
- 8回 不規則動詞の活用（4）間接目的格
- 9回 前置詞と基本文例
- 10回 gustar型の動詞
- 11回 再帰代名詞と再帰動詞
- 12回 再帰代名詞seと無人称表現
- 13回 天候表現、曜日・日付の表現
- 14回 命令文、不定詞などについて
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず授業の前に、辞書で単語の意味を調べてください。毎回授業には辞書を持参しましょう。また、教科書の各課には練習問題があります。授業で終わった段階で、問題文（スペイン語）を含めて、回答を正確に表記できるか確かめましょう。できれば、毎回提出すれば、「赤」を入れて返却します。

履修上の注意 /Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペインもイスマノアメリカも「情熱の国です！」。熱意でスペイン語に挑戦！

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 1・ 1 - 2・ 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは3 - 4人のグループでの会話練習を行います。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書 /Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といいますか？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
- 3回 1課 主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
- 4回 estar動詞、疑問文「元気ですか？」
- 5回 2課 名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはファンです。」
- 6回 数字1 - 100「消防の電話番号は？」
- 7回 3課 規則活用動詞1 「わたしは文学を学んでいます。」
- 8回 規則活用動詞2 「スペイン語を話しますか？」
- 9回 4課 ser, estar, hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
- 10回 ir動詞 「どこに行きますか？」
- 11回 5課 gustar動詞 「好きな食べ物は？」
- 12回 料理の注文 「メキシコ料理は好きですか？」
- 13回 6課 家族について 「私の祖父はホルヘです。」
- 14回 家族について tener動詞 「兄弟はいますか？」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。
参考サイト：
<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)
<http://los40.com/> (スペイン語圏に広がるFMラジオ放送のサイト。音楽が中心。)
<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ミヨコ・フジヨシ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 英 1 - 4・1 - 5・1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業は、アルファベットと発音の対応から始め、スペイン語の基礎的文法の確実な習得を目指す。また、現在形を用いながら基本的な会話(自己紹介、など)、を修得するとともに、スペイン語圏の文化習慣等も併せて学習する。

スペイン語は、スペイン人だけでなく、ラテンアメリカの19カ国の人々やアメリカ合衆国に在住のヒスパニックの人々等を含む4億人以上の人々が母語として使っている言語である。また、国連で公用語の一つとして使われている言語でもある。スペイン語を通じて多くの人とコミュニケーションができるようになって、新しい、興味深い文化などに会おうきっかけになることを期待している。

教科書 /Textbooks

山道佳子、 Jesús M.Martínez Astudillo 「¡En español, por favor! (スペイン語でお願いします)」
同学社、ISBN 4-8102-0362-X

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和西一西和辞典や電子辞書の指定は特にありませんが、用意して、授業に臨むこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(直接法現在形)

- 第1回 ガイダンス
授業の目標と進め方。基本的な挨拶。
- 第2回 発音
アルファベット・発音・アクセントの位置。
- 第3回 名詞の作り方
男性名詞、女性名詞、単数名詞、複数名詞。
冠詞 + 名詞 + 形容詞
- 第4回 名詞 (2)
指示・所有、形容詞・代名詞
- 第5回 つなぎのSER動詞、
自己紹介、国籍、職業等。物や人物の描写
- 第6回 つなぎのESTAR動詞
健康状態、場所の説明。0~15の基数。
- 第7回 HAY動詞、
SER/ESTAR/HAY動詞の使い分け
- 第8回 規則活用動詞
~AR、~ER、~IR動詞の活用、重要な表現。
- 第9回 前置詞、疑問詞
前置詞の意味、使い方。
- 第10回 不規則動詞変化形 1(e→ie)
~したい、~する予定、~し始める。
16~100の基数。
- 第11回 不規則動詞変化形 2(o→ue)
~できる、~かもしれない。
時刻の表現。予定を言う。
- 第12回 不規則動詞変化形 3(e→i)
頼み方、依頼するための表現、
101~億の基数。曜日、月日、季節。
- 第13回 不規則動詞変化形 4(1人称単数だけ)
~しなければならない。~できる。
- 第14回 不規則動詞変化形 5
近い未来の表現。
- 第15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の受講状況・授業中の積極的な発言等(20%)、定期試験の成績(60%)、宿題・レポート・小テスト等(20%)を総合的に評価する。

スペイン語Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には意味が分からない単語を辞書で引くなどの予習、復習を確実にしてください。
事後には、その回次での不明点をなくすように復習して次回の授業へ備えてください。
分からないところはいつでも質問してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書の予習復習

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 1・1 - 2・1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、会話表現の文法事項を学びながら、モデル会話を覚え、語彙を増やして行きましょう。会話の応用練習をペアで、あるいは3 - 4人のグループで行います。口に出して発音をすることでフレーズを覚えましょう。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
- 2回 7課 店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
- 3回 8課 「カルロスの家は3部屋で、トイレは2つあります。」
- 4回 「住まいはどんなですか？」
- 5回 9課 時間表現「何時ですか？」
- 6回 再帰動詞「何時におきますか？」
- 7回 1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
- 8回 10課 大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
- 9回 肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
- 10回 大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
- 11回 11課 現在完了「週末はどうでしたか？」
- 12回 「美術館はどうでしたか？」
- 13回 12課 休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
- 14回 「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
- 15回 2学期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：<http://www.rtve.es/>

<http://los40.com/>

<http://www.cadena100.es/>

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけていろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor ミヨコ・フジヨシ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - 4・ 1 - 5・ 1 - 6

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲに引き続き、直接法現在形の基礎文法、過去形や未来形などの時制も学びます。現在形の動詞を用いた基本的な会話を基礎として、さらにスペイン語圏でサバイバルできる程度の会話能力を身につけることを目指します。

スペイン語は、スペイン人だけでなく、ラテンアメリカの人々やアメリカ合衆国在住のヒスパニックの人々等をな4億人以上の人々が母語として使っている言語であり、第2言語や第1外国語として使う人も入れるとさらに多くの人々が使っている。また、国連で公用語の一つとして使われている言語でもある。スペイン語を通じて多くの人とコミュニケーションができるようになって、新しい、興味深い文化などに会おうきっかけになることを期待している。

また授業終了後も、サッカーなどスポーツのスペイン語中継や様々な分野のスペイン語でのインタビューなどへの興味を維持し、自主的にスペイン語学習を継続してスペイン語を使う国々や人々の理解へつながることを期待している。

教科書 /Textbooks

山道佳子、 Jesús M.Martínez Astudillo 「¡En español, por favor! (スペイン語でお願いします)」
同学社、ISBN 4-8102-0362-X

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和西一西和辞典や電子辞書の指定は特にありませんが、用意して、授業に臨むこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
スペイン語Ⅲの復習。
- 第2回 直接目的格人称代名詞
[~を]の代名詞。前置詞格人称代名詞。
- 第3回 間接目的格人称代名詞
[~に]の代名詞。前置詞格人称代名詞。
- 第4回 GUSTAR形 動詞
~が好きだ、~と思う、~が痛い。
- 第5回 再帰動詞
他動詞の自動詞化、~し合う。
無人称・受身の表現
- 第6回 時刻表現と天候の表現。
- 第7回 比較級、絶対最上級
- 第8回 点過去形
過去の出来事を説明する。
- 第9回 線過去形
過去の習慣、祭り、など。
- 第10回 点過去形と線過去形比較対照
- 第11回 現在完了形
完了、経験、継続を表す。
- 第12回 現在進行形
~している。~してきた。~し続ける。
- 第13回 命令形
~してください。~しなさい。
- 第14回 未来形
~しようと思う。未来の計画について話す。
- 第15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の受講状況・授業中の積極的な発言等(20%)、定期試験の成績(60%)、宿題・レポート・小テスト等(20%)を総合的に評価する。

スペイン語Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には意味が分からない単語を辞書で引くなどの予習、復習を確実にしてください。
事後には、その回次での不明点をなくすように復習して次回の授業へ備えてください。
分からないところはいつでも質問してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書の予習復習

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法 (和佐敦子著、朝日出版) 昨年度のテキストの続きをします。改訂版なので3年生以上で使用したものと異なりますので、注意して下さい (現在生協で売っているものです)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典 (小学館)
 新スペイン語 (研究社)
 現代スペイン語辞典 (白水社)
 プロGRESSIVEスペイン語辞典 (小学館)
 パスポート初級スペイン語辞典 (白水社)
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典 (高橋編) は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典 (宮城、コントレラス監修：白水社)
 クラウン和西辞典 (三省堂)
 その他
 図説スペインの歴史 (川成洋、中西省三編：河出書房新社)
 スペインの歴史 (立石、関、中川、中塚著：昭和堂)
 スペイン (増田監修：新潮社)
 スペインの社会 (寿里、原編：早稲田大学出版)
 スペインの政治 (川成、奥島編：早稲田大学出版)
 スペインの経済 (戸門、原編：早稲田大学出版)
 スペイン語とつきあう本 (寿里著：東洋書店)
 スペイン語基礎文法 (ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 1年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習 (代名詞を中心に)
- 2 1年の復習 (代名詞を中心に)
- 3 1年の復習 (代名詞を中心に)
- 4 再帰動詞、無人称文など
- 5 再帰動詞、無人称文など
- 6 動詞の派生形とその用法 (進行形、完了形、命令形など)
- 7 同上
- 8 点過去、現在完了の用法
- 9 同上
- 10 同上
- 11 線過去の用法
- 12 同上
- 13 同上
- 14 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習
- 15 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価 (小テスト、口頭での答え、作文など) も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり (読む、書くなど) や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合 (例えば小テストを受けていないなど) は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう（復習重視で、30分程度は必要になります）。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう（30分程度）。

履修上の注意 /Remarks

上記テキストに対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法 (和佐敦子著、朝日出版) 昨年度のテキストの前期の続きをします。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典 (小学館)
新スペイン語 (研究社)
現代スペイン語辞典 (白水社)
プログレッシブスペイン語辞典 (小学館)
パスポート初級スペイン語辞典 (白水社)
他多数有。
白水社の別の和西辞典 (高橋編) は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典:
和西辞典 (宮城、コントレラス監修: 白水社)
クラウン和西辞典 (三省堂)
その他
図説スペインの歴史 (川成洋、中西省三編: 河出書房新社)
スペインの歴史 (立石、関、中川、中塚著: 昭和堂)
スペイン (増田監修: 新潮社)
スペインの社会 (寿里、原編: 早稲田大学出版)
スペインの政治 (川成、奥島編: 早稲田大学出版)
スペインの経済 (戸門、原編: 早稲田大学出版)
スペイン語とつきあう本 (寿里著: 東洋書店)
スペイン語基礎文法 (口ボ、大森、広康共訳: ピアソンエデュケーション)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 未来形とその関連時制の用法
 - 2 同上
 - 3 前期を含め、様々な構文のまとめ (受け身、使役、放任、比較など)
 - 4 同上
 - 5 過去完了と時制の一致
 - 6 受け身文、無人称文
 - 7 同上
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法
 - 10 接続法の用法
 - 11 スペイン語版トトロを理解する
 - 12 スペイン語版トトロを理解する
 - 13 スペイン語版トトロを理解する
 - 14 スペイン語版トトロを理解する
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価 (小テスト、口頭での答え、作文など) も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり (読む、書くなど) や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合 (例えば小テストを受けていないなど) は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布 (テキスト購入不要)
始めの方は前年度の教科書を持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、自己紹介
- 2回 他人の紹介、人についての表現
- 3回 一日のスケジュール
- 4回 日常の紹介(1)
- 5回 日常の紹介(2)
- 6回 買い物(1)
- 7回 買い物(2)
- 8回 好きなこと
- 9回 食事について(1) パエージャの作り方
- 10回 食事について(2)
- 11回 旅行
- 12回 休暇の過ごし方 どこへ?
- 13回 スペイン語圏について
- 14回 町の紹介
- 15回 まとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくる。また、指定されたWeb上の字幕付きビデオを見て、内容把握をしてこよう。
事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話(スクリプトや会話プリント)を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができます。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://los40.com/> (スペイン語圏に広がる音楽FM放送)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

前期のスペイン語Ⅶをさらに発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(テキスト購入不要)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。
詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期表現の復習、休暇中のこと
- 2回 さあ食べよう！今日の定食
- 3回 趣味の事(1)
- 4回 趣味のこと(2)
- 5回 仕事の紹介
- 6回 企業について
- 7回 旅行(1)
- 8回 旅行(2)
- 9回 過去の出来事(1)
- 10回 小さかった時
- 11回 過去の出来事(2)
- 12回 現在の推測
- 13回 スペイン語のDVDを理解する(1)
- 14回 スペイン語のDVDを理解する(2)
- 15回 まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくる。また、指定されたWeb上のビデオを見て、字幕を読み予習しておくこと。

事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話(スクリプトや会話プリント)を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。疑問に思ったことはどんどん辞書を引いてください。
スペイン語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の2年目前期を終え、会話実例がどんどん出てくることに慣れてきたと思います。後期では過去形もふんだんに使用するビデオを見ていきます。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも訓練の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができます。また、オンラインで見られる映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> など

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

アメリカの社会I【昼】

担当者名 /Instructor 朝立 康太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

【授業の到達目標及びテーマ】

テーマ：「アメリカ」を巡る「物語」を通してアメリカ合衆国の過去と現在を考える
到達目標：アメリカ史上に登場する様々な「アメリカ論」を題材として、アメリカ合衆国の社会や文化の特質に関する理解を深めること

【授業の概要】

アメリカ合衆国の政治文化や大衆文化史に関する様々なテキストを取り上げ、各テキストごとに個別の論点に注目しながらアメリカ合衆国の文化的な理解を深める講義を行います。一つのテキストごとに2～3回の講義を予定しています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション、講義の序論
- 2回目 18世紀①-クレヴクール「アメリカ農夫からの手紙」-
- 3回目 移民国家アメリカにおける「国民統合」の問題について
- 4回目 18世紀②-『フェデラリスト』と『ヴァージニア覚書』-
- 5回目 共和政国家アメリカ建国の世界史的意義について
- 6回目 19世紀①-A・トクヴィル『アメリカのデモクラシー』-
- 7回目 アメリカの民主化を巡る諸問題について
- 8回目 19世紀②-南部知識人による「奴隷制肯定論」-
- 9回目 アメリカにおける「自由」と「不自由」について
- 10回目 19世紀③-F・J・ターナー「アメリカ史におけるフロンティアの意義」-
- 11回目 ヨーロッパ世界との関係を巡るアメリカの「自意識」について
- 12回目 20世紀①-F・W・テーラー『科学的管理法の諸原理』-
- 13回目 多元的国家アメリカにおける「普遍性」の問題について
- 14回目 20世紀②-ドワイト・マクドナルド「マスカルトとミッドカルト」-
- 15回目 アメリカにおける大衆文化について

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への参加度30%、学期末試験70%程度の割合で評価する予定です。出席カードには、講義への要望や質問を書いてください。講義内容に即した質問には次回の講義で答えます。良い質問と判断した場合には質問者に加点する場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講者には講義の中で紹介する映像資料・書籍などを利用して、各回に関する予習を各自が自主的に行うことが期待されます。

履修上の注意 /Remarks

アメリカ史の初学者にも配慮した講義を心がけますが、受講者にはアメリカ史の概説書(野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』ミネルヴァ書房、1998年)を通読しておくことが期待されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会II 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の民族的・人種的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観すると共に、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から、顕著なものを取り上げ、各項目について具体的な事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。授業を通して、アメリカ合衆国社会の特性について、総合的に理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

上杉忍『アメリカ黒人の歴史』中公新書、2010年
ジェームス・M・ヴァーダマン『黒人差別とアメリカ公民権運動：名もなき人びとの戦いの記録』（集英社新書、2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○北美幸『公民権運動の歩兵たち-黒人差別と闘った白人女子学生の日記』彩流社、2016年
などをはじめとして、講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 19世紀前半までの黒人
- 第3回 南北戦争と奴隷制① - 綿花王国
- 第4回 南北戦争と奴隷制② - 戦争の経過
- 第5回 南部再建と人種関係の再編
- 第6回 近代黒人解放運動
- 第7回 二つの世界大戦と「市民」への道程
- 第8回 公民権運動と映画
- 第9回 公民権運動① - ブラウン判決以前の公民権運動
- 第10回 公民権運動② - 1950年代後半から1960年代前半
- 第11回 公民権運動③ - 混迷の時代へ
- 第12回 公民権運動を支えた人々
- 第13回 ポスト公民権運動期の黒人
- 第14回 アメリカにおけるアフアーマティヴ・アクションの導入と展開
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 課題(復習小テスト)...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業の前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講にあたって、高等学校での世界史・日本史履修の有無は問わないが、世界史の教科書を読んでおくことと良い。個人的な学習のための参考図書などは、授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの政治I【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

現代アメリカ政治の基礎を講じる。

教科書 /Textbooks

久保文明ほか『アメリカ政治』（有斐閣 2010年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会 2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回アメリカ政治の輪郭
- 第3回合衆国憲法の形成
- 第4回合衆国憲法の特徴
- 第5回大統領制
- 第6回議会
- 第7回司法
- 第8回連邦制
- 第9回選挙と政党制
- 第10回政党の機能
- 第11回メディアと圧力団体
- 第12回イデオロギー対立
- 第13回政策形成過程
- 第14回アメリカ民主政の現在
- 第15回授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を教科書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容は英米文化概論IIであつかう内容や、国際関係史であつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、よく理解することができるようになります。
授業開始前までにあらかじめ教科書や参考書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと教科書を照合しながら、理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始前までに予め教科書で授業の該当箇所を読み、授業終了後には教科書で復習すること。

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

アメリカの政治II 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

植民地期から第一次世界大戦までのアメリカ政治の発展を講じる。前半部分では、植民地期から建国期のアメリカについて国際情勢と社会状況を踏まえて、その政治秩序の形成を論じ、続いて南北戦争後に国家秩序が再編された経緯を説明する。そして、後半では門戸開放外交を軸としたアメリカ合衆国の積極的対外政策の展開と第一次世界大戦の衝撃を扱う。

教科書 /Textbooks

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会 2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中野博文『ヘンリ・アダムズとその時代』（彩流社 2016年）
教科書の参考文献リストを参照。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回近代ヨーロッパ世界とアメリカ植民地
- 第3回独立革命再考
- 第4回合衆国憲法体制
- 第5回大陸国家と海洋国家
- 第6回アメリカ合衆国の軍事制度
- 第7回奴隷制をめぐる国際政治
- 第8回南北戦争とは何であったのか
- 第9回合衆国憲法体制の再編
- 第10回米国のアジア・中南米貿易の発展
- 第11回自由貿易体制とアメリカ合衆国
- 第12回帝国主義外交とアメリカ
- 第13回門戸開放外交とは何であったか
- 第14回日露戦争から第一次世界大戦へ
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容は現代アメリカ政治であつかう内容や、国際関係史であつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ国家の発展をよく理解することができるようになります。
また授業前にあらかじめ教科書で内容を予習し、授業後は復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上の繰り返しですが、授業開始前までにあらかじめ教科書や参考書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと教科書を照らしながら、理解を深めること。

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

国際関係論I【昼】

担当者名 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、国際関係の土台をなす「国家」の位置づけ・意義の変容であり、例えば、国際機関や多国籍企業、国際NGOといった国家以外のアクターの影響力が増大したことや、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったこと、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したことなどに表れています。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。
○吉川直人、野口和彦 [編] 『国際関係理論』 [第2版] (勁草書房、2015年)。
○原彬久 [編] 『国際関係学講義』 [第4版] (有斐閣、2011年)。
滝田賢治、大芝亮、都留康子 [編] 『国際関係学』 [第2版] (有信堂、2017年)。

その他の文献については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
1. 国際関係学とは何か【理想主義、現実主義】
 2. 近代国家の誕生と特質【主権、国民国家】
 3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
 4. リアリズム【アナーキー、パワー・ポリティクス、勢力均衡】
 5. ネオリアリズム【覇権安定、二極システム】
 6. 安全保障体制(1)：冷戦の始まりと終焉【安全保障のジレンマ、CTBT】
 7. リベラリズム【相互依存、機能主義】
 8. 前半の総括
 9. ネオリベラリズム【国際レジーム、制度】
 10. コンストラクティヴィズム【アイディア、間主観性】
 11. 国際貿易体制の成立と変容【GATT、WTO、FTA】
 12. 国際通貨体制の成立と変容【ブレトンウッズ体制、IMF】
 13. 安全保障体制(2)：冷戦の終結と人道的介入【強制措置、人道的介入】
 14. 人権の国際問題化と多様なアクター【人権、企業の社会的責任】
 15. 講義のまとめ【グローバル化と国際社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：20% ミニレポート：20% 期末試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に参考文献を読んでおくこと。
授業後は必ず復習すること。

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を考察します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的な脈絡からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。毎回、レジュメを配布します。また、テーマに関係する文献をその都度、提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

滝田賢治・大芝亮・都留康子『国際関係学-地球社会を理解するために』（第2版）有信堂高文社、2017年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「平和学の基礎」【積極的平和】【消極的平和】
- 第2回 「変化する国際政治経済秩序」【新興国】【BRICS】【G20】
- 第3回 「アジアにおける安全保障」【中国の台頭】【日本の防衛力強化】
- 第4回 「安全保障のジレンマ」【囚人のジレンマ】【チキン・ゲーム】
- 第5回 「安全保障観の変容」【人間の安全保障】【国家安全保障】
- 第6回 「保護する責任」【人道的介入】【ICISS】
- 第7回 「核兵器を巡る議論と展開」【NPT体制】【核兵器禁止条約】
- 第8回 「エネルギー」【原子力】【再生可能エネルギー】
- 第9回 「環境」【地球温暖化】
- 第10回 「食料」【遺伝子組み換え作物】
- 第11回 「移民、難民問題」【社会包摂】【多文化主義】【同化政策】
- 第12回 「中東、イスラーム」【イスラモフォビア】【スンニ派とシーア派】
- 第13回 「アフリカ」【ガバナンス】【汚職・腐敗】【北京コンセンサス】
- 第14回 「ジェンダー」【ジェンダー・ギャップ・インデックス】
- 第15回 「エシカル消費」【フェアトレード】【ESG投資】

※順番は入れ替わる可能性があります。また、外部講師を招いての特別講演会が行われる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物・・・30% 学期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布するレジュメを前週の金曜日を目処にMoodleにアップします。受講生は事前に目を通しておくように。事後学習として、課題レポートを課します(1回)。

履修上の注意 /Remarks

授業で扱うテーマは限定されています。国際関係について関心を深めるためには、新聞を必ず読みましょう。また、授業で紹介する新書などを数多く読むようにして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

キーワード /Keywords

国際関係史II 【昼】

担当者名
/Instructor

中野・金

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		○	○	○							

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構想・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

第1回～第7回、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会 2013)
第8回～第15回、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス、教科書の「はじめに」
- 2回 朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【征韓論】【朝鮮問題】
- 3回 日清・日露戦争と朝鮮(韓国) 【大韓帝国】【日英同盟】【日露交渉】
- 4回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【統監政治】【韓国併合】
- 5回 日本の朝鮮統治と国際関係 【武断政治】【三・一運動】【文化政治】
- 6回 国際情勢の緊迫と朝鮮統治 【満州事変】【大陸兵站基地】【日中戦争】
- 7回 日本の敗戦と朝鮮の南北分断 【皇民化政策】【太平洋戦争】【朝鮮問題】

- 8回 第二次世界大戦から冷戦へ 【占領政策】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 9回 帝国支配の解体 【脱植民地化】【日米安全保障条約】
- 10回 革命の時代 【中国革命】【中ソ同盟】【朝鮮戦争】
- 11回 ヴェトナム戦争と戦後秩序の変容 【高度経済成長】【ヴェトナム戦争】【ニクソン政権】
- 12回 デタントから新冷戦へ 【デタント戦略】【米中接近】【石油危機】
- 13回 冷戦の終結 【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 21世紀の世界 【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本(1回分の量はA4用紙3～4枚程度) 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、教科書を用いて、関連事項を教科書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

二人の先生の担当授業です(1～7回金鳳珍、8～15回中野博文)。
予授業開始前までに予め教科書で授業の該当箇所を読み、授業終了後には教科書で復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係 歴史 東アジア

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考え方を持つ政治家や官僚などが存在する。例えば、アメリカのトランプ大統領である。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考え方を持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。
テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社(2016年)
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 学期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

最初に参考書を紹介するので、それらの参考書における対応する講義内容にあらかじめ目を通しておくと、授業をより理解しやすくなる。講義がわかりにくいと感じた場合には、参考書の対応する部分を精読すると、理解はより深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 比較優位 トランプ米国大統領

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、対外直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである対外直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。対外直接投資の結果として、海外子会社とともに海外孫会社の増加が見られる。海外子会社や海外孫会社の増加は、日本に何をもたらすのであろうか。その意味することともに、なぜ増加しているのかなども紹介する。この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：海外子会社と海外孫会社

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社、2016年出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 直接投資理論を紹介1【直接投資】
- 3回 直接投資理論を紹介2【直接投資】
- 4回 対外直接投資概説【直接投資】
- 5回 中国概説
- 6回 中国における海外子会社と海外孫会社【中国】
- 7回 ASEAN4概説
- 8回 ASEAN4における海外子会社と海外孫会社【ASEAN4】
- 9回 アジANIES概説
- 10回 アジANIESにおける海外子会社と海外孫会社【アジANIES】
- 11回 ヨーロッパ概説
- 12回 ヨーロッパにおける海外子会社と海外孫会社【ヨーロッパ】
- 13回 アメリカ概説
- 14回 アメリカにおける海外子会社と海外孫会社【アメリカ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書はあらかじめ読んでおくことを前提としているので、講義に合わせて予習しておくこと。また、直接投資に関連する文献は多くあるので、講義に合わせて予習していることがより望ましい。

履修上の注意 /Remarks

出席を重視している。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃の国際(経済)関連ニュースに注目してほしい。

キーワード /Keywords

海外子会社 海外孫会社 直接投資理論

国際経済論I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1、国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
- 2、輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
- 3、現実には保護主義的政策が多く実施されている理由について理解する。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】【相対価格の決定】
- 4回 リカード・モデル（3）【貿易利益】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【要素賦存と生産】【貿易パターン】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（3）【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
- 8回 貿易政策分析の基礎【部分均衡分析】【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 小国の貿易政策（1）【関税】
- 10回 小国の貿易政策（2）【輸出補助金】【輸入数量制限】
- 11回 小国の貿易政策（3）【有効保護】
- 12回 大国の貿易政策（1）【関税】
- 13回 大国の貿易政策（2）【最適関税率】【近隣窮乏化】
- 14回 大国の貿易政策（3）【輸出補助金】【輸入数量制限】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 20% 課題提出 20% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、保護貿易

国際経済論II 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1、不完全競争市場の下で、貿易政策の経済効果を学ぶ。
- 2、自由貿易協定、海外直接投資が起こる理由と経済的影響について学ぶ。
- 3、貿易政策と環境政策のお互いに与える影響を理解する。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 不完全競争と国際貿易（1）【国内独占】
- 3回 不完全競争と国際貿易（2）【ダンピング】
- 4回 不完全競争と国際貿易（3）【製品差別化】【産业内貿易】
- 5回 不完全競争と貿易政策（1）【関税】
- 6回 不完全競争と貿易政策（2）【輸入数量制限】
- 7回 不完全競争と貿易政策（3）【外国独占】
- 8回 不完全競争と貿易政策（4）【戦略的貿易政策】
- 9回 生産要素の国際移動（1）【海外直接投資】
- 10回 生産要素の国際移動（2）【国際労働移動】
- 11回 地域経済統合（1）【FTA】【CU】【EPA】
- 12回 地域経済統合（2）【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 13回 貿易と環境（1）【貿易政策から環境への影響】
- 14回 貿易と環境（2）【環境政策から貿易への影響】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 10% 課題提出 30% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、国際経済論Iをすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済論Iの履修済みが望ましい。

キーワード /Keywords

不完全競争、貿易政策、経済統合、海外直接投資、貿易と環境

国際法I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の国内的効力と国内適用
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法II 【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認
- 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務
- 第5回 まとめ

第II部「国際法主体としての個人」

- 第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定
- 第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援
- 第8回 国際犯罪
- 第9回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第10回 まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」

- 第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権
- 第12回 海と国際法：海上交通
- 第13回 海と国際法：海洋資源
- 第14回 空と国際法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は北方ムードルの情報で確認してください。
「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

国際取引法 【昼】

担当者名 /Instructor 大隈 一武 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

国際取引法は、単独法として存在するものではない。企業実務において展開されてきた実務先行で、学問としてはまだ確立していない分野である。企業実務における経験から、それを国際契約法、海外投資・企業経営関係法、通商法の3つに分類して授業を行う。

教科書 /Textbooks

なし。プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大隈一武『国際契約法入門』（中央経済社・1996）
外務省経済局監修『世界貿易機関を設立するマラケシュ協定WTO』（日本国際問題研究所・1997）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際契約：英米法契約理論-例えば、【約因】【コモンロー】【衡平法】理論・判例検討
- 2回 契約条件と国際貿易条件【インコタームズ】、契約約款などを検討
- 3回 国際取引と制限：OECD賄賂禁止条約、輸出管理ワッセナー取り決め、歴史的展開
- 4回 国際契約書の起草：海外工事請負契約UNCITRALガイド参照、契約書のドラフティング
- 5回 国際取引諸条約（国際海上物品運送・国際物品売買条約【CISG】など）や荷為替信用状規則【L/C】など
- 6回 海外進出：投資・企業経営-単独進出と企業買収・合併など実務的な展開と内容を検討
- 7回 企業経営：株式会社・パートナーシップの異同を理解し、海外合併事業の方法論、実務
- 8回 投資協定、投資保証、多国間投資保証機関【MIGA】
- 9回 OECD多国籍企業ガイドライン
- 10回 通商法：自由貿易地域と関税同盟の異同、実態、国際的動向、わが国の対応などを検討
- 11回 ブロック経済と世界貿易機関【WTO】：上記10との関連で、WTOの調整・問題点を検討
- 12回 GATTからWTOへ：WTO、TPPなど国際機関・協定
- 13回 WTOの組織、諸協定
- 14回 紛争解決のメカニズム
- 15回 OECD、IBRD、IMFなどの国際機関の機能と役割：WTO以外の重要な国際機関の機能と役割を理解し、わが国の対応のあり方についても検討

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 100%
なお、出席が授業回数の3分の2に満たない場合は期末試験の受験資格を認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことが重要である。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

集中講義修了次第、試験となる日程なので、特に毎日復習をすること。

キーワード /Keywords

国際私法【昼】

担当者名 /Instructor 小林 啓一 / NAKABAYASHI KEIICHI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

現在では国境を越えることは比較的容易であるから、私法上の問題（契約や婚姻など）も国境を越えて生じることがある。たとえば、日本人同士がハワイへ行って結婚式を挙げた場合、その婚姻は日本でも有効となるだろうか。

国際私法はこのような問題を解決するための法律である。この授業では、国際私法とはどのような法律か、いかなる問題が国際私法によって解決できるかという点について、できるだけ身近な具体例を用いながら考えてみたい。

教科書 /Textbooks

使用しません（レジュメを配布しますが、授業時に口頭や板書等で適宜補足する場合があります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松岡博編『国際関係私法入門（第3版）』（有斐閣、2012年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際私法序論【国際私法の意義と必要性、法的性質】
- 2回 国際私法総論(1)準拠法の決定【法性決定、連結点の意味】
- 3回 国際私法総論(2)準拠法の特定【反致、公序】
- 4回 国際家族法(1)属人法と、婚姻の準拠法【国際結婚と法】
- 5回 国際家族法(2)離婚、親子関係の準拠法【国際離婚と法】
- 6回 国際家族法(3)その他の問題【氏、相続など】
- 7回 国際財産法(1)契約の準拠法(1)【当事者自治の原則】
- 8回 国際財産法(2)契約の準拠法(2)【特徴的給付、消費者契約、労働契約】
- 9回 国際財産法(3)不法行為の準拠法【一般不法行為、生産物責任、名誉毀損】
- 10回 国際財産法(4)自然人、法人【渉外的法律関係の主体と準拠法】
- 11回 国際財産法(5)その他の問題【知的財産、物権、債権譲渡】
- 12回 国際民事訴訟法(1)【財産関係事件の国際裁判管轄】
- 13回 国際民事訴訟法(2)【身分関係事件の国際裁判管轄】
- 14回 国際民事訴訟法(3)【外国判決の承認執行】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題等... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の学修は特に必要としないが、レジュメを中心にして事後の学修（集中講義なので特に迅速におこなう必要があろう）をおこなうことが求められる。

履修上の注意 /Remarks

重要なポイントについては繰り返し言及するので、ノートをとること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生殖補助医療（代理出産）や親による子の奪い合いなど、国際私法に関連する時事的な話題にも言及したいと思っています。

キーワード /Keywords

国際私法、国際契約、国際家族法（国際結婚）

アメリカ経済【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

トランプ大統領のアメリカ・ファーストの政策は、経済グローバリズムの流れを経済ナショナリズムへと反転させたかのように見えます。トランプ大統領の経済政策によってアメリカ経済は世界経済成長の牽引車となるのでしょうか？それとも、保護主義的な通商政策によって新興経済を不安定な状況に陥らせてしまうのでしょうか？アメリカの中央銀行にあたるフェッドは、QE政策からの出口戦略を確実に進めつつあります。このことはアメリカ経済や各国通貨の為替レートにどのような影響を及ぼすのでしょうか？学部を超えて、現代日本を生きていくうえで必須の知識がここにはあります。

この講義ではアメリカ経済の全体と、産業、金融、経済成長など各側面を、データを使って確認した上で、日本経済と比較しながら分かりやすく説明します。

前提となる経済学の知識も分かりやすく説明してきますので、いずれの学科の人たちでも無理なく受講できます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

若林栄四『アメリカ経済の終焉 - 破裂する資産バブルと政治の墮落』集英社、2018年10月。
倉石灯・中野博『なぜ、トヨタはテキサスに拠点を移したのか？アメリカ経済の未来を左右する「テキサス州」の戦略』日本実業出版社、2018年12月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が2問出題されます。

試験の出題範囲は時期が来たらポータルサイトを通じて連絡します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、テキストの当該章を読んでください。

事後学習では、その日の講義内容を理解・記憶し、コラムの計算問題を解いて答え合わせをしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

受講すれば、みんなの頭にアメリカ経済のはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じられます。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私は福岡大学教授（経済学部・大学院経済学研究科）なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール（yamazaki@kitakyu-u.ac.jp）に送ってください。

キーワード /Keywords

World Largest Economy 消費大国 サービス経済化 Fed 経常収支赤字 所得格差 投資銀行 ファンド 住宅投資 基軸通貨

途上国開発論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはインド・バングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われていますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年、3800円
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008
- * 太田和宏『貧困の社会構造分析～なぜフィリピンは貧困を克服できないのか』法律文化社、2018年、5500円
- * 村山真弓・山形辰史編『知られざる工業国 バングラデシュ』アジア経済研究所 IDE-JETRO、5400円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|-------------------|
| 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 | |
| 第2回 開発概念の検討～歴史的推移（SDGsまで） | 【持続可能な開発（SD）】 |
| 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線とアマルティア・セン考え方 | 【貧困概念】【アマルティア・セン】 |
| 第4回 急速の経済発展～インドのIT産業を事例として | 【IT産業】 |
| 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策の転換と先進国の少子化対策 | 【一人っ子政策】【少子化】 |
| 第6回 都市産業問題～インフォーマルセクターの存在 | 【インフォーマルセクター】 |
| 第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区 | 【スクオッタ居住区】 |
| 第8回 資源分配をめぐる（エネルギー技術のあり方） | 【資源配分】 |
| 第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など | 【森林破壊】 |
| 第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に | 【廃棄物管理問題】 |
| 第11回 保健・医療問題～感染症、下痢を中心に | 【感染症】 |
| 第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方 | 【農業・漁業】 |
| 第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA | 【ODA】 |
| 第14回 台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より | 【NGO】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、日ごろから途上国に関心を持ち、新聞などから記事を抽出、また、関係文献を読んでおくこと、事後学習は、授業で習ったことをノートに再度まとめ、コメントを加えておくことなどの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々な新聞記事を読み、テレビ番組を視聴していただきます。英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りがないようにしていただきます。同時に、授業の反復練習をしつつ、それを参考に自主的に関係文献を読み、まとめる作業を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。もっと本を読もう。

キーワード /Keywords

開発途上国（インド・バングラデシュなど）、アマルティ・セン、環境問題、持続可能な開発目標（SDGs）

イギリス文学概論【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

今日、文学というどうしてもかたいイメージを持ってしまっている人がいるかもしれませんが、「おもしろくなければ文学じゃない」というイギリスの作家W.S.モームの言葉にもあるように、文学史上に残っている文学作品のほとんどすべては、古今東西の実に多くの人々の関心を集め、感動を与えてきた興味深いものばかりです。文学作品が敬遠されるようになったのは、読書感想文を書くための材料として扱われたり、画一的な解釈を強要されたりといった昨今の「読書」を取り巻く環境が変化してきたためであり、それが私たちから読書の本来の楽しさを奪っているのではないのでしょうか。人間同士のかかわり、絆が希薄になりつつあると言われる今、多くのすぐれた文学作品に触れ、人間とは何かを知ることは、他者に対する関心を今一度呼び起こしてくれることでしょう。

本講義では、長い歴史の中で詩から劇、そして小説へと発展してきた伝統あるイギリス文学の始まりから説き起こし、今日に至るまでの流れを追います。代表的な作品群については原作の豊かな英語表現にも触れることで、作品のおもしろさを共に味わえればと思います。その際、作品に関わるジャンルや技法、また読み解き方や批評方法などの基礎的な説明を加え、更には作品を生み出したイギリスの時代背景、文化背景との関わりをも探っていくことで、作品のより深い読みを目指します。

同時に、作品との関連で、人間に関する様々なテーマ（生、死、愛、宗教、想像力……）についても問題提起をします。一緒に考えていきましょう！！

授業の到達目標及びテーマ

- ①イギリス文学を理解するための基礎的な知識を習得していること。
- ②イギリス文学を読解し理解するための研究方法を身につけていること。
- ③イギリス文学に対する関心を高めること。

教科書 /Textbooks

- ・『イギリス小説入門』（川口喬一著）研究社出版
- ・その他、必要に応じて資料を配布します（An Outline of English Literature by G.C.Thornley and Gwyneth Roberts など）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入： 評価方法などの説明（文学の勤め、文学の面白さ）＜イギリスについて＞
- 2回 『ベオウルフ』（古英語、散文・韻文、頭韻、想像力）＜アングロサクソン七王国＞
- 3回 『キャンタベリー物語』by チョーサー（中英語、脚韻、韻律分析）＜巡礼＞
- 4回 『エヴリマン』等（道徳劇、中英語、アレゴリー）＜教訓、死と人間＞
- 5回 ダン、ジョンソン、ハイコン等（詩の形式、奇想、逆説、機知、誇張、随筆等）＜王政＞
- 6回 4大悲劇（『ハムレット』『リア王』『マクベス』『オセロ』）by シェイクスピア（演劇）＜近代人の苦悩＞
- 7回 『失樂園』等 by ミルトン（無韻詩）＜キリスト教、宗教改革＞
- 8回 ビープス、イヴリン等（散文、日記文学）＜市民革命、自意識の芽生え＞
- 9回 『ロビンソン・クルーソー』by デフォー（小説の勃興）＜コーヒーハウス＞
- 10回 『ガリヴァー旅行記』by スウィフト（風刺）＜社会に対する怒り＞
- 11回 『パメラ』by リチャードソン、『シャメラ』by フィールドイング等（パロディ）＜フェミニズムの先駆け＞
- 12回 『高慢と偏見』by オースティン、『テス』by ハーデイ（正統派小説）＜結婚事情、セクシュアリティ＞
- 13回 ロレンス、オプライエン、ドラブル、イシグロ（問題小説、伝統回帰）＜社会の批判と受容＞
- 14回 『不思議の国のアリス』by キャロル（児童文学、ファンタジー、謎解き）＜子供とイギリス社会＞
- 15回 総括： イギリス文学の流れ、魅力等

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート (受講者数により決定します)・・・90%
平常点 (課題、授業への参加度など)・・・10% (出席重視)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当箇所に目を通しておいてください。また、授業の後は、ノートをもとに内容を整理し、復讐をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

授業で配布する資料は、よく目を通してください。また、本講義で扱う作品に限らず、様々な文学作品をたくさん読んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリス文学の中でも現代に近い作品に関心を持っている人は「イギリスの現代文学」の受講をお勧めします。

キーワード /Keywords

「詩」「劇」「小説」「伝統」「文学のおもしろさ」「想像力」「風刺」「パロディ」「児童文学」「ファンタジー」

アメリカ文学概論【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本講義で取り扱うのはアメリカ文学である。そのアメリカ文学全体を時代を越えて貫いている複数の特徴を確認することにより、アメリカ文学の全体像を理解してもらおう。さらには、アメリカ文学の特徴が、ハリウッド映画によっても共有されている事実も実際に映像を見ることによって明らかにする。次いで、そのような文学と映画との共通性が何ゆえに生じたのかを、アメリカの社会、歴史、文化の特質に目を向けることにより理解してもらおう。文学と映画という、一見すると全く異質に見える存在が、実は、共に特定の社会の下に誕生した以上、同根の存在とならざるを得ない事実を理解してもらえたら幸いである。また、アメリカ文学を文化的背景と絡めて分析する視点も身につけてもらえたらと考えている。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてアメリカ文学作品からの抜粋（日本語の翻訳）をプリントの形で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アメリカ文学思潮史』 福田陸太郎 中教出版
- 『アメリカ文学史 1、2、3』 亀井俊介 南雲堂
- 『アメリカ文学必須用語辞典』 スティーブン・マタソン 松柏社
- 『アメリカ文学案内』 寺門泰彦/渡辺信二 朝日出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 アメリカ文学に関する基礎知識
- 3回 アメリカ文学におけるアメリカ人としての自意識のあり方について
- 4回 ハリウッド映画にみるアメリカ人としての自意識のあり方と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 5回 アメリカ文学における暴力描写について
- 6回 ハリウッド映画における暴力描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 7回 アメリカ文学における移動描写について
- 8回 ハリウッド映画における移動描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 9回 アメリカ文学における恋愛・結婚描写について
- 10回 ハリウッド映画における恋愛・結婚描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 11回 アメリカ文学における超常現象描写について
- 12回 ハリウッド映画における超常現象描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 13回 アメリカ文学における社会意識について
- 14回 ハリウッド映画における社会意識と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 15回 補足説明、総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100% 持ち込みは一切、不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる作家と作品名は事前に知らせますので、参考書等を講義前に参照し、作者と作品に関する基礎的な情報を確認しておいてください。同様に、講義で取り上げる映画も事前に周知しますので、各自で事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。

授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義テーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの現代文学 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

「幸福」について共に考えよう！！

文学作品の面白さの一つは、主人公を中心とする人物たちの様々な生き様を読むことで、読者がいつのまにかその世界にすっかり引き込まれ、自分自身がまるでactor、actressになったかのように別の人生を生きることができるところにあります。人間はともすると、居心地のよい自分だけの小さな世界の中で安穏と生きることで、井の中の蛙になりがちです。そのような中、独りよがりな独善から解放され、より広く深い人間観を持つためには、文学作品を読むことはうってつけの方法と言えるでしょう。更に、より広い世界観を得るためには、自国の文学だけに満足することなく、様々な国々の文学作品に接することも必要です。

現代文学の始まりがいつなのかについては、研究者の間でも諸説入り混じっていますが、イギリス文学史においては20世紀初頭に大きな変化が見られるため、本講義では便宜上、20世紀以降の作品を主に扱うことにします。

イギリスの20世紀以降は、伝統を重んじる保守派の中から、様々な領域において刷新を望む新しい力が台頭してきた、とても興味深い時代です。そのような変化が如実に反映されている文学作品の中でも、この授業ではいくつかの短篇小説を読むことで、様々な人間の「幸福」の問題について一緒に考えていきましょう。授業を通して複眼的な幸福についての視点を持ちつつ議論をすることで、自ら幸福論についての課題を設定し、問題解決ができるようになることを目指してもらえればと思います。

★到達目標

- ①イギリスの現代文学のいくつかの作品を理解すること。
- ②イギリスの現代文学の研究方法を身につけること。(「幸福」のテーマで作品を比較検討すること)
- ③イギリスの現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できること。
- ④イギリスの現代文学に対する関心を更に高めること。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。(原則として翻訳を用いますが、英語で書かれた原作も準備します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 導入 (テーマ、授業の勧め方、評価方法などについての説明)
- 2 回 “The Happy Man” by W. S. Maugham、内容確認と理解
- 3 回 “The Happy Man” by W. S. Maugham、議論 【地位やお金と幸福】
- 4 回 “The Happy Prince” by O. Wilde、内容確認と理解
- 5 回 “The Happy Prince” by O. Wilde、議論 【自己犠牲と幸福】
- 6 回 “A Little Cloud” by James Joyce、内容確認と理解
- 7 回 “A Little Cloud” by James Joyce、議論 【自由や束縛と幸福】
- 8 回 “Miss Brill” by K. Mansfield、内容確認と理解
- 9 回 “Miss Brill” by K. Mansfield、議論 【孤独の不幸】
- 10 回 August Is a Wicked Month by E. O'Brien、内容確認と理解
- 11 回 August Is a Wicked Month by E. O'Brien、議論 【男女の愛の不毛性】
- 12 回 Lady Chatterley’s Lover by D.H. Lawrence、内容確認と理解
- 13 回 Lady Chatterley’s Lover by D.H. Lawrence、議論 【自然との関係にみる救い】
- 14 回 幸福についての議論
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート...90% 平常点 (課題など) ...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に扱う短編については、配布する資料をあらかじめ授業の前に読んでおいてください。授業の理解に有益な読書等も積極的に行なってください。それぞれの作品が終わる度に「幸福と * * *」というテーマで、自分なりの幸福感を更新して貰おう予定です。

原作（英語のオリジナル）のプリントも配布するので、英語を頑張りたい人は積極的にそれを活用して自分で訳す作業をすることをお勧めします。その作業をやった人については、評価に+αの配点をします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

普遍的な「幸福」は果たしてあるのでしょうか。もしあるとすれば、それは一体何なのでしょう……。みんなで一緒に考えましょう！

キーワード /Keywords

【地位やお金と幸福】、【自己犠牲と幸福】、【自由や束縛と幸福】、【孤独の不幸】、【男女の愛の不毛性】、【自然との関係にみる救い】

アメリカの現代文学 【昼】

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

英米の現代文学に対する関心を高めるとともに、その特質を理解する上で必要な専門的知識を習得する。また、英米の現代文学の基本的な研究方法に加え、この分野に関する課題発見力、解決力を身につける。

まず、現代の第一次世界大戦後の荒廃をロス・ジェネレーションの世代として二ヒリズムの虚無と闘ったE・Hemingwayの作品をはじめ、そしてユダヤ系文学、南部文学、第二次世界大戦後のポストモダニズム・マイノリティの文学を読んで、現代アメリカ文学とその背景にある文化への理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

『Let's Learn English from American Literature II』（英宝社） 早瀬博範・江頭理江 編著

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『楽しく読めるアメリカ文学』 高田賢一他編著 (ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業のイントロダクション
 - 第2回：Ernest Hemingway: A Short Happy Life of Francis Macomber
 - 第3回：Ernest Hemingway: The Old Man and the Sea
 - 第4回：John Steinbeck: Of Mice and Men
 - 第5回：John Steinbeck: Of Mice and Men テーマは何か？
 - 第6回：F・S Fitzgerald : The Great Gatsby
 - 第7回：F・S Fitzgerald : The Great Gatsby テーマは何か？
 - 第8回：William Faulkner: A Rose for Emily
 - 第9回：William Faulkner: A Rose for Emily テーマは何か
 - 第10回：Saul Bellow: Seize the Day
 - 第11回：Saul Bellow: Seize the Day テーマを何か？
 - 第12回：Hisae Yamamoto: Seventeen Syllables
 - 第13回：Leslie Maron Silko: テキストから
 - 第14回：ポストモダニズムの文学をいかに読むべきか
 - 第15回：授業全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% レポート 30% 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと (必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの18-19世紀文学 【昼】

担当者名 /Instructor 村里 好俊 / YOSHITOSHI MURASATO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

イギリスの18-19世紀文学について、資料を元に講義する。
まず、18世紀初めころ始まったとされる近代小説発祥の時代背景として重要な産業革命について、その背景と歴史を説明し、それ以前の貴族や地主階級から市民階級の興隆から始めて、イギリスの社会背景の変化を論じ、市民階級に読まれる本として、近代小説が生まれたことを説明し、近代初期小説の特徴とその成り立ちを述べ、具体的作家と作品をいくつか取り上げて、粗筋と内容と主題を解明し、それ以後に生まれた作家・作品に続ける。
また、ゴシック小説の興隆を説明し、その代表的作品と作家を論じる。時代を超えて、最初ゴシック小説と言われる『オトランド城』から『フランケンシュタイン』を経て、19世紀末の『ドラキュラ』まで、連綿と続くゴシック小説について説明する。
イギリス小説の特徴の一つである、女性作家たちについても、その元祖ジェーン・オースティンから初めて、プロンテ三姉妹、ジョージ・エリオットなどを取り上げて論じ、ヴィクトリア朝の大家とされるディケンズやハーディまで解説し、世紀末のオスカー・ワイルドについて、彼の風俗喜劇『理想の結婚』を取り上げて、解説する。
教科書や適宜配布する資料を元に、多数の作家・作品について、説明する。
これに加えて、代表的な詩人たちも取り上げ、特に、ロマン派の詩人たちについては、ワーズワスからキーツまで言及し、具体的に詩を読んでもみたい。

教科書 /Textbooks

村里好俊、『イギリス文学・文化の散歩道』、開文社、2,000円。
(あるいは、川口喬一、『イギリス小説入門』、研究社出版、2500円)
また、適宜プリントを資料として配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○田吹長彦『チャイルド・ハロルドの巡礼』、九州大学出版会
?大塚・村里、『イギリス・ルネサンスの恋愛詩集』、大阪教育図書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イギリスの18世紀の社会について資料を元に講義する。
- ②イギリス18世紀の市民生活について資料を元に講義する。
- ③イギリスの近代初期小説について講義し、具体的な作品の一部を読む。
- ④近代初期作家たちについて資料を元に講義し、作品の一部を読む。
- ⑤その他同時代の作家たちについて資料を元に講義し、作品の一部を読む。
- ⑥最初の女性作家ジェーン・オースティンとその作品について解説し、具体的な作品の一部を読む。
- ⑦プロンテ姉妹について解説し、長女シャーロットの作風と作品について解説し、作品の一部を読む。
- ⑧プロンテ姉妹の次女エミリーの特徴と作品について解説し、作品の一部を読む。
- ⑨大作家チャールズ・ディケンズの特徴と代表作について解説し、作品の一部を読む。
- ⑩もう一人の大作家で詩人のトマス・ハーディの特徴と作品について解説し、作品の一部を読む。
- ⑪18-19世紀の詩人たちについて、その特徴と作品について解説する。
- ⑫19世紀末に現れたロマン派の詩人たちについて、説明する。
- ⑬ロマン派の代表的な詩人ワーズワスについて、その作風と代表作『序曲』について解説する。
- ⑭もう一人のロマン派の詩人ジョン・キーツについて、その特徴と作品について解説し、一篇の詩を読む。
- ⑮ヴィクトリア朝の末期の詩人・劇作家・小説家・批評家オスカー・ワイルドについて解説し、その作品の一部を読む。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・貢献度とレポート 50%
期末試験の成績 50%
以上を総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に予告された作家・詩人について、自ら調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席をしないこと。
予習をして授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業革命。社会の変革。近代小説の始まり。女性作家たちの誕生。新古典派の詩人からロマン派の詩人たちへの変遷。
風俗喜劇。

アメリカの18-19世紀文学 【昼】

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

英米の近代文学に対する関心を高めるとともに、その特質を理解するうえで必要な専門的知識を習得する。同時に英米の近代文学の基本的な研究方法や課題発見力及び解決力を身につける。

アメリカ文学の古典であり、アメリカ植民地時代のピューリタニズムとアメリカの独立の時代を見事に描いたNathaniel Hawthorneの文学、超絶主義 (Transcendentalism) を唱え、アメリカの独自思想の構築に貢献したR.L.Emerson、民主主義の国アメリカの新しい、独立心の強い女を描いた Henry JamesのDaisy Miller、アメリカの国民的作家であり、Minorityの問題に真正面から取り組んだMark Twain などの小説の一節を読んで、アメリカ文学の古典とその背景にある文化への理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

『Let's Learn English from American Literature I』 (英宝社) 早瀬博範・江頭理江 編著
 適宜テキストの補充コピーなども配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『楽しく読めるアメリカ文学』 高田賢一編著 (ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

概要のとおり、授業回ごとに作品をピックアップし、作品の特徴や背景について学ぶ。また、文学作品特有の英語表現についても触れていく。

(【 】 はキーワードを表す)

- 第1回：授業全体のイントロダクション
 - 第2回：Nathaniel Hawthorne: Short Stories
 - 第3回：Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letterをどう読むか？
 - 第4回：Nathaniel Hawthorne: テーマは何なのか？
 - 第5回：R・W・Emerson: 超絶主義とは？
 - 第6回：R・W・Emerson: 超絶主義 Nature
 - 第7回：Mark Twain：Adventures of Huckleberry Finn イン트로ダクション
 - 第8回：Mark Twain：Adventures of Huckleberry Finn 31章をどう読むか
 - 第9回：Mark Twain：Adventures of Huckleberry Finn 最終章をどう読むか？
 - 第10回：Henry James: Daisy Miller イン트로ダクション
 - 第11回：Henry James: Daisy Miller テーマは何なのか？
 - 第12回：Edgar Allan Poe イン트로ダクション
 - 第13回：Edgar Allan Poe The Black Cat
 - 第14回：Edgar Allan Poe 他の作品の主題との関連
 - 第15回：授業全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% レポート 30% 日常の従業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を必ず行ってください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの歴史と社会【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

21世紀に入り20年近くが経過した現在でも、アメリカ社会は相変わらず、人種や民族の問題を抱えている。人種や民族をめぐる問題は、アメリカ合衆国の原則ともいえる民主主義を揺るがしかねない深刻な一面をはらんでいる一方で、アメリカのダイナミズムの源にもなりうる。本講義では主に、アフリカ系アメリカ人、日系人、ヒスパニックを取り上げ、その歴史的背景を踏まえ、今日のアメリカ社会における人種や民族をめぐる問題を考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時及び授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争以前の状況
- 第3回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争後の南部社会
- 第4回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の確立と黒人の抵抗運動
- 第5回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の否定
- 第6回 アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動の進展
- 第7回 アフリカ系アメリカ人の歴史：アフリカ系アメリカ人を取り巻く今日の状況
- 第8回 日系アメリカ人の歴史：前世紀転換期における移住の開始
- 第9回 日系アメリカ人の歴史：20世紀初頭の日本人移民制限の動き
- 第10回 日系アメリカ人の歴史：太平洋戦争の勃発と強制立ち退き
- 第11回 日系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦における日系人部隊
- 第12回 日系アメリカ人の歴史：戦後の補償問題
- 第13回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：ブラセロ計画と1965年移民法
- 第14回 人種・民族をとりまく今日的状況
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(100%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業中に紹介された参考文献を積極的に読み、事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。また、授業に関連するものを中心にニュースに目を通す。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの歴史と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor ODU教員 / 国際教育交流センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

後日掲示

教科書 /Textbooks

後日掲示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日掲示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

後日掲示

成績評価の方法 /Assessment Method

後日掲示

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

後日掲示

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの生活文化 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、20世紀前半を中心としたアメリカの近代建築と、それらが建ち並ぶ都市の歴史を学び、現代合衆国都市の文化や人びとのくらしの源流を探ることにある。本講義では、福田は、合衆国の1900年以降に建設されたモダニズム建築を取り上げ、映像や写真を中心に、デザインの裏側にあるアメリカの文化、建築家の思考、建築デザインが生まれ出される社会的な背景などを解説する。寺田は、19世紀末から20世紀前半の合衆国社会の変容と都市における居住空間の形成、およびそれに伴い発生する問題について解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Twentieth-Century American Architecture: The Buildings and Their Makers (W. W. Norton & Company, 2000) ; 竹田有『アメリカ労働民衆の世界』(ミネルヴァ書房、2010年) ; リチャード・プランツ『ニュー YORK 都市居住の社会史』(鹿島出版会、2005年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . はじめに(寺田)
- 2 . シカゴの近代建築 1 : スカイスクレーパーの誕生 (福田)
- 3 . シカゴの近代建築 2 : 世界の都市に影響を与えたシカゴの超高層建築(福田)
- 4 . ニューヨークの近代建築 1 : ネオゴシックからアールデコ超高層へ(福田)
- 5 . ニューヨークの近代建築 2 : モダニズムからポストモダニズム超高層へ(福田)
- 6 . アメリカの巨匠建築家 : フランク・ロイド・ライト(福田)
- 7 . 歩き回れる都市の変容 1 : 20世紀初頭アメリカにおける産業化・都市化(寺田)
- 8 . 歩き回れる都市の変容 2 : 20世紀初頭アメリカにおける移民の流入 (寺田)
- 9 . メトロポリスの形成 1 : エスニシティと階級(寺田)
- 10 . メトロポリスの形成 2 : 人種と階級(寺田)
- 11 . 都市における対立と隔離の発生 1 : 1919年シカゴ人種暴動(寺田)
- 12 . 郊外における中産階級の再生産 : オークパーク(寺田)
- 13 . 都市における対立と隔離の発生 2 : 1992年ロサンゼルス暴動 (寺田)
- 14 . 都市の変容 : デトロイトの衰退と再生 (寺田)
- 15 . 学生レポート講評とまとめ(福田 / 寺田)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、試験(福田)50%、試験(寺田)50%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業で紹介された参考文献等を積極的に読んだり見たりする。事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの大衆文化 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

日本人も接する機会が多いハリウッド映画をアメリカ大衆文化の題材として取りあげ、映画の中にアメリカ人の精神性や、美意識、価値観がいかなる形で投映されているかを考察する。そのような分析を行うことによって、映画とアメリカ文化との関連性に対する理解を深めてもらう。講義では、アメリカ文化の特性を、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。このプロセスを通して、アメリカ人の価値観や美意識の独自性への理解も深めてもらいたい。最終的には、ハリウッド映画を文化的な文脈の中で分析的に鑑賞する視点を、授業を通して体得してもらえたら幸いである。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『映画で学ぶアメリカ文化』、スクリーンプレイ出版 (映画とアメリカ文化の関連性を様々な視点から)
- 『映画で楽しむアメリカ文学』、金星堂、(アメリカ文学と映画の比較の視点から)
- 『映画で楽しむアメリカの歴史』、金星堂 (映画とアメリカ史の関連性を様々な視点から)
- 『サーカスが来た!』、亀井俊介先生、岩波書店、(指定図書コーナー)(サーカス、オペラハウス、ターザン、ハリウッド)
- 『アメリカンヒーローの系譜』、亀井俊介先生、研究社、クリーム色、(ランボー、ロッキー)
- 『アメリカの大衆文化』、明石書店、清水知久 (映画、音楽、スポーツ、広告)
- 『アメリカの大衆文化』、研究社、亀井俊介、(テレビ、漫画、音楽、映画など)
- 『アメリカが見えてくる』、サイマル出版会、越智道雄 (アメリカ社会の諸現象と映画の関連性)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 『ビッグ』を鑑賞
- 3回 『ビッグ』の子供描写の特徴
- 4回 『A.I.』、『ターミネーター2』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の子供描写の概観
- 5回 アメリカ映画の子供描写の特徴とアメリカ史との関係
- 6回 『フェイス/オフ』、『ターミネーター2、3』、『マスク』、『ミッション・インポッシブル』の変身描写の特徴
- 7回 アメリカ映画に登場する変装描写の全体的特徴
- 8回 アメリカ映画の変身・変装へのこだわりと、アメリカ文化との関係
- 9回 『プラダを着た悪魔』に読み取れる金銭感覚の特徴
- 10回 『フォレスト・ガンプ』、『チャーリーとチョコレート工場』に読み取れる金銭感覚の特徴
- 11回 アメリカ映画に読み取れる金銭感覚と、アメリカ文化との関係
- 12回 『スタンド・バイ・ミー』、『スター・ウォーズ:シスの復讐』、『ダーティハリー2』の銃描写の特徴
- 13回 アメリカ映画の銃描写と、アメリカ史との関係
- 14回 『アナと雪の女王』、『モンスターズ・インク』、『タイタニック』、『魔法にかけられて』に見る階級制の位置づけ
- 15回 アメリカ映画における階級制の位置づけと、アメリカ文化との関係

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100% 持ち込みは一切、不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる映画とテーマは事前に知らせますので、各自で映画を事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。

授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義のテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description
 This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

教科書 /Textbooks
 Mark Hancock (2012). 『English Pronunciation in Use: Intermediate』 2nd edition. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Lessons 1, 2(/ei/, /æ)/, 27(introducing word stress) & 46
- 3回 Lessons 3(/b/, /p/), 4(/s/, /z/), 28(stress in two-syllable words) & 47
- 4回 Lessons 5(/d/, /t/), 6(/i:/, /e/), 29(stress in compound words) & 48
- 5回 Lessons 7(/ə/, /ɪ/), 8(/f/, /v/), 30(stress in longer words 1) & 49
- 6回 Lessons 9(/g/, /k/), 10(/h/, /w/, /j/), 31(stress in longer words 1) & 50
- 7回 Lessons 11(/aɪ/, /ɪ/), 12(/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32(introducing stress patterns) & 51
- 8回 Lessons 13(/l/, /r/), 14(/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- 9回 Lessons 15(/m/, /n/, /ŋ/), 16(/əʊ/, /ɒ/), 34(the verb "to be" in stress patterns) & 53
- 10回 Lessons 17(/θ/, /ð/), 18(/ɹ/, /u:/), 35(auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- 11回 Lessons 19(/ɜ:(r)/, /ɔ:(r)/), 20(/ɔɪ/, /aʊ/), 36(pronouncing short words) & 55
- 12回 Lessons 21(consonant groups), 22(consonant groups), 37(dividing messages into speech units) & 56
- 13回 Lessons 23(-s endings), 24(-ed endings), 38(speech units and grammar) & 57
- 14回 Lessons 25(consonant sounds at word boundaries), 26(vowel sounds at ward boundaries), 39(introduction to main stress) & 58
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method
 定期試験(必須)...80%、平常の学習状況...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks
 発音練習の際自分の口元を見るための手鏡を持参して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

教科書 /Textbooks

Mark Hancock (2012). 『English Pronunciation in Use: Intermediate』 2nd edition. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Lessons 1, 2(/ei/, /æ)/, 27(introducing word stress) & 46
- 3回 Lessons 3(/b/, /p/), 4(/s/, /z/), 28(stress in two-syllable words) & 47
- 4回 Lessons 5(/d/, /t/), 6(/i:/, /e/), 29(stress in compound words) & 48
- 5回 Lessons 7(/ə/, /ɪ/), 8(/f/, /v/), 30(stress in longer words 1) & 49
- 6回 Lessons 9(/g/, /k/), 10(/h/, /w/, /j/), 31(stress in longer words 1) & 50
- 7回 Lessons 11(/aɪ/, /ɪ/), 12(/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32(introducing stress patterns) & 51
- 8回 Lessons 13(/l/, /r/), 14(/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- 9回 Lessons 15(/m/, /n/, /ŋ/), 16(/əʊ/, /ɒ/), 34(the verb "to be" in stress patterns) & 53
- 10回 Lessons 17(/θ/, /ð/), 18(/ɹ/, /ʊ/, /u:/), 35(auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- 11回 Lessons 19(/ɜ:(r)/, /ɔ:(r)/), 20(/ɔɪ/, /aʊ/), 36(pronouncing short words) & 55
- 12回 Lessons 21(consonant groups), 22(consonant groups), 37(dividing messages into speech units) & 56
- 13回 Lessons 23(-s endings), 24(-ed endings), 38(speech units and grammar) & 57
- 14回 Lessons 25(consonant sounds at word boundaries), 26(vowel sounds at ward boundaries), 39(introduction to main stress) & 58
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(必須)...80%、平常の学習状況...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

発音練習の際自分の口元を見るための手鏡を持参して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description
 This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

教科書 /Textbooks
 Mark Hancock (2012). 『English Pronunciation in Use: Intermediate』 2nd edition. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Lessons 1, 2(/ei/, /æ)/, 27(introducing word stress) & 46
- 3回 Lessons 3(/b/, /p/), 4(/s/, /z/), 28(stress in two-syllable words) & 47
- 4回 Lessons 5(/d/, /t/), 6(/i:/, /e/), 29(stress in compound words) & 48
- 5回 Lessons 7(/ə/, /ɪ/), 8(/f/, /v/), 30(stress in longer words 1) & 49
- 6回 Lessons 9(/g/, /k/), 10(/h/, /w/, /j/), 31(stress in longer words 1) & 50
- 7回 Lessons 11(/aɪ/, /ɪ/), 12(/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32(introducing stress patterns) & 51
- 8回 Lessons 13(/l/, /r/), 14(/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- 9回 Lessons 15(/m/, /n/, /ŋ/), 16(/əʊ/, /ɒ/), 34(the verb "to be" in stress patterns) & 53
- 10回 Lessons 17(/θ/, /ð/), 18(/ɹ/, /ʊ/, /u:/), 35(auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- 11回 Lessons 19(/ɜ:(r)/, /ɔ:(r)/), 20(/ɔɪ/, /aʊ/), 36(pronouncing short words) & 55
- 12回 Lessons 21(consonant groups), 22(consonant groups), 37(dividing messages into speech units) & 56
- 13回 Lessons 23(-s endings), 24(-ed endings), 38(speech units and grammar) & 57
- 14回 Lessons 25(consonant sounds at word boundaries), 26(vowel sounds at ward boundaries), 39(introduction to main stress) & 58
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method
 定期試験(必須)...80%、平常の学習状況...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks
 発音練習の際自分の口元を見るための手鏡を持参して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

担当者名 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1 - 4
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course aims to improve students' English pronunciation including individual sounds (vowels and consonants), word stress, connected speech and intonation. It will also develop their listening and speaking skills by providing both receptive and productive practice.

教科書 /Textbooks

Mark Hancock (2012). 『English Pronunciation in Use: Intermediate』 2nd edition. Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Lessons 1, 2(/ei/, /æ)/, 27(introducing word stress) & 46
- 3回 Lessons 3(/b/, /p/), 4(/s/, /z/), 28(stress in two-syllable words) & 47
- 4回 Lessons 5(/d/, /t/), 6(/i:/, /e/), 29(stress in compound words) & 48
- 5回 Lessons 7(/ə/, /ɪ/), 8(/f/, /v/), 30(stress in longer words 1) & 49
- 6回 Lessons 9(/g/, /k/), 10(/h/, /w/, /j/), 31(stress in longer words 1) & 50
- 7回 Lessons 11(/aɪ/, /ɪ/), 12(/ʃ/, /dʒ/, /tʃ/), 32(introducing stress patterns) & 51
- 8回 Lessons 13(/l/, /r/), 14(/ɑ:(r)/, /eə(r)/), 33(pronouns in stress patterns) & 52
- 9回 Lessons 15(/m/, /n/, /ŋ/), 16(/əʊ/, /ɒ/), 34(the verb "to be" in stress patterns) & 53
- 10回 Lessons 17(/θ/, /ð/), 18(/ɹ/, /ʊ/, /u:/), 35(auxiliary verbs in stress patterns) & 54
- 11回 Lessons 19(/ɜ:(r)/, /ɔ:(r)/), 20(/ɔɪ/, /aʊ/), 36(pronouncing short words) & 55
- 12回 Lessons 21(consonant groups), 22(consonant groups), 37(dividing messages into speech units) & 56
- 13回 Lessons 23(-s endings), 24(-ed endings), 38(speech units and grammar) & 57
- 14回 Lessons 25(consonant sounds at word boundaries), 26(vowel sounds at ward boundaries), 39(introduction to main stress) & 58
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(必須)...80%、平常の学習状況...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

発音練習の際自分の口元を見るための手鏡を持参して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習II【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1 - 1
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course is designed to allow students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the writing of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques. The final goal is the completion and submission of an academic paper in English.

教科書 /Textbooks

Daniel C. Strack & Fiona Creaser. Writing for Response. Okayama: University Education Press, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Lesson 1: Course Introduction
- Lesson 2: Biographical Writing
- Lesson 3: Journalistic Writing
- Lesson 4: Opinion Essay
- Lesson 5: Evaluating Texts
- Lesson 6: Outlining and Summarizing
- Lesson 7: Determining a Subject
- Lesson 8: Organizing Paragraphs
- Lesson 9: Citing Source Information
- Lesson 10: Revising a Draft
- Lesson 11: Writing Introductions and Conclusions
- Lesson 12: Academic Paper Guidance A
- Lesson 13: Academic Paper Guidance B
- Lesson 14: Academic Paper Guidance C
- Lesson 15: Submission

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments/Attitude/Class Participation/ ... 50% Academic Paper ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice and grow accustomed to the various writing-related skills covered in class.

履修上の注意 /Remarks

Speaking practice will also constitute part of the course and each class will include time for discussion of class content in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students are encouraged to buy the textbook and familiarize themselves with it before the first class session because it will be used in the first session.

キーワード /Keywords

基礎演習II【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1 - 2
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course is designed to allow students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the writing of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques. The final goal is the completion and submission of an academic paper in English.

教科書 /Textbooks

Daniel C. Strack & Fiona Creaser. Writing for Response. Okayama: University Education Press, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Lesson 1: Course Introduction
- Lesson 2: Biographical Writing
- Lesson 3: Journalistic Writing
- Lesson 4: Opinion Essay
- Lesson 5: Evaluating Texts
- Lesson 6: Outlining and Summarizing
- Lesson 7: Determining a Subject
- Lesson 8: Organizing Paragraphs
- Lesson 9: Citing Source Information
- Lesson 10: Revising a Draft
- Lesson 11: Writing Introductions and Conclusions
- Lesson 12: Academic Paper Guidance A
- Lesson 13: Academic Paper Guidance B
- Lesson 14: Academic Paper Guidance C
- Lesson 15: Submission

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments/Attitude/Class Participation/ ... 50% Academic Paper ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice and grow accustomed to the various writing-related skills covered in class.

履修上の注意 /Remarks

Speaking practice will also constitute part of the course and each class will include time for discussion of class content in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students are encouraged to buy the textbook and familiarize themselves with it before the first class session because it will be used in the first session.

キーワード /Keywords

基礎演習II【昼】

担当者名 /Instructor ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course is designed to allow students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the composition of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques.

教科書 /Textbooks

Daniel C. Strack & Fiona Creaser. Writing for Response. Okayama: University Education Press, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Reference works will be suggested as necessary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Lesson 1: Biographical Writing
 Lesson 2: Sentences and Paragraphs
 Lesson 3: Storytelling
 Lesson 4: Journalistic Writing
 Lesson 5: Opinion Essays
 Lesson 6: Outlining and Summarizing
 Lesson 7: Organizing Information
 Lesson 8: Determining a Subject
 Lesson 9: Citing Source Information
 Lesson 10: Revising a Draft
 Lesson 11: Writing Poetry in English
 Lesson 12: Term Paper Clinic
 Lesson 13: Term Paper Submission
 Lesson 14: Review
 Lesson 15: Papers Returned / Course Wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation : 30%, Quizzes : 20%, Assignments : 30%, Attitude : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preview: Please check the appropriate text chapter ahead of time for difficult vocabulary.
 Review: Please make sure you understand the main points of each chapter before moving on.

履修上の注意 /Remarks

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice various writing-related skills. Students are expected to familiarize themselves with the textbook before the first class session. After the final lesson, students should carefully review all English corrections in returned writing assignments.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

In a writing course, finishing weekly assignments on time and according to instructor specifications is the only way to gain full benefit from the class.

キーワード /Keywords

Sentences, Paragraphs, Essays, Academic, English, Writing.

基礎演習II【昼】

担当者名 /Instructor ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course is designed to allow students to improve their English writing skills and general English ability. Students will learn various writing strategies, culminating in the composition of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques.

教科書 /Textbooks

Daniel C. Strack & Fiona Creaser. Writing for Response. Okayama: University Education Press, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Reference works will be suggested as necessary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Lesson 1: Biographical Writing
- Lesson 2: Sentences and Paragraphs
- Lesson 3: Storytelling
- Lesson 4: Journalistic Writing
- Lesson 5: Opinion Essays
- Lesson 6: Outlining and Summarizing
- Lesson 7: Organizing Information
- Lesson 8: Determining a Subject
- Lesson 9: Citing Source Information
- Lesson 10: Revising a Draft
- Lesson 11: Writing Poetry in English
- Lesson 12: Term Paper Clinic
- Lesson 13: Term Paper Submission
- Lesson 14: Review
- Lesson 15: Papers Returned / Course Wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation : 30%, Quizzes : 20%, Assignments : 30%, Attitude : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preview: Please check the appropriate text chapter ahead of time for difficult vocabulary.
 Review: Please make sure you understand the main points of each chapter before moving on.

履修上の注意 /Remarks

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice various writing-related skills. Students are expected to familiarize themselves with the textbook before the first class session. After the final lesson, students should carefully review all English corrections in returned writing assignments.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

In a writing course, finishing weekly assignments on time and according to instructor specifications is the only way to gain full benefit from the class.

キーワード /Keywords

Sentences, Paragraphs, Essays, Academic, English, Writing.

英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義・ 実習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

Using the compelling National Geographic stories, photos, videos and infographics students will have the opportunity to bring the world to the classroom. Students will have the opportunity to engage in authentic and relevant study which will equip them with the skills needed for academic success.

教科書 /Textbooks

Pathways Second edition 2A Chase and Lee; Cengage

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good English/Japanese dictionary

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1 Healthy lives-a conversation about allergies
- 2 Presenting healthy habits- expectations of frequency
- 3 Technology today and tomorrow-can robots learn to be like humans
- 4 Giving reason and eye contact
- 5 Presenting a new technology product
- 6 Culture and tradition-lecture about cowboys
- 7 Asking for and giving clarification
- 8 The role of past continuous and reduced function words
- 9 A thirsty world- Dam release rafting
- 10 Asking and giving opinions
- 11 Inside the brain- 3D brain scans
- 12 A discussion about food psychology
- 13 Using transitions
- 14 Wonders from the past- listening and giving examples
- 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Unit 1 Review test 25%, Unit 2 Review test 25% Unit 3 Review test 25% and final power point presentation 25%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

Students will research, discuss, and write about topics related to contemporary social and political issues. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will make three presentations. Students will improve their writing, discussion, critical thinking and presentation skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Explanation and Multiculturalism Introduction
- 2回 Multiculturalism Expansion
- 3回 Immigration – Advantages and Disadvantages
- 4回 Gender Equality and the Gender Gap
- 5回 Writing an Opinion Essay
- 6回 Gender Issues Jigsaw Sharing
- 7回 Peer-editing Presentation 1 / Presentation 1 Preparation / Sexual Harassment
- 8回 Presentation 1
- 9回 Gender Stereotypes
- 10回 Winter Holidays Cultural Comparison
- 11回 Visual Literacy: Gender Representations in Movie Posters
- 12回 Gender Representations in Movie Posters Group Presentations
- 13回 Peace & Conflict: Peacemakers
- 14回 Peace & Conflict: Resolving a Dispute
- 15回 Peer-editing Presentation 2 / Presentation 2 Preparation / Regional Territorial Disputes

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 20%, Participation 20%, Homework 20%, Presentations 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive writing assignments to demonstrate writing skills and contribute to group tasks. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

Students will research, discuss, and write about topics related to contemporary social and political issues. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will make three presentations. Students will improve their writing, discussion, critical thinking and presentation skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Explanation and Multiculturalism Introduction
- 2回 Multiculturalism Expansion
- 3回 Immigration – Advantages and Disadvantages
- 4回 Gender Equality and the Gender Gap
- 5回 Writing an Opinion Essay
- 6回 Gender Issues Jigsaw Sharing
- 7回 Peer-editing Presentation 1 / Presentation 1 Preparation / Sexual Harassment
- 8回 Presentation 1
- 9回 Gender Stereotypes
- 10回 Winter Holidays Cultural Comparison
- 11回 Visual Literacy: Gender Representations in Movie Posters
- 12回 Gender Representations in Movie Posters Group Presentations
- 13回 Peace & Conflict: Peacemakers
- 14回 Peace & Conflict: Resolving a Dispute
- 15回 Peer-editing Presentation 2 / Presentation 2 Preparation / Regional Territorial Disputes

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 20%, Participation 20%, Homework 20%, Presentations 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive writing assignments to demonstrate writing skills and contribute to group tasks. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

Students will research, discuss, and write about topics related to contemporary social and political issues. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will make three presentations. Students will improve their writing, discussion, critical thinking and presentation skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Explanation and Multiculturalism Introduction
- 2回 Multiculturalism Expansion
- 3回 Immigration – Advantages and Disadvantages
- 4回 Gender Equality and the Gender Gap
- 5回 Writing an Opinion Essay
- 6回 Gender Issues Jigsaw Sharing
- 7回 Peer-editing Presentation 1 / Presentation 1 Preparation / Sexual Harassment
- 8回 Presentation 1
- 9回 Gender Stereotypes
- 10回 Winter Holidays Cultural Comparison
- 11回 Visual Literacy: Gender Representations in Movie Posters
- 12回 Gender Representations in Movie Posters Group Presentations
- 13回 Peace & Conflict: Peacemakers
- 14回 Peace & Conflict: Resolving a Dispute
- 15回 Peer-editing Presentation 2 / Presentation 2 Preparation / Regional Territorial Disputes

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 20%, Participation 20%, Homework 20%, Presentations 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive writing assignments to demonstrate writing skills and contribute to group tasks. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

Students will research, discuss, and write about topics related to contemporary social and political issues. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will make three presentations. Students will improve their writing, discussion, critical thinking and presentation skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Explanation and Multiculturalism Introduction
- 2回 Multiculturalism Expansion
- 3回 Immigration – Advantages and Disadvantages
- 4回 Gender Equality and the Gender Gap
- 5回 Writing an Opinion Essay
- 6回 Gender Issues Jigsaw Sharing
- 7回 Peer-editing Presentation 1 / Presentation 1 Preparation / Sexual Harassment
- 8回 Presentation 1
- 9回 Gender Stereotypes
- 10回 Winter Holidays Cultural Comparison
- 11回 Visual Literacy: Gender Representations in Movie Posters
- 12回 Gender Representations in Movie Posters Group Presentations
- 13回 Peace & Conflict: Peacemakers
- 14回 Peace & Conflict: Resolving a Dispute
- 15回 Peer-editing Presentation 2 / Presentation 2 Preparation / Regional Territorial Disputes

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 20%, Participation 20%, Homework 20%, Presentations 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive writing assignments to demonstrate writing skills and contribute to group tasks. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論 【昼】

専門教育科目
 専門基礎教育科目
 選択科目

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
 単位 /Credits: 2単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course gives an overview of many different areas of linguistics including:

- ・Phonology
- ・Morphology
- ・Syntax
- ・Pragmatics
- ・Semantics
- ・Sociolinguistics
- ・First and second language acquisition
- ・Animal communication

It is meant to give students a taste of the many different areas of study that are contained within the umbrella term "linguistics".

英語の音声システム、英語の単語の形態の作り方、英語の文法の構文の3つの基本的な言語学の分野についての知識を習得する。このコースの目的は、英語の音声システム、英語の単語の形態の作り方、英語の文法の構文の3つの基本的な言語学の分野についての知識を習得することです。また、語用論や意味論、社会言語学、言語習得、動物のコミュニケーションなど、英語がどのように機能するかを理解するのに役立つ言語学の他の分野にも触れます。

教科書 /Textbooks

要求せず

There is no textbook for this class because I have not been able to find anything appropriate. Therefore, you will have to rely heavily on your notes for this class, making it even more important to come to class and to understand what we are doing. I will have readings available which may help you to understand better what I am saying in class, but the things covered in class may not always be exactly the same as the readings. Take a look at them and see if they are helpful for you for understanding each chapter.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『英語学基礎講義 英語学ってどんな学問?』 2011 高橋勝忠著 現代図書
- 『英語学へのファーストステップ』 2009 有村兼彬 (他) 英宝社
- 『新英語学概論』 2007 八木克正 単行本
- 『英語学入門』 2001 安藤貞雄 単行本

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (国際共通語としての英語)
- 第2回 音韻学 (1) 【IPA 概論】
- 第3回 音韻学 (2) 【調音部位】
- 第4回 形態学 (1) 【接頭辞】
- 第5回 形態学 (1) 【言葉分析】
- 第6回 文法 (1) 【品詞】
- 第7回 文法 (1) 【語順】
- 第8回 中間テスト (音韻学、形態学、文法)
- 第9回 第一言語習得
- 第10回 第二言語習得
- 第11回 動物コミュニケーション
- 第12回 社会言語学
- 第13回 意味論
- 第14回 語用論
- 第15回 神経言語学

Week 1: Introduction
Week 2: International Phonetic Alphabet
Week 3: Sounds of the world
Week 4: Morphology: How words work
Week 5: Morphology: How to pull words apart
Week 6: Syntax and word order
Week 7: Syntax and structure
Week 8: Review for Midterm; First language acquisition
Week 9: Midterm exam
Week 10: Second language acquisition
Week 11: Review midterm
Week 12: Sociolinguistics
Week 13: Pragmatics
Week 14: Animal Communication
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

毎週のクイズ: 35%; 宿題: 45%; 中期テスト20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review your notes every week and rewrite them for best retention of the material. Do your homework every week and check answers in class or on the web in order to understand what we are doing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

linguistics, introduction, phonetics, syntax, morphology, language acquisition, pragmatics, sociolinguistics

英文法I【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

英語の仕組みを平易な切り口で説明し、実践的な英文法の知識の習得を目標とする。この授業では、特に動詞句の用法について、具体例を多用しながら考察を進める。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 (David Crystal著 Longman)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』 (豊永 彰著 南雲堂 1,400円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Types of sentences
- 3回 Clause types
- 4回 The verb element, The subject element
- 5回 The object element, The complement element
- 6回 The adverbial element
- 7回 Verb phrase structure
- 8回 Auxiliary verbs
- 9回 Modal meanings
- 10回 The moods of the verb phrase
- 11回 Verb tenses
- 12回 Future time
- 13回 Verb aspects
- 14回 Active and passive
- 15回 学習内容の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示された次回の学習予定項目を必ず読んでおき、授業後はテキストやノートを読み返しておくこと。(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

授業時に辞書を使用するので、辞書(紙または電子)を必ず持ってくる。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの欠席や遅刻が多い場合には単位の取得が難しくなることがあるので、留意するように。

キーワード /Keywords

「使える英文法」文の仕組み 動詞句の用法

英文法II 【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業では、単なる知識に留まらず、英語を使いこなすための根幹となる項目の習得を図り、主に名詞句・冠詞・形容詞等、特に英語を書く際に重要な項目を学習する。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal 著 Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』 (豊永 彰著) 南雲堂 ￥1,400

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容と成績評価の仕方に関する説明 今後の概説
- 2回 The noun phrase: outline of NP
- 3回 The noun phrase: common and proper nouns
- 4回 The noun phrase: count and noncount nouns
- 5回 The noun phrase: variable and invariable nouns
- 6回 The noun phrase: gender and case
- 7回 Determiners
- 8回 The articles
- 9回 Predeterminers, premodification
- 10回 Relative clauses
- 11回 Pronouns
- 12回 Adjectives
- 13回 Adverbs
- 14回 Prepositions
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80%、日頃の授業への取り組み...20%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示された次回の学習予定項目を必ず読んでくること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

専門基礎教育科目の「英文法I」とあわせて受講すればわかりやすい。また授業時に辞書を使用するので、辞書(紙または電子)を必ず持参すること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの欠席や遅刻が多い場合は単位の取得が難しくなることがあるので、留意すること。

キーワード /Keywords

名詞句の特徴、冠詞、形容詞・副詞、前置詞

異文化間コミュニケーション概論 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

日本と主にアメリカを例に取り、異文化接触に伴うコミュニケーション（非言語も含む）の衝突、摩擦の事例を考察し、そのメカニズムを言語的、社会的、文化的要因に分解しながら解明していく。その中で異文化コミュニケーションの関する実践的方法論などにも触れる。

教科書 /Textbooks

授業最初のコースワークの説明の時に知らせる。また必要な資料は授業において適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

チャールズ・プリブル 『科学としての異文化コミュニケーション』ナカニシヤ出版
 ヘレン・スペンサー＝オーティエ編著 『異文化理解の語用論』
 古田暁（監修） 『異文化コミュニケーション』有斐閣選書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 文化とは何か、コミュニケーションとは何か
- 第3回 異文化コミュニケーションの諸相
- 第4回 ことばと文化とコミュニケーション（言語相対性論仮説を含む）
- 第5回 日本語と英語の構造に起因するコミュニケーション・ギャップ
- 第6回 事例観察 各事例とその基となる日米文化の差異（直感的な観察）
- 第7回 ハイコンテクスト、ローコンテクストに基づく分析
- 第8回 日本人の謝罪文化
- 第9回 事例研究 『欧米人が沈黙するとき』聞き取り調査に基づく分析
 『日米コミュニケーション・ギャップ』統計的処理の実例
- 第10回 事例研究 実践方法（バーランド）の手順（「私的自己、公的自己」「防御の方策」）
- 第11回 非言語コミュニケーション（Proxemics, Kinesics）
- 第12回 広告、翻訳に見る異文化コミュニケーション
- 第13回 異文化適応、カルチュラル・アシミレーター
- 第14回 研究領域、日韓行動の差異
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動40% 期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- （事前）「文化とコミュニケーション」に関する総括的な文献に目を通しておくこと。
- （事後）グローバル社会におけるコミュニケーションのあり方を各自確認すること。

履修上の注意 /Remarks

コミュニケーション論であり、スキルの問題を扱う訳ではない。中心課題は、日本語話者と英語話者との文化的要因に基づくコミュニケーション・ギャップを扱うが、それに付随する様々な現象を幅広く扱っていく。
 授業では、取り上げた様々な事例に対して各自の意見を求める、また英語の文献も多用するのでその準備も必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本授業は英語のリスニングスキルの上達を目的とします。オーディオ教材を利用して、語彙・表現・聴き取り等の練習をします。情報を正確に聴き取るために必要なリスニング力を強化することで、総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とします。

教科書 /Textbooks

Timothy Knowles, Charles Lowe, Mayumi Tamura, Minne Tanaka & Mihoko Nakamura. 『British News Update』 金星堂 2019年.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Repairing Big Ben
- 3回 Unit 2 Learning to Walk Again
- 4回 Unit 3 A Secret Garden in London
- 5回 Unit 4 Unpaid Internships
- 6回 Unit 5 The Wedding Gallery
- 7回 復習&第1回小テスト
- 8回 Unit 6 A modern Steam Train
- 9回 Unit 7 A T-shirt Exhibition
- 10回 Unit 8 Generation Z
- 11回 Unit 9 Veganuary
- 12回 Unit 10 Wind Power in Britain
- 13回 Unit 11 Preventing Transgender Bullying
- 14回 復習&第2回小テスト
- 15回 全体Review

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40%、小テスト(2回)...50%、平常の学習状況...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。必ず辞書を持参して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名
/Instructor

ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 2 - 1
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course uses high interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. The underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication.

教科書 /Textbooks

Pathways Listening, Speaking and Critical Thinking 3- Cengage Learning B. Traver, C Kirstin and L. Johannsen
Combo Spilt 3A with online workbook access cod

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good Bilingual dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1st week- Orientation
2nd week- Gender and Society- giving a presentation about a name
3rd week- Indefinite pronouns and usage, talking about rules and expectations
4th week- Reproducing life- discussing species conservation
5th week- adjective clauses and making suggestions
6th week- Human migration; PowerPoint lecture and discussing case studies
7th week- Adjectives with too, enough and not enough and asking for reasons
8th week- Fascinating planet, listening to a documentary
9th week- Tuning out distractions, taking notes during a documentary
10th week-The simple past with the past continuous
11th week- Talking about historical events, causes and effects
12th week- Making a living and making a difference, understanding meaning from context
13th week- Using as.....as, Indirect questions
14th week- Review
15th week- Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

3 Unit tests (80%) and 1 presentation (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to write a peer journal about what they have done over the last week. In the class they exchange their peer journal with a partner and respond to the partner's journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・ 実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course uses high interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. The underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication.

教科書 /Textbooks

Pathways Listening, Speaking and Critical Thinking 3- Cengage Learning B. Traver, C Kirstin and L. Johannsen
Combo Spilt 3A with online workbook access cod

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good Bilingual dictionary

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1st week- Orientation
- 2nd week- Gender and Society- giving a presentation about a name
- 3rd week- Indefinite pronouns and usage, talking about rules and expectations
- 4th week- Reproducing life- discussing species conservation
- 5th week- adjective clauses and making suggestions
- 6th week- Human migration; PowerPoint lecture and discussing case studies
- 7th week- Adjectives with too, enough and not enough and asking for reasons
- 8th week- Fascinating planet, listening to a documentary
- 9th week- Tuning out distractions, taking notes during a documentary
- 10th week-The simple past with the past continuous
- 11th week- Talking about historical events, causes and effects
- 12th week- Making a living and making a difference, understanding meaning from context
- 13th week- Using as.....as, Indirect questions
- 14th week- Review
- 15th week- Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

3 Unit tests (80%) and 1 presentation (20%)

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to write a peer journal about what they have done over the last week. In the class they exchange their peer journal with a partner and respond to the partner's journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
 単位 /Credits: 2単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義・実習
 クラス /Class: 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to help students to gain confidence with speaking in English. In this course, you will learn about using English by completing various guided activities, group speaking activities and practical exercises. In this course students will also practice other English skills such as listening, reading and writing. However, the focus will be to speaking and understanding practical, realistic styles of English.

教科書 /Textbooks

Keynote – Combo Split 3A with my Keynote Online (2017 Cengage Learning) ISBN 978-1-337-10896-6 Paul Dummett, Helen Stephenson, Lewis Lansford

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Class: Course outline and Introductions.
2. Textbook Lessons 1A. "Making a Difference"
3. Textbook Lessons 1B. "Making a Difference"
4. Textbook Lessons 2A. "Trends"
5. Textbook Lessons 2B. "Trends"
6. Textbook Lessons 3A. "Improving Lives"
7. Textbook Lessons 3B. " Improving Lives "
8. Presentation (Talking about how you can make a difference)
9. Textbook Lessons 4A. "Designing the Web"
10. Textbook Lessons 4B. " Designing the Web "
11. Textbook Lessons 5A. "Community Builders"
12. Textbook Lessons 5B, "Community Builders"
13. Textbook Lessons 6A, "Clear Communication"
14. Textbook Lessons 6B, "Clear Communication"
15. Textbook Unit Test
16. Final Presentation (How to improve communication)

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation Grades 30%; Participation 15%; Homework 25% Textbook Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.
 At the end of the course, student should be confident with being able to accurately speak about different topics and give their opinion confidently.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students are encouraged to bring a dictionary to class and access to a computer is needed.

キーワード /Keywords

Speaking, English, English speaking, discussion, debate

英会話演習B 【昼】

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
 単位 /Credits: 2単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義・実習
 クラス /Class: 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to help students to gain confidence with speaking in English. In this course, you will learn about using English by completing various guided activities, group speaking activities and practical exercises. In this course students will also practice other English skills such as listening, reading and writing. However, the focus will be to speaking and understanding practical, realistic styles of English.

教科書 /Textbooks

Keynote – Combo Split 3A with my Keynote Online (2017 Cengage Learning) ISBN 978-1-337-10896-6 Paul Dummett, Helen Stephenson, Lewis Lansford

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Class: Course outline and Introductions.
2. Textbook Lessons 1A. "Making a Difference"
3. Textbook Lessons 1B. "Making a Difference"
4. Textbook Lessons 2A. "Trends"
5. Textbook Lessons 2B. "Trends"
6. Textbook Lessons 3A. "Improving Lives"
7. Textbook Lessons 3B. " Improving Lives "
8. Presentation (Talking about how you can make a difference)
9. Textbook Lessons 4A. "Designing the Web"
10. Textbook Lessons 4B. " Designing the Web "
11. Textbook Lessons 5A. "Community Builders"
12. Textbook Lessons 5B, "Community Builders"
13. Textbook Lessons 6A, "Clear Communication"
14. Textbook Lessons 6B, "Clear Communication"
15. Textbook Unit Test
16. Final Presentation (How to improve communication)

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation Grades 30%; Participation 15%; Homework 25% Textbook Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.
 At the end of the course, student should be confident with being able to accurately speak about different topics and give their opinion confidently.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students are encouraged to bring a dictionary to class and access to a computer is needed.

キーワード /Keywords

Speaking, English, English speaking, discussion, debate

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、英語の表現力及び英作文に関する知識を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account, Revised 2nd Edition. (Okayama: University Education Press, 2016).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適切な和英辞典または電子辞典は必要(辞典の選択は各自判断の上)。プリントは必要に応じて配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知识】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：教科書のリーディングに分からない語彙があれば、前もって調べて下さい。
- 事後学習：授業が終わってから教員が指摘したポイントを自分の訳と照らし合わせて確認して下さい。

履修上の注意 /Remarks

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor ロッシェル カップ / Rochelle Kopp / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、英語の表現力及び英作文に関する知識を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account, Revised 2nd Edition. (Okayama: University Education Press, 2016).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適切な和英辞典または電子辞典は必要(辞典の選択は各自判断の上)。プリントは必要に応じて配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知识】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書のリーディングに分からない語彙があれば、前もって調べて下さい。
事後学習：授業が終わってから教員が指摘したポイントを自分の訳と照らし合わせて確認して下さい。

履修上の注意 /Remarks

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、英語の表現力及び英作文に関する知識を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account, Revised 2nd Edition. (Okayama: University Education Press, 2016).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適切な和英辞典または電子辞典は必要(辞典の選択は各自判断の上)。プリントは必要に応じて配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知识】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書のリーディングに分からない語彙があれば、前もって調べて下さい。
事後学習：授業が終わってから教員が指摘したポイントを自分の訳と照らし合わせて確認して下さい。

履修上の注意 /Remarks

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor ロッシェル カップ / Rochelle Kopp / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、英語の表現力及び英作文に関する知識を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account, Revised 2nd Edition. (Okayama: University Education Press, 2016).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適切な和英辞典または電子辞典は必要(辞典の選択は各自判断の上)。プリントは必要に応じて配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知识】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書のリーディングに分からない語彙があれば、前もって調べて下さい。
事後学習：授業が終わってから教員が指摘したポイントを自分の訳と照らし合わせて確認して下さい。

履修上の注意 /Remarks

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The course objective is to give students the opportunity to develop Reading, Writing, Critical thinking and Discussion Skills. The course focuses on situational English communication skills, taking into consideration cultural and social values and analytical skills in an international context. Students will learn words and expressions to improve fluency and accuracy in their conversations, interactions and build strong social relationships. In class, students will work in pairs and small groups to complete the textbook's exercises, conversations and practice discussions.

教科書 /Textbooks

Pathways. Reading, Writing, and Critical Thinking 3.
Authors: Mari Vargo and Laurie Blass
Publisher: National Geographic Learning, Cengage Learning.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Social Relationships
- 2.Science and Investigation
- 3.City Solutions
- 4.Danger Zones
- 5.The Travel Business
6. The Travel Business
7. Pair Presentation
8. Pair Presentation
- 9.Information Design
- 10.Global Challenges
- 11.Medical Innovations
- 12.World Languages
- 13.Survival Instinct
14. Small Group Presentation
15. Small Group Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

Pair Presentation (1)	30%
Small Group Presentation (2)	30%
Textbook Assignments	20%
Class Participation	20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Welcome to Reading and Discussion I.
Enjoy the course writing tasks, exercises and discussions. See you in class!

キーワード /Keywords

Reading, Writing, Critical, Thinking, Discuss, Presentations.

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The course objective is to give students the opportunity to develop Reading, Writing, Critical thinking and Discussion Skills. The course focuses on situational English communication skills, taking into consideration cultural and social values and analytical skills in an international context. Students will learn words and expressions to improve fluency and accuracy in their conversations, interactions and build strong social relationships. In class, students will work in pairs and small groups to complete the textbook's exercises, conversations and practice discussions.

教科書 /Textbooks

Pathways. Reading, Writing, and Critical Thinking 3.
Authors: Mari Vargo and Laurie Blass
Publisher: National Geographic Learning, Cengage Learning.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Social Relationships
- 2.Science and Investigation
- 3.City Solutions
- 4.Danger Zones
- 5.The Travel Business
6. The Travel Business
7. Pair Presentation
8. Pair Presentation
- 9.Information Design
- 10.Global Challenges
- 11.Medical Innovations
- 12.World Languages
- 13.Survival Instinct
14. Small Group Presentation
15. Small Group Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

Pair Presentation (1)	30%
Small Group Presentation (2)	30%
Textbook Assignments	20%
Class Participation	20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the course material before and after class.

履修上の注意 /Remarks

Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Welcome to Reading and Discussion I.
Enjoy the course writing tasks, exercises and discussions. See you in class!

キーワード /Keywords

Reading, Writing, Critical, Thinking, Discuss, Presentations.

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and discuss topics related to contemporary cultural and environmental issues. Students will be expected to present thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their reading, discussion, and critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus lesson - course objectives and introductions
- 2回 Waste and Recycling – 3Rs
- 3回 Climate Change – Introduction and Causes
- 4回 Climate Change – Effects
- 5回 Climate Change – Jigsaw Share and Discussion
- 6回 Climate Change – Solutions
- 7回 Political Cartoon Analysis and Presentations
- 8回 Endangered Species – Introduction and Research
- 9回 Endangered Species – Information Consolidation
- 10回 Endangered Species – Case Studies: Rhinos and Gorillas
- 11回 Controversial Issue – Whaling
- 12回 Tragedy of the Commons / Responsible Tourism Introduction
- 13回 Responsible Tourism Data Analysis
- 14回 Responsible Tourism Code and Discussion
- 15回 Review and Prepare for Final Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 30%, Participation 30%, Homework 20%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive reading assignments to augment class topics and help prepare for weekly class discussions. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and discuss topics related to contemporary cultural and environmental issues. Students will be expected to present thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their reading, discussion, and critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus lesson - course objectives and introductions
- 2回 Waste and Recycling – 3Rs
- 3回 Climate Change – Introduction and Causes
- 4回 Climate Change – Effects
- 5回 Climate Change – Jigsaw Share and Discussion
- 6回 Climate Change – Solutions
- 7回 Political Cartoon Analysis and Presentations
- 8回 Endangered Species – Introduction and Research
- 9回 Endangered Species – Information Consolidation
- 10回 Endangered Species – Case Studies: Rhinos and Gorillas
- 11回 Controversial Issue – Whaling
- 12回 Tragedy of the Commons / Responsible Tourism Introduction
- 13回 Responsible Tourism Data Analysis
- 14回 Responsible Tourism Code and Discussion
- 15回 Review and Prepare for Final Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 30%, Participation 30%, Homework 20%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will receive reading assignments to augment class topics and help prepare for weekly class discussions. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course will give students the opportunity to read a variety of topics throughout the semester and actively participate in classroom discussions. Students will be able to increase their vocabulary and enhance their critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Reading Explorer 3 by Nancy Douglas and David Bohlke
ISBN: 9781305254480
National Geographic Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Extra reading material and dictionaries available in the library.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 : Introduction to course
Week 2 : Sport and Fitness I
week 3 : Sport and Fitness II
Week 4 : Skin Deep I
Week 5 : Skin Deep II
Week 6 : Animals in Danger I
Week 7 : Animals in Danger II
Week 8 : Violent Earth I
Week 9 : Violent Earth II
Week 10 : Islands and Beaches I
Week 11: Island and Beaches II
Week 12: Success and Failure I
Week 13 : Success and Failure II
Week 14 :Global Addictions I
Week 15 : Global Addictions II

成績評価の方法 /Assessment Method

In- class assessment 40%
Homework 20%
Discussion 20%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Pre-reading vocabulary exercises should be completed prior to coming to class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course will give students the opportunity to read a variety of topics throughout the semester and actively participate in classroom discussions. Students will be able to increase their vocabulary and enhance their critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Reading Explorer 3 by Nancy Douglas and David Bohlke
ISBN: 9781305254480
National Geographic Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Extra reading material and dictionaries available in the library.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 : Introduction to course
Week 2 : Sport and Fitness I
week 3 : Sport and Fitness II
Week 4 : Skin Deep I
Week 5 : Skin Deep II
Week 6 : Animals in Danger I
Week 7 : Animals in Danger II
Week 8 : Violent Earth I
Week 9 : Violent Earth II
Week 10 : Islands and Beaches I
Week 11: Island and Beaches II
Week 12: Success and Failure I
Week 13 : Success and Failure II
Week 14 :Global Addictions I
Week 15 : Global Addictions II

成績評価の方法 /Assessment Method

In- class assessment 40%
Homework 20%
Discussion 20%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Pre-reading vocabulary exercises should be completed prior to coming to class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course will give students the opportunity to read a variety of topics throughout the semester and actively participate in classroom discussions. Students will be able to increase their vocabulary and enhance their critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Reading Explorer 3 by Nancy Douglas and David Bohlke
ISBN: 9781305254480
National Geographic Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Extra reading material and dictionaries available in the library.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 : Introduction to course
Week 2 : Sport and Fitness I
week 3 : Sport and Fitness II
Week 4 : Skin Deep I
Week 5 : Skin Deep II
Week 6 : Animals in Danger I
Week 7 : Animals in Danger II
Week 8 : Violent Earth I
Week 9 : Violent Earth II
Week 10 : Islands and Beaches I
Week 11: Island and Beaches II
Week 12: Success and Failure I
Week 13 : Success and Failure II
Week 14 :Global Addictions I
Week 15 : Global Addictions II

成績評価の方法 /Assessment Method

In- class assessment 40%
Homework 20%
Discussion 20%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Pre-reading vocabulary exercises should be completed prior to coming to class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course will give students the opportunity to read a variety of topics throughout the semester and actively participate in classroom discussions. Students will be able to increase their vocabulary and enhance their critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Reading Explorer 3 by Nancy Douglas and David Bohlke
ISBN: 9781305254480
National Geographic Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Extra reading material and dictionaries available in the library.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 : Introduction to course
Week 2 : Sport and Fitness I
week 3 : Sport and Fitness II
Week 4 : Skin Deep I
Week 5 : Skin Deep II
Week 6 : Animals in Danger I
Week 7 : Animals in Danger II
Week 8 : Violent Earth I
Week 9 : Violent Earth II
Week 10 : Islands and Beaches I
Week 11: Island and Beaches II
Week 12: Success and Failure I
Week 13 : Success and Failure II
Week 14 :Global Addictions I
Week 15 : Global Addictions II

成績評価の方法 /Assessment Method

In- class assessment 40%
Homework 20%
Discussion 20%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Pre-reading vocabulary exercises should be completed prior to coming to class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名
/Instructor

ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態
/Class Format

講義・実習

クラス 2 - 1
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		○	○	○							

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will complete weekly assignments to improve listening skills. Students will also improve their discussion, and critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Skillful 2: Listening & Speaking (2nd ed.), Bohlke & Lockwood, MacMillan Education, ISBN 978-1-380-01058-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Introductions
- 2回 Topic 1 – Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 4回 Topic 2 – Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 6回 Topic 3 – Listening & Discussion
- 7回 Topic 3 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 8回 Topic 4 – Listening & Discussion
- 9回 Topic 4 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 10回 Topic 5 – Listening & Discussion
- 11回 Topic 5 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 12回 Topic 6 – Listening & Discussion
- 13回 Topic 6 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 14回 Numbers Lesson
- 15回 Review and Final Exam Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 35%, Participation 30%, Homework 15%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete weekly listening assignments to improve listening skills. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名
/Instructor

ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		○	○	○							

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a high intermediate level of English. All students will complete weekly assignments to improve listening skills. Students will also improve their discussion, and critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Skillful 2: Listening & Speaking (2nd ed.), Bohlke & Lockwood, MacMillan Education, ISBN 978-1-380-01058-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Introductions
- 2回 Topic 1 – Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 4回 Topic 2 – Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 6回 Topic 3 – Listening & Discussion
- 7回 Topic 3 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 8回 Topic 4 – Listening & Discussion
- 9回 Topic 4 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 10回 Topic 5 – Listening & Discussion
- 11回 Topic 5 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 12回 Topic 6 – Listening & Discussion
- 13回 Topic 6 – Listening & Critical Thinking Exercises
- 14回 Numbers Lesson
- 15回 Review and Final Exam Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 35%, Participation 30%, Homework 15%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete weekly listening assignments to improve listening skills. Some research will be required both inside and outside of class. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・ 実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The key to improving your English listening ability is practise and exposure. This lecture course will have over 100 listening passages, both short and long in the form of statements, conversations and single person talks. Learners will improve their ability to listen for main ideas and for details. Learners will encounter discussion points, too, to encourage them to apply the materials to their own lives and situations.

教科書 /Textbooks

Listening Pro 3, Jenny Wilson Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good English/Japanese dictionary.

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Duty free items- customs and on board shopping
- 2回 My luggage hasn't arrived- lost luggage and travel mishaps
- 3回 Here's your name tag- seminars and networking
- 4回 How may I help you- product complaints
- 5回 Any feedback about your product-customer feedback
- 6回 Do you want to invest in my company capital and investors
- 7回 That is the sales manager's responsibility- work assignments
- 8回 I don't think that is appropriate-unprofessional behaviour
- 9回 The presentation isn't finished yet-interruptions
- 10回 I'd like to deposit this into my account- profit and loss
- 11回 My credit card was declined-Identity theft
- 12回 How are we already over budget-actual expenditures
- 13回 We need to develop the brand- product features
- 14回 Is our price competitive in the market- in store promotions
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Unit 1 Review test 20%, Unit 1 Review test 20%, Unit 3 Review Test 20% Final listening test 40%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

Student should prepare for the class by preparing new vocabulary notes for the class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The key to improving your English listening ability is practice and exposure. This book offers both short and long listening passages in the form of statements, conversations, and single-person talks.

教科書 /Textbooks

Listening PRO 3, Jenny Wilson, published by Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A Japanese-English dictionary will be helpful

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, schedule, course requirements for the students, guidance for attendance, being late, absent, and end-of-term exam. Students will do a short self-introduction in pairs.
 Week 2: Travel - 'Can I interest you in our duty-free items. Listening focus includes: Duty-free shopping, on-board shopping, and customs.
 Week 3: Travel - 'My luggage hasn't arrived yet'. Listening focus includes: Packed luggage, lost baggage, and travel mishaps.
 Week 4: Travel - 'Here's your name tag'. Listening focus includes: Conventions, networking, and seminars.
 Week 5: Review of travel units (1-3). p28-30.
 Week 6: General business - 'How may I help you?'. Listening focus includes: Customer service, guarantees and warranties, and product complaints.
 Week 7: General business - 'Any feedback about our product?'. Listening focus includes: Market surveys, customer feedback, and product demonstrations.
 Week 8: 'Do you want to invest in my company?'. Listening focus includes: Business start-ups, capital and investors, and business advice.
 Week 9: Review of general business units (4-6). p49-50.
 Week 10: Offices - 'That's the sales manager's responsibilities'. Listening focus includes: Work assignments, job expectations, and project management.
 Week 11: Offices - 'I don't think she is appropriate'. Listening focus includes: Communication problems, language barriers, and unprofessional behavior.
 Week 12: Offices - 'The presentation isn't finished yet'. Listening focus includes: Visual aids, practice and rehearsal, and interruptions.
 Week 13: Review of offices units 7-9. p68-69.
 Week 14: Summary of the different units and what we found difficult at this time.
 Week 15; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Final exam: 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, reading the contents of the textbook before class will help with understanding and what you are being asked to do.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a brighter future.

キーワード /Keywords

英語スピーキング演習【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

ビジネスコミュニケーション演習 aims to develop business speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English business language patterns and using them to generate accurate and efficient professional spoken expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral business presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

Business Advantage Intermediate, Marjorie Rosenberg, Cambridge, 2012

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Use the library website to find online business journals through ProQuest and JSTOR Business.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. Unit 1. Culture and its impact
3. Unit 2. Technology and business
4. Unit 5. Organizations and their structures, part 1
5. Unit 5. Organizations and their structures, part 2
6. Unit 6. Managing Organizations, part 1
7. Unit 7. Supply Chain Management
8. Company Case Study Presentations
9. Unit 9. Project 2 Preparation
10. Unit 9. Marketing strategy
11. Unit 12. Finance, part 1
12. Unit 13. Finance, part 2
13. Unit 13. Decision-making
14. Final Project Preparation
15. Final: Kyushu Environmental Solutions Business Proposal Presentations.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: (15%); Various homework assignments: (15%); 3 Major writing assignments: (25%); 4 Case Study analysis reports: (30%); Final in-class business proposal presentation: (15%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please DO NOT miss the first class!

You are REQUIRED to purchase YOUR OWN textbook and bring it to the second class. Do not share textbooks with other students.

履修上の注意 /Remarks

Participation is a major portion of your grade; you should attend all classes and actively participate. Anyone missing more than 5 courses will not be eligible to pass the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English ONLY course. Students will be expected to speak only English during the entirety of every class.

キーワード /Keywords

Business communication;
Group projects;
Entrepreneur;
Marketing;
Company design.

英語スピーキング演習【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

ビジネスコミュニケーション演習 aims to develop business speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English business language patterns and using them to generate accurate and efficient professional spoken expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral business presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

Business Advantage Intermediate, Marjorie Rosenberg, Cambridge, 2012

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Use the library website to find online business journals through ProQuest and JSTOR Business.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. Unit 1. Culture and its impact
3. Unit 2. Technology and business
4. Unit 5. Organizations and their structures, part 1
5. Unit 5. Organizations and their structures, part 2
6. Unit 6. Managing Organizations, part 1
7. Unit 7. Supply Chain Management
8. Company Case Study Presentations
9. Unit 9. Project 2 Preparation
10. Unit 9. Marketing strategy
11. Unit 12. Finance, part 1
12. Unit 13. Finance, part 2
13. Unit 13. Decision-making
14. Final Project Preparation
15. Final: Kyushu Environmental Solutions Business Proposal Presentations.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: (15%); Various homework assignments: (15%); 3 Major writing assignments: (25%); 4 Case Study analysis reports: (30%); Final in-class business proposal presentation: (15%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please DO NOT miss the first class!

You are REQUIRED to purchase YOUR OWN textbook and bring it to the second class. Do not share textbooks with other students.

履修上の注意 /Remarks

Participation is a major portion of your grade; you should attend all classes and actively participate. Anyone missing more than 5 courses will not be eligible to pass the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English ONLY course. Students will be expected to speak only English during the entirety of every class.

キーワード /Keywords

Business communication;
Group projects;
Entrepreneur;
Marketing;
Company design.

英語スピーキング演習【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

ビジネスコミュニケーション演習 aims to develop business speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English business language patterns and using them to generate accurate and efficient professional spoken expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral business presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

Business Advantage Intermediate, Marjorie Rosenberg, Cambridge, 2012

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Use the library website to find online business journals through ProQuest and JSTOR Business.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. Unit 1. Culture and its impact
3. Unit 2. Technology and business
4. Unit 5. Organizations and their structures, part 1
5. Unit 5. Organizations and their structures, part 2
6. Unit 6. Managing Organizations, part 1
7. Unit 7. Supply Chain Management
8. Company Case Study Presentations
9. Unit 9. Project 2 Preparation
10. Unit 9. Marketing strategy
11. Unit 12. Finance, part 1
12. Unit 13. Finance, part 2
13. Unit 13. Decision-making
14. Final Project Preparation
15. Final: Kyushu Environmental Solutions Business Proposal Presentations.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: (15%); Various homework assignments: (15%); 3 Major writing assignments: (25%); 4 Case Study analysis reports: (30%); Final in-class business proposal presentation: (15%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please DO NOT miss the first class!

You are REQUIRED to purchase YOUR OWN textbook and bring it to the second class. Do not share textbooks with other students.

履修上の注意 /Remarks

Participation is a major portion of your grade; you should attend all classes and actively participate. Anyone missing more than 5 courses will not be eligible to pass the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English ONLY course. Students will be expected to speak only English during the entirety of every class.

キーワード /Keywords

Business communication;
Group projects;
Entrepreneur;
Marketing;
Company design.

英語スピーキング演習【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・ 実習 クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This business English course is for students of business English. It consists of a variety of topics of great interest to everyone involved in international business. Students will learn important words and phrases which you can use when you carry out the tasks in each class. There will be authentic articles and interviews on a variety of topics. Case studies are linked to the business topics of each unit. They are based on realistic business problems and allow students to use the language and communication skills they have developed while working through each unit.

教科書 /Textbooks

Market leader- Intermediate 3rd edition Cotton, Falvey and Kent Pearson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good English \Japanese dictionary

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1 Brands- interview with brand manager and taking part in meetings
- 2 Talking about your experiences and job interviews
- 3 Attitudes to change in general and at work and international markets
- 4 Status within an organisation and ethics
- 5 Discussion of authentic advertisements and expressions used in them
- 6 Different attitudes to money and expressions to finance
- 7 Importance of cultural awareness in business
- 8 Women at work and getting information on the telephone
- 9 Trade tensions and discussions on negotiating
- 10 Resume writing and unethical behaviour
- 11 Qualities of good leadership and character description
- 12 How competitive are you? idioms from sport for competition
- 13 Case study of a successful business
- 14 Case study of struggling business
- 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Unit Review 1 Test 20%, Unit 2 Review Test 20% Unit 3 Review test 20% Final exam 40%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

時事英語や英文副読本を読んでテキストの意味を正しく理解する能力を身につける。授業では時事英語のテキストを読む副読本としてAnthony TrollopeのThe Way We Live Nowを読む

教科書 /Textbooks

テキストは“News Gallery 2019” (木下善貞・江口雅子・アダム・ヘイルズ著、開文社)
副読本はThe Way We Live Now の第69章から76章の英文コピーをプリントして配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 'We must become more diverse' and 'break down barriers' : Kazuo Ishiguro
- 3回 Finance Ministry admits altering Moritomo land deal docs; Akie Abe's name erased
- 4回 N. Korea fires suspected ICBM capable of hitting US East Coast
- 5回 Japan-EU trade pact a guiding light to counter protectionism
- 6回 A-bomb survivor gives powerful speech after anti-nuke treaty adopted at UN
- 7回 String of scandals at Kobe Steel raises questions over its compliance
- 8回 China's plans for 'new Silk Road' boosting South Asian tensions
- 9回 Emperor Akihito to abdicate on April 30, 2019
- 10回 Trump flouts warnings, declares Jerusalem Israel's capital
- 11回 Shogi phenom Fujii expresses happiness, humility after record 29th straight win
- 12回 Hanyu defends men's figure skating title for Japan's 1st gold
- 13回 Japan-based name 'Chibanian' set to represent geologic age
- 14回 US, allies attacking Syria to stop chemical weapons
- 15回 Instagram users' quest for perfect snaps boosts economy, but will it last?

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度や受講態度20%。期末テスト結果80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストの授業範囲を読んで、不明部分をチェックし、単語の意味を調べておくこと。授業後に必ず復習を行い知識の定着を図ること。副読本については1回の授業に4頁ずつ進むので、担当者は授業日の2日前までに当てられた頁の翻訳をワード・ファイルにしてメールで提出すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

時事英語や英文副読本を読んでテキストの意味を正しく理解する能力を身につける。授業では時事英語のテキストを読む副読本としてAnthony TrollopeのThe Way We Live Nowを読む

教科書 /Textbooks

テキストは“News Gallery 2019” (木下善貞・江口雅子・アダム・ヘイルズ著、開文社)
副読本はThe Way We Live Now の第69章から76章の英文コピーをプリントして配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 'We must become more diverse' and 'break down barriers' : Kazuo Ishiguro
- 3回 Finance Ministry admits altering Moritomo land deal docs; Akie Abe's name erased
- 4回 N. Korea fires suspected ICBM capable of hitting US East Coast
- 5回 Japan-EU trade pact a guiding light to counter protectionism
- 6回 A-bomb survivor gives powerful speech after anti-nuke treaty adopted at UN
- 7回 String of scandals at Kobe Steel raises questions over its compliance
- 8回 China's plans for 'new Silk Road' boosting South Asian tensions
- 9回 Emperor Akihito to abdicate on April 30, 2019
- 10回 Trump flouts warnings, declares Jerusalem Israel's capital
- 11回 Shogi phenom Fujii expresses happiness, humility after record 29th straight win
- 12回 Hanyu defends men's figure skating title for Japan's 1st gold
- 13回 Japan-based name 'Chibanian' set to represent geologic age
- 14回 US, allies attacking Syria to stop chemical weapons
- 15回 Instagram users' quest for perfect snaps boosts economy, but will it last?

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度や受講態度20%。期末テスト結果80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストの授業範囲を読んで、不明部分をチェックし、単語の意味を調べておくこと。授業後に必ず復習を行い知識の定着を図ること。副読本については1回の授業に4頁ずつ進むので、担当者は授業日の2日前までに当てられた頁の翻訳をワード・ファイルにしてメールで提出すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 原田 昂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本科目では、2年次までに学ぶReading & Discussionの内容を発展させ、より難易度の高い英語で書かれた様々な分野の文章を読むことを通じて以下の力の育成に取り組む。

- (1)英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる読解力。
- (2)英語を正確に読み、英米および英語圏の文化背景を理解する力。
- (3)英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度。
(Discussionを通じて、与えられた話題について建設的に意見や情報発信を行う)

オンラインニュースに掲載された記事を英語で読み、自分の意見を英語で伝えられるようにする。
第11回目の授業から、学生が主体となってディスカッションをリードできるようにする。
また、授業中に配布するマテリアルを用いて、英語独特の表現を使った物語を読み解き、その文化背景を理解する。

教科書 /Textbooks

なし
ウェブ上に掲載される最新のニュース記事を利用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & icebreaker questions
- 第2回 News summary & planned discussion (1) 【lifestyle news】
- 第3回 News summary & planned discussion (2) 【national news】
- 第4回 News summary & planned discussion (3) 【world news】
- 第5回 News summary & planned discussion (4) 【science news】
- 第6回 News summary & planned discussion (5) 【political news】
- 第7回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (1) 【responding to others】
- 第8回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (2) 【asking questions】
- 第9回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (3) 【supporting and disagreeing constructively】
- 第10回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (4) 【leading a discussion】
- 第11回 News summary & spontaneous discussion (1) 【lifestyle news】
- 第12回 News summary & spontaneous discussion (2) 【national news】
- 第13回 News summary & spontaneous discussion (3) 【world news】
- 第14回 News summary & spontaneous discussion (4) 【science news】
- 第15回 News summary & spontaneous discussion (5) 【political news】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業態度およびDiscussionへの積極的な参加 : 50%
- ・ 期末試験 : 50%

授業への積極的な参加が単位認定の大前提となるので、4回以上欠席すると期末試験の受験を認めない可能性がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[演習前]
指定された記事を読解し、Summaryを行う。また、必要に応じて関連する内容を調べてデータを持参する。

[演習後]
演習中に扱った内容について咀嚼し、他者の意見を踏まえた上で自分の意見を建設的に伝えられるようにする。

履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English.
Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

キーワード /Keywords

Skimming, Scanning, Paraphrasing, Summary, Multicultural Communication, Current Japanese Affairs, International Affairs

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 原田 昂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本科目では、2年次までに学ぶReading & Discussionの内容を発展させ、より難易度の高い英語で書かれた様々な分野の文章を読むことを通じて以下の力の育成に取り組む。

- (1)英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる読解力。
- (2)英語を正確に読み、英米および英語圏の文化背景を理解する力。
- (3)英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度。
(Discussionを通じて、与えられた話題について建設的に意見や情報発信を行う)

オンラインニュースに掲載された記事を英語で読み、自分の意見を英語で伝えられるようにする。
第11回目の授業から、学生が主体となってディスカッションをリードできるようにする。
また、授業中に配布するマテリアルを用いて、英語独特の表現を使った物語を読み解き、その文化背景を理解する。

教科書 /Textbooks

なし
ウェブ上に掲載される最新のニュース記事を利用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & icebreaker questions
- 第2回 News summary & planned discussion (1) 【lifestyle news】
- 第3回 News summary & planned discussion (2) 【national news】
- 第4回 News summary & planned discussion (3) 【world news】
- 第5回 News summary & planned discussion (4) 【science news】
- 第6回 News summary & planned discussion (5) 【political news】
- 第7回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (1) 【responding to others】
- 第8回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (2) 【asking questions】
- 第9回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (3) 【supporting and disagreeing constructively】
- 第10回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (4) 【leading a discussion】
- 第11回 News summary & spontaneous discussion (1) 【lifestyle news】
- 第12回 News summary & spontaneous discussion (2) 【national news】
- 第13回 News summary & spontaneous discussion (3) 【world news】
- 第14回 News summary & spontaneous discussion (4) 【science news】
- 第15回 News summary & spontaneous discussion (5) 【political news】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業態度およびDiscussionへの積極的な参加 : 50%
- ・ 期末試験 : 50%

授業への積極的な参加が単位認定の大前提となるので、4回以上欠席すると期末試験の受験を認めない可能性がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[演習前]
指定された記事を読解し、Summaryを行う。また、必要に応じて関連する内容を調べてデータを持参する。

[演習後]
演習中に扱った内容について咀嚼し、他者の意見を踏まえた上で自分の意見を建設的に伝えられるようにする。

履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English.
Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

英語リーディング演習I 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

キーワード /Keywords

Skimming, Scanning, Paraphrasing, Summary, Multicultural Communication, Current Japanese Affairs, International Affairs

英作文演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ホロウエイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The purpose of this class is to help students develop the necessary skills to become great presenters. The ability to give good presentations is a valuable skill useful for your future employment.
During the class we will do several different kinds of presentations such as giving a presentation about a person you admire, a vacation you recommend, and a persuasive presentation about an issue. We will work on body language and connecting with an audience by making eye contact, using gestures and projecting your voice as well as work on the English language that you use for your presentations. We will use techniques from writing such as brainstorming and making outlines, and you will be required to write presentation outlines for your presentation but this class will focus on writing as a means to doing presentations and not on writing skills per se.

教科書 /Textbooks

Ready to Present – A Guide to Better Presentations (2019 Cengage Learning) ISBN 978-4-86312-351-9 Herman Bartelen, Malcom Kostiuik

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Unit 1 – Self Introduction: Writing an introduction, body, and conclusion
2. Unit 1 – Self Introduction: Giving a self introduction presentation, describing family, school life, likes & dislikes, etc.
3. Unit 2/3 Important Person/Places: Talking about people and things important to you.
4. Unit 2/3 Important Person/Places: Planning a presentation and writing about something or someone important to you.
5. Unit 2/3 Important Person/Places: Presentation to a small group about something or someone important to you
6. Unit 4 – Opinions: Sharing opinions/ Supporting and giving examples / Giving evidence.
7. Unit 4 – Opinions: Planning a presentation and writing about a topic important to you.
8. Unit 4 – Opinions: Presentation to a small group about a topic important to you.
9. Unit 5/6 – Biography/Stories: Describing life experiences and accomplishments/ Describing your past experiences.
10. Unit 5/6 – Biography/Stories: Planning a presentation and writing about a persons life or your own life experiences.
11. Unit 5/6 – Biography/Stories: Giving a presentation about a persons life or your own life experiences.
12. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Expressing opinions about social and global issues/ Prepare a survey
13. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Surveying classmates about their opinions on current issues
14. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Planning and giving a persuasive presentation about an issue.
15. Review – Units 1-4/ Units 5-8 / Course reflection.

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation planning and writing activities 35%; Presentation Grades 50%; Participation 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

履修上の注意 /Remarks

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive speech in English after this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, PowerPoint, English, Confidence

英作文演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ホロウエイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The purpose of this class is to help students develop the necessary skills to become great presenters. The ability to give good presentations is a valuable skill useful for your future employment.

During the class we will do several different kinds of presentations such as giving a presentation about a person you admire, a vacation you recommend, and a persuasive presentation about an issue. We will work on body language and connecting with an audience by making eye contact, using gestures and projecting your voice as well as work on the English language that you use for your presentations. We will use techniques from writing such as brainstorming and making outlines, and you will be required to write presentation outlines for your presentation but this class will focus on writing as a means to doing presentations and not on writing skills per se.

教科書 /Textbooks

Ready to Present – A Guide to Better Presentations (2019 Cengage Learning) ISBN 978-4-86312-351-9 Herman Bartelen, Malcom Kostiuik

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Unit 1 – Self Introduction: Writing an introduction, body, and conclusion
- Unit 1 – Self Introduction: Giving a self introduction presentation, describing family, school life, likes & dislikes, etc.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Talking about people and things important to you.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Planning a presentation and writing about something or someone important to you.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Presentation to a small group about something or someone important to you
- Unit 4 – Opinions: Sharing opinions/ Supporting and giving examples / Giving evidence.
- Unit 4 – Opinions: Planning a presentation and writing about a topic important to you.
- Unit 4 – Opinions: Presentation to a small group about a topic important to you.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Describing life experiences and accomplishments/ Describing your past experiences.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Planning a presentation and writing about a persons life or your own life experiences.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Giving a presentation about a persons life or your own life experiences.
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Expressing opinions about social and global issues/ Prepare a survey
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Surveying classmates about their opinions on current issues
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Planning and giving a persuasive presentation about an issue.
- Review – Units 1-4/ Units 5-8 / Course reflection.

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation planning and writing activities 35%; Presentation Grades 50%; Participation 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

履修上の注意 /Remarks

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive speech in English after this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, PowerPoint, English, Confidence

英作文演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ホロウエイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The purpose of this class is to help students develop the necessary skills to become great presenters. The ability to give good presentations is a valuable skill useful for your future employment.

During the class we will do several different kinds of presentations such as giving a presentation about a person you admire, a vacation you recommend, and a persuasive presentation about an issue. We will work on body language and connecting with an audience by making eye contact, using gestures and projecting your voice as well as work on the English language that you use for your presentations. We will use techniques from writing such as brainstorming and making outlines, and you will be required to write presentation outlines for your presentation but this class will focus on writing as a means to doing presentations and not on writing skills per se.

教科書 /Textbooks

Ready to Present – A Guide to Better Presentations (2019 Cengage Learning) ISBN 978-4-86312-351-9 Herman Bartelen, Malcom Kostiuik

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Unit 1 – Self Introduction: Writing an introduction, body, and conclusion
2. Unit 1 – Self Introduction: Giving a self introduction presentation, describing family, school life, likes & dislikes, etc.
3. Unit 2/3 Important Person/Places: Talking about people and things important to you.
4. Unit 2/3 Important Person/Places: Planning a presentation and writing about something or someone important to you.
5. Unit 2/3 Important Person/Places: Presentation to a small group about something or someone important to you
6. Unit 4 – Opinions: Sharing opinions/ Supporting and giving examples / Giving evidence.
7. Unit 4 – Opinions: Planning a presentation and writing about a topic important to you.
8. Unit 4 – Opinions: Presentation to a small group about a topic important to you.
9. Unit 5/6 – Biography/Stories: Describing life experiences and accomplishments/ Describing your past experiences.
10. Unit 5/6 – Biography/Stories: Planning a presentation and writing about a persons life or your own life experiences.
11. Unit 5/6 – Biography/Stories: Giving a presentation about a persons life or your own life experiences.
12. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Expressing opinions about social and global issues/ Prepare a survey
13. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Surveying classmates about their opinions on current issues
14. Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Planning and giving a persuasive presentation about an issue.
15. Review – Units 1-4/ Units 5-8 / Course reflection.

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation planning and writing activities 35%; Presentation Grades 50%; Participation 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

履修上の注意 /Remarks

You will be able to give an organized, interesting, and persuasive speech in English after this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Presentations, Brainstorming, Speeches, PowerPoint, English, Confidence

英作文演習B 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・ 実習 クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The purpose of this class is to help students develop the necessary skills to become great presenters. The ability to give good presentations is a valuable skill useful for your future employment. During the class we will do several different kinds of presentations such as giving a presentation about a person you admire, a vacation you recommend, and a persuasive presentation about an issue. We will work on body language and connecting with an audience by making eye contact, using gestures and projecting your voice as well as work on the English language that you use for your presentations. We will use techniques from writing such as brainstorming and making outlines, and you will be required to write presentation outlines for your presentation but this class will focus on writing as a means to doing presentations and not on writing skills per se.

教科書 /Textbooks

Ready to Present – A Guide to Better Presentations

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good English/Japanese dictionary

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- Unit 1 – Self Introduction: Writing an introduction, body, and conclusion
- Unit 1 – Self Introduction: Giving a self introduction presentation, describing family, school life, likes & dislikes, etc.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Talking about people and things important to you.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Planning a presentation and writing about something or someone important to you.
- Unit 2/3 Important Person/Places: Presentation to a small group about something or someone important to you
- Unit 4 – Opinions: Sharing opinions/ Supporting and giving examples / Giving evidence.
- Unit 4 – Opinions: Planning a presentation and writing about a topic important to you.
- Unit 4 – Opinions: Presentation to a small group about a topic important to you.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Describing life experiences and accomplishments/ Describing your past experiences.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Planning a presentation and writing about a persons life or your own life experiences.
- Unit 5/6 – Biography/Stories: Giving a presentation about a persons life or your own life experiences.
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Expressing opinions about social and global issues/ Prepare a survey
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Surveying classmates about their opinions on current issues
- Unit 7/8 - Solving Problems/Final Presentations: Planning and giving a persuasive presentation about an issue.
- Review – Units 1-4/ Units 5-8 / Course reflection.

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation planning and writing activities 35%; Presentation Grades 50%; Participation 15%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

In preparation for each lesson, students should review the last lesson and preview the next lesson topic. Following each lesson you need to do any homework that has been given and review what you learned in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語演習【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

講義内容は「国際経営論基礎編」です。
国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎知識を提供し、学習能力を育成します。
講義では適宜テーマに沿って英文テキストやケース（英文の事例研究）を輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを知り、勤勉な学生の参加を歓迎します。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しません。詳しくは開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	グローバル化の本質	日本企業、海外企業動向
第2回	-上記テーマについてケース討論	
第3回	国際ビジネスの進化	英文資料輪読
第4回	-上記テーマについてケースの討論	
第5回	多国籍企業のエントリー戦略	英文資料の輪読
第6回	-上記テーマについてケースの討論	
第7回	国際経営の管理	英文資料の輪読
第8回	-上記テーマについてケースの討論	
第9回	国際経営の組織論	英文資料の輪読
第10回	-上記テーマについてケースの討論	
第11回	異文化マネジメント	英文資料の輪読
第12回	-上記テーマについてケースの討論	
第13回	国際人事管理	英文資料の輪読
第14回	-上記テーマについてケースの討論	
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度（20%）、中間試験（40%）、定期試験（40%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義内容やデスクトップピックは全て学習支援システム「moodle」に事前に配置しますので予習、復習に活用ください。講義中に適宜質問や意見を求めます。特に講義内容の要旨を事前に配置しますので予習してからクラスに参加するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

私自身企業出身者ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。学生には日ごろ時事問題に触れ関心を持つように心することを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業時間には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味がただしいかをクラス全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。

キーワード /Keywords

GDP, EC, emerging economies, international monetary system, MNC, sustainable development, M&A , strategic alliance, Hofstede, cross-cultural management, expatriates, performance appraisal, staffing policy

メディア英語演習I【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1・2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course will provide an English-language introduction to Media Studies. Classes will be built upon analysis of newspaper articles, websites, radio programmes, television programmes and films in the light of key elements of media theory.

Weekly homework assignments will be given to allow students to grow accustomed to the themes and language covered in class.

教科書 /Textbooks

Julian McDougall, Media Studies: The Basics (Oxford, Routledge: 2012)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suitable secondary reading will be discussed during the first class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Different approaches to studying media
- 3.The history of media and Media Studies
- 4.Theoretical concepts used by students of media
- 5.Reading media
- 6.Film analysis 1
- 7.Powerful media
- 8.Advertisement analysis
- 9.Global media
- 10.Film analysis 2
- 11.Changing media
- 12.Media now! Class discussion
- 13.Making media
- 14.Advertisement analysis 2
- 15.Review and final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of regular written assignments ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to do preparatory reading on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Preparation tasks will be set by the class instructor at regular intervals during the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語演習I【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義・実習 /Class クラス 2 - 3・ 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

メディア英語演習 is a course designed so students can learn about and discuss a variety of aspects concerning media and a current world. We will study how media influences us—both positively and negatively—in order to better understand our everyday life and the greater world around us. With different approaches to looking at media, this course will help broaden student understanding concerning the importance of media in the following three areas: personal life, social environment, and the global world. Every class will approach a variety of media forms from a different topic in order to explore new ideas about media.

教科書 /Textbooks

Fish in Water: The Hidden Influences of Media in Our Lives; Joseph Shaules, et. al.; MacMillan: 2015, Second Edition.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The library website contains several useful resources, such as newspaper articles and magazines about media.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. Chapter 1. Fish in Water & Chapter 2. Whose Media?
3. Chapter 3. The Social Media and Revolution
4. Chapter 5. Social Media and Creativity
5. Chapter 8. The Social Contract
6. Chapter 9. The Bottom Line
7. Chapter 10. Tricks of the Advertising Trade
8. Chapter 11. Gathering News
9. Chapter 12. News and the News Makers
10. Chapter 14. Gender in the Media
11. Chapter 15. Violence in the Media
12. Chapter 17. Where are our Role Models?
13. Chapter 18. Television
14. Chapter 19: Too Much Fun
15. Chapter 20. Cool Japan

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and speaking only in English: 30%; 3 quizzes: 30%; 4 Media studies listening activities: 15%; Final project: 25%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

All students will be expected to purchase their own copy of the text; students will be expected to have the text for the second class.

履修上の注意 /Remarks

This class will be taught in English; students will be expected to speak English 100% of the class period.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Media
Culture
Global media
Social media

メディア英語演習II【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

アメリカ劇文化研究 is a course designed to use American theater as a means by which we can analyse and discuss important social and cultural topics related to both personal and public life. We will be reading sections of, and watching parts of, famous American plays in order to introduce various topics for discussion.

This course is designed to encourage students to learn about and discuss a variety of aspects concerning American culture and social issues. We will study how the theater is used to depict certain social and cultural concerns—both positively and negatively—in order to better understand how these issues impact or represent current day United States. Through different approaches to looking at these theater plays, this course will help broaden student understanding concerning the importance of the theater in the following three areas: social issues (including gender, race, class and religion), political issues and cultural issues. Every class will include sections from Hollywood film versions of the three plays as well as reading sections of the play for analysis.

The objective is to have you broaden your understanding of how the theater is an important medium through which cultural and social issues can be represented. We will discuss the following questions: Is the theater a good way to examine these various issues? Does the theater help us understand the situation of other people? In every class, we will use the following content for our weekly topic: 1) Weekly theme; 2) language focus; and, 3) output. In all classes, you will be required to bring your homework to the class in order to participate with classmates. I am always interested in helping students further develop their critical thinking skills. Creativity is crucial to “thinking outside the box,” and through our examination of these plays, I hope that we will learn new ways of viewing different aspects of our global society.

教科書 /Textbooks

No text book required. You will be required to watch the DVD movie version in the library.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The library has DVD movie version of all three plays we will be discussing. You need to watch each movie in the library.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course and get to know your classmates
2. American Theatre: Play 1--The Crucible, Part 1
3. American Theatre: Play 1--The Crucible, Part 2
4. American Theatre: Play 1--The Crucible, Part 3
5. American Theatre: Play 1--The Crucible, Part 4
6. American Theatre: Quiz 1, A Streetcar Named Desire, Part 1
7. American Theatre: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 2
8. American Theatre: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 3
9. American Theatre: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 4
10. American Theatre: Quiz 2, Fences, Part 1
11. American Theatre: Play 3--Fences, Part 2
12. American Theatre: Play 3--Fences, Part 3
13. American Theatre: Play 3--Fences, Part 4
14. American Theatre: Play 3--Fences, Part 5
15. Quiz 3, Final projects due.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation: 15%; 3 major quizzes: 45%; 3 character analyses: 10%; 4 Listening activities: 10%; Final project: 20%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

Students will be expected to attend all classes.

履修上の注意 /Remarks

This class will be taught in English. Students will be expected to speak in English for 100% of the class period.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

During the semester, you must watch the film version of the play. The DVD of the film version is in the library.

キーワード /Keywords

Theatre
American culture
Social topics

英日翻訳演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1・2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本授業では、機械的翻訳のような「文法と意味」の置き換えではなく、「感情、印象」の翻訳を試み、創造的・文化的翻訳を目指す。これは、ただ文法通り英語を日本語に置き換える作業ではなく、英語でその場面を経験したときに生じる感情を、日本語に置き換えて表現するということである。つまり、直訳的な意味を伝えるのではなく、元の文章にある喜怒哀楽を伝えるということである。このため、韻律やリズムが重視される詩や歌を題材にしたり、字幕翻訳など、文字の制限が与えられた状況での翻訳も行う予定である。また、学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、予定を変更する可能性がある。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、予定を変更する可能性がある。

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 翻訳演習【音楽】 Popular Music
- 3回 翻訳演習【音楽】 Rock Music
- 4回 翻訳演習【音楽】 Folk Music
- 5回 翻訳演習【民話】 Lafcadio Hearn, "Miminashi Hoichi"
- 6回 翻訳演習【民話】 Lafcadio Hearn, "Yukionna"
- 7回 翻訳演習【民話】 Changeling
- 8回 翻訳演習【童話】 Winnie the Pooh, "Pooh invents a New Game"
- 9回 翻訳演習【童話】 Winnie the Pooh, "In Which Eeyore Has A Birthday And Gets Two Presents"
- 10回 翻訳演習【映画字幕】 Love Romance
- 11回 翻訳演習【映画字幕】 Science Fiction
- 12回 翻訳演習【詩】 Rhythm
- 13回 翻訳演習【詩】 Rhyme
- 14回 翻訳演習【漫談】 Humour
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平素および課題...30%
レポート...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英日翻訳演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3・2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本授業では、機械的翻訳のような「文法と意味」の置き換えではなく、「感情、印象」の翻訳を試み、創造的・文化的翻訳を目指す。これは、ただ文法通り英語を日本語に置き換える作業ではなく、英語でその場面を経験したときに生じる感情を、日本語に置き換えて表現するということである。つまり、直訳的な意味を伝えるのではなく、元の文章にある喜怒哀楽を伝えるということである。このため、韻律やリズムが重視される詩や歌を題材にしたり、字幕翻訳など、文字の制限が与えられた状況での翻訳も行う予定である。また、学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、予定を変更する可能性がある。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※学生から翻訳の対象となる題材のリクエストがあった場合、予定を変更する可能性がある。

- 1回 イントロダクション
- 2回 翻訳演習【音楽】 Popular Music
- 3回 翻訳演習【音楽】 Rock Music
- 4回 翻訳演習【音楽】 Folk Music
- 5回 翻訳演習【民話】 Lafcadio Hearn, "Miminashi Hoichi"
- 6回 翻訳演習【民話】 Lafcadio Hearn, "Yukionna"
- 7回 翻訳演習【民話】 Changeling
- 8回 翻訳演習【童話】 Winnie the Pooh, "Pooh invents a New Game"
- 9回 翻訳演習【童話】 Winnie the Pooh, "In Which Eeyore Has A Birthday And Gets Two Presents"
- 10回 翻訳演習【映画字幕】 Love Romance
- 11回 翻訳演習【映画字幕】 Science Fiction
- 12回 翻訳演習【詩】 Rhythm
- 13回 翻訳演習【詩】 Rhyme
- 14回 翻訳演習【漫談】 Humour
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平素および課題...30%
レポート...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1・2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

- (1) 英語での授業
授業、また評価の対象となる課題、期末試験、すべて英語で行う。
- (2) 授業の概要
日米話者のコミュニケーションギャップを考察するが、ギャップの基底にある文化的背景を探っていくために具体的事例を中心に考察していく。テキストの内容にもとづく学生相互の意見交換を通じて理解を深めていき、また、各自選んだテーマに基づくプレゼンテーションを行うことにより異文化コミュニケーションへの興味を深かめることをめざす。
授業は主に英語での説明、英文のテキストの解説、英語での意見(交換)、を行い、英語でのassignmentを課す。

教科書 /Textbooks

授業の際にプリント資料を適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) D. R. Levine & M. B. Adleman ; Beyond Language: Cross-Cultural Communication
(2) Spencer-Oatey (ed.): Culturally Speaking
(3) 八代京子、他、『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
第2回 文化とは何か、コミュニケーションとは何か
第3回 Cross-cultural Communicationとは
第4回 価値観とコミュニケーション(上記テキストChapter 1)
第5回 価値観の研究 (Kluckhohn, Hofstede)とコミュニケーション・ギャップ
第6回 Verbal Communication (上記英文テキスト(1) Chapter 3)
第7回 High-context, Low-contextとコミュニケーション・ギャップ
第8回 Different Sense to apology between Japan and English (上記テキスト(2) Chapter 4)
第9回 Non-verbal Communication ① (空間学: 対人距離、など上記テキスト(1) Chapter 4)
第10回 Non-verbal Communication ② (動作学: emblem, 表出度、アイ・コンタクトなど)
第11回 Cultural Adaptation :Culture Shock (上記テキスト(1) Chapter 2)
第12回 Cultural Assimilatorの作成
第13回 Apply Cultural Dimensions (Hofstede) to the global business
第14回 各自テーマによるpresentation
第15回 授業の概括、各自テーマ発表による意見集約

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動(課題、*プレゼンテーションを含む) 50% 期末試験 50%
課題、評価の対象とする議論参加、期末試験、すべての活動は英語でおこなう。
*プレゼンテーションに関しては受講者の数により変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前) 文化、コミュニケーションに関する英語で書かれた文献に目を通しておくこと。
(事後) グローバル社会におけるコミュニケーションのあり方に関して英語で議論することを心がける。

履修上の注意 /Remarks

文化、コミュニケーションに関する事項において常に何故かを考えることが必要である。
授業では英文テキストの内容を踏まえた上でのDiscussion Questionsを基に進めていく、また、グループディスカッション(英語で)を要求する。これらの活動と英語での課題の提出が必須である。
。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語での教材の解説、課題が課せられるのでそれなりの準備が必要である。

異文化間コミュニケーション演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3・ 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

異文化間コミュニケーション。この言葉は私たちが想像している以上に複雑かつ幅広いものです。本授業では、「個人、ペア、グループ」とさまざまなレベルで実際にコミュニケーションをとりながら、「異文化」とは何か、「コミュニケーション」とは何かという根本的な問いに対して答えを探求します。そして、「異なる文化」の中でどのように振舞えばよいのか、その態度、スキル、知識の習得を目指します。ペアワーク、グループワークを多用し、受講生が自ら考え、実践し、体験する授業になるようにデザインされていますので、積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

教科書は用いません。必要に応じて適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』丸善ライブラリー

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション：授業方法：成績判定方法など
2. 文化とは、異文化とは：定義、モデル、文化的アイデンティティ
3. 異文化間コミュニケーションとは何か
4. 異文化コミュニケーション能力とは何か
5. 言語コミュニケーション：謝罪、断り、ポライトネス
6. 非言語コミュニケーション：時間、空間、ジェスチャーなど
7. 価値観の違いによる異文化衝突 (Hofstede)
8. ステレオタイプ：カテゴリー化、ステレオタイプの発生メカニズム
9. 異文化適応：異文化適応曲線
10. 異文化適応の実践：異文化適応シミュレーションゲーム
12. 異文化適応実践の振り返り：グループディスカッション
13. 異文化体験シミュレーション：合意形成
14. 異文化体験シミュレーション：異文化接触
15. 授業全体のまとめのディスカッション

* 授業内容は進み具合に応じて変更される場合があります

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート（授業中に執筆するもの）：30%
課題提出（異文化適応、異文化体験シミュレーション後の報告）：30%
期末試験：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回分のキーワードを示すので、それについて調べてくること。次回分の資料を配布する場合があるので、次回までに読んでくること。日英両方の文献を資料とする場合がある。

事後学習：当日分の内容を振り返るとともに、ミニレポートについては添削内容を読み直すこと。

履修上の注意 /Remarks

当日の授業内容を確認し、自分が授業やグループ内でどのように貢献するかを常に意識して授業に臨んで下さい。基本的にペアワークやグループワーク（時に英語による）を通しての授業進行です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

違和感を感じる力、日常に潜む「異文化」発見力を養いましょう。

異文化間コミュニケーション演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション、本質主義、相対主義、異文化体験シミュレーション

通訳基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、今日何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にやらなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが聞かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し替えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。

通訳基礎演習Iでは、英語をきちんと正しく聞き取れるようになるための訓練を基本としながら、多様な話題の教材を用いることにより、知識も身につけてもらえるよう工夫したいと思います。また、毎回の授業に先だって、ウォーミングアップとして日本語と英語の発音（発声）練習を行います。なお、今回使用するテキストは英語のみで作られていますので、日本語→英語の練習もできるよう、オリジナル教材を作成したいと思います。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

①高度な英語運用に必要な専門的知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。②英語の読み・書きが正確にでき、英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行なうことができる。③物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探索することができる。④卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

教科書 /Textbooks

『CBS Newsbreak 4』（成美堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示することがあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 オリエンテーション：これからの授業展開について、通訳について、概説します。

第02回 Unit 1に基づく通訳練習

第03回 Unit 2に基づく通訳練習

第04回 Unit 3に基づく通訳練習

第05回 Unit 4に基づく通訳練習

第06回 Unit 5に基づく通訳練習

第07回 Unit 6に基づく通訳練習

第08回 Unit 7に基づく通訳練習

第09回 Unit 8に基づく通訳練習

第10回 Unit 9に基づく通訳練習

第11回 Unit 10に基づく通訳練習

第12回 Unit 11に基づく通訳練習

第13回 Unit 12に基づく通訳練習

第14回 Unit 13に基づく通訳練習

第15回 補充練習および発展練習・まとめ

※実際の授業では、若干の遅れや、皆さんの関心度に応じた副教材の導入等を行ないますので、必ずしもこの予定通りには進行しない可能性があります。ご了承ください。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加の度合い(=実技30%)と学期末試験の得点(70%)を総合して評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを基に下調べをして臨んで下さい。動画ストーリーミングサービスにより、課程で映像を観ることができますので、あらかじめ映像・音声を確認しておいてください。授業の後は復習をしっかりと行なって、スキルを自分のものにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、例えばテレビを見ながら通訳練習を試してみる、というような心がけが大切だと思います。

また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声教材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思います。

キーワード /Keywords

通訳、シャドーイング、

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の音声的特徴である Stress-timed rhythmに着目し、どのような音が「聴き取りにくい音・聴き間違いやすい音」であるかを理解し、正しく補正して聴き取れるリスニング力を養成する。そのために(1)正しく聴こえない音への対策として「SVOスロット方式」を導入し、構文を補正しながらディクテーションをする方法を学ぶ。(2)リエゾン箇所など「耳」が捉えにくい音を「口」でリズムよく再現できるように訓練を重ね、英語のProsody(強弱、長短、高低、明瞭曖昧)に留意しながら、英語のリズムを身体化する練習を行う。

リスニングでは、聴覚情報を文字で捉えずに、視覚情報に転換する映像処理方法を学ぶ。映像化すると、情報を記憶に留めやすくなる。さらに映像化しながら、パラグラフ毎に展開を予測し、話の流れと核を捉えようとする聴き方を強化する。「その結果」「一方で」などの「つなぎ言葉」の挿入方法を学び、話のロジック展開を追う。

英語のアウトプット力に関しては、プロソディー再生練習(シャドーイング、暗唱)および英語戻し(英語を和訳し→英語に訳し戻す)練習、パラフレーズ(自分の言葉で言い換える)練習を行い発話力を強化する。今期の教材では暗唱速度を学期末に毎分180語台~200語台に仕上げることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じ適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。ペア逐次通訳体験。
- 第2回 聴き間違いやすい音、聴き取りにくい音を確認。ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 情報の映像処理。プロソディー練習(聴き取り難い=言い難い音の確認)。
- 第4回 パラフレーズ。ペア通訳(以降随時行う)。SVC、SVOCに着目。
- 第5回 導入部の予測、「つなぎ言葉」挿入練習。ディクテーションのスロット補正。
- 第6回 パラグラフの展開予測。ディクテーション名詞処理。SVM、SVOMに着目。
- 第7回 パラグラフ毎の「小見出し」作成。ディクテーションの聴き間違いを自己修正。
- 第8回 英語戻し。SVO、SVOOに着目。
- 第9回 プロソディー再生中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版提出。
- 第11回 スロット処理：骨格部と修飾部の仕分け練習。
- 第12回 ペア逐次通訳総仕上げ。
- 第13回 学習データ表の提出。
- 第14回 復習。「プロソディー再生」の暗唱版完成。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、総括レポートほか提出物 10%、期末テスト70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「言える英語」は「聞こえる英語」です。今期は英語の発話力を強化するために、口頭練習の回数をしっかり確保すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

リエゾン、SVOスロット方式、映像処理、展開予測、小見出し、つなぎ言葉、シャドーイング、英語戻し、自分の言葉化、ディクテーション意味修正

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の音声的特徴である Stress-timed rhythmに着目し、どのような音が「聴き取りにくい音・聴き間違いやすい音」であるかを理解し、正しく補正して聴き取れるリスニング力を養成する。そのために(1)正しく聴こえない音への対策として「SVOスロット方式」を導入し、構文を補正しながらディクテーションをする方法を学ぶ。(2)リエゾン箇所など「耳」が捉えにくい音を「口」でリズムよく再現できるように訓練を重ね、英語のProsody(強弱、長短、高低、明瞭曖昧)に留意しながら、英語のリズムを身体化する練習を行う。

リスニングでは、聴覚情報を文字で捉えずに、視覚情報に転換する映像処理方法を学ぶ。映像化すると、情報を記憶に留めやすくなる。さらに映像化しながら、パラグラフ毎に展開を予測し、話の流れと核を捉えようとする聴き方を強化する。「その結果」「一方で」などの「つなぎ言葉」の挿入方法を学び、話のロジック展開を追う。

英語のアウトプット力に関しては、プロソディー再生練習(シャドーイング、暗唱)および英語戻し(英語を和訳し→英語に訳し戻す)練習、パラフレーズ(自分の言葉で言い換える)練習を行い発話力を強化する。今期の教材では暗唱速度を学期末に毎分180語台~200語台に仕上げることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じ適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。ペア逐次通訳体験。
- 第2回 聴き間違いやすい音、聴き取りにくい音を確認。ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 情報の映像処理。プロソディー練習(聴き取り難い=言い難い音の確認)。
- 第4回 パラフレーズ。ペア通訳(以降随時行う)。SVC、SVOCに着目。
- 第5回 導入部の予測、「つなぎ言葉」挿入練習。ディクテーションのスロット補正。
- 第6回 パラグラフの展開予測。ディクテーション名詞処理。SVM、SVOMに着目。
- 第7回 パラグラフ毎の「小見出し」作成。ディクテーションの聴き間違いを自己修正。
- 第8回 英語戻し。SVO、SVOOに着目。
- 第9回 プロソディー再生中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版提出。
- 第11回 スロット処理：骨格部と修飾部の仕分け練習。
- 第12回 ペア逐次通訳総仕上げ。
- 第13回 学習データ表の提出。
- 第14回 復習。「プロソディー再生」の暗唱版完成。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、総括レポートほか提出物 10%、期末テスト70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「言える英語」は「聞こえる英語」です。今期は英語の発話力を強化するために、口頭練習の回数をしっかり確保すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

リエゾン、SVOスロット方式、映像処理、展開予測、小見出し、つなぎ言葉、シャドーイング、英語戻し、自分の言葉化、ディクテーション意味修正

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の音声的特徴である Stress-timed rhythmに着目し、どのような音が「聴き取りにくい音・聴き間違いやすい音」であるかを理解し、正しく補正して聴き取れるリスニング力を養成する。そのために(1)正しく聴こえない音への対策として「SVOスロット方式」を導入し、構文を補正しながらディクテーションをする方法を学ぶ。(2)リエゾン箇所など「耳」が捉えにくい音を「口」でリズムよく再現できるように訓練を重ね、英語のProsody(強弱、長短、高低、明瞭曖昧)に留意しながら、英語のリズムを身体化する練習を行う。

リスニングでは、聴覚情報を文字で捉えずに、視覚情報に転換する映像処理方法を学ぶ。映像化すると、情報を記憶に留めやすくなる。さらに映像化しながら、パラグラフ毎に展開を予測し、話の流れと核を捉えようとする聴き方を強化する。「その結果」「一方で」などの「つなぎ言葉」の挿入方法を学び、話のロジック展開を追う。

英語のアウトプット力に関しては、プロソディー再生練習(シャドーイング、暗唱)および英語戻し(英語を和訳し→英語に訳し戻す)練習、パラフレーズ(自分の言葉で言い換える)練習を行い発話力を強化する。今期の教材では暗唱速度を学期末に毎分180語台~200語台に仕上げることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じ適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。ペア逐次通訳体験。
- 第2回 聴き間違いやすい音、聴き取りにくい音を確認。ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 情報の映像処理。プロソディー練習(聴き取り難い=言い難い音の確認)。
- 第4回 パラフレーズ。ペア通訳(以降随時行う)。SVC、SVOCに着目。
- 第5回 導入部の予測、「つなぎ言葉」挿入練習。ディクテーションのスロット補正。
- 第6回 パラグラフの展開予測。ディクテーション名詞処理。SVM、SVOMに着目。
- 第7回 パラグラフ毎の「小見出し」作成。ディクテーションの聴き間違いを自己修正。
- 第8回 英語戻し。SVO、SVOOに着目。
- 第9回 プロソディー再生中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版提出。
- 第11回 スロット処理：骨格部と修飾部の仕分け練習。
- 第12回 ペア逐次通訳総仕上げ。
- 第13回 学習データ表の提出。
- 第14回 復習。「プロソディー再生」の暗唱版完成。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、総括レポートほか提出物 10%、期末テスト70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「言える英語」は「聞こえる英語」です。今期は英語の発話力を強化するために、口頭練習の回数をしっかり確保すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

リエゾン、SVOスロット方式、映像処理、展開予測、小見出し、つなぎ言葉、シャドーイング、英語戻し、自分の言葉化、ディクテーション意味修正

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、今日何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にやらなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが聞かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し替えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。

通訳基礎演習IIでも、Iから継続して、英語をきちんと正しく聞き取れるようになるための訓練を基本としながら、多様な話題の教材を用いることにより、知識も身につけてもらえるよう工夫したいと思います。毎回の授業に先だって、ウォーミングアップとして日本語と英語の発音（発声）練習を行ないます。今回の教材は日本を伝える内容になっているので、皆さんが現代の日本を英語で発信していくための訓練としても役に立つことと思います。なお、今回のテキストは英語のみで作られていますので、日本語→英語の練習もできるよう、オリジナル教材を作成したいと思います。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

①高度な英語運用に必要な専門的知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。②英語の読み・書きが正確にでき、英米及び英語圏の人たちと正確にコミュニケーションを行なうことができる。③物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探求することができる。④卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

教科書 /Textbooks

『NHK NEWSLINE 2 映像で学ぶNHK英語ニュースが伝える日本 2』（金星堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介することがあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 オリエンテーション：1学期の通訳基礎演習Iで身につけたスキルを復習します。

第02回 Unit 1に基づく通訳練習

第03回 Unit 2に基づく通訳練習

第04回 Unit 3に基づく通訳練習

第05回 Unit 4に基づく通訳練習

第06回 Unit 5に基づく通訳練習

第07回 Unit 6に基づく通訳練習

第08回 Unit 7に基づく通訳練習

第09回 Unit 8に基づく通訳練習

第10回 Unit 9に基づく通訳練習

第11回 Unit 10に基づく通訳練習

第12回 Unit 11に基づく通訳練習

第13回 Unit 12に基づく通訳練習

第14回 Unit 13に基づく通訳練習

第15回 まとめ練習、発展練習

※実際の授業では、若干の遅れや、皆さんの関心度に応じた副教材の導入等を行いますので、必ずしもこの予定通りには進行しない可能性があります。ご了承ください。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加の度合い(平常活動=30%)と学期末試験の得点(70%)を総合して評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを基に下調べをして臨んで下さい。オンライン映像配信サービスにより、映像をあらかじめ観ることができます。授業の後は復習をしっかり行なって、スキルを自分のものにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、例えばテレビを見ながら通訳練習をしてみる、というような心がけが大切だと思います。

また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

通訳基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声教材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思います。

キーワード /Keywords

通訳、シャドーイング、日本文化の英語発信

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の語順に着目し「英文を正確且つ迅速に捉える力」を養成する。そのために(1)英語の文構造を正しく捉え、次の品詞展開を予測するSyntax処理能力と、(2)話の展開や結論を予測し、話の要旨を捉える力を強化する。日本語への訳出力に関しては、前出し訳(first-in, first-out translation)に徹し、迅速にSyntax処理を行いながらも、聴衆に分かりやすい訳出を目指す。練習の最後には必ず聴衆を意識した「完成訳」を行い、日本語のアウトプット力を磨く。

リスニング練習では、「今聴いたばかりの内容」を訳出時に忘れてしまうという現象に対処するため、リテンション(記憶保持)力を強化する。そのために、文章間に「つなぎ言葉」を挿入し、これを「記憶マーカー」として活用する練習を行う。リーディングでは、初見でも前から順次テンポよく訳出できるようになるため、前出し訳の練習を行う。その際に「エー」など不要な言葉を挟まず、流暢な訳出を心がける。前出し訳の速度は、学期初めでは毎分80語台、学期末では毎分140語台を目指す。この訓練をもとに、オーバーラッピング訳(同通の基礎練習)を導入し、英語を聞きながら日本語に訳出する練習を行う。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じて適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。ペア逐次通訳体験。
- 第2回 情報の映像処理。意味補正ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 前出し訳。
- 第4回 前出し「エーなし訳」完成。ペア通訳。
- 第5回 オーバーラッピング訳。
- 第6回 Syntax処理。予測・要約練習。
- 第7回 つなぎ言葉。起承転結「ロジック線結び」練習。
- 第8回 パラフレージング。
- 第9回 前出し「エーなし、体言止めなし、言い直しなし訳」。オーバーラッピング訳中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版提出。
- 第11回 ぶっつけ前出し訳。
- 第12回 ペア通訳総仕上げ。
- 第13回 学習データ表の提出。
- 第14回 復習。オーバーラッピング訳完成。ぶっつけ前出し訳。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、提出物 10%、期末テスト70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前の課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に和訳するのではなく「聴衆に分かりやすい日本語とは?」と絶えず自問し訳出方法を工夫すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

Syntax 処理 (英語の語順・品詞予測)、映像処理、つなぎ言葉、記憶のマーカー、自分の言葉化、前出し訳、オーバーラッピング訳、完成訳、ディクテーション意味修正

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の語順に着目し「英文を正確且つ迅速に捉える力」を養成する。そのために(1)英語の文構造を正しく捉え、次の品詞展開を予測するSyntax処理能力と、(2)話の展開や結論を予測し、話の要旨を捉える力を強化する。日本語への訳出力に関しては、前出し訳(first-in, first-out translation)に徹し、迅速にSyntax処理を行いながらも、聴衆に分かりやすい訳出を目指す。練習の最後には必ず聴衆を意識した「完成訳」を行い、日本語のアウトプット力を磨く。

リスニング練習では、「今聴いたばかりの内容」を訳出時に忘れてしまうという現象に対処するため、リテンション(記憶保持)力を強化する。そのために、文章間に「つなぎ言葉」を挿入し、これを「記憶マーカー」として活用する練習を行う。リーディングでは、初見でも前から順次テンポよく訳出できるようになるため、前出し訳の練習を行う。その際に「エー」など不要な言葉を挟まず、流暢な訳出を心がける。前出し訳の速度は、学期初めでは毎分80語台、学期末では毎分140語台を目指す。この訓練をもとに、オーバーラッピング訳(同通の基礎練習)を導入し、英語を聞きながら日本語に訳出する練習を行う。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じて適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。ペア逐次通訳体験。
- 第2回 情報の映像処理。意味補正ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 前出し訳。
- 第4回 前出し「エーなし訳」完成。ペア通訳。
- 第5回 オーバーラッピング訳。
- 第6回 Syntax処理。予測・要約練習。
- 第7回 つなぎ言葉。起承転結「ロジック線結び」練習。
- 第8回 パラフレージング。
- 第9回 前出し「エーなし、体言止めなし、言い直しなし訳」。オーバーラッピング訳中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版提出。
- 第11回 ぶっつけ前出し訳。
- 第12回 ペア通訳総仕上げ。
- 第13回 学習データ表の提出。
- 第14回 復習。オーバーラッピング訳完成。ぶっつけ前出し訳。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、提出物 10%、期末テスト70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前の課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に和訳するのではなく「聴衆に分かりやすい日本語とは?」と絶えず自問し訳出方法を工夫すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

Syntax 処理 (英語の語順・品詞予測)、映像処理、つなぎ言葉、記憶のマーカー、自分の言葉化、前出し訳、オーバーラッピング訳、完成訳、ディクテーション意味修正

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor ノリス 志津代 / Shizuyo Norris / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本クラスは英日逐次通訳の基礎力構築のため、英語の語順に着目し「英文を正確且つ迅速に捉える力」を養成する。そのために(1)英語の文構造を正しく捉え、次の品詞展開を予測するSyntax処理能力と、(2)話の展開や結論を予測し、話の要旨を捉える力を強化する。日本語への訳出力に関しては、前出し訳(first-in, first-out translation)に徹し、迅速にSyntax処理を行いながらも、聴衆に分かりやすい訳出を目指す。練習の最後には必ず聴衆を意識した「完成訳」を行い、日本語のアウトプット力を磨く。

リスニング練習では、「今聴いたばかりの内容」を訳出時に忘れてしまうという現象に対処するため、リテンション(記憶保持)力を強化する。そのために、文章間に「つなぎ言葉」を挿入し、これを「記憶マーカー」として活用する練習を行う。リーディングでは、初見でも前から順次テンポよく訳出できるようになるため、前出し訳の練習を行う。その際に「エー」など不要な言葉を挟まず、流暢な訳出を心がける。前出し訳の速度は、学期初めでは毎分80語台、学期末では毎分140語台を目指す。この訓練をもとに、オーバーラッピング訳(同通の基礎練習)を導入し、英語を聞きながら日本語に訳出する練習を行う。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松達也『通訳の技術』(研究社、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下授業の進捗状況に応じて適宜調整する。

- 第1回 授業説明。学習データ表の説明。ペア逐次通訳体験。
- 第2回 情報の映像処理。意味補正ディクテーション(以降継続)。
- 第3回 前出し訳。
- 第4回 前出し「エーなし訳」完成。ペア通訳。
- 第5回 オーバーラッピング訳。
- 第6回 Syntax処理。予測・要約練習。
- 第7回 つなぎ言葉。起承転結「ロジック線結び」練習。
- 第8回 パラフレージング。
- 第9回 前出し「エーなし、体言止めなし、言い直しなし訳」。オーバーラッピング訳中間仕上げ。
- 第10回 ディクテーション自己修正版提出。
- 第11回 ぶっつけ前出し訳。
- 第12回 ペア通訳総仕上げ。
- 第13回 学習データ表の提出。
- 第14回 復習。オーバーラッピング訳完成。ぶっつけ前出し訳。
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加 20%、提出物 10%、期末テスト70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は事前の課題をもとに展開するので、しっかりと指定された範囲の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

通訳は口頭作業であるため、自宅学習においても口頭練習の時間を十分に確保し、授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に和訳するのではなく「聴衆に分かりやすい日本語とは?」と絶えず自問し訳出方法を工夫すること。課題が多く、少し難度の高い授業です。

キーワード /Keywords

Syntax 処理 (英語の語順・品詞予測)、映像処理、つなぎ言葉、記憶のマーカー、自分の言葉化、前出し訳、オーバーラッピング訳、完成訳、ディクテーション意味修正

異文化フィールドワーク【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この科目は、学生の自主的な異文化体験を「生きた学習」として認め、それに対して一定の評価を与え、学生の積極的な異文化体験を促進する目的のために開講されている。受講開始時において、原則として1年以内に1ヶ月以上の海外滞在経験を持ち、撮ってきた写真を使って異文化体験を報告することができることが受講条件となる。

教科書 /Textbooks

特にテキストは定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指摘。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 学生による異文化体験プレゼンテーション1(タコマ)
- 第3回 ディスカッション1(タコマ)
- 第4回 学生による異文化体験プレゼンテーション2(カーディフ)
- 第5回 ディスカッション2(カーディフ)
- 第6回 学生による異文化体験プレゼンテーション3(オックスフォード・ブルックス)
- 第7回 ディスカッション3(オックスフォード・ブルックス)
- 第8回 学生による異文化体験プレゼンテーション4(ピッツバーグ)
- 第9回 ディスカッション4(ピッツバーグ)
- 第10回 学生による異文化体験プレゼンテーション5(フォート・ルイス)
- 第11回 ディスカッション5(フォート・ルイス)
- 第12回 学生による異文化体験プレゼンテーション6(モントレー・ベイ)
- 第13回 ディスカッション6(モントレー・ベイ)
- 第14回 学生による異文化体験プレゼンテーション7(クイーンズランド)
- 第15回 ディスカッション7(クイーンズランド)

※()内の渡航先は暫定的で、未定です。各学生の行った場所によって変わります。

成績評価の方法 /Assessment Method

海外滞在体験報告のプレゼンテーションと、それを簡単に文にまとめたレポートによって成績を出す。

レポート - 40% プレゼンテーション - 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備：海外滞在経験を示す写真等のマテリアルを用意すること。

復習：授業で行ったディスカッションと発表を参考にして、レポートとしてまとめること。

履修上の注意 /Remarks

All Instruction will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究I (音声学・音韻論) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course will have both a theoretical component and a practical component. You will learn in this course what a 'phoneme' is, as compared to a 'phone' or 'allophone'. You will learn more about what kind of sounds are possible to create with the human body, and practice making sounds that you have probably never made before! You will also learn how to read and write a new alphabet (although many of the letters will be familiar to you), the International Phonetic Alphabet (IPA). This skill will help you to understand better the relationship between your tongue, lips and lungs, and the sounds that come out of your mouth. A practical application of this course is looking at the link between English spelling and pronunciation. Most Japanese speakers have never studied how spelling systematically relates to the phones of English, and having a good grasp of this knowledge will allow you to improve your own pronunciation of English.

Put in more compact form, the goals of this course are:

- 1) To understand how English spelling relates to English sounds (phonemes)
- 2) To describe sounds (phones) with a formal system (called the International Phonetic Alphabet)
- 3) Identify the phonemes (sounds) of English
- 4) To understand allophonic patterns within English, such as the aspiration of voiceless stop consonants in certain positions in a word and not in others

このコースの目標は次のとおりです。

- 1) 英語の綴りが英語の音 (音素) にどのように関係するかを理解する
- 2) 正式な国際音韻のアルファベット (IPA) を学ぶ
- 3) 英語の音素 (音) を特定する
- 4) 単語内の特定の位置での無声停止子音の抱き込みなど、英語内のアロフォニックパターンを理解する

このコースは、上記の到達目標を達成するために、音声学や音韻論について幅広く講義します。具体的には学生たちは新しいアルファベットを学んで(IPA)、そのアルファベット等してなんでも言語を写せることができます。英語の綴り字をIPAと繋がったら、英語の発音と綴り字が化するはずですよ。

教科書 /Textbooks

Peter Avery & Susan Ehrlich. Teaching American English Pronunciation. Oxford University Press. 1992.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ Catford, J. C., 竹林、滋, 等. (2006). 実践音声学入門. 大修館書店

竹林、滋 と 斎藤、弘子 (2008). 英語音声学入門. 大修館書店

Carr, Philip (2002). Japanese translation of "English Phonetics and Phonology" by Shigeru Takebayashi and Atsuko Shimizu. 英語音声学・音韻論入門. 研究社.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction, Vocal Tract
2. Manners of articulation for consonants
3. Manners of articulation for vowels
4. Review consonants and vowels
5. International Phonetic Alphabet
6. Spelling and pronunciation
7. Vowel pronunciations in American English
8. Midterm test
9. Review of IPA and vowels
10. Acoustic phonetics (how to read sound waves)
11. Acoustic phonetics (how to distinguish consonants)
12. Linking sounds
13. Accents
14. Intonation
15. Phonology & Review

授業計画

- 第1回 オリエンテーション (声道)
- 第2回 子音調音方法
- 第3回 母音調音方法
- 第4回 子音と母音の練習
- 第5回 国際的な表音アルファベット(IPA)の紹介
- 第6回 スペリングと発音の関係
- 第7回 アメリカ英語の母音発音
- 第8回 中間試験
- 第9回 IPAと母音の復習
- 第10回 音響音韻【音波の読み方】
- 第11回 音響音韻【子音の識別】
- 第12回 音のつながり
- 第13回 アクセントと訛り
- 第14回 イントネーション
- 第15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly Quizzes: 35%; Problem Sets (Homework): 45%; Midterm exam & Review: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Student should read the upcoming chapter of the text each week. Following each lesson students should complete the homework, which will help prepare them for the short quiz we will take every week in class. If a student is absent, they should bring their homework to class the next time they are present. It is the student's responsibility to hand in late homework, and homework later than 2 weeks after its assigned date will not be accepted.

履修上の注意 /Remarks

You will be able to write in the International Phonetic Alphabet and understand the link between pronunciation and spelling in English after you finish this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This linguistics course focuses on language analysis, in this case, of the English sound system. If you like math, you will probably enjoy this class very much. If you don't like math, you will still find the practical application of the course very helpful in your study of the English language.

キーワード /Keywords

Phonetics, Phonology, English, Linguistics, Spelling, Pronunciation

英語学研究II (統語論) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

話し手と聞き手の持っている情報を基に言語現象を分析した「情報の縄張り論」と「機能論」から日英語の差異を観察していく。縄張り理論、機能論での枠組みを把握すること、特にこれまでの統語論からの説明とどう違うのかを理解することを目標とする。
具体的には、統語現象、ここでは後置文、受け身文、再帰代名詞、などでの事象を取り上げ、日英語とも情報量の「小→大」同じ制約から説明できること。また、誰の情報かという観点から日英語の文末表現のちがいを浮き彫りにし、コミュニケーションの差異にも言及する。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトにより進める
(指定した箇所を予習、復習すること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

神尾昭雄『情報の縄張り理論』大修館書店
高見健一『日英語対照による機能的統語論』くろしお出版
荒木・天野(監修)『英語学入門講座第11巻 語用論』英潮社
岡本真一郎『ことばの社会心理学』(第3版)ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの解説
- 第2回 機能論的アプローチとは
- 第3回 省略現象
- 第4回 数量詞遊離
- 第5回 後置文(音韻論、統語論から)
- 第6回 後置文(機能論的、談話の構造から)
- 第7回 受身構文(日英語の構造から)
- 第8回 受身構文(機能論的観点から)
- 第9回 否定現象(日英語の論理的観点から)
- 第10回 否定現象(日英語の機能論的観点から)
- 第11回 縄張り理論と言語現象への適用
- 第12回 指示詞(コンアとthis、that)
- 第13回 自己中心語の言語現象
- 第14回 日英語の文末表現
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 平常点(授業への積極的参加・In-class Quiz) : 60%
- ・ 期末試験 : 40%

授業への積極的参加が単位認定の大前提となる

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[講義前] 次回取り上げるtopicについて参考文献などに目を通しておくこと。 Quizなどで、授業中に確認する。
[講義後] それぞれの言語事象に関して、前回の授業内容を各自に確認するので復習を十分行っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一見無秩序にみえることばの世界にも、一定の原則規則性が潜んでいる。このことを意識することが言語学の理解となっていく。
学生の皆さんにはこの面白さを味わってもらいたい。

キーワード /Keywords

統語論、機能論、情報の新旧

英語史【昼】

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 2単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This class focuses on the history of English from the earliest times that we have writings about the language until the present day. It is an introduction to the topic of language change in general, but this topic is illustrated through the examination of specific changes in the English language from Old English to Middle English to contemporary English. In addition, we will discuss various other varieties of English spoken around the world, language change, and language death. Through this course you will understand how languages may change across time, geography, and culture.

このクラスは、英語の初期の時代から現代の英語への歴史に焦点を当てています。一般的な言語変化の話題を紹介しますが、このクラスでは特に古英語から中級英語、現代英語への英語の具体的な変化を説明します。このコースをとおして言語が時間、地理、文化にどのように変化するかを理解します。

教科書 /Textbooks

Schmitt, Norbert & Marsden, Richard. (2006). "Why is English like that?". Michigan Teacher Training.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 永野芳郎『英語学要説』英宝社。
- Crystal, David and 西出, 公之. (2000). A History of the English Language [英語の歴史]. 単行本.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction: The World of Old English
- Week 2 The history of English; The sounds of Old English
- Week 3 Sound change: Major differences from Old to Early Modern
- Week 4 Sound change 2: The implementation problem
- Week 5 Sources of new vocabulary in Old and Middle English
- Week 6 Morphological Change
- Week 7 Syntactic Change
- Week 8 Loss of cases in English
- Week 9 Midterm Exam
- Week 10 How language change occurs
- Week 11 Language contact (Spanglish)
- Week 12 Dialects of English (Many Englishes)
- Week 13 Writing and written records
- Week 14 Language death
- Week 15 Review

授業計画

- 第1回 オリエンテーション (古英語の歴史)
- 第2回 古英語の音
- 第3回 音の変化: 古英語から初期近代英語への主な違い
- 第4回 音の変化: 偉大な母音のシフト
- 第5回 英語の語彙の起源
- 第6回 形態学的変化: 古英語の名詞と言葉の変容
- 第7回 構文の変更
- 第8回 中間試験
- 第9回 言語関係
- 第10回 言語の変化の進化
- 第11回 言語の連絡先
- 第12回 世界中の英語の方言
- 第13回 ライティングとライティングの記録
- 第14回 言語の死
- 第15回 復習: 最終試験準備

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework 50%; Midterm exam 25%; Final exam 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Student should read the upcoming chapter of the text each week. Following each lesson students should complete the homework, which will help prepare them for the short quiz we will take every week in class. !

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Linguistics, English language, history of English, historical linguistics

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本講義は社会言語学の基礎知識を学び、日常における様々な言語現象を観察し理解する力を身につけることが目的です。ことばは様々な要因によって影響を受け、変化やバリエーションが生じます。どのような要因がどのような影響を与えるのか、また私たちはことばをどのように駆使しているのかを、社会言語学の視点から考えます。ことばと社会との関係、そこに生じる諸問題を理解することがこの授業の狙いです。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回社会言語学とは
- 2 回英語の地域変種
- 3 回標準英語と非標準英語
- 4 回ことばと社会階級
- 5 回ことばと性(1) コミュニケーションとジェンダー
- 6 回ことばと性(2) バリエーションとジェンダー
- 7 回ことばと年齢
- 8 回ことばと人種・民族
- 9 回ことばとソーシャルネットワーク
- 10 回ことばとスタイル
- 11 回ことばの変化
- 12 回方言接触
- 13 回言語接触
- 14 回特別講演会(未定)
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末テスト...100% (出席重視。欠席・遅刻は減点対象。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後に講義内容を復習し、関連する言語現象を観察してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究 【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

American Studies will look at American culture from various historical perspectives. The course is designed to follow trends in American history and how specific events helped shape and change American culture. We will start with the early settlers in the New Land and move through important periods. One of the goals of the course will be to make the events in America's past relevant to present day issues.

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Information regarding required reading will be provided during class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 The Civil War and the Civil Rights Movement
- 8回 The US System of Government
- 9回 The Second World War
- 10回 The 1960's Counterculture
- 11回 Economic Values
- 12回 Lifestyle
- 13回 Popular Culture
- 14回 Continuing Immigration
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Three short quizzes: 45%; Final written report (3 pages): 15%; Homework assignments (including readings): 20%; English-only participation and being prepared for class: 20%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preview: Please familiarize yourself with the topics and vocabulary by reading through assigned textbook chapters before class and answering the questions assigned.

Review: Be careful to review English vocabulary relating to each chapter.

履修上の注意 /Remarks

This course will be taught in English. Students are also expected to participate using only English. Lecture notes will be provided to aid review for quizzes. The quizzes will be in English and will emphasize English language vocabulary and ideas relating to American culture. Students are expected to read before class the English-language textbook chapter and any additional homework readings relating to each week's topic to gain historical background understanding and to better participate in class discussions.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

American Dream; Democracy; Wild, wild West; Industry vs. Agriculture; Racial tensions.

イギリス研究 【昼】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course will be taught in English.

This course will assess and analyse British Culture through a focus on film, literature and journalism. Both historical and modern perspectives will be maintained and embraced throughout this investigation into the key themes of class, media, ideology, economy, sexuality, science, technology, nationalism and religion.

教科書 /Textbooks

Handouts will be provided at the beginning of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Relevant material for further study will be introduced during each class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

We will focus on 9 important era-defining figures from 18th century till today that shaped the times, some of which are listed not because they are important in British history but as significant keys to consider each period: William Shakespeare, John Bunyan, Oliver Cromwell, Daniel Defoe, Erasmus Darwin, Mary Shelley, Isambard Kingdom Brunel, Charles Darwin, William Morris, Conan Doyle, D. H. Lawrence, A. A. Milne and John Lennon.

Class 1: Introduction

Class 2: Erasmus Darwin's "Luna Society" and 18th Century Industrial Revolution (1) 【media, coffee house, luna society】

Class 3: Erasmus Darwin's "Luna Society" and 18th Century Industrial Revolution (2) 【industrial revolution, national roads, canal, network, Josiah Wedgewood】

Class 4: Mary Shelley's Frankenstein and Bioethics in 19th Century (1) 【exploration, science and religion】

Class 5: Mary Shelley's Frankenstein and Bioethics in 19th Century (2) 【romanticism, feminism】

Class 6: Isambard Kingdom Brunel and the Age of Iron: Civil Engineering and the Industrial Hero (1) 【George & Robert stevenson, railway and media】

Class 7: Isambard Kingdom Brunel and the Age of Iron: Civil Engineering and the Industrial Hero (2) 【British Empire, globalization, colonialism】

Class 8: Charles Darwin and A. R. Wallace: When did the Idea of Evolution Become Scientific? (1) 【mechanism and organism, romanticism】

Class 9: Charles Darwin and A. R. Wallace: When did the Idea of Evolution Become Scientific? (2) 【leading spirit, survival of the fittest】

Class 10: William Morris and the British Style 【arts and crafts movement, socialism, romanticism】

Class 11: Conan Doyle's Sherlock Homes and the End of the Century: 19th Century Occultism and Science 【mystery and occultism, London, urbanism】

Class 12: D. H. Lawrence's Lady Chatterley's Lover and the Idea of Obscenity 【class, sex, violence, reason, instinct】

Class 13: A. A. Milne's Winnie the Pooh and the Age of Wars: What Exists Where There is Nothing? 【humour, comedy, the idea of nothingness, war】

Class 14: John Lennon and the Rock Music: Pop, Youth and Identity in the Postcolonial World 【subculture, counterculture, freedom, love and peace movement】

Class 15: General Overview

成績評価の方法 /Assessment Method

Examination 70%
Class Contribution 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Each student will read the given material before each class.
Each student will review the class.

イギリス研究【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

履修上の注意 /Remarks

Students must prepare for the class by reading the suggested materials and doing some research in advance.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

英米学科の教育の柱として、「語学力の養成」、「英語のこころを学ぶ」、「英語の先にある世界を学ぶ」をあげることができます。この授業は、このうち「英語のこころを学ぶ」ために用意されたものです。まずは比較文化論の方法論を踏まえ、異文化を読み解くにはどのようなことに注意を払えばよいかを確認します。それに続いて、英語文化の背後にあるイギリス、アメリカの文化を見つめ、さらに英語が事実上国際共通語の地位にあることを踏まえ、英語の現状を理解し、さらに英米以外の英語圏やアジアの国々についても考察したいと考えています。最後にこれらの学習のまとめを兼ねて、それらとの対比によって明らかにされた日本文化のさまざまな特徴を英語で語る練習をしてみたいと思います。

【この授業の主な到達目標として、以下の内容を考えています。】

①高度な英語運用に必要な専門的知識と、英米および英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。②ものごとをグローバルな視点から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探求することができる。③専門的知識を応用しながら、日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。④英語を駆使して、日本と違った価値観や伝統、制度を持った異文化に積極的に関わっていく態度を身につけている。⑤卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。プリントを用意し、授業ごとに配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：文化を読み解くとは
- 第02回 イギリス・アメリカの素顔を知る
- 第03回 マザーグースと児童文学
- 第04回 推理小説の誕生と発達
- 第05回 英国中世演劇からシェイクスピアまで
- 第06回 キリスト教を学ぶ
- 第07回 イスラム教を知る
- 第08回 英米の音楽(1)：ジャズの歴史とロックの誕生
- 第09回 英米の音楽(2)：イギリスで発展したロックンロール
- 第10回 英米の音楽(3)：プロムスのラストナイトプログラム
- 第11回 20世紀をスピーチで辿る
- 第12回 聖地デイズ・ネーランド
- 第13回 イギリス英語・アメリカ英語・アジア諸国の英語事情
- 第14回 日本文化を英語で発信する
- 第15回 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100% ただし、授業の出席(欠席)状況により、平常点として若干の加点および減点を行いません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業は予習を前提に考えてはいませんので、特に何か準備して臨んでいただく必要はありません。ただし、「日本文化を英語で発信する」の回においては、皆さんに事前に作成していただいた内容を授業時に順に発表していただきますので、よろしく願います。他方、復習はしっかり行なっていただきたいと思ひます。プリントを読み直すとともに、気になることがあったら調べてみて下さい。最終試験は復習および皆さんの追加リサーチの成果が評価されることとなります。

履修上の注意 /Remarks

この科目は教職課程を履修している人にとっては必修科目となっています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語はもはやイギリスやアメリカだけのものではなくなっています。英語はわたしたちの言語でもあります。しかし、英語を育ててきた英米両国の文化を学ぶことは、英語の背後にある考え方やものの見方を知るためには不可欠です。積極的な気持ちで学んでいただきたいと思ひます。

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: A Debaters Handbook、Debbie Newman (編集), Trevor Sather (編集), Ben Woolgar (編集) Routledge; 19版 (2013/9/27)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Supplementary materials to be provided by instructor. Students should use library references and resources to prepare for class debates.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory (Textual/Source Study)
- 3.Philosophy/political theory (Argumentation) A
- 4.Philosophy/political theory (Discussion) B
- 5.Philosophy/political theory (Debate) C
- 6.International relations (Textual/Source Study)
- 7.International relations (Argumentation) A
- 8.International relations (Discussion) B
- 9.International relations (Debate) C
- 10.Social, moral, and religious (Textual/Source Study)
- 11.Social, moral, and religious (Argumentation) A
- 12.Social, moral, and religious (Discussion) B
- 13.Social, moral, and religious (Debate) C
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings.

For review students should apply the results of class discussions to their individual topics. Students should continue to pursue tasks in relation to their own topics for presentation.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

上級英語I【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)
Supplementary materials to be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory: Assignment of topics
- 3.Philosophy/political theory: Textual/source study
- 4.Philosophy/political theory: Preparing points for discussion
- 5.Philosophy/political theory: Argumentation and Debate
- 6.International relations: Assignment of topics
- 7.International relations: Textual/source study
- 8.International relations: Preparing points for discussion
- 9.International relations: Argumentation and Debate
- 10.Social, moral, and religious issues: Assignment of topics
- 11.Social, moral, and religious issues: Textual/source study
- 12.Social, moral, and religious issues: Preparing points for discussion
- 13.Social, moral, and religious issues: Argumentation and Debate
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings. For review students should apply the results of class discussions to their individual topics.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

上級英語I【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)
Supplementary materials to be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory: Assignment of topics
- 3.Philosophy/political theory: Textual/source study
- 4.Philosophy/political theory: Preparing points for discussion
- 5.Philosophy/political theory: Argumentation and Debate
- 6.International relations: Assignment of topics
- 7.International relations: Textual/source study
- 8.International relations: Preparing points for discussion
- 9.International relations: Argumentation and Debate
- 10.Social, moral, and religious issues: Assignment of topics
- 11.Social, moral, and religious issues: Textual/source study
- 12.Social, moral, and religious issues: Preparing points for discussion
- 13.Social, moral, and religious issues: Argumentation and Debate
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings. For review students should apply the results of class discussions to their individual topics.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)
Supplementary materials to be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory: Assignment of topics
- 3.Philosophy/political theory: Textual/source study
- 4.Philosophy/political theory: Preparing points for discussion
- 5.Philosophy/political theory: Argumentation and Debate
- 6.International relations: Assignment of topics
- 7.International relations: Textual/source study
- 8.International relations: Preparing points for discussion
- 9.International relations: Argumentation and Debate
- 10.Social, moral, and religious issues: Assignment of topics
- 11.Social, moral, and religious issues: Textual/source study
- 12.Social, moral, and religious issues: Preparing points for discussion
- 13.Social, moral, and religious issues: Argumentation and Debate
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings. For review students should apply the results of class discussions to their individual topics.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

上級英語II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
2. The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
3. The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
4. The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
5. The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
6. The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
7. The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
8. The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
9. Capital Punishment (Textual/Source Study)
10. Capital Punishment (Argumentation and Debate)
11. The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
12. The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
13. The Arming of the Police (Textual/Source Study)
14. The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
15. Closing Discussion: Student-Selected Topic

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
2. The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
3. The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
4. The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
5. The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
6. The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
7. The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
8. The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
9. Capital Punishment (Textual/Source Study)
10. Capital Punishment (Argumentation and Debate)
11. The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
12. The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
13. The Arming of the Police (Textual/Source Study)
14. The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
15. Closing Discussion: Student-Selected Topic

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
2. The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
3. The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
4. The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
5. The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
6. The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
7. The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
8. The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
9. Capital Punishment (Textual/Source Study)
10. Capital Punishment (Argumentation and Debate)
11. The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
12. The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
13. The Arming of the Police (Textual/Source Study)
14. The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
15. Closing Discussion: Student-Selected Topic

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
2. The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
3. The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
4. The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
5. The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
6. The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
7. The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
8. The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
9. Capital Punishment (Textual/Source Study)
10. Capital Punishment (Argumentation and Debate)
11. The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
12. The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
13. The Arming of the Police (Textual/Source Study)
14. The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
15. Closing Discussion: Student-Selected Topic

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 原田 昂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本科目では、2年次までに学ぶReading & Discussionの内容を発展させ、より難易度の高い英語で書かれた様々な分野の文章を読むことを通じて以下の力の育成に取り組む。

- (1)英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる読解力。
- (2)英語を正確に読み、英米および英語圏の文化背景を理解する力。
- (3)英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度。
(Discussionを通じて、与えられた話題について建設的に意見や情報発信を行う)

オンラインニュースに掲載された記事を英語で読み、自分の意見を英語で伝えられるようにする。
第11回目の授業から、学生が主体となってディスカッションをリードできるようにする。
また、授業中に配布するマテリアルを用いて、英語独特の表現を使った物語を読み解き、その文化背景を理解する。

教科書 /Textbooks

なし
ウェブ上に掲載される最新のニュース記事を利用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & icebreaker questions
- 第2回 News summary & planned discussion (1) 【lifestyle news】
- 第3回 News summary & planned discussion (2) 【national news】
- 第4回 News summary & planned discussion (3) 【world news】
- 第5回 News summary & planned discussion (4) 【science news】
- 第6回 News summary & planned discussion (5) 【political news】
- 第7回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (1) 【responding to others】
- 第8回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (2) 【asking questions】
- 第9回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (3) 【supporting and disagreeing constructively】
- 第10回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (4) 【leading a discussion】
- 第11回 News summary & spontaneous discussion (1) 【lifestyle news】
- 第12回 News summary & spontaneous discussion (2) 【national news】
- 第13回 News summary & spontaneous discussion (3) 【world news】
- 第14回 News summary & spontaneous discussion (4) 【science news】
- 第15回 News summary & spontaneous discussion (5) 【political news】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業態度およびDiscussionへの積極的な参加 : 50%
- ・ 期末試験 : 50%

授業への積極的な参加が単位認定の大前提となるので、4回以上欠席すると期末試験の受験を認めない可能性がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[演習前]
指定された記事を読解し、Summaryを行う。また、必要に応じて関連する内容を調べてデータを持参する。

[演習後]
演習中に扱った内容について咀嚼し、他者の意見を踏まえた上で自分の意見を建設的に伝えられるようにする。

履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English.
Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

キーワード /Keywords

Skimming, Scanning, Paraphrasing, Summary, Multicultural Communication, Current Japanese Affairs, International Affairs

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 原田 昂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本科目では、2年次までに学ぶReading & Discussionの内容を発展させ、より難易度の高い英語で書かれた様々な分野の文章を読むことを通じて以下の力の育成に取り組む。

- (1)英語の文章構造を正しく理解し、正確に解釈できる読解力。
- (2)英語を正確に読み、英米および英語圏の文化背景を理解する力。
- (3)英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度。
(Discussionを通じて、与えられた話題について建設的に意見や情報発信を行う)

オンラインニュースに掲載された記事を英語で読み、自分の意見を英語で伝えられるようにする。
第11回目の授業から、学生が主体となってディスカッションをリードできるようにする。
また、授業中に配布するマテリアルを用いて、英語独特の表現を使った物語を読み解き、その文化背景を理解する。

教科書 /Textbooks

なし
ウェブ上に掲載される最新のニュース記事を利用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The course introduction & icebreaker questions
- 第2回 News summary & planned discussion (1) 【lifestyle news】
- 第3回 News summary & planned discussion (2) 【national news】
- 第4回 News summary & planned discussion (3) 【world news】
- 第5回 News summary & planned discussion (4) 【science news】
- 第6回 News summary & planned discussion (5) 【political news】
- 第7回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (1) 【responding to others】
- 第8回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (2) 【asking questions】
- 第9回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (3) 【supporting and disagreeing constructively】
- 第10回 News summary & preparation for a spontaneous discussion (4) 【leading a discussion】
- 第11回 News summary & spontaneous discussion (1) 【lifestyle news】
- 第12回 News summary & spontaneous discussion (2) 【national news】
- 第13回 News summary & spontaneous discussion (3) 【world news】
- 第14回 News summary & spontaneous discussion (4) 【science news】
- 第15回 News summary & spontaneous discussion (5) 【political news】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業態度およびDiscussionへの積極的な参加 : 50%
- ・ 期末試験 : 50%

授業への積極的な参加が単位認定の大前提となるので、4回以上欠席すると期末試験の受験を認めない可能性がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

[演習前]
指定された記事を読解し、Summaryを行う。また、必要に応じて関連する内容を調べてデータを持参する。

[演習後]
演習中に扱った内容について咀嚼し、他者の意見を踏まえた上で自分の意見を建設的に伝えられるようにする。

履修上の注意 /Remarks

Successful completion of each assignment specified by the instructor and active participation in class are required to pass this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This course is conducted in both Japanese and English.
Students are encouraged to be enthusiastic in class activities and to express their opinions with due manner.

キーワード /Keywords

Skimming, Scanning, Paraphrasing, Summary, Multicultural Communication, Current Japanese Affairs, International Affairs

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

時事英語や英文副読本を読んでテキストの意味を正しく理解する能力を身につける。授業では時事英語のテキストを読む副読本としてAnthony TrollopeのThe Way We Live Nowを読む

教科書 /Textbooks

テキストは“Meet the World 2019”（若有保彦、成美堂）
読本はThe Way We Live Now の第77章から84章の英文コピーをプリントして配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 Study: Microwave ovens are cooking the environment
- 3回 Truck damages Peru's ancient Nazca Lines
- 4回 Firms struggle to secure IT workers
- 5回 Global automakers to speed up electrified vehicle rollout
- 6回 Pharmacists in Oita create guidebook for drinkable spa water
- 7回 SpaceX's rocket blasts off, puts sports car in space
- 8回 Single-person households expected to hit 40% in 2040
- 9回 Govt plans to implement 'EdTech' for schools
- 10回 Universities help run cafeterias for low-income kids
- 11回 Tunisian schoolgirls rebel against uniforms
- 12回 English added to more school entrance exams
- 13回 International body OK's Japanese names for undersea features
- 14回 Language schools eyed to prep Asian workers for Japan
- 15回 Shopping app tested to reduce food loss

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度や受講態度20%。期末テスト結果80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストの授業範囲を読んで、不明部分をチェックし、単語の意味を調べておくこと。授業後に必ず復習を行い知識の定着を図ること。副読本については1回の授業に4頁ずつ進むので、担当者は授業日の2日前までに当てられた頁の翻訳をワード・ファイルにしてメールで提出すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

時事英語や英文副読本を読んでテキストの意味を正しく理解する能力を身につける。授業では時事英語のテキストを読む副読本としてAnthony TrollopeのThe Way We Live Nowを読む

教科書 /Textbooks

テキストは“Meet the World 2019”（若有保彦、成美堂）
読本はThe Way We Live Now の第77章から84章の英文コピーをプリントして配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 Study: Microwave ovens are cooking the environment
- 3回 Truck damages Peru's ancient Nazca Lines
- 4回 Firms struggle to secure IT workers
- 5回 Global automakers to speed up electrified vehicle rollout
- 6回 Pharmacists in Oita create guidebook for drinkable spa water
- 7回 SpaceX's rocket blasts off, puts sports car in space
- 8回 Single-person households expected to hit 40% in 2040
- 9回 Govt plans to implement 'EdTech' for schools
- 10回 Universities help run cafeterias for low-income kids
- 11回 Tunisian schoolgirls rebel against uniforms
- 12回 English added to more school entrance exams
- 13回 International body OK's Japanese names for undersea features
- 14回 Language schools eyed to prep Asian workers for Japan
- 15回 Shopping app tested to reduce food loss

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度や受講態度20%。期末テスト結果80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストの授業範囲を読んで、不明部分をチェックし、単語の意味を調べておくこと。授業後に必ず復習を行い知識の定着を図ること。副読本については1回の授業に4頁ずつ進むので、担当者は授業日の2日前までに当てられた頁の翻訳をワード・ファイルにしてメールで提出すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced Reading and Discussion 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は英文を読みながら議論の構成についての分析力を習得して、当該の課題に対する自身の議論構成を組み立てることにある。そのために平素の授業では英文を読みながらどのようなタイプの議論構成がされているかを理解するための着眼点を帰納的に発見するトレーニングを一緒に行う。次の段階では、まず日本語で自分の意見を組み立てる練習を積み、次に英語を書くことによる議論構成の練習を経て言葉を使った議論の提示の仕方についてのノウハウを学ぶ。

教科書 /Textbooks

東大教養学部英語部会編 東大教養英語読本II 東大出版会 ¥1,900

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

足立隼宏 Raymond Sweet 『英語スピーチ』 大阪教育図書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 授業の目的・授業の進め方 単位算出の基準 担当者による授業内容の一部デモ
- 第二回 Session 1&2 The Fires of Vesuvius
- 第三回 Session 3&4 The Great Plains
- 第四回 Session 5&6 Adam's Novel
- 第五回 第二回から第四回の課題から指定したテーマによるレジメ提出およびその議論
- 第六回 Session 7&8 Turing Machine
- 第七回 Session 9&10 Dolittle's Delusion
- 第八回 Session 11&12 The Dynamics of Primate Societies
- 第九回 Session 13&14 The Naming of Names
- 第十回 第六回から第九回の課題から指定したテーマによるレジメ提出およびその議論
- 第十一回 Session 15&16 A Musician's Alphabet
- 第十二回 Session 17&18 Voice of the Century
- 第十三回 Session 19&20 From Food to Nutrients
- 第十四回 Session 21&22 Indian Takeover
- 第十五回 第十一回から第十五回の課題から指定したテーマによるレジメ提出およびその議論

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60% レジメ提出 10%×4回=40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された所を予習・復習すること

履修上の注意 /Remarks

授業毎に、教科内容に即して予習のポイントを概略するので、当該Sessionを学習後各自でポイントの理解度を確認してください。レジメは評価点とともにコメント内容にも注目して以降の議論構成の仕方に反映させるように努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語で表現された内容を正確に理解するには日本語を使って内容を理解する通常の訳読だけでなく英語の語についての精確な理解が必要になります。その意味で、日本語の語に対する観察力ならず英語の語を的確に捉える必要があります。そこで英英辞典を使って英文を読む事の重要性を自覚することが大事になってきます。授業中に英英辞典の読み方についての解説をしますので辞書を通して言葉の意味を考え内容を理解する姿勢を身に付けてください。

キーワード /Keywords

キーワード表現の発見。内容に依存した議論構築のパターン発見。

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

講義内容は「国際経営論応用編」です。
国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎知識を提供し、学習能力を育成します。
講義では適宜テーマに沿って英文テキストやケース（英文の事例研究）を輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを知り、勤勉な学生の参加を歓迎します。

教科書 /Textbooks

[教科書]
テキストは指定しませんが、複数のテキストより引用します。詳しくは開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

[参考書]
講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	グローバル化の本質	日本企業、海外企業動向
第2回	-上記テーマについてケース討論	
第3回	グローバルマーケティング	英文資料輪読
第4回	-上記テーマについてケースの討論	
第5回	グローバルサプライチェーン	英文資料の輪読
第6回	-上記テーマについてケースの討論	
第7回	地域経済統合	英文資料の輪読
第8回	-上記テーマについてケースの討論	
第9回	中間試験	
第10回	国際資金移動と外国為替	英文資料の輪読
第11回	-上記テーマについてケースの討論	
第12回	グローバルファイナンス	英文資料の輪読
第13回	-上記テーマについてケースの討論	
第14回	多国籍企業と会計・税制	英文資料の輪読
第15回	-上記テーマについてケースの討論	

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度（20%）、中間試験（40%）、定期試験（40%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義内容やデスカッショントピックは全て学習支援システムmoodleに事前に配置しますので予習、復習に活用ください。講義中に適宜質問や意見等を求めます。特に講義内容の要旨を事前に配置しますので予習してからクラスに参加するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

学生には、「Introduction to Economics」「ビジネス英語演習/国際経営論基礎」の履修を強く勧めます。

授業時間には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味がただしいかをゼミ全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身企業出身者(丸紅)ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。学生が将来グローバル企業に従事することを強く願い、私自身の国際ビジネスの実態経験を踏まえ熱心に講義しますので、勤勉に学習する学生の履修態度を求めます。

キーワード /Keywords

foreign direct investment (FDI), forward market, arbitrage, purchasing power parity (PPP), interest rate parity (IRP), call option, put option, Export-Import (Ex-Im) Bank, trade finance, Bank of International Cooperation (JBIC), net present value, country risk

異文化間コミュニケーションゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 /Class クラス 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. The first semester of this seminar will focus on basic theories of communication and culture.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Instructor-led discussions on differences in culture.
- 3 回 Workshop and discussion on differences in culture.
- 4 回 Instructor-led discussions on differences in communication.
- 5 回 Workshop and discussion on differences in communication.
- 6 回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 7 回 Student presentation A.
- 8 回 Student-led discussion and presentation A.
- 9 回 Student presentations B.
- 1 0 回 Student-led discussion and presentation B.
- 1 1 回 Student presentations C.
- 1 2 回 Student-led discussion and presentation C.
- 1 3 回 Student presentations D.
- 1 4 回 Student-led discussion and presentation D.
- 1 5 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for class by reading all assigned materials before class meetings. After meetings, students should review discussed topics and apply this to their research topics. Students should continue to read materials and pursue research tasks in relation to their own topics.

履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミAI【昼】

担当者名 /Instructor
フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This seminar focuses on the concept of gender. What does gender mean? Is gender confined to the binary idea of men and women or is it more fluid and flexible?

In this semester we will explore the fundamental key ideas of the meaning of gender through exploration of gender in our everyday lives. We will also look at how gender is influenced by the media, focusing on representations of gender in music and film.

Each topic will be covered over two or three weeks and students will be expected to actively participate in discussions about gender as well as read materials handed out in advance and write presentations and short essays as and when required.

教科書 /Textbooks

There is no specific textbook for this course. Materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Specific references will be provided by the instructor but it is always a good idea to browse the library for gender related materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 An Introduction to the Seminar
- 2回 What is gender?
- 3回 What does gender fluid mean?
- 4回 Gender and Film I: Action Heroes (Ironman, Superman, Batman)
- 5回 Gender and Film II: Action Heroes (Wonder Woman, Cat Woman, Katniss Everdeen)
- 6回 Gender and Film III: The Romcom (Bridget Jones)
- 7回 Gender and Film IV: The Disney Princess
- 8回 Gender and Film V: The Disney Prince
- 9回 Gender and the Music Industry I: J-pop
- 10回 Gender and the Music Industry II: K-pop
- 11回 Gender and the Music Industry III: Europe
- 12回 Gender and the Music Industry IV: America
- 13回 Rethinking Gender
- 14回 Discussion and Review
- 15回 Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

- Assignment I: Gender and Film 25%
- Assignment II: Gender and the Music Industry 25%
- Assignment III: Rethinking Gender 25%
- Presentations 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please come to class fully prepared by reading the relevant materials for each session.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

通訳ゼミは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切です。

また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。

こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していただけるゼミにしていきたいと思っています。

この「通訳ゼミA-1」では、リスニング力を磨くことを第一の課題として取り組み、あわせて総合的な英語力のブラッシュアップを図ります。もちろん通訳の練習もしっかり行ないますが、まずはその基礎となる英語力をブラッシュアップすることから始めたいと思います。授業計画には記されていませんが、日本語を英語に通訳する練習も時間をとって行ないます。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

①物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探索することができる。②専門的知識を応用しながら、日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。③広い視野を有する国際人として、市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。④卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

教科書 /Textbooks

「スティーブ・ジョブズ 伝説のスピーチ&プレゼン」 (朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 CNNが振り返るジョブズの功績(1)
- 第03回 CNNが振り返るジョブズの功績(2)
- 第04回 CNNが振り返るジョブズの功績(3)
- 第05回 驚異のプレゼンでたどるジョブズの軌跡(1)
- 第06回 驚異のプレゼンでたどるジョブズの軌跡(2)
- 第07回 驚異のプレゼンでたどるジョブズの軌跡(3)
- 第08回 伝記本の著者が明かすカリスマの素顔(1)
- 第09回 伝記本の著者が明かすカリスマの素顔(2)
- 第10回 伝記本の著者が明かすカリスマの素顔(3)
- 第11回 通訳訓練法の実践と復習・発展練習
- 第12回 伝説のスタンフォード大学スピーチ(1)
- 第13回 伝説のスタンフォード大学スピーチ(2)
- 第14回 伝説のスタンフォード大学スピーチ(3)
- 第15回 通訳実践演習：1学期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。
積極的参加の度合い50% + 実技・プレゼンテーション50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備をして臨んでください。復習もしっかり行なってください。

履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。
また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りがないようお願いいたします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよゼミが始まります。楽しいゼミになるよう努力します。皆さんも頑張ってください。

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ AI 【昼】

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週末までに用意・指示しておく。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミの時間では、各自課題の報告をする。毎回、決められた範囲の翻訳原稿を持ってくること。それを読んで、問題点を指摘したり、さらに読むべき文献を適宜指導する。

※ 翻訳対象は学生との話し合いによって最終的に決定するので、この計画は変更になることがある。

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 選定した翻訳テキスト【音楽1】
- 3回 選定した翻訳テキスト【音楽2】
- 4回 選定した翻訳テキスト【映画1】
- 5回 選定した翻訳テキスト【映画2】
- 6回 ディスカッション1
- 7回 選定した翻訳テキスト【劇1】
- 8回 選定した翻訳テキスト【劇2】
- 9回 選定した翻訳テキスト【小説1】
- 10回 選定した翻訳テキスト【小説2】
- 11回 ディスカッション2
- 12回 選定した翻訳テキスト【詩1】
- 13回 選定した翻訳テキスト【詩2】
- 14回 ディスカッション3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%
ディスカッションへの積極的参加 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

このゼミナールでは、国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎知識や学習能力を育成します。コミッター（ゼミ長）がリーダーとなりゼミOBGとの交流など様々なプロジェクトを推進します。このような活動を通じて単に学問だけでなく、組織をつくることのできる人間形成を目的とします。

ゼミナールでは英文テキストやケースを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力を養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ゼミでの学習によってビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力（マナー用語を含む）、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。発話としての英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを知り、主として自主学習に委ね、ゼミではその発表の場とします。勤勉な学生の参加を歓迎します。

教科書 /Textbooks

複数のテキストより引用します。詳しくは開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	グローバル化の本質	日本企業、海外企業動向
第2回	マーケティング戦略1	swot分析：豊田通商
第3回	マーケティング戦略2	データ分析
第4回	会計part1	PL&BS
第5回	会計part2	練習問題
第6回	英文会計1	資産、負債
第7回	英文会計2	収益、キャッシュフロー
第8回	会計プレゼンテーション1	好きな企業を選択し発表（グループ1）
第9回	会計プレゼンテーション2	好きな企業を選択し発表（グループ2）
第10回	英文ケース輪読	コーヒーチェーン（ミャンマーでの起業）
第11回	上記ケース討論	
第12回	スピーチコンテスト1	時事問題について英語で発表（グループ1）
第13回	スピーチコンテスト2	時事問題について英語で発表（グループ2）
第14回	卒論書き方説明	文献検索の仕方等
第15回	卒論書き方説明	剽窃の説明、レファレンスの仕方等

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度（20%）、課題・レポートの提出（40%）、定期試験（40%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義スライドや使用資料は全て本学学習支援システムmoodleに掲載しますので予習、復習に活用ねがいます。

履修上の注意 /Remarks

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義中に適宜質問や意見等を求めます。事例研究やディスカッションも頻りに行います。

学生には、「ビジネス英語演習/国際経営論基礎」「ビジネス英語研究/国際経営論応用」の履修を強く勧めます。これらの知識の上に当該ゼミで学習することで国際企業の理解に繋がります。

直接的な英会話の練習はこのゼミではやりませんので各自発話としての英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを認識し、主として自主学習に委ね、ゼミではその発表の場とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身企業出身者（大手商社丸紅、豪州産鉄鉱石輸入業務、インフラプロジェクト組成業務など）ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。授業時には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味が正しいかをゼミ全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。4年生には卒業論文の提出を義務づけておりますので3年次後半よりその準備に取り掛かります。ゼミ歓送迎会やOBG会などで優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学んでもらいたいと思います。それが学生諸君の就職活動にも役立つと思います。松田ゼミはゼミOBG、先輩、後輩、同期との繋がりを大切にする特徴があり、学生から喜ばれています。松田ゼミの諸先輩達は有名・有力企業に多数、勤務されていますので自分たちの未来像について多くのことを学ぶことができるでしょう。松田ゼミに入れば優良企業を選択できるチャンスが広がるはずです。

キーワード /Keywords

Marketing, SWOT, segmentation, portfolio, MNC, political risk, accounting, global finance, entry mode, cross-cultural management

メディア英語ゼミA 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture
メディア英語ゼミA offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A reading list will be provided at the beginning of the course.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Identifying a Research Topic
- 3回 The Uses of Theory
- 4回 Example Presentation: Performing Hamlet
- 5回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: The Opening Sequence
- 6回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: Semiology
- 7回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Film: Presenting Gender
- 8回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Empty Space
- 9回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: Introducing Pleasure
- 10回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: Metatheatre
- 11回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Logical Structuring
- 12回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Referencing
- 13回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Objectivity
- 14回 Student-led class (presentation and discussion) + Academic Presentation Skills
- 15回 Review and Final Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 5 to Session 14 students will be expected to prepare background knowledge, questions and comments to be used in post-presentation discussions.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

We will explore New York City as a cultural epicenter. Materials used will integrate three specific approaches to examining the modern city, specifically: consumerism, urban environments, and identity. The course will be comprised of readings from New York Stories: The Best of the City Section of the New York Times (2005), as well as TED Talks and recent articles on cultural and social transformations taking place in New York City. Additionally, students will examine various cultural differences between New York City and major cities in Japan. The end goal of this class is to help broaden your world perspective and understanding of cosmopolitan life by strengthening your ability to discuss various social topics. In doing these tasks, you will learn strategies for listening to others' opinions in order to better formulate your own argument.

教科書 /Textbooks

Constance Rosenblum (Editor); New York Stories: The Best of the City Section of the New York Times; New York Univ Pr; New. edition (May 30, 2005)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

You will need to access the library webpage (on campus) and use the JSTOR and Ebscohost databases.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction and getting to know your classmates
 Class 2: New York City: Building Higher;
 Class 3: New York City: Claustrophobia;
 Class 4: New York City: Coming to New York;
 Class 5: New York City: NYC Subways;
 Class 6: New York City: The Streets of New York;
 Class 7: New York City: Safety in the City;
 Class 8: New York City: Smoking in NYC;
 Class 9: New York City: Taxis;
 Class 10: New York City: Art in the big city;
 Class 12: New York City: Rebuilding Communities;
 Class 13: New York City: Terrorism in the City;
 Class 14: New York City: Avoiding others;
 Class 15: Final paper presentations and final discussion.

成績評価の方法 /Assessment Method

One 8-page research essay: 30%
 One Presentation on a specific topic: 10%
 5 Reading summaries: 20%
 In-class participation: 20%
 Homework Assignments (TED Talks and Socratic seminar): 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

You will be required to have the textbook for the second class.

履修上の注意 /Remarks

Consistent attendance and participation will be expected. Anyone who has more than 5 absences will not pass the class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The course objectives will include some of the following elements:

- Note-taking.
- Absorb information from audio and be able to listen for key vocabulary.
- Participate in class discussions by asking and responding to questions.
- Give effective oral presentations.
- Express their own ideas about differing value systems around the world and how these differ from Japanese society.
- Increase and diversify vocabulary usage.
- Read a literary work for a thematic meaning.
- Read secondary sources and material and be able to incorporate the themes into research essays.
- Avoid plagiarism and use MLA documentation outlines.

キーワード /Keywords

New York City
Urbanism
Urban Culture

イギリス研究ゼミAI 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description
 当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というぐ
 らいの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の
 作家も入るが、その他マザーグース(イギリス伝承童謡)、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学
 も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ゼミは
 木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文
 献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回くらいの割合で自分の研究成果を発表する。前も
 って資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

教科書 /Textbooks
 特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション(導入1)
 - 第2回 プレゼンテーションとディスカッション(導入2)
 - 第3回 プレゼンテーションとディスカッション(基礎1)
 - 第4回 プレゼンテーションとディスカッション(基礎2)
 - 第5回 プレゼンテーションとディスカッション(基礎3)
 - 第6回 プレゼンテーションとディスカッション(基礎4)
 - 第7回 プレゼンテーションとディスカッション(展開1)
 - 第8回 プレゼンテーションとディスカッション(展開2)
 - 第9回 プレゼンテーションとディスカッション(展開3)
 - 第10回 プレゼンテーションとディスカッション(展開4)
 - 第11回 プレゼンテーションとディスカッション(発展1)
 - 第12回 プレゼンテーションとディスカッション(発展2)
 - 第13回 プレゼンテーションとディスカッション(発展3)
 - 第14回 プレゼンテーションとディスカッション(発展4)
 - 第15回 プレゼンテーションとディスカッション(まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method
 レポート 30%、発表 40%、ディスカッションへの参加 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
事前
 発表担当者は、これまでの研究をさらにすすめてプレゼンを準備する。その他の学生は、その日に読んでおくべき資料に目を通し、自分の見解
 を用意しておくこと。
事後
 各回の演習のディスカッション内容、得られた結論をまとめる。

履修上の注意 /Remarks
 担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 ゼミでは受け身で学ぶのではなく、自分で考えたテーマを自分で掘り下げ、独自の考えを展開する能力を身につけて欲しい。

キーワード /Keywords
 文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

英語学ゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course will introduce students to the main ideas of second language acquisition, with a focus on practical aspects of learning a new language. There are basic principles of language acquisition that have been discovered through years of research, and which can help both individuals learn languages in a better way and also help people who may be language teachers in the future.

教科書 /Textbooks

Brown, S. & Larson-Hall, J. (2012). Second Language Acquisition Myths. University of Michigan Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction & gathering of student questions
- Week 2: Identifying a research topic & diagnostic test
- Week 3: Language learning & age (1); Giving an effective academic presentation
- Week 4: Language learning & age, cont.; Finding trustworthy research sources
- Week 5: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Bilingualism (2)
- Week 6: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Input & interaction (3)
- Week 7: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Output (3)
- Week 8: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Attention & noticing (4)
- Week 9: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Explicit & implicit learning (5)
- Week 10: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Developmental sequences (5)
- Week 11: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Correction (6)
- Week 12: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Individual differences (7)
- Week 13: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Pragmatics (8)
- Week 14: Student-led class (presentation & discussion); Topic: Social approaches (8)
- Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations (1 during the semester) 30%; Vocabulary tests 40%; Participation 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

No special preparation necessary for this course; You will understand the foundational ideas of Second Language Acquisition after this course.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SLA, language acquisition, zemi

英語教育ゼミ A1 【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、言語学と言語教育の有機的な関係に着目して、外国語（英語）教育の基本的な課題について理解を深め、基礎的な知識を得ることを目標とする。具体的には、外国語習得論、外国語学習者論、外国語指導法、外国語学習評価について英文の教科書や研究論文を読み、それらの内容について理解を深めるとともに教育実践への示唆を考察する。また、今回の授業内容を中心に、毎週自習を行うことが必要である。自習内容については毎回授業中に指示するので、指示に従って授業の予習・復習を行うようにしたい。

教科書 /Textbooks

初回授業時に知らせる。第二言語習得に関する洋書を予定している。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。

1. ガイダンス
2. 言語教育学の研究
3. 外国語習得論 (概説)
4. 外国語習得論 (発表)
5. 外国語習得論 (発表及びまとめ)
6. 外国語学習者論 (概説)
7. 外国語学習者論 (発表)
8. 外国語学習者論 (発表及びまとめ)
9. 外国語指導法 (概説)
10. 外国語指導法 (発表)
11. 外国語指導法 (発表及びまとめ)
12. 外国語学習評価 (概説)
13. 外国語学習評価 (発表)
14. 外国語学習評価 (発表及びまとめ)
15. 教育言語学の課題

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は (1) 授業参加に対する積極性 (発言や質問など) 30%、 (2) 課題30%、 (3) 発表40%によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- <事前学習> 次回の授業で使用する教科書の範囲や論文を読み、発表や議論の準備をする。
- <事後学習> 指定の関連文献を読む。

履修上の注意 /Remarks

発表担当者は発表前に自主練習を行っておいください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず、発表内容に関する議論を行います。そのため、授業時間外での (相当の) 準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミ AI 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学研究に必要な基本的概念や理論を理解することを目的とします。AIでは言葉の変化とバリエーションを扱う代表的な研究を紹介・解説し、変化や変異を引き起こす社会的要因や言語的要因を学びます。また言語調査を行うために必要な方法論の基礎知識を学びます。

教科書 /Textbooks

Meyerhoff, Erik Schlee○ Miriam f and Laurel MacKenzie. (2015). Doing Sociolinguistics: A practical guide to data collection and analysis. Routledge.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 社会言語学とは
- 3回 言葉のバリエーション：階級
- 4回 インフォーマントの選定 / 自然談話録音
- 5回 言葉のバリエーション：年齢
- 6回 アンケート / 会話書き起こし
- 7回 言葉のバリエーション：コミュニティオブプラクティス
- 8回 データの整理・コーディング・集計
- 9回 言葉のバリエーション：スタイル
- 10回 フィールドワーク (1) 準備
- 11回 フィールドワーク (2) 実施
- 12回 フィールドワーク (3) データ分析
- 13回 ディスカッション
- 14回 データ分析結果発表
- 15回 ゼミレポートの書き方；まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. A goal of the second semester will be to nurture cultural and communicative competence through fieldwork exercises with exchange students and members of the international community.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and return of papers.
- 2 回 Paper-related discussions: Organization
- 3 回 Paper-related discussions: Content.
- 4 回 Paper-related discussions: Research Skills.
- 5 回 Instructor-led discussion and workshop A.
- 6 回 Instructor-led discussion and workshop B.
- 7 回 Instructor-led discussion and workshop C.
- 8 回 Presentations and discussion for student A.
- 9 回 Presentations and discussion for student B.
- 10 回 Presentations and discussion for student C.
- 11 回 Presentations and discussion for student D.
- 12 回 Presentations and discussion for student E.
- 13 回 Presentations and discussion for student F.
- 14 回 Presentations and discussion for student G.
- 15 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for class by reading all assigned materials before class meetings.
After meetings, students should review discussed topics and apply this to their research topics. Students should continue to read materials and pursue research tasks in relation to their own topics.

履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester.
Each paper should be approximately 2000 words in English.

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor
フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

In this semester students will begin to explore gender themes in more detail paying particular attention to "Queer" studies. We will explore in detail the idea of a gender fluid society and look at sexual diversity including the rights of the LGBT+ community. We will take a look at new research being conducted in the UK about young peoples' attitudes towards gender. You will look at a posters created by a researchers in the UK and compare and contrast ideas about gender between the UK and Japan. You will also be expected to create your own series of posters promoting gender awareness.

In addition to this we will look at same sex marriage, what it means too be transgendered, and homophobic bullying and harassment.

Discussions will be conducted in English and students will be able to increase their knowledge about gender and increase English vocabulary and communication skills in order to be able to discuss various gender related themes with confidence.

教科書 /Textbooks

Materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References will be provided for by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 What does "Queer" studies mean?
- 3回 What does 'Gender fluid' mean?
- 4回 What does LGBT+ mean?
- 5回 The rights of the LGBT+ community?
- 6回 Same sex marriage:
- 7回 Being 'trans': Why we need gender neutral bathrooms. (Ivan Coyote, Ted Talks)
- 8回 Being 'trans': The lives of transgendered people in Ireland
- 9回 The Boy in a Dress: Exploring ideas of gendered fashion and beauty
- 10回 The Boy in a Dress: Dress codes in Japan.
- 11回 Gender Diversity: perspectives from the UK (Poster Session I)
- 12回 Gender Diversity: Victim focus (Poster session II)
- 13回 Gender Diversity: Perspectives from Japan (poster Session IV)
- 14回 Gender Diversity: Poster Presentations
- 15回 Discussion and Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- LGBT+ Assignment: 25%
- Being 'Trans' Assignment: 25%
- Gender Diversity Assignment: 25%
- Poster Presentation: 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to come fully prepared to class and to have read the relevant materials in preparation for each session.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Gender, LGBT

通訳ゼミAII 【昼】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

通訳ゼミは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切です。

また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。

こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していただけるゼミにしていきたいと思っています。

この「通訳ゼミA-2」でも、引き続きリスニング力を磨くことを第一の課題として取り組み、あわせて総合的な英語力のブラッシュアップを図ります。そのうえで背景知識を増やしていくことを目標に据えて取り組んでいきます。そのためにニュースを教材として用、少しずつ背景知識を増やしていただけるように取り組みたいと思います。また、ウォーミングアップを兼ねて、ラジオ番組などを用いて日本語を英語に通訳する練習を行ないます。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

①物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探索することができる。②専門的知識を応用しながら、日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。③広い視野を有する国際人として、市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。④卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

教科書 /Textbooks

「TEDTALKS Keynote 3」 (CENGAGE Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 Unit 1に基づくトレーニング
- 第03回 Unit 2に基づくトレーニング
- 第04回 Unit 3に基づくトレーニング
- 第05回 Unit 4に基づくトレーニング
- 第06回 Unit 5に基づくトレーニング
- 第07回 Unit 6に基づくトレーニング
- 第08回 Unit 7に基づくトレーニング
- 第09回 Unit 8に基づくトレーニング
- 第10回 Unit 9に基づくトレーニング
- 第11回 Unit 10に基づくトレーニング
- 第12回 Unit 11に基づくトレーニング
- 第13回 Unit 12に基づくトレーニング
- 第14回 2学期の総まとめと実践演習
- 第15回 皆さんのトレーニングの成果実演発表

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。
積極的参加の度合い50% + 実技・プレゼンテーション50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備をして臨んで下さい。復習もしっかり行なって下さい。

履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。
また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りがないようお願いいたします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの雰囲気にも慣れてこられた頃かと思います。楽しいゼミになるよう一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

通訳技術の修練、プレゼンテーション力の向上、背景知識の強化

翻訳ゼミ A II 【昼】

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週末までに用意・指示しておく。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミの時間では、各自課題の報告をする。毎回、決められた範囲の翻訳原稿を持ってくること。それを読んで、問題点を指摘したり、さらに読むべき文献を適宜指導する。

※ 翻訳対象は学生との話し合いによって最終的に決定するので、この計画は変更になることがある。

- 1回 イントロダクション
- 2回 選定した翻訳テキスト【音楽1】
- 3回 選定した翻訳テキスト【音楽2】
- 4回 選定した翻訳テキスト【映画1】
- 5回 選定した翻訳テキスト【映画2】
- 6回 ディスカッション1
- 7回 選定した翻訳テキスト【劇1】
- 8回 選定した翻訳テキスト【劇2】
- 9回 選定した翻訳テキスト【小説1】
- 10回 選定した翻訳テキスト【小説2】
- 11回 ディスカッション2
- 12回 選定した翻訳テキスト【詩1】
- 13回 選定した翻訳テキスト【詩2】
- 14回 ディスカッション3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%
ディスカッションへの積極的参加 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

このゼミナールでは、国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎知識や学習能力を育成します。コミッター（ゼミ長）がリーダーとなりOBGとの交流など様々なプロジェクトを推進します。このような活動を通じて単に学問だけでなく、組織をつくることのできる人間形成を目的とします。

ゼミナールでは英文テキストやケースを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力を養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ゼミでの学習によってビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。発話としての英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを知り、主として自主学習に委ね、ゼミではその発表の場とします。勤勉な学生の参加を歓迎します。

教科書 /Textbooks

[教科書]
テキストは指定しませんが、複数のテキストより引用します。詳しくは開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

[参考書]
講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ポーター分析	five forces 分析、テキスト指定
第2回	上記関連英文輪読1	
第3回	上記関連英文輪読2	
第4回	上記ケース討議	
第5回	ポータープレゼン1	各自企業、業界を選び、分析を発表
第6回	ポータープレゼン2	各自企業、業界を選び、分析を発表
第7回	競争優位	
第8回	バーニー論文輪読	RSV (経営資源と競争優位)、VRIO (競争優位の源泉)
第9回	企業の多角化	シナジー、企業買収、
第10回	上記英文ケース輪読	2つのビジネスモデル
第11回	上記ケース討議	
第12回	ANAケース輪読1	LCC戦略
第13回	ANAケース輪読2	
第14回	上記ケース討論	
第15回	IMFリスニング	女性のキャリア

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度 (20%)、課題・レポートの提出 (40%)、定期試験 (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義スライドや使用資料は全て本学学習支援システムmoodleに掲載しますので予習、復習に活用ねがいます。

ビジネス英語ゼミAII【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義中に適宜質問や意見等を求めます。事例研究やディスカッションも頻繁に行います。

学生には、「Introduction to Economics」「ビジネス英語演習/国際経営論基礎」「ビジネス英語研究/国際経営論応用」の履修を強く勧めます。これらの知識の上に当該ゼミで学習することで国際企業の理解に繋がります。

事例研究で各自の研究成果を英語で適宜プレゼンしてもらいます。

直接的な英会話の練習はこのゼミではやりませんので各自発話としての英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを認識し、主として自主学習に委ね、ゼミではその発表の場とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身企業出身者（大手商社丸紅、豪州産鉄鉱石輸入業務、インフラプロジェクト組成業務など）ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。授業時間には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味が正しいかをゼミ全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。4年生には卒業論文の提出を義務づけておりますので3年次後半よりその準備に取り掛かります。ゼミ歓迎会やOBG会などで優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学んでもらいたいと思います。それが学生諸君の就職活動にも役立つと思います。松田ゼミはゼミOBG、先輩、後輩、同期との繋がりを大切にする特徴があり、学生から喜ばれています。松田ゼミの諸先輩達は有名・有力企業に多数、勤務されていますので自分たちの未来像について多くのことを学ぶことができるでしょう。松田ゼミに入れば優良企業を選択できるチャンスが広がるはずですよ。

キーワード /Keywords

Five forces, competitive advantage, VRIO, synergy, diversification, double business strategies, NPV, strategic management

メディア英語ゼミAII 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture
メディア英語ゼミA II follows on from メディア英語ゼミA I. The course offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A reading list will be provided at the beginning of the course.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Developing a Research Topic
- 3回 Assessing The Use of Theory: New Historicism
- 4回 Example Presentation: Pleasure and the Shakespearean Playhouse
- 5回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: Type and Theory
- 6回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: Gender Depiction
- 7回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Advertisements: The Hidden Message
- 8回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Joy of Tragedy
- 9回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Joy of Comedy
- 10回 Student-led class (presentation and discussion) + Analysing Theatre: The Theatrum Mundi Topos
- 11回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Using a Thesaurus
- 12回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Avoiding Plagiarism
- 13回 Student-led class (presentation and discussion) + Essay Writing Skills: Finding a Voice
- 14回 Student-led class (presentation and discussion) + Academic Presentation Skills: Using Powerpoint Effectively
- 15回 Review and Final Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 5 to Session 14 students will be expected to prepare background knowledge, questions and comments to be used in post-presentation discussions.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウエイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

We will be exploring the idea of the American Dream as it relates to life in New York City and American culture. There will be two parts to our course. The first will look at urban family struggles related to economics and the American Dream. The second part will look at urban family struggles specifically related to race and its part in economics and the American Dream. As with our prior course, we will be looking closely at identity and how urban life affects identity. While not always focusing on New York City, our topics will be directly related to urban living and therefore transferable to New York City and our own urban life in Japan. This course will include the reading of two famous plays: Death of a Salesman and A Raisin in the Sun. We will also watch the movie versions after we finish reading the text (please don't watch beforehand). Additionally, students will examine various cultural differences between New York City and major cities in Japan. The end goal of this class is to help broaden your world perspective and understanding of cosmopolitan life by strengthening your ability to discuss various topics. It is also intended to help you understand the term "the American Dream" and how this phrase affects the culture of America and New York City.

教科書 /Textbooks

MILLER Arthur, Death of a Salesman: Text and Study Aids, Klett Ernst /Schulbuch (January 1, 2009)
HANSBERRY Lorraine, A Raisin in the Sun, Modern Classics.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction to topic and course expectations
Class 2: New York City: The American Dream
Class 3: New York City: The Wild, Wild West
Class 4: New York City: Wage and Class
Class 5: New York City: Career Anxiety
Class 6: New York City: Economic Inequality
Class 7: New York City: Levels of Success
Class 8: New York City: Film Day
Class 9: New York City: Race and the Urban Environment
Class 10: New York City: Poverty in NYC
Class 12: New York City: Pruitt-Igoe Housing Project
Class 13: New York City: White neighbourhoods
Class 14: New York City: Film Day
Class 15: Final paper presentations.

成績評価の方法 /Assessment Method

One 8-page research essay and final presentation: 30%
Special topic presentation: 10%
4 Reading summaries: 20%
In-class participation: 20%
5 Socratic seminar questions and answers: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

You will be required to have the reading material for the second class.

履修上の注意 /Remarks

Consistent attendance and participation will be expected. Anyone who misses more than 5 classes will fail the course.

アメリカ研究ゼミAⅡ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The course objectives will include some of the following elements:

- Note-taking.
- Absorb information from audio and be able to listen for key vocabulary.
- Participate in class discussions by asking and responding to questions.
- Give effective oral presentations.
- Express their own ideas about differing value systems around the world and how these differ from Japanese society.
- Increase and diversify vocabulary usage.
- Read a literary work for a thematic meaning.
- Read secondary sources and material and be able to incorporate the themes into research essays.
- Avoid plagiarism and use MLA documentation outlines.

キーワード /Keywords

American Dream;
Broadway;
New York City;
Race and America.

イギリス研究ゼミAII 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というぐらゐの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の作家も入るが、その他マザーグース(イギリス伝承童謡)、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回ぐらゐの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション(導入1)
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション(基礎1)
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション(基礎2)
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション(基礎3)
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション(基礎4)
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション(発展1)
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション(発展2)
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション(発展3)
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション(発展4)
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション(応用1)
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション(応用2)
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション(応用3)
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション(応用4)
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション(まとめ1)
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション(まとめ2)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート30%、発表40%、ディスカッションへの参加30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前

発表担当者は、これまでの研究をさらにすすめてプレゼンを準備する。その他の学生は、その日に読んでおくべき資料に目を通し、自分の見解を用意しておくこと。

事後

各回の演習のディスカッション内容、得られた結論をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミでは受け身で学ぶのではなく、自分で考えたテーマを自分で掘り下げ、独自の考えを展開する能力を身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

英語学ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This course will be taught in a way that will illustrate an approach to teaching that is learning through doing and learning through experiencing. Every week we will be learning English in a way that illustrates the concept we are learning. In the second half of the semester you will also be asked to lead an English class. We will also start working on a mini research project in order to prepare you for your senior thesis. You will be asked to gather data and write a 1500 word paper at the end of the semester.

教科書 /Textbooks

Handouts/reading materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction; Teaching speaking
- Week 2: Introduction to reading research articles and our mini research project
- Week 3: Teaching listening; Plagiarism
- Week 4: Teaching reading; First research article for mini research project
- Week 5: Teaching writing
- Week 6: Teaching grammar; Second research article for mini research project
- Week 7: Teaching vocabulary
- Week 8: Teaching Speaking through games
- Week 9: Teaching Speaking: Student presentations
- Week 10: Teaching Listening: Student presentations
- Week 11: Research paper preparation
- Week 12: Teaching Vocabulary: Student presentations
- Week 13: Teaching reading: Student presentations
- Week 14: Teaching writing: Student presentations
- Week 15: Teaching grammar: Student presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Teaching observation reports (3), 30%; Research paper, 50%, In-class teaching demonstration, 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You are expected to do the readings each week for class. You should be working throughout the semester on your research paper.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

teacher training, education, language teaching, language, zemi

英語教育ゼミ AII 【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、教室における外国語（主に英語）教育の実践と理論研究にかかわる諸問題を広く取り上げながら、受講生が自分の問題意識を鮮明に持つことが出来るようになることを期待して進められる。そのため受講生は、自分が興味関心を持つテーマやトピックについて、各自で関連論文を読む積極的な学習態度が必要である。各自の問題意識を教育言語学（英語教育学など）における研究テーマへと発展させ、先行文献等を中心としたリサーチを行い、論文を執筆する。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。

1. ガイダンス
2. 言語教育学と研究方法
3. 言語教育学と教材研究（概説及び発表）
4. 教材研究（事例収集）
5. 教材研究（事例発表・議論）
6. 教育言語学と学習・指導法研究（概説）
7. 学習・指導法研究（事例収集）
8. 学習・指導法研究（事例発表・議論）
9. 教育言語学と言語活動研究（概説）
10. 言語活動研究（事例収集）
11. 言語活動研究（事例発表・議論）
12. 教育言語学と評価方法研究（概説）
13. 評価方法研究（事例収集）
14. 評価方法研究（事例発表・議論）
15. 教育言語学の研究課題

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は（1）授業参加に対する積極性20%、（2）発表30%、（3）論文50%によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- <事前学習> 次回の授業で使用する教科書の範囲や論文を読み、発表・議論の準備をする。発表担当者は発表前に自主練習を行う。
- <事後学習> 指定の関連文献を読む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず、発表内容に関する議論を行います。そのため、授業時間外での（相当の）準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミ AII 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学研究に必要な基本的概念や理論を理解することを目的とします。AIIでは学生が各自テーマを決め言語調査を行います。授業時に先行研究、言語データの収集方法や分析方法、調査結果を発表し、その内容について全員で議論します。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 言語調査プロジェクトについて
- 2回 文献検索
- 3回 テーマ発表
- 4回 研究発表の仕方
- 5回 学生による第1回研究発表 (先行研究: 第1グループ)
- 6回 学生による第1回研究発表 (先行研究: 第2グループ)
- 7回 学術論文の構成
- 8回 文献検索・発表準備
- 9回 学生による第2回研究発表 (方法論: 第1グループ)
- 10回 学生による第2回研究発表 (方法論: 第2グループ)
- 11回 方法論についての議論
- 12回 レポートの書き方・発表準備
- 13回 学生による第3回研究発表 (結果: 第1グループ)
- 14回 学生による第3回研究発表 (結果: 第2グループ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor
フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

In this semester students will mainly focus on women's rights, feminism and equality. Students will look at the history of feminism focusing in the suffragette movement in the UK and the fight for the right to vote. Students will look at key female figures in history see how these women shaped the lives of future generations of women for the better. Students will follow the lives of Emmeline Pankhurst, Rosa Parks, Maya Angelou, Simone de Beauvoir, Coco Chanel, and they will also look at prominent women in the science. All discussions will be conducted in English and at the end of this semester students will have a greater understanding of feminism and how is can improve the lives of women and men.

教科書 /Textbooks

Materials will be provided by the instructor each week.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 The Suffragette Movement and the right to vote in the UK.
- 3回 Suffragette (Film): Women's rights are human rights
- 4回 Suffragette (Film): After the Suffragette Movement in the UK
- 5回 Famous Women I: Emmeline Pankhurst
- 6回 Feminism: Fact and Fiction
- 7回 Famous Women II: Simone de Beauvoir
- 8回 Celebrating diversity and the fight for equality.
- 9回 Famous Women III: Rosa Parks
- 10回 Famous Women IV: Maya Angelou
- 11回 What is the Gender Gap Report? How important is it?
- 12回 The Fight for Equal Pay I: Made in Dagenham
- 13回 Famous Women V: Coco Chanel
- 14回 Presentations
- 15回 Discussion and Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Suffragette Assignment: 25%
Feminism Assignment: 25%
Famous Women Assignment: 25%
Preservation: 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to come fully prepared to class and to have read the relevant materials in preparation for each session.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

Students will continue to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will continue our weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. Our goal during the second year will be a greater intercultural awareness through student driven activities and research. A greater improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English will remain a primary goal.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Instructor-led discussions A.
- 3回 Instructor-led discussions B.
- 4回 Instructor-led discussions C.
- 5回 Student-led discussion and outline presentations.
- 6回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 7回 Presentations and discussion for student A.
- 8回 Presentations and discussion for student B.
- 9回 Presentations and discussion for student C.
- 10回 Presentations and discussion for student D.
- 11回 Presentations and discussion for student E.
- 12回 Presentations and discussion for student F.
- 13回 Presentations and discussion for student G.
- 14回 Presentations and discussion for student H.
- 15回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for class by reading all assigned materials before class meetings. After meetings, students should review discussed topics and apply this to their research topics. Students should continue to read materials and pursue research tasks in relation to their own topics.

履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

キーワード /Keywords

通訳ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この通訳ゼミでは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切であると言えます。

また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。

こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していただけるゼミにしていきたいと思っています。

この「通訳ゼミB-1」では、さまざまなトピックの英語を聞き取り、通訳できる実力養成を目標に取り組みます。日本語を英語に通訳する練習も、意識的に増やして生きたいと思っています。その上で、卒業課題を視野に入れて、総仕上げをしていきましょう。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

①物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探求することができる。②専門的知識を応用しながら、日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。③広い視野を有する国際人として、市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。④卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

教科書 /Textbooks

「TEDTALKS Keynote 4」(CENGAGE Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介することがあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 Unit 1に基づく通訳演習
- 第03回 Unit 2に基づく通訳演習
- 第04回 Unit 3に基づく通訳演習
- 第05回 Unit 4に基づく通訳演習
- 第06回 Unit 5に基づく通訳演習
- 第07回 Unit 6に基づく通訳演習
- 第08回 Unit 7に基づく通訳演習
- 第09回 Unit 8に基づく通訳演習
- 第10回 Unit 9に基づく通訳演習
- 第11回 Unit 10に基づく通訳演習
- 第12回 Unit 11に基づく通訳演習
- 第13回 Unit 12に基づく通訳演習
- 第14回 1学期の総まとめと実践演習
- 第15回 卒業課題のための準備演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。
積極的参加の度合い50% + 実技・プレゼンテーション50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備をして臨んで下さい。復習もしっかり行って下さい。

履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。

また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りがないようにお願いします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよ最終学年のゼミですね。この1年間は、就活、教育実習等で勉学に集中しにくい1年になるかも知れません。しかし、皆さんにとって、ここでしっかり学んでおくことは、将来への投資になると思います。今年も一緒に楽しく学んでいきましょう。

キーワード /Keywords

通訳技術の修練、プレゼンテーション力の向上、背景知識の強化

翻訳ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週末までに用意・指示しておく。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミの時間では、各自課題の報告をする。毎回、決められた範囲の翻訳原稿を持ってくること。それを読んで、問題点を指摘したり、さらに読むべき文献を適宜指導する。

※ 翻訳対象は学生との話し合いによって最終的に決定するので、この計画は変更になることがある。

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 選定した翻訳テキスト【音楽1】
- 3回 選定した翻訳テキスト【音楽2】
- 4回 選定した翻訳テキスト【映画1】
- 5回 選定した翻訳テキスト【映画2】
- 6回 ディスカッション1
- 7回 選定した翻訳テキスト【劇1】
- 8回 選定した翻訳テキスト【劇2】
- 9回 選定した翻訳テキスト【小説1】
- 10回 選定した翻訳テキスト【小説2】
- 11回 ディスカッション2
- 12回 選定した翻訳テキスト【詩1】
- 13回 選定した翻訳テキスト【詩2】
- 14回 ディスカッション3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%
ディスカッションへの積極的参加 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

このゼミナールでは、国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎知識や学習能力を育成します。コミッター（ゼミ長）がリーダーとなりOBGとの交流など様々なプロジェクトを推進します。このような活動を通じて単に学問だけでなく、組織をつくることのできる人間形成を目的とします。

ゼミナールでは英文テキストやケースを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力を養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ゼミでの学習によってビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。発話としての英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを知り、主として自主学習に委ね、ゼミではその発表の場とします。勤勉な学生の参加を歓迎します。

教科書 /Textbooks

[教科書]
テキストは指定しませんが、複数のテキストより引用します。詳しくは開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

[参考書]
講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ビックデータ英文輪読1	
第2回	上記関連英文輪読	
第3回	卒論テーマ概要発表	
第4回	お金の時間的価値	キャッシュフロー分析
第5回	企業価値分析	
第6回	上記ケース輪読	太陽光発電会社
第7回	企業の国際化	多国籍企業
第8回	上記関連ケース輪読1	デズニールランドの国際展開
第9回	上記ケース輪読2	
第10回	上記ケース討議	
第11回	事例研究1	Abenomics CNN report
第12回	事例研究2	Chinese Dragon
第13回	楽天三木谷氏講演訳出1	
第14回	楽天三木谷氏訳出2	
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度（20%）、課題・レポートの提出（40%）、定期試験（40%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義スライドや使用資料は全て本学学習支援システムmoodleに掲載しますので予習、復習に活用ねがいます。課題として割り当てられた資料のリーディングは必ずクラスに参加する前に実行するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義中に適宜質問や意見等を求めます。事例研究やディスカッションも頻繁に行います。

学生には、「Introduction to Economics」「ビジネス英語演習/国際経営論基礎」「ビジネス英語研究/国際経営論応用」の履修を強く勧めます。これらの知識の上に当該ゼミで学習することで国際企業の理解に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身企業出身者（大手商社丸紅、豪州産鉄鉱石輸入業務、インフラプロジェクト組成業務など）ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。授業時には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味が正しいかをゼミ全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。4年生には卒業論文の提出を義務づけておりますので3年次後半よりその準備に取り掛かります。ゼミ歓送迎会やOBG会などで優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学んでもらいたいと思います。それが学生諸君の就職活動にも役立つと思います。松田ゼミはゼミOBG、先輩、後輩、同期との繋がりを大切にする特徴があり、学生から喜ばれています。松田ゼミの諸先輩達は有名・有力企業に多数、勤務されていますので自分たちの未来像について多くのことを学ぶことができるでしょう。松田ゼミに入れば優良企業を選択できるチャンスが広がるはずです。

キーワード /Keywords

Big data, time value of money, compound interest rates, free cashflow, valuation, value chain, global operation, entry modes, hurdle rate, IRR

メディア英語ゼミBI 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

メディア英語ゼミBI offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen understanding and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Instructor-led class 1: Theory and Logic
- 3回 Instructor-led class 2: Supporting Arguments
- 4回 Instructor-led class 3: Presentation Skills
- 5回 Student-led class A (presentation + discussion)
- 6回 Student-led class B (presentation + discussion)
- 7回 Student-led class C (presentation + discussion)
- 8回 Student-led class D (presentation + discussion)
- 9回 Student-led class E (presentation + discussion)
- 10回 Student-led class F (presentation + discussion)
- 11回 Student-led class G (presentation + discussion)
- 12回 Student-led class H (presentation + discussion)
- 13回 Student-led class I (presentation + discussion)
- 14回 Student-led class J (presentation + discussion)
- 15回 Final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 5 to Session 14 students will be expected to prepare background knowledge, questions and comments to be used in post-presentation discussions.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

In our third semester, we will work with some hands-on learning by mapping famous addresses in Manhattan and Brooklyn on a homemade map. The objective of this course will be for you to learn more about New York City on a "street level" by actually drawing a map of the streets. Each week, you will be given two addresses to research for the coming week. You will need to find 3 Internet sites that give histories on that address and take notes about the location: were there any famous people who lived there? is the location architecturally important? any famous event that occurred at that location?

Each week, we will work on the map in class, drawing streets, marking locations and discussing the importance of each location. You will be expected to share what you have learned about your assigned addresses and then work together to draw the correct spot on the map and mark the location on the map legend. Over the course of the semester, we will learn about many different places and events that happened at these places in Manhattan and Brooklyn. You will be expected to be able to explain about your assigned address.

During the first two weeks of class, you will be drawing two large maps of Manhattan and Brooklyn. We will take special care to draw to scale the outline of Manhattan Island and Brooklyn and their major roadways. As we continue through the semester, we will draw more of the smaller streets and include numbers on the map for the locations. The numbers will match with the legend and provide the reason why the location is memorable. In total, we will research and mark 72 locations for each borough. If you miss a class, you will still be responsible for marking the location you have been assigned.

教科書 /Textbooks

LEVITHAN David, Love is the Higher Law, Knopf Books for Young Readers; (August 25, 2009)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

You will need to do a book review with a book about NYC.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course overview and thematic elements of the semester; Map drawing
2. Novel reading, Map drawing
3. novel reading, Topic: Walt Whitman
4. novel reading, Topic: Edith Wharton
5. novel reading, Topic: Langston Hughes
6. novel reading, Topic: Kenneth Fearing
7. novel reading, Topic: F. Scott Fitzgerald
8. novel reading, Topic: Henry Miller
9. novel reading, Topic: Jack Kerouac
10. novel reading, Topic: This is New York
11. novel reading, Topic: Don DeLillo
12. Finish the novel reading, Topic: Paul Auster
13. Topic: Politics in the Big Apple
14. Topic: Politics in the Big Apple
15. Final presentations, final essay due.

成績評価の方法 /Assessment Method

Research essays revisions and Introduction: 20%
Book review: 20%
Poster presentation: 10%
Reading summaries/Socratic seminar questions: 15%
In-class participation: 20%
NYC Map addresses: 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

You are required to purchase the novel by the second class.

履修上の注意 /Remarks

Active participation and coming to class prepared will be expected.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Mapping
Famous writers
New York City

イギリス研究ゼミBI 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というぐらゐの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の作家も入るが、その他マザーグース(イギリス伝承童謡)、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回ぐらゐの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション(導入1)
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション(導入2)
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション(基礎1)
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション(基礎2)
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション(基礎3)
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション(基礎4)
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション(展開1)
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション(展開2)
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション(展開3)
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション(展開4)
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション(発展1)
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション(発展2)
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション(発展3)
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション(発展4)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート30%、発表40%、ディスカッションへの参加 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前
発表担当者は、これまでの研究をさらにすすめてプレゼンを準備する。その他の学生は、その日に読んでおくべき資料に目を通し、自分の見解を用意しておくこと。
- 事後
各回の演習のディスカッション内容、得られた結論をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受け身で学ぶのではなく、自分で考えたテーマを自分で掘り下げ、独自の考えを展開する能力を身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

英語学ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

During the second year of this zemi, we will focus on your own research interests. Classes will consist of presentations about the research areas you are reading about to help you in writing your thesis. Some classes will focus explicitly on helping you write your thesis.

教科書 /Textbooks

No textbook necessary. Readings will be selected by the teacher and the students.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction; Vocabulary learning
 Week 2: Thesis-writing help I (literature review & acceptable sources)
 Week 3: Computer lab: Bibliographies
 Week 4: Computer-lab: Finding research articles
 Week 5: Dr. Larson-Hall's research presentation (Age and language learning)
 Week 6: Finding your research topic (replication)
 Week 9: Planning your methodology
 Week 10: Thesis-writing help (research questions)
 Week 11: Dr. Larson-Hall's research presentation (attrition)
 Week 12: Student-led research presentations (phonology)
 Week 13: Student-led research presentation (grammar)
 Week 14: Vocabulary
 Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500 words of thesis (50%); Presentation on research (10%); Vocabulary tests (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You are expected to do the readings each week for class. You should be working throughout the semester on your thesis. You will be studying vocabulary throughout the semester.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SLA, language acquisition, teaching language, teacher training, zemi

英語教育ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、教育言語学の諸分野について基礎的な研究を実施するために必要な能力を養うことを目標とする。そのため、この授業では受講生が各自の研究関心に従い教育言語学の研究論文を収集し、収集した論文の研究内容について発表し理解を深めるとともに、卒業論文の執筆に向けた研究の進め方や研究成果の整理の仕方についても学習する。そのため、毎週自習を行うことが必要である。自習内容については毎回授業中に指示するので、指示に従って授業の予習・復習を行うようにしたい。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じて内容を調整する。

1. ガイダンス
2. 研究論文の構成
3. 教育言語学と理論研究
4. 教育言語学と理論研究の研究論文(理論研究・概要把握)
5. 教育言語学と理論研究の研究論文(理論研究・発表)
6. 教育言語学と理論研究の研究論文(理論研究・まとめ)
7. 教育言語学と実験・調査研究
8. 教育言語学と実験・調査研究の研究論文(実験調査研究・概要把握)
9. 教育言語学と実験・調査研究の研究論文(実験調査研究・発表)
10. 教育言語学と実験・調査研究の研究論文(実験調査研究・まとめ)
11. 教育言語学と実践研究
12. 教育言語学と実践研究の研究論文(実践研究・概要把握)
13. 教育言語学と実践研究の研究論文(実践研究・発表)
14. 教育言語学と実践研究の研究論文(実践研究・まとめ)
15. 課題整理

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は(1)授業参加への積極性、予習復習の状況等50%、(2)発表50%によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- <事前学習> 授業で扱う教科書の範囲または論文を読み、発表や討論の準備をする。発表担当者は発表前に自主練習を行っておく。
- <事後学習> 指定された関連文を読む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず、発表内容に関する議論などを行います。そのため、授業時間外での(相当の)準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析・発表する力を身につけることを目的とします。社会言語学の領域から各自選択したテーマに沿って、文献調査・フィールドワークを行い、授業時に先行研究の発表、言語調査の経過報告、問題点の議論等を行います。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業研究について
- 2回 研究テーマ発表
- 3回 文献収集講習
- 4回 学生による第1回研究発表(先行研究(1):第1グループ)
- 5回 学生による第1回研究発表(先行研究(1):第2グループ)
- 6回 Excel/PowerPoint講習
- 7回 ゼミ論文執筆について・発表準備
- 8回 学生による第2回研究発表(先行研究(2):第1グループ)
- 9回 学生による第2回研究発表(先行研究(2):第2グループ)
- 10回 方法論ディスカッション(1)・発表準備
- 11回 ゼミ論文注意点・発表準備
- 12回 学生による第3回研究発表(方法論:第1グループ)
- 13回 学生による第3回研究発表(方法論:第2グループ)
- 14回 方法論ディスカッション(2)・個別指導
- 15回 卒業論文執筆について・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、ゼミ論文...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor
フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This final semester will look at more sensitive gender issues and problems around the world. Topic covered will include sexual violence, harassment, domestic abuse, pornography, human trafficking, and prostitution. Students will look at why these subjects are considered taboo in maybe societies and compare and will look at the influence of social media campaigns such as the #MeToo in bringing about awareness of these issues.

As usual all discussions will be in English and students will learn how to use appropriate language when talking about these sensitive subjects.

教科書 /Textbooks

Materials will be given each week by the instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 What is sexual violence?
- 3回 The influence of the #MeToo campaign
- 4回 Victim shaming, victim blaming.
- 5回 Domestic Abuse
- 6回 Sexual Harassment
- 7回 Academic and Power Harassment
- 8回 Pornography I: A multinational industry.
- 9回 Pornography II: Is it just for men?
- 10回 Human Trafficking I: Lighthouse NPO Case Studies
- 11回 Human Trafficking II: Blue Heart
- 12回 Prostitution: Can it ever be justified?
- 13回 Prostitution: The Sex Industry in Japan
- 14回 Presentations
- 15回 Discussion and Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Sexual Violence/ Harassment Assignment: 25%
Pornography/ Human Trafficking Assignment: 25%P
Prostitution and the Sex Industry Assignment: 25%
Presentations: 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to come fully prepared to class and to have read the relevant materials in preparation for each session.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

During the second semester of this seminar, students will not only continue to examine their own interests in crossing cultures but they will try to sum up their overall viewpoints based upon a culmination of their own research and presentations. We will continue our weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. Our goal during the second year will be a greater intercultural awareness through student driven activities and research. A greater improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English will remain a primary goal.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and return of papers.
- 2 回 Instructor-led discussion and workshop A.
- 3 回 Instructor-led discussion and workshop B.
- 4 回 Instructor-led discussion and workshop C.
- 5 回 Instructor-led discussion and workshop D.
- 6 回 Presentations and discussion for student A.
- 7 回 Presentations and discussion for student B.
- 8 回 Presentations and discussion for student C.
- 9 回 Presentations and discussion for student D.
- 1 0 回 Presentations and discussion for student E.
- 1 1 回 Presentations and discussion for student F.
- 1 2 回 Presentations and discussion for student G.
- 1 3 回 Presentations and discussion for student H.
- 1 4 回 Instructor-led discussion and workshop for review.
- 1 5 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings.

For review students should apply the results of class discussions to their individual research topics. Students should pursue research tasks in relation to their own projects.

履修上の注意 /Remarks

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

キーワード /Keywords

通訳ゼミBII 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この通訳ゼミでは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切であると言えます。

また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。

こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していただけるゼミにしていきたいと思っています。

4年次2学期は、英語スピーチを教材に英語の論理展開に習熟し、予測しながら聞く、論理的に通訳する、といった課題に取り組みます。卒業課題に向けてラストスパートです。卒業課題のための実技録画会は12月を予定しています。また、本年度も10月ごろ北九州国際車椅子バスケットボール大会のボランティア通訳奉仕をお願いする予定です。良い経験としていただきたいと思っています。

【この授業の到達目標として、以下の内容を考えています。】

①物事をグローバルな視野から多面的に考え、英語を通して得られる情報や知識を駆使し、現実社会の諸問題を学際的、複眼的に思考し、解決策を探索することができる。②専門的知識を応用しながら、日本語のみならず英語で自分の意見を明晰に表現することができる。③広い視野を有する国際人として、市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。④卒業後も、英語や異文化への高い関心と、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。⑤組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、かつ自らの見解を積極的に提案し、コミュニケーション力を発揮し共同の目標に向けた活動を推進することができる。

教科書 /Textbooks

『英語で聴く世界を変えた感動の名スピーチ』(KADOKAWA)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示することがあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
 - 第02回 「マララ・ユスフザイ国連演説」 Part 1
 - 第03回 「マララ・ユスフザイ国連演説」 Part 2
 - 第04回 「アウンサン・スーチー ノーベル平和賞受賞記念講演」 Part 1
 - 第05回 「アウンサン・スーチー ノーベル平和賞受賞記念講演」 Part 2
 - 第06回 「ネルソン・マンデラ釈放後発の演説」 Part 1
 - 第07回 「ネルソン・マンデラ釈放後発の演説」 Part 2
 - 第08回 「マーティン・ルーサー・キング牧師ワシントン大行進演説」
 - 第09回 卒業課題：通訳発表会(録画します)(1)
 - 第10回 卒業課題：通訳発表会(録画します)(2)
 - 第11回 「ウィンストン・チャーチル鉄のカーテン演説」
 - 第12回 「フランクリン・デラノ・ルーズベルト大統領就任演説」 Part 1
 - 第13回 「フランクリン・デラノ・ルーズベルト大統領就任演説」 Part 2
 - 第14回 2年間の総まとめと総復習
 - 第15回 通訳に求められる技術と訓練
- ※この予定は暫定的なもので、取り上げるスピーチ、また卒業課題となるスピーチの選定にあたっては、実際にゼミの中で相談して決めます。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。積極的参加の度合い50%+実技・プレゼンテーション50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備をして臨んで下さい。復習もしっかり行なって下さい。

履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。

また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りないようにお願いします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最後の学期を迎えました。ここまでご苦労様でした。卒業課題のための発表会は、12月中旬を予定しています。2年間のゼミ、4年間の学びの集大成です。もう一頑張りですね。

キーワード /Keywords

通訳

翻訳ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 鮫島 千明 / Chiaki Sameshima / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

当ゼミでは、英語から日本語への翻訳を行う。この授業の目的は、翻訳を通して英語力の向上を目指し、英文テキストが書かれた社会背景の十分な理解を得ることにある。翻訳対象となる作品は、英語で書かれた文学作品・映画の字幕等である。ゼミの進め方は、発表討論形式とする。始めに翻訳対象を決め、こちらで決めたペースで翻訳を進める。学期の初日に決定したスケジュールにそって、それぞれ進捗状況、訳出難解箇所、訳註必要箇所を発表し、ゼミ生全員で検討する。担当の学生は発表の2日前までに資料を用意する。事前に他の学生に読んでもらいたい資料がある場合は、前の週までに用意・指示しておく。後期は卒業課題中心に指導を行う。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

後期は卒業課題の指導を中心とする。ゼミの時間では、各自課題の報告をする。毎回、決められた範囲の翻訳原稿を持ってくること。それを読んで、問題点を指摘したり、さらに読むべき文献を適宜指導する。

※ 翻訳対象は学生との話し合いによって最終的に決定するので、この計画は変更になることがある。

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 翻訳 卒業課題1
- 3回 翻訳 卒業課題2
- 4回 翻訳 卒業課題3
- 5回 ディスカッション1
- 6回 翻訳 卒業課題4
- 7回 翻訳 卒業課題5
- 8回 翻訳 卒業課題6
- 9回 ディスカッション2
- 10回 翻訳 卒業課題7
- 11回 翻訳 卒業課題8
- 12回 翻訳 卒業課題9
- 13回 ディスカッション3
- 14回 ディスカッション4
- 15回 翻訳総仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 60%
ディスカッションへの積極的参加 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指定された箇所を予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

このゼミナールでは、国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎知識や学習能力を育成します。コミッター（ゼミ長）がリーダーとなりOBGとの交流など様々なプロジェクトを推進します。このような活動を通じて単に学問だけでなく、組織をつくることのできる人間形成を目的とします。

ゼミナールでは英文テキストやケースを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力を養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ゼミでの学習によってビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。発話としての英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを知り、主として自主学習に委ね、ゼミではその発表の場とします。勤勉な学生の参加を歓迎します。

教科書 /Textbooks

[教科書]
テキストは指定しませんが、複数のテキストより引用します。詳しくは開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

[参考書]
講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	卒論概要を発表	
第2回	事例研究	スターバックス
第3回	上記関連英文輪読	
第4回	上記関連英文輪読	
第5回	ケース討議	
第6回	事例研究	セブンイレブンジャパン
第7回	上記関連英文輪読	
第8回	上記関連英文輪読	英文和訳
第9回	上記ケース討議	
第10回	多国籍企業の政治リスク	英文資料配布
第11回	関連英文輪読	
第12回	関連英文輪読	
第13回	多国籍企業のまとめ	
第14回	理解度テスト	
第15回	総合まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度（20％）、課題・レポートの提出（40％）、定期試験（40％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義スライドや使用資料は全て本学学習支援システムmoodleに掲載しますので予習、復習に活用ねがいます。特に事前に読む必要のある資料を事前に掲載しますので必ず予習してからクラスに参加するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義中に適宜質問や意見等を求めます。事例研究やディスカッションも頻繁に行います。

学生には、「Introduction to Economics」「ビジネス英語演習/国際経営論基礎」「ビジネス英語研究/国際経営論応用」の履修を強く勧めます。これらの知識の上に当該ゼミで学習することで国際企業の理解に繋がります。

直接的な英会話の練習はこのゼミではやりませんので各自発話としての英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを認識し、主として自主学習に委ね、ゼミではその発表の場とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身企業出身者（大手商社丸紅、豪州産鉄鉱石輸入業務、インフラプロジェクト組成業務など）ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。授業時には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味が正しいかをゼミ全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。4年生には卒業論文の提出を義務づけておりますので3年次後半よりその準備に取り掛かります。ゼミ歓送迎会やOBG会などで優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学んでもらいたいと思います。それが学生諸君の就職活動にも役立つと思います。松田ゼミはゼミOBG、先輩、後輩、同期との繋がりを大切にする特徴があり、学生から喜ばれています。松田ゼミの諸先輩達は有名・有力企業に多数、勤務されていますので自分たちの未来像について多くのことを学ぶことができるでしょう。松田ゼミに入れば優良企業を選択できるチャンスが広がるはずです。

キーワード /Keywords

competencies, strategic alliance, project finance, risk package, political risk, IFC-B loan, cross-default clause

メディア英語ゼミBII 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

メディア英語ゼミB II offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen understanding and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Developing research skills
- 2回 Instructor-led class 1: Redefining 'Media & Culture'
- 3回 Instructor-led class 2: Source Material Selection
- 4回 Instructor-led class 3: The Uses of Theory
- 5回 Student-led class A (presentation + discussion)
- 6回 Student-led class B (presentation + discussion)
- 7回 Student-led class C (presentation + discussion)
- 8回 Student-led class D (presentation + discussion)
- 9回 Student-led class E (presentation + discussion)
- 10回 Student-led class F (presentation + discussion)
- 11回 Student-led class G (presentation + discussion)
- 12回 Student-led class H (presentation + discussion)
- 13回 Student-led class I (presentation + discussion)
- 14回 Student-led class J (presentation + discussion)
- 15回 Final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 1500-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 5 to Session 14 students will be expected to prepare background knowledge, questions and comments to be used in post-presentation discussions.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

This final semester will focus on three important areas: revising, writing and analysis. You will be responsible for revising your two prior essays and the book review in order to prepare a solid senior thesis for The University of Kitakyushu graduation essay library. In addition to revising the prior essays, you will be required to write a six-page general introduction to your themes and topics. This introduction can include some of the themes that we discussed throughout the last three semesters. I recommend you look back at the prior syllabi to recall the themes we discussed in order to utilize specific topics that fit with your essays. Also, you should include in the introduction some reference to the texts that we read during the last three semesters. There are many ways in which those texts fit in with your essays. Finally, we will be watching several films this semester, all set within New York City. You may include any of these films in your introduction. For each film, you must write a one page, two-paragraph analysis of the film. If you miss one class, you will be responsible for locating the film and watching it on your own time.

教科書 /Textbooks

No textbooks required.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references required.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Class overview, thematic content of the movies and course
2. Movie 1, part 1
3. Movie 1, part 2; Paper overview, review.
4. Movie #1 Summary due; Movie 2, part 1
5. Movie 2, part 2; paper review
6. Movie #2 Summary due; Movie 3, part 1
7. Movie 3, part 2; paper review
8. Movie #3 Summary due; Movie 4, part 1
9. Movie 4, part 2; paper review
10. Movie #4 Summary due; Movie 5, part 1
11. Movie 6, part 2; paper review
12. Movie #5 Summary due; Movie 6, part 1
13. Movie 6, part 2; paper review; Senior Thesis DUE
14. Movie #6 Summary due; Movie 7, part 1
15. Final Presentation; Movie 7, part 2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: (20%); 6 Movie Summaries Assignments: (20%); Two essay and book review revisions/Visit international student tutors: 25%; Final senior project report (35%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss any classes. If you miss a class, you are responsible for watching the film that you missed.

履修上の注意 /Remarks

If you miss a class, it will be your responsibility to finish watching the movie (start watching, if be the case) and complete the movie summary on-time.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究ゼミBII 【昼】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

後期は卒業論文指導を中心とする。ゼミの時間では、各自の卒論研究の報告をする。これとは別に、2週間に一度の個人面談を行う。一人1時間。毎回、進んだところまでの卒業論文原稿を持ってくること。それを読んで、問題点を指摘したり、さらに読むべき文献を指導したりする。

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(導入1)
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(導入2)
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(基礎1)
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(基礎2)
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(基礎3)
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(基礎4)
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(展開1)
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(展開2)
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(展開3)
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(展開4)
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(発展1)
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(発展2)
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(発展3)
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(発展4)
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導(まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

エッセイ40%、発表30%、ディスカッションへの参加30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前

発表担当者は、これまでの研究をさらにすすめてプレゼンを準備する。その他の学生は、その日に読んでおくべき資料に目を通し、自分の見解を用意しておくこと。

事後

各回の演習のディスカッション内容、得られた結論をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

毎回の面談に従い、卒論作成を進めてくること。進んでいない場合でも、必ず状況を報告すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受け身で学ぶのではなく、自分で考えたテーマを自分で掘り下げ、独自の考えを展開する能力を身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

文化、文学、芸術、メディア、社会、経済、ジェンダー、セクシュアリティ、暴力、植民地主義、資本主義、大英帝国、階級、労働者、移民

英語学ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

/Course Description

During the second semester of the second year of this zemi, we will review language learning principles and teaching principles and use English by doing lots of games and activities in English. Some classes will focus explicitly on helping you write your thesis.

教科書 /Textbooks

No textbook necessary. Readings will be selected by the teacher and the students.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction
- Week 2: Review input
- Week 3: Review interaction
- Week 4: Review output
- Week 5: Review Attention
- Week 6: Individual conferences
- Week 7: Dr. Larson-Hall's research presentation (Age and language learning)
- Week 8: Review explicit learning
- Week 9: Review implicit learning
- Week 10: Review teaching speaking
- Week 11: Review developmental sequences
- Week 12: Review teaching listening
- Week 13: Review teaching reading and writing
- Week 14: Presentations of students research
- Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations of own research 50%; Participation 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You are expected to do the readings each week for class. You should be working throughout the semester on your thesis.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SLA, language acquisition, teaching language, teacher training, zemi

英語教育ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、教育言語学の諸分野について基礎的な研究を実施するために必要な能力を養うことを目標とする。そのため、この授業では受講生が各自の研究課題を見出し、基礎的な研究を行い、研究方法について理解を深めるとともに、研究の進め方や研究成果の整理及び考察の仕方についても学習する。最後に、研究結果を整理し、卒業論文を執筆する。また、本ゼミでは毎週自習を行うことが必要である。自習内容については毎回授業中に指示するので、指示に従って授業の予習・復習を行うようにしたい。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や関心に応じてないようを調整する。

1. ガイダンス
2. 研究方法 (理論・ 実験・ 実践)
3. 研究課題 (関連文献の渉猟と整理)
4. 研究課題 (関連文献について口頭発表)
5. 研究課題 (関連文献について文章でのまとめ)
6. 研究内容 (卒業論文で扱う研究内容について整理)
7. 研究課題 (研究課題について口頭発表)
8. 研究課題 (研究課題について文章でのまとめ)
9. 研究報告書 (作成)
10. 研究報告書 (検討)
11. 研究報告書 (まとめ)
12. 研究発表 (準備)
13. 研究発表 (発表)
14. 研究発表 (まとめ)
15. 課題整理

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は (1) 発表、日常の授業への取り組み状況等40%、(2) 論文60%によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- < 事前学習 > 授業で扱う教科書の範囲または論文を読み、発表・ 討論の準備をする。発表担当者は発表前に自主練習を行っておく。
- < 事後学習 > 授業で議論された内容を各自の論文にどのように生かすことができるか検討する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の講義では、発表のみならず発表内容に関する議論を行います。そのため、授業時間外での (相当の) 準備が必要となります。卒業後に英語教育に関わる意欲のある学生をはじめ、英語教育に関心がある人の参加を期待します。また、やむを得ない場合を除き、無断欠席は受講放棄とみなします。

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析・発表する力を身につけることを目的とします。社会言語学の領域から各自選択したテーマに沿って、文献調査・フィールドワークを行い、授業時に先行研究の発表、言語調査の経過報告、問題点の議論等を行います。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究の進捗状況確認
- 2回 研究・論文指導(1)【方法論】
- 3回 学生による第4回研究発表(分析経過報告:第1グループ)
- 4回 学生による第4回研究発表(分析経過報告:第2グループ)
- 5回 ディスカッション(1)【分析】
- 6回 研究・論文指導(2)【分析】
- 7回 学生による第5回研究発表(結果:第1グループ)
- 8回 学生による第5回研究発表(結果:第2グループ)
- 9回 ディスカッション(2)【結果】
- 10回 研究・論文指導(3)【結果】
- 11回 ディスカッション(3)【全体】
- 12回 研究・論文指導(4)【全体】
- 13回 学生による第6回研究発表(考察:第1グループ)
- 14回 学生による第6回研究発表(考察:第2グループ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、ゼミ論文...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探究する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 現代社会における教職の意義について
3. 教員に求められる基礎的な資質・能力について(中教審の答申を踏まえて)
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(外部講師)
5. 教員研修の意義と、教員に課せられる服務上及び身分上の義務と身分保障
6. 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. 生活指導と子ども集団づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
8. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの子どもたちと学校教育
9. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
10. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
11. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
12. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待状況にある子どもへの支援
13. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み (外部講師 本学出身者の報告と意見交流)
14. 子どもの人権を尊重し、自らのパワーを適切に行使できる教師であるために
15. 全体のまとめ

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

教師論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 /Instructor 田中 友佳子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 授業のねらいや計画、注意点の説明
- 第2回：道徳とは何か、なぜ必要か 倫理、哲学、法と道徳との関係性
- 第3回：道徳教育の変遷① 近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
- 第4回：道徳教育の変遷② 戦後から「改正教育基本法」まで
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題① 生命倫理をめぐる問題について考える(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題② 性の多様性について知る(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③ 住み良い社会とは何かを考える(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④ 「世代間の平等」の問題を考える(グループ討論)
- 第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
- 第12回：「道徳の時間」の教材研究① 読み物教材に対する批判的検討
- 第13回：「道徳の時間」の教材研究② 問題解決的な学習に対する批判的検討
- 第14回：学習指導案の発表とコメント
- 第15回：全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案40%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
そのためにグループワークも多く取り込んでいます。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動の研究【昼】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業を構成するための理論やICT教育の求められる背景を講義し、そのなかで相互の関心を交わし、よりよい教育に関する理解を深めることを目的とする。また実践において子どもに寄り添う教育とは何か、どのように行うべきかを検討する。

そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法(有斐閣) 2019 田中 耕治(著), 鶴田 清司(著), 橋本 美保(著), 藤村 宣之(著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：教育と学習・理論と方法・実践
- 第3回：授業の歴史(欧米)
- 第4回：授業の歴史(日本)
- 第5回：学習の理論・協同的な学び
- 第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
- 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
- 第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価
- 第9回：情報機器・メディア活用の授業：ICTについて考える
- 第10回：「学力」について考える
- 第11回：授業の研究1・学習指導案
- 第12回：授業の研究2・授業記録を読む
- 第13回：教師の専門性・専門職性
- 第14回：教材研究・教材開発
- 第15回：まとめ

定期試験

(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
発表・レジュメ作成・・・20%
最終試験・課題レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料(レジュメ)を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていけたらよいと思います。
一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 文科省編 「生徒指導提要」
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 課題レポートの説明
- 2回 子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
- 3回 子どもの発達課題と教育相談
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 直面化
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 発達障害の問題
- 10回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 11回 保護者理解と教育相談
- 12回 教育相談における関係諸機関との連携
- 13回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 少年期
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 思春期 全体のまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。

授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと

課題として出されたレポートについては必ず提出すること

学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの"view"の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の"view"を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、 子どもの発達課題と教育相談、 関係諸機関との連携

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【昼】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育心理学【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意義受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、次回までの課題を提示する。
事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求められることがある。
（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

障害児の心理と指導【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 姿勢・運動の障害について
- 第8回 知的障害について
- 第9回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第10回 自閉スペクトラム症について
- 第11回 注意欠如多動症について
- 第12回 限局性学習症について
- 第13回 家族支援について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 作田 誠一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。

- ・ 教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
- ・ 教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
- ・ 教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「1類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
P.ブルデュー・J.-C.パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
P.ウイリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
広田照幸・伊藤茂樹,2010,『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター
酒井朗・多賀太・中村高康編著,2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
第2回：教育社会学の対象と方法
第3回：子どもの社会化と家族・学校
第4回：学校という組織
第5回：学校社会と生徒文化
第6回：学校社会と教師文化
第7回：文化的再生産論にみる学校社会
第8回：少年非行と逸脱理論(1) -アノミー論と文化的接触理論
第9回：少年非行と逸脱理論(2) -コンフリクト理論とラベリング論
第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
第11回：いじめ現象の構造とその特徴
第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
第13回：グローバリゼーションと教育
第14回：情報化社会と教育
第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習に関しては、教育に関わる新聞記事や参考図書等の文献に目を通して置くこと。復習においては、授業内容についてもう一度まとめてその内容の習得に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会化 近代教育制度 学校文化 文化的再生産 教育改革

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 石嶋 静代 /カワシマシズヨ /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他者の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。

①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。③人権教育の指導計画などプログラムの作成や発表、ロールプレイなど参加型の学習を取り入れる。

教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重 【世界人権宣言】
- 2回 学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、SNS・インターネットによる人権侵害
- 3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
- 4回 人権教育の枠組み - 教科を通した人権教育、学級運営、生徒指導、(実践例など)
- 5回 部落差別と人権 【部落差別解消推進法】
- 6回 子どもの人権 【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
- 7回 障がい児・者の人権 【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
- 8回 「性の多様性」と人権 【SOGI】【性自認】【性的指向】
- 9回 外国人の人権 【ヘイトスピーチ解消法】
- 10回 男性と女性の人権 【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
- 11回 高齢者の人権 【高齢者虐待防止法】
- 12回 ホームレスの人々の人権 【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
- 13回 「私の人権教育のプログラム」(発表)
- 14回 「私の人権教育のプログラム」(発表)
- 15回 「私の人権教育のプログラム」(発表)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度、課題、テストなど、総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(60%)、授業への参加度(10%)、課題(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示をされた文献や資料について読んでおくこと。
「私の人権教育のプログラム」発表のためにパワーポイントを作成する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』（中央公論新社）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

- 第I部 文化の基礎としての家族
- 第2回 伝統的家族の多様性
- 第3回 近代以降の家族・親族関係の変容
- 第4回 親族という認識
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダーと伝統文化
- 第7回 文化相対主義の考え方
- 第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義
- 第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

- 第10回 儀礼と世界観
- 第11回 宗教と近代化
- 第12回 さまざまな信仰心
- 第13回 不幸への対処としての呪術
- 第14回 政教分離と世俗化
- 第15回 中間テストの解説

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・Moodleで適宜身に課題を出します。締め切りまでに提出してください。
- ・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

人間と文化【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人にxxを贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけでは不是ですが、そのような情報は必要な時にちょっとお金を払えば入手できます。この授業では、そのような小手先の異文化理解でなく、文化が異なるとはそもそもどうということについて、もっと根本に戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなたの考えを知りたいと思う人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体现しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』 (朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点(人間関係)【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 近代とは何か【概説】
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 5回 生活世界の変容（1）【工場労働】
- 6回 生活世界の変容（2）【近代産業社会】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容（3）【戦争の美学】
- 9回 生活世界の変容（4）【政治の美学】
- 10回 生活世界の変容（5）【ホロコースト】
- 11回 生活世界の変容（6）【全体主義と思考能力】
- 12回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 13回 古代世界の公共空間（1）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（2）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（3）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス(心の健康)の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス(心の健康)」を多角的かつ発達の視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス(社会的健康)にも触れる。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理……青年期のこころの病
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1...ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2...実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%) ②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる(得意)、できない(不得意)などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

社会調査【夜】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

社会調査(量的調査)の基本的な考え方と技法を習得する。
 社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」とされる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、
 (1) 意味のある「問い」をたてること
 (2) その「問い」への「答え」を導くための手順(論証戦略)をたてること
 (3) 論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること
 (4) データを統計的に処理すること
 (5) データを解釈すること
 について学ぶ。

教科書 /Textbooks

使用しない。(適宜、資料・プリントを配布する。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004、¥2592
 入門・社会調査法(第3版):2ステップで基礎から学ぶ、有斐閣、2017、¥2700
- 『ガイドブック社会調査(第2版)』、森岡清志編著、日本評論社、2007、¥3132

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
 - 第2回 社会調査の種類と倫理
 - 第3回 調査と研究の進め方
 - 第4回 社会調査を企画する
 - 第5回 ワーディング1【質問文を作る】
 - 第6回 ワーディング2【選択肢を作る】
 - 第7回 調査票の構成
 - 第8回 サンプリングの考え方と方法
 - 第9回 実査とデータファイルの作成
 - 第10回 度数分布、代表値、分散と標準偏差
 - 第11回 検定の考え方
 - 第12回 平均値の差の検定
 - 第13回 変数間の関連1【クロス表】
 - 第14回 変数間の関連2【相関係数】
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...30% 日常の授業への取り組み...10% レポート...60%
 (総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
 課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、度数分布、検定、推定、クロス表、相関係数

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみることを。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
 本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

現代を生きるわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを目の中ではなく外にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、噛むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。心理学の研究者は、さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。その上で、「こころ」の問題で苦手さを抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から見た「こころ」がこんなにも違って見えるのかについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

印刷物は配布しません。学習支援フォルダにアップしますので、講義前にダウンロードしておいてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2.知覚1：目の前に見えることも「こころ」の一部である
- 3.知覚2：色はなぜ見える？
- 4.知覚3：形はなぜ見える？
- 5.知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
- 6.目の動きから「こころ」を探る。
- 7.まばたきから「こころ」を探る。
- 8.注意1：どうしてわれわれは騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9.注意2：意外と見落とししやすい注意の機能
- 10.記憶1：数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11.記憶2：昔の記憶は忘れることはない
- 12.発達1：「こころ」はどのようにして芽生えてくる？
- 13.発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14.発達3：発達の問題に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15.まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント：25点 レポート：25点 期末試験：50点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示します。

履修上の注意 /Remarks

授業中に近くの人と話し合ったり、近くの人同士で観察し合ったり、ということを行います。
授業中にコメント(認識を新たにした点、疑問点、コメント)を書いてもらいます。
指定した図書についての要約をレポートとして提出してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようないろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

心理学、色知覚、奥行き知覚、形の知覚、眼球運動、瞳孔運動、まばたき、選択的注意、注意の見落とし、ワーキングメモリ、長期記憶、微笑、指さし、共同注意、心の理論、発達障害

思想と現代【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場した工ボックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、心理療法・文学・倫理・映画などのジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通しながらユダヤ性の拡がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
 - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
 - 合田正人『入門 ユダヤ思想』、ちくま新書、2017年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点【概説】
- 3回 ユダヤ人の歴史(1)【民族の起源】
- 4回 ユダヤ人の歴史(2)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(3)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(4)【近代から現代へ】
- 7回 補足回【紛争と現代】
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 文学の思想【カフカ】
- 11回 音楽の思想【シェーンベルク】
- 12回 心理療法の思想【フロイト】
- 13回 倫理の思想【ユダヤ】
- 14回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・前半】
- 15回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・後半】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

昼間に実施される同名授業(「思想と現代」)とは評価法がまったく異なるので、登録の際に混同しないよう注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた(そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である)。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた(理念とデータにギャップがあった)事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マクファーンソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波新書
- シュンペーター, J.(大野訳 2016) 『資本主義, 社会主義, 民主主義』日経BP
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波文庫
- 杉田敦 (2001) 『デモクラシーの論じ方-論争の政治』筑摩書房
- 久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子 (2016) 『比較政治学の考え方』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 基礎的概念整理【民主制】【独裁制】【共和制】【君主制】
3. 近代的分類法【防禦民主主義】【均衡民主主義】【人民民主主義】
4. 民主主義の暴走【立憲主義】【司法独立】【指揮権】
5. 実証的民主体制論【ポリアーキー】【ダール】
6. デモクラシーの指標化【PolityIV】【Freedom House】
7. 民主制の多様性とその生存・品質1: 制度【議會制】【大統領制】
8. 民主制の多様性とその生存・品質2: 選挙【SMD】【PR】
9. 民主制の多様性とその生存・品質3: 運用【ウエストミンスター型】【コンセンサス型】
10. 民主制の多様性とその生存・品質4: 社会【ソシアリゼーション】【民族問題】
11. 公正な意思決定の不可能性【社会的選択】【選挙制度】【サイクル】
12. 民主制と独裁制の間で【経済成長】【社会厚生】
13. 権威主義体制とその分類【軍事独裁】【政党独裁】【個人・君主独裁】
14. 権威主義体制と選挙・政党【選挙の独裁強化機能】
15. 民主制⇔独裁制の体制変動【民主化】【独裁化】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が変わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にしてください。また、本シラバスをご覧になった学生諸君は、本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません(それがない人を想定して授業を行います)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

民主主義とは何か 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
 主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を営むとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2268円（税込）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

現代の国際情勢【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野 日中台関係：ボーダーエリア
- 第3回 下野 日中台関係：国家の枠組みと社会
- 第4回 ウェイン The Rle of Public Spaces in Cities
- 第5回 大平 変容するアジア情勢(1) 中国とインドの台頭
- 第6回 大平 変容するアジア情勢(2) 日本の防衛力強化
- 第7回 大平 変容するアジア情勢(3) 開発協力における熾烈な争い
- 第8回 金 日本の「戦後」の終わり
- 第9回 金 日本の対外関係の諸問題
- 第10回 金 戦後の国体、永続敗戦
- 第11回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第12回 寺田 インターネットを巡る国際情勢
- 第13回 松田 日本総合商社と海外インフラプロジェクト【世銀保証、IFC、Bローン、商社】
- 第14回 下野 台湾：歴史
- 第15回 下野 台湾：社会

※都合により変更もあり得る。変更がある場合は授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(7~14回)100% ※小テストは原則として各回実施しますが、詳細は各担当者が指示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

授業の最後に小テストを受けます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る①【国連 1945-1970's】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 国連を知る②【国連 1980's-】【冷戦後の国連】
- 第5回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第6回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第7回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第8回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動 (PKO) の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動 (PKO) の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(協治)」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- *『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。
- *大原悦子『フードバンクという挑戦～貧困と飽食のあいだで』現代岩波文庫、2016年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめるとあたって		担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第6回 米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあて	【米国】	担当：申
第7回 エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第8回 世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当：原田正樹・三宅
第9回 NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？	【ライフアゲイン】	担当：原田・三宅
第10回 子ども食堂「もがるか」の運営と人々	【子ども食堂】	担当：原田・三宅
第11回 フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論	【大学生】	担当：原田・三宅
第12回 グループワーク(アクティビティ作り)を通じたガバナンス概念の把握	【グループワーク】	担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回 教員の「開発と統治」の概念提示を考える		担当三宅・伊野・申
第15回 まとめ(グループ・ディスカッション)		

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。できるだけ、海外に出かけ、また、本をどんどん読んでください。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー フードバンク 貧困 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

エンドユーザコンピューティング【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）の基礎は、国連が定めた「SDGs」（持続可能な開発目標）のうち、「4. 質の高い教育をみんなに」「8. 働きがいも経済成長も」「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」「10. 人や国の不平等をなくそう」「17. パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に随時提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。その他、ICTに関するニュースなどの世の中の動きを注視して情報収集することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

エンドユーザコンピューティング 【夜】

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

データ処理【夜】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

阿部香織「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社、2016年、1200円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

国際金融論I 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや研究書を理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
 - 2回 為替レートによる換算 【経常収支】 【資本収支】
 - 3回 国際収支表 【フロー統計】
 - 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
 - 5回 貿易取引と国際決済 【並為替と逆為替】
 - 6回 貿易取引と国際決済 【信用状】 【荷為替信用制度】
 - 7回 グローバル化と直接投資 【直接投資】
 - 8回 国際証券投資と外貨準備 【証券投資】 【外貨準備】
 - 9回 為替レートの変動 【購買力平価】 【アセットアプローチ】
 - 10回 為替レートの変動 【為替リスク】 【マーシャル・ラーナー条件】
 - 11回 国際収支を左右するもの 【ISバランス】
 - 12回 国際収支を左右するもの 【キャリートレード】
 - 13回 実質為替レートと実効為替レート 【幾何平均】
 - 14回 パラッサ=サミュエルソン効果 【中所得国の罫】
 - 15回 まとめと総復習 【24時間ディーリング】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に各自講読すること。さらに、専門用語が多く出てくるので、インターネットなどで用語検索すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する) 。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや専門書を理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
 - 2回 各種の国際通貨体制 【固定相場制】 【変動相場制】
 - 3回 為替リスクと為替持高・資金調整 【スクエア】 【カバー取引】
 - 4回 デリバティブ取引 【先渡し】 【先物】 【オプション】 【スワップ】
 - 5回 国際金融市場と国際資本移動 【オフショア市場】 【キャリー取引】
 - 6回 欧州通貨統合の目的と経緯 【ユーロ】 【ERM】
 - 7回 欧州通貨統合の構造的問題 【安定成長協定】
 - 8回 途上国の発展と国際資金フロー 【G20】
 - 9回 国際的な金融危機の種類 【資本収支型の危機】
 - 10回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【サブプライムローン危機】
 - 11回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【世界金融危機】
 - 12回 デフォルトか救済か 【IMFコンディショナリティー】
 - 13回 国際金融危機の予防 【自己資本比率規制】 【ブルーデンス政策】
 - 14回 国際金融危機の予防 【流動性規制】 【ボルカールール】
 - 15回 まとめと総復習-望ましい国際金融システムとは

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に講読すること。また、専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探究する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 現代社会における教職の意義について
3. 教員に求められる基礎的な資質・能力について(中教審の答申を踏まえて)
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(外部講師)
5. 教員研修の意義と、教員に課せられる服務上及び身分上の義務と身分保障
6. 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. 生活指導と子ども集団づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
8. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの子どもたちと学校教育
9. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
10. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
11. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
12. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待状況にある子どもへの支援
13. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み (外部講師 本学出身者の報告と意見交流)
14. 子どもの人権を尊重し、自らのパワーを適切に行使できる教師であるために
15. 全体のまとめ

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

教師論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、主として中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

深澤清治（編著）『中等英語教育』協同出版 2014年、2500円
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語編 開隆堂 2009年 72円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD (師範授業) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. モデル授業の準備
12. モデル授業 (中学校) 【1年生】
13. モデル授業 (中学校) 【2年生】
14. モデル授業 (中学校) 【3年生】
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (70%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (15%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には指定された教科書の範囲を読んでおく。事後には渡されたプリントなどを復習する。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、主として高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

深澤清治（編著）『中等英語教育』協同出版、2014年、2500円
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語編 英語編 開隆堂 2011年 158円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・ II開隆堂 2012年、630円
NEW WORLD ENGLISH COURSE I・ II 三友社
南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円
Onstage English Course I・ II池田書店
EXCEED English Series New Edition I・ II 三省堂
田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・ II東京書籍、2012年、630円
山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・ II" 増進堂 2012年 570円
Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・ II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・ II"開隆堂
田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・ II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・ II啓林館 2013年、650円
Voyager English Course NEW EDITION I・ II第一学習社
市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・ II"文英堂
Genius English Course Revised I・ II大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・ II三省堂 2012年、630円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I]
9. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語II]
10. モデル授業 (高等学校) 【コミュニケーション英語II】
11. モデル授業 (高等学校) 【英語表現I】
12. モデル授業 (高等学校) 【英語表現II】
13. モデル授業 (高等学校) 【英語表現II】
14. 日本の英語教育 (小・中・高連携) について
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (70%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (15%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には指定された教科書のページを読んでおく。事後には渡されたプリント等を用いて復習する。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・ モデル授業の日程は学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

英語科教育法B 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 /Instructor 田中 友佳子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 授業のねらいや計画、注意点の説明
- 第2回：道徳とは何か、なぜ必要か 倫理、哲学、法と道徳との関係性
- 第3回：道徳教育の変遷① 近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
- 第4回：道徳教育の変遷② 戦後から「改正教育基本法」まで
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題① 生命倫理をめぐる問題について考える(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題② 性の多様性について知る(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③ 住み良い社会とは何かを考える(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④ 「世代間の平等」の問題を考える(グループ討論)
- 第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
- 第12回：「道徳の時間」の教材研究① 読み物教材に対する批判的検討
- 第13回：「道徳の時間」の教材研究② 問題解決的な学習に対する批判的検討
- 第14回：学習指導案の発表とコメント
- 第15回：全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案40%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中、適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
そのためにグループワークも多く取り込んでいます。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動の研究【夜】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 (有斐閣) 2019 田中 耕治 (著), 鶴田 清司 (著), 橋本 美保 (著), 藤村 宣之 (著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：教育と学習・理論と方法・実践
- 第3回：授業の歴史（欧米）
- 第4回：授業の歴史（日本）
- 第5回：学習の理論・協同的な学び
- 第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
- 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
- 第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価
- 第9回：情報機器・メディア活用の授業
- 第10回：「学力」について考える
- 第11回：授業の研究1・学習指導案
- 第12回：授業の研究2・授業記録を読む
- 第13回：教師の専門性・専門職性
- 第14回：教材研究・教材開発
- 第15回：まとめ

定期試験

(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は、実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
発表・レジュメ作成・・・ 20%
最終試験・課題レポート・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていきましょう

キーワード /Keywords

教育学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示 東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては配付資料の確認が必要である。
 事後学習としては、課題の作成が必要である。

履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 子どもの問題行動と生徒指導(外部講師の出前講演)
- 6回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
- 7回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
- 8回 特別活動の模擬授業 その1
- 9回 特別活動の模擬授業 その2
- 10回 教科の模擬授業 その1
- 11回 教科の模擬授業 その2
- 12回 学級づくりと学級経営案
- 13回 教育相談のロールプレイ
- 14回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。

皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【夜】

キーワード /Keywords

模擬授業、実践的指導力

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(教科の授業、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会と教職総合演習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、教育実習の反省点と自己教育の課題(学習指導、生徒指導)を教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(学習指導、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会(実習校実習の反省点の整理と教職実践演習の課題)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習2と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習2と同時履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習3のみ受講の場合は教育実習2で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習2の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 文科省編 「生徒指導提要」
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 課題レポートの説明
- 2回 子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
- 3回 子どもの発達課題と教育相談
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 直面化
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 発達障害の問題
- 10回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 11回 保護者理解と教育相談
- 12回 教育相談における関係諸機関との連携
- 13回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 少年期
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 思春期 全体のまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
- 課題として出されたレポートについては必ず提出すること
- 学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの"view"の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の"view"を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、 子どもの発達課題と教育相談、 関係諸機関との連携

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育心理学【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
			○	○	○							

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

適宜レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。
事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求められることがある。
（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方